

学科到達目標

[本科カリキュラムポリシー]：（学習教育目標の具体的な目標）

卒業認定方針を達成するために、以下の(A)～(E)および各系とコースのカリキュラムポリシーを定め、各科目は1～3年次は50点以上、4～5年次は60点以上を合格と評価する。

(A) 人類の幸福

(A-1)自国と他国の社会と文化の違いを認め、健全で多様な価値観を理解できる。(健康・誠実)

(A-2)技術者倫理を理解し、技術者として責任ある行動をとることができる。(責任)

(B) 工学基礎知識の修得

(B-1)数学、自然科学および情報技術に関する基本的知識を修得している。

(B-2)基礎工学と専門基礎の知識や技術を修得し、基本的な現象やシステムに対して説明と問題解析ができる。

(C) 専門的知識の充実

(C-1)得意とする専門分野の問題を発見し、解決することができる。(自立)

(C-2)実験・実習科目を通して実践的な知識を身に付ける。

(C-3)企業での実体験などをもちに、地域や社会の要求している内容を理解できる。(協働)

(C-4)限られた時間内で、個別に、あるいはチームワークによって、技術的問題を含む課題に取り組み解決することができる。(協働・挑戦)

(D) コミュニケーション能力

(D-1)正しい日本語で表現（記述・口述・討論）することができる。

(D-2)英語によるコミュニケーションに必要な基本的能力を身に付ける。

(E) 技術の発展

(E-1)専門領域および複合領域の専門知識を統合して、目的を達成するための問題解決とデザインに寄与できる。(挑戦)

(E-2)技術分野の問題を理解し、自主的継続的に学びながら、開発・研究を行ってゆくことができる。(創造・研究)

科目区分	授業科目	科目番号	単位種別	単位数	学年別週当授業時数																				担当教員	履修上の区分
					1年				2年				3年				4年				5年					
					前		後		前		後		前		後		前		後		前		後			
					1	2	3	4	1	2	3	4	1	2	3	4	1	2	3	4	1	2	3	4		
一般	必修	現代の社会 I	履修単位	2	2	2																	長井 栄二			
一般	必修	芸術 I (美術)	履修単位	1			2																小林 貢 有馬 寛子			
一般	必修	芸術 I (音楽)	履修単位	1			2																小林 貢 廣田 俊介			
一般	必修	英語 I A	履修単位	4	4	4																	小林 貢 黒木 暁人			
一般	必修	英語 I B	履修単位	2	2																		小菅 智也			
一般	必修	国語 I A	履修単位	2	2																		岩田 久美加			
一般	必修	国語 I B	履修単位	2	2																		石塚 政吾			
一般	必修	国語 II (2M)	履修単位	2				2	2														石塚 政吾			
一般	必修	政治経済 (2M)	履修単位	1				2															伊藤 寛崇			
一般	必修	人類史 I (2M)	履修単位	2				2	2														長井 栄二 伊藤 寛崇			
一般	必修	芸術 II (美術) (2M)	履修単位	1				2															小林 貢 有馬 寛子			
一般	必修	芸術 II (音楽) (2M)	履修単位	1				2															小林 貢 廣田 俊介			
一般	必修	英語 II (2M)	履修単位	4				4	4														小林 貢			
一般	必修	英文法 II (2M)	履修単位	2				2	2														菅原 隆行 藤盛 節子			

秋田工業高等専門学校		開講年度	平成29年度 (2017年度)	授業科目	現代の社会 I
科目基礎情報					
科目番号	0001		科目区分	一般 / 必修	
授業形態	授業		単位の種別と単位数	履修単位: 2	
開設学科	一般教科 (人文科学系)		対象学年	1	
開設期	通年		週時間数	2	
教科書/教材	教科書: 「現代社会」東京書籍 / 補助教材: 「最新現代社会資料集 新版」第一学習社				
担当教員	長井 栄二				
到達目標					
1. われわれが現在直面している主要な時事問題がわかる。 2. 市場経済の基本的なしくみがわかる。 3. 基本的人権を守るためのしくみがわかる。 4. 戦後の国際社会の歩みがわかる。					
ルーブリック					
	理想的な到達レベルの目安	標準的な到達レベルの目安	未到達レベルの目安		
評価項目1	現代日本の主要な時事問題を、具体的に説明できる。	現代日本の主要な時事的テーマについて、概要を説明できる。	現代日本の主要な時事的テーマについて、概要を説明できない。		
評価項目2	市場経済における政府の役割を、具体的に説明できる。	市場経済の基本的なしくみを説明できる。	市場経済の基本的なしくみを説明できない。		
評価項目3	現代日本社会の現状を、具体的に説明できる。	基本的人権の発展を説明できる。	基本的人権の発展を説明できない。		
評価項目4	国際社会の現状を、具体的に説明できる。	戦後国際政治の大きな流れを説明できる。	戦後国際政治の大きな流れを説明できない。		
学科の到達目標項目との関係					
教育方法等					
概要	日本および世界における現代社会の諸問題について多様な観点から学ぶことにより、現代世界において自ら考え主体的に生きていくために必要な基礎能力を身に付ける。				
授業の進め方・方法	授業形式。授業中には板書を書き写すだけでなく、口頭説明のメモをとること。必要に応じて適宜、小テストないしレポート課題を実施する。試験結果が合格点に達しない場合、再試験を行うことがある。				
注意点	合格点は50点である。前期・後期の成績は、それぞれの中・期末の試験結果を70%、小テストないしレポートを15%、授業態度を15%で評価する。学年総合成績 = (前期成績 + 後期成績) / 2。 授業を受ける前: 日常的にテレビや新聞などのメディアで、日々のニュースに触れておくこと。 授業を受けた後: 授業中に出てきた分からない漢字や語句、地名を、指示されなくとも自らすすんで、辞書や地図で調べて確認しておくこと。この実直な作業は、後に本当の実力として大いに身になるものである。				
授業計画					
		週	授業内容	週ごとの到達目標	
前期	1stQ	1週	授業のガイダンス	授業の進め方と評価の仕方について説明する。	
		2週	現代社会とわたしたち①	われわれが現在直面している主要な時事問題がわかる。	
		3週	現代社会とわたしたち②	諸外国との対比で日本の現状の特徴がわかる。	
		4週	現代経済の成り立ち	資本主義経済体制の特徴を学ぶ。	
		5週	経済の捉え方	基本的な経済指標を学ぶ。	
		6週	企業	株式会社の特徴を学ぶ。	
		7週	金融	金融市場のしくみを学ぶ。	
		8週	到達度試験 (前期中間)	上記項目について学習した内容の理解度を授業の中で確認する。	
	2ndQ	9週	試験の解説と解答	到達度試験の解説と解答	
		10週	政府	市場経済における政府の役割を学ぶ。	
		11週	税・財政	日本の税・財政の現状について学ぶ。	
		12週	現代政治の成り立ち	民主政治の基本原理を学ぶ。	
		13週	政治体制	日本の国制の特徴を学ぶ。	
		14週	基本的人権	基本的人権の発展について学ぶ。	
		15週	到達度試験 (前期末)	上記項目について学習した内容の理解度を授業の中で確認する。	
		16週	試験の解説と解答	到達度試験の解説と解答、および授業アンケート	
後期	3rdQ	1週	法	日本における法の現状について学ぶ。	
		2週	地方自治①	地方自治の意義を学ぶ。	
		3週	地方自治②	日本の地方自治の現状について学ぶ。	
		4週	現代社会の諸問題①	日本における主な社会的課題がわかる。	
		5週	現代社会の諸問題②	諸外国との対比で日本社会の特徴がわかる。	
		6週	主権者としての市民	主権者として必要とされる素養について学ぶ。	
		7週	到達度試験 (後期中間)	上記項目について学習した内容の理解度を授業の中で確認する。	
	8週	試験の解説と解答	到達度試験の解説と解答		
	4thQ	9週	現代国際社会の成り立ち	国際社会を捉えるために必要な基礎知識を学ぶ。	
		10週	安全保障安全	安全保障の基本的な考え方を学ぶ。	

	11週	国際連合	グローバルな国際体制について学ぶ。
	12週	戦後国際政治の歩み	冷戦構造の出現と崩壊について学ぶ。
	13週	現代国際社会の諸問題①	冷戦後の国際情勢を学ぶ。
	14週	現代国際社会の諸問題②	国際社会が現在直面している地球的課題がわかる。
	15週	到達度試験（後期末）	上記項目について学習した内容の理解度を授業の中で確認する。
	16週	試験の解説と解答	到達度試験の解説と解答、および授業アンケート

モデルコアカリキュラムの学習内容と到達目標

分類	分野	学習内容	学習内容の到達目標	到達レベル	授業週
----	----	------	-----------	-------	-----

評価割合

	到達度試験	小テストないしレポート	授業態度				合計
総合評価割合	70	15	15	0	0	0	100
知識の基本的な理解	50	15	0	0	0	0	65
思考・表現	20	0	0	0	0	0	20
態度（人間力）	0	0	15	0	0	0	15
	0	0	0	0	0	0	0

秋田工業高等専門学校		開講年度	平成29年度 (2017年度)	授業科目	芸術 I (美術)
科目基礎情報					
科目番号	0002		科目区分	一般 / 必修	
授業形態	授業		単位の種別と単位数	履修単位: 1	
開設学科	一般教科 (人文科学系)		対象学年	1	
開設期	後期		週時間数	2	
教科書/教材	教科書: 『美術1』 光村図書				
担当教員	小林 真, 有馬 寛子				
到達目標					
1. デッサンや版画制作に意欲的に取り組んで描く楽しさを味わい, 美的関心を高めることができるようになること。					
ルーブリック					
	理想的な到達レベルの目安		標準的な到達レベルの目安		未到達レベルの目安
評価項目1	デッサンや油絵制作に意欲的に取り組んで描く楽しさを味わい, 美的関心を十分に高めることができる。		デッサンや油絵制作に意欲的に取り組んで描く楽しさを味わい, 美的関心をある程度高めることができる。		デッサンや油絵制作に意欲的に取り組めず, 描く楽しさを味わい, 美的関心を高めることができない。
評価項目2					
評価項目3					
学科の到達目標項目との関係					
教育方法等					
概要	描画の基礎技法や知識と鑑賞の学習を通して, 表現する喜びを知り, 美的感性を育む。				
授業の進め方・方法	個人、全体と学習する内容に合わせた形態で行う。必要に応じて、適宜、課題、小レポートを課す。表現活動においては、授業目標達成のため、でき得る限り個別指導に重点を置く。				
注意点	合格点は50点以上とする。 作品を60%、ノート提出等を40%として、評価する。 特に作品の未提出者は単位取得が困難となるので注意すること。 用具の準備・取り扱い・片付けと保管を確実にし、授業に臨むこと。				
授業計画					
	週	授業内容		週ごとの到達目標	
後期	3rdQ	1週	授業ガイダンス		授業の進め方と評価の仕方について理解する。
		2週	素描「立体を描く」(鉛筆, スケッチブック) 対象の正しい見方, 捉え方について		各自が紙で立体形をつくり, 鉛筆の明暗差によるデッサンでその立体感を表現できる。
		3週	着彩「立体を描く」(絵具, スケッチブック) 対象の正しい見方, 捉え方について		絵具の明暗差による着彩によって立体感を表現できる。
		4週	版画 I 「自分をあらわす〇〇」 (1) 版画作品の鑑賞		版画の良さや, 作品のねらいなどを理解, 鑑賞できる。
		5週	(2) テストピースの作成		テストピースを作成し, 版画の手順を理解する。
		6週	(3) 構図デッサン (鉛筆, スケッチブック)		各自が選んだ題材の特徴や構成を把握し, 鉛筆デッサンできる。
		7週	(4) 下絵作成		各自が選んだ題材の特徴や構成を把握し, 下絵を作成することができる。
		8週	(5) 版への転写、彫り		各自が選んだ題材の特徴や構成をを基に版をつくることことができる。
	4thQ	9週	(5) 版への転写、彫り		各自が選んだ題材の特徴や構成をを基に版をつくることことができる。
		10週	(6) 試し刷り 1		各自が選んだ題材の特徴や構成をを基に版をつくることことができる。
		11週	(7) 版の修正		試し刷りをもとに, より良い表現となるよう版を修正することができる。
		12週	(8) 試し刷り2、版の修正		試し刷りをもとに, より良い表現となるよう版を修正することができる。
		13週	(9) 鑑賞, 中間合評		他者の作品と自作について比較し, 反省できる。
		14週	(10) 多色刷り		完成した版を使用し, 多色刷りによる色彩表現を行うことができる。
		15週	(10) 多色刷り		完成した版を使用し, 多色刷りによる色彩表現を行うことができる。
		16週	(11) 鑑賞, 最終合評		他者の作品と自作について比較し, 反省できる。
モデルコアカリキュラムの学習内容と到達目標					
分類	分野	学習内容	学習内容の到達目標	到達レベル	授業週
評価割合					
	作品	ノート提出	相互評価	態度	合計
総合評価割合	50	30	10	10	100
基礎的能力	20	10	10	10	50
専門的能力	30	15	0	0	45
分野横断的能力	0	5	0	0	5

秋田工業高等専門学校		開講年度	平成29年度 (2017年度)	授業科目	芸術 I (音楽)		
科目基礎情報							
科目番号	0003		科目区分	一般 / 必修			
授業形態	授業		単位の種別と単位数	履修単位: 1			
開設学科	一般教科 (人文科学系)		対象学年	1			
開設期	後期		週時間数	2			
教科書/教材	教科書: 『MOUSA I』 小原光一 教育芸術社						
担当教員	小林 貢, 廣田 俊介						
到達目標							
[到達目標] 1. アンサンブル (器楽) や合唱を通して、他と心を合わせて表現することの楽しさを知ることができるようになること。							
ルーブリック							
		理想的な到達レベルの目安	標準的な到達レベルの目安	未到達レベルの目安			
評価項目1		アンサンブル (器楽) や合唱を通して、他と心を合わせて表現することの楽しさを十分知ることができる。	アンサンブル (器楽) や合唱を通して、他と心を合わせて表現することの楽しさをある程度知ることができる。	アンサンブル (器楽) や合唱を通して、他と心を合わせて表現することの楽しさを知ることができない。			
評価項目2		.					
評価項目3							
学科の到達目標項目との関係							
教育方法等							
概要	創造的表現活動および鑑賞を通して、音楽を愛好する心情を育てる。						
授業の進め方・方法	個人、小グループ、全体とさまざまな学習形態で、自己を「表現する力」と「聴く心」を高めることのできる授業に重点を置いて進める。						
注意点	ミニコンサート70%、学習カードと普通の学習態度など30%、として評価する。						
授業計画							
		週	授業内容	週ごとの到達目標			
後期	3rdQ	1週	授業ガイダンス	授業の進め方と評価の仕方について説明する。			
		2週	自己表現	幅広いジャンルの音楽がわかる。			
		3週	自己表現	幅広いジャンルの音楽がわかる。			
		4週	自己表現	創造的に自己表現できる。			
		5週	自己表現	創造的に自己表現できる。			
		6週	アンサンブル・ミニコンサート	『心を合わせる』音楽づくりができる。			
		7週	アンサンブル・ミニコンサート	『心を合わせる』音楽づくりができる。			
		8週	アンサンブル・ミニコンサート	『心を合わせる』音楽づくりができる。			
	4thQ	9週	鑑賞	古典から現代までの音楽を学ぶ。			
		10週	鑑賞	多様な音楽の世界を学ぶ。			
		11週	鑑賞	音楽に共感することができる。			
		12週	創作・ミニコンサート	日本の五音階に基づいた旋律を演奏できる。			
		13週	創作・ミニコンサート	日本の五音階に基づいた旋律を演奏できる。			
		14週	創作・ミニコンサート	日本の五音階に基づいた旋律を演奏できる。			
		15週	創作・ミニコンサート	日本の五音階に基づいた旋律を演奏できる。			
		16週	まとめ	本授業のまとめ 授業アンケート			
モデルコアカリキュラムの学習内容と到達目標							
分類	分野	学習内容	学習内容の到達目標			到達レベル	授業週
評価割合							
	試験	発表	相互評価	態度	ポートフォリオ	その他	合計
総合評価割合	0	70	0	30	0	0	100
基礎的能力	0	70	0	30	0	0	100
専門的能力	0	0	0	0	0	0	0
分野横断的能力	0	0	0	0	0	0	0

秋田工業高等専門学校		開講年度	平成29年度 (2017年度)	授業科目	英語 I A
科目基礎情報					
科目番号	0004		科目区分	一般 / 必修	
授業形態	授業		単位の種別と単位数	履修単位: 4	
開設学科	一般教科 (人文科学系)		対象学年	1	
開設期	通年		週時間数	4	
教科書/教材	教科書: CROWN English Communication I New Edition 三省堂教科書: 「スヌーピーと学ぶライティングとリスニング - Life with Snoopy」 南雲堂単語集: 「カラー版 TOEICテストにできる順英単語」 中経出版				
担当教員	小林 貢, 黒木 暁人				
到達目標					
1. 英語の基本的なイントネーションやアクセントを聞き取り, 理解し, 音読することができる。 2. 中学校で既習の語彙を定着させるとともに, 2600語程度の語彙を低学年において新たに習得できる。 3. 辞書や基本的な英文法の知識に基づいて, 英文を自分の力で理解することができる。 4. 簡単な状況について英語で話すことができる。 5. 簡単な状況について英語で書くことができる。					
ルーブリック					
	理想的な到達レベルの目安	標準的な到達レベルの目安	未到達レベルの目安		
評価項目1	英語の基本的なイントネーションやアクセントを正確に聞き取り, 理解し, 音読することができる。	英語の基本的なイントネーションやアクセントをおおむね聞き取り, 理解し, 音読することができる。	英語の基本的なイントネーションやアクセントを聞き取り, 理解し, 音読することができない。		
評価項目2	中学校で既習の語彙を定着させるとともに, 2600語程度の語彙を低学年において新たに習得できる。	中学校で既習の語彙を定着させるとともに, 2600語程度の語彙を低学年において新たにおおむね習得できる。	中学校で既習の語彙を定着させるとともに, 2600語程度の語彙を低学年において新たに習得できない。		
評価項目3	辞書や基本的な英文法の知識に基づいて, 英文を自分の力で正確に理解することができる。	辞書や基本的な英文法の知識に基づいて, 英文を自分の力でおおむね理解することができる。	辞書や基本的な英文法の知識に基づいて, 英文を自分の力で理解することができない。		
学科の到達目標項目との関係					
教育方法等					
概要	基礎的な英語力の養成及び実用英語検定試験 (準2級) 程度の基本知識を身につける。				
授業の進め方・方法	演習形式で行いグループワークも行う。必要に応じて適宜小テストを実施し, また演習課題や宿題 (予習) を課す。試験結果が合格点に達しない場合, 再試験を行うことがあるが, 授業ノートの提出が受験の条件となる。				
注意点	【評価方法】 合格点は50点である。各中間・期末の成績は, 試験結果70%, 小テスト及び演習課題・宿題を20%, 授業態度を10%で評価する。尚、授業態度に英検の結果を考慮する。特に, 演習課題・宿題の未提出者は単位取得が困難となるので注意すること。 学年総合成績 = (到達度試験 (前期未成績) 評価点 + 到達度試験 (学年未成績) 評価点) / 2 【認証評価関連科目】 英語Ⅱ, 英語Ⅲ, 英語LL演習, 英語会話, 総合英語Ⅰ, 総合英語Ⅱ, 上級英語 【学習上の注意】 (授業を受ける前) 辞書は座右に置くこと。予習・復習を積極的に行い, 授業に参加すること。 (授業を受けた後) 試験により, 各自で授業内容の理解度をチェックするとともに, 確実に理解すること。				
授業計画					
	週	授業内容	週ごとの到達目標		
前期	1stQ	1週	授業ガイダンス	授業ガイダンス授業の進め方と評価の仕方について説明する。	
		2週	Unit 1 Lesson 1	Intransitive verbsを学ぶ。 ピクトグラムの機能とその可能性について学ぶ。	
		3週	Unit 2 Lesson 1	Transitive verbsを学ぶ。 言語のはたらきについて学ぶ。	
		4週	Unit 3 Lesson 2	Phrasal Verbsを学ぶ。 宇宙に行くことの意義を学ぶ。	
		5週	Unit 4 Lesson 2	Tensesを学ぶ。 宇宙ステーションでの生活や実験について学ぶ。	
		6週	Unit 5, Speaking Test Lesson 2	Progressive Formおよびスピーキングを学ぶ。 外国語学習・宇宙開発の意義について学ぶ。	
		7週	到達度試験 (前期中間試験)	上記項目について学習した内容の理解度を確認する。	
		8週	試験の解説と解答	到達度試験の解説と解答	
	2ndQ	9週	Unit 6 Lesson 3	Perfect tensesを学ぶ。 人と自然との関わり方について学ぶ。	
		10週	Unit 7 Lesson 3	Auxiliary Verbsを学ぶ。 伝統文化の継承の大切さについて学ぶ。	
		11週	Unit 8 Lesson 3	Nouns and Articlesを学ぶ。 伝統文化の継承の意義について, 自分の意見を考える。	
		12週	Unit 9 Lesson 4	Pronounsを学ぶ。 盲目のピアニスト辻井伸行氏について学ぶ。	
		13週	Unit 10 Lesson 4	Passive Voicesを学ぶ。 震災などでのボランティア活動について学ぶ。	
		14週	Speaking Test Lesson 4	スピーキングができる。 「音楽の力」とはどんなものか, について学ぶ。	
		15週	到達度試験 (前期末試験)	上記項目について学習した内容の理解度を確認する。	
		16週	試験の解説と解答	到達度試験の解説と解答, および授業アンケート	

後期	3rdQ	1週	Unit 11 Lesson 5	Adjectivesを学ぶ。 ボランティア活動をする上で大切なことを学ぶ。
		2週	Unit 12 Lesson 5	Adverbsを学ぶ。 日本や世界における貧困について学ぶ。
		3週	Unit 13 Lesson 5	Participlesを学ぶ。 福祉の国の役割について学ぶ。
		4週	Unit 14 Lesson 6	Infinitivesを学ぶ。 「共生」について学ぶ。
		5週	Unit 15 Lesson 6	Gerundsを学ぶ。 自分にできる環境保護活動について学ぶ。
		6週	Speaking Test Lesson 6	スピーキングができる。 絶滅危惧種保護の必要性について学ぶ。
		7週	到達度試験（後期中間試験）	上記項目について学習した内容の理解度を確認する。
		8週	試験の解説と解答	到達度試験の解説と解答
	4thQ	9週	Unit 16 Lesson 7	Prepositionsを学ぶ。 坂さんが社会貢献をする理由を学ぶ。
		10週	Unit 17 Lesson 7	Conjunctionsを学ぶ。 職業を通して、どんな社会貢献ができるか学ぶ。
		11週	Unit 18 Lesson 7	Relativesを学ぶ。 「仮設住宅」や「避難所」の役割について学ぶ。
		12週	Unit 19 Lesson 8	Comparatives and negationを学ぶ。20世紀がどんな時代であったかを学ぶ。
		13週	Unit 20 Lesson 8	Subjunctivesを学ぶ。 写真の持つ力について学ぶ。
		14週	Speaking Test Lesson 8	スピーキングができる。 20世紀からどんな教訓を得たかを学ぶ。
		15週	到達度試験（学年末試験）	上記項目について学習した内容の理解度を確認する。
		16週	試験の解説と解答	到達度試験の解説と解答、および授業アンケート

モデルコアカリキュラムの学習内容と到達目標

分類	分野	学習内容	学習内容の到達目標	到達レベル	授業週	
評価割合						
	試験	発表	相互評価	態度	ポートフォリオ その他	合計
総合評価割合	70	0	0	10	0 20	100
基礎的能力	70	0	0	10	0 20	100
専門的能力	0	0	0	0	0 0	0
分野横断的能力	0	0	0	0	0 0	0

秋田工業高等専門学校		開講年度	平成29年度 (2017年度)	授業科目	英語 I B
科目基礎情報					
科目番号	0005	科目区分	一般 / 必修		
授業形態	授業	単位の種別と単位数	履修単位: 2		
開設学科	一般教科 (人文科学系)	対象学年	1		
開設期	通年	週時間数	2		
教科書/教材	be English Expression I Advanced いいずな書店 be English Expression I Advanced Workbook いいずな書店、自作プリント				
担当教員	小菅 智也				
到達目標					
1. 教科書で扱った文法事項の使い方を理解し、ライティングやスピーキングに運用できる。 2. 教科書で扱った会話表現の使い方を理解し、実際の会話で使用することができる。 3. 日英語の音の違いについて理解し、聞き分けでき、発音を区別することができる。					
ルーブリック					
	理想的な到達レベルの目安	標準的な到達レベルの目安	未到達レベルの目安		
評価項目1	教科書で扱った文法事項の使い方を理解し、ライティングやスピーキングに運用できる。	教科書で扱った文法事項の使い方を理解し、辞書や文法書を参照すれば、ライティングやスピーキングに運用できる。	教科書で扱った文法事項の使い方が理解できない。		
評価項目2	教科書で扱った会話表現の使い方を理解し、実際の会話で使用することができる。	教科書で扱った会話表現の使い方を理解し、教科書を参照すれば、実際の会話で使用することができる。	教科書で扱った会話表現の使い方を理解することができない。		
評価項目3	日英語の子音の違いと母音の違いについて理解し、聞き分けでき、発音を区別することができる。	日英語の子音の違いについて理解し、聞き分けでき、発音を区別することができる。	日英語の発音の違いについて理解することができない。		
学科の到達目標項目との関係					
教育方法等					
概要	この授業では、中学校で既習の文法事項や構文を定着させるとともに、高等学校学習指導要領に示されているレベルの文法事項や構文を新たに習得することを目標としている。 また、ここで扱う文法事項や構文を用いたさまざまな言語活動を通じ、総合的な英語力の育成を目指す。 より具体的な目標は次の2点である。 (1) 英検準2級一次試験合格レベルの文法知識とリスニング能力の習得 (2) 英検準2級二次試験の英語での応答のための基礎の確立				
授業の進め方・方法	毎回の授業は基本的に次の流れで進めていく(学生の理解度等により、授業内容や進度を変更する場合もある)。 (1) 小テスト(10分程度) 既習事項や宿題の内容などから出題。授業の内容の定着を図る。 一定の点数に満たなかった場合、再テストの受験、もしくは課題の提出を課す。 (2) 教科書 一回の授業につき、一単元のペースで進めていく。 各単元は次の流れで進める。 ①導入: 会話文を読んで、当該単元で学習する文法事項と会話表現を導入する。また、日本語とは違う音の発音練習を行う。 ②定着: 練習問題を通して、当該単元で扱う文法事項の定着を図る。 ③発展: 単元のテーマに沿って、リーディング、ライティング、リスニング、スピーキングの4技能のトレーニングを行う。 上記の内容に加え、英検準2級の練習問題を行う場合もある。 スピーキング練習の際、ペアワークの成果を発表してもらおう場合もある。 Workbook は自学自習用として用い、定期的に提出してもらう。 文法書(総合英語 be 3rd Edition) も基本的には自学自習用の教材である。教科書よりも詳しい文法の解説が載っているため、一通り目を通してから授業に臨むのが好ましい。また、授業でわからなかった点、取りこぼした点を復習する際にも有用である。 定期試験は基本的には授業で扱った内容から出題するが、さまざまな英文への応用力を問う問題を出題する場合もある				
注意点	50以上を合格点とする。それぞれの定期試験結果60%、授業態度、小テスト、課題の結果を40%で評価する。学年総合評価は前期末と後期末の成績の平均である。				
授業計画					
	週	授業内容	週ごとの到達目標		
前期	1stQ	1週	授業ガイダンス Lesson 1	授業の進め方と評価の仕方について説明する。 現在形を使うことができる。	
		2週	Lesson 2	過去や未来を表す表現を使うことができる。	
		3週	Lesson 3	現在完了形を使うことができる。	
		4週	Lesson 4	過去完了形や未来完了形を使うことができる。	
		5週	Lesson 5	助動詞を使うことができる。	
		6週	Lesson 6	助動詞を使うことができる。	
		7週	Lesson 7	助動詞を使うことができる。	
		8週	到達度試験(前期中間)	上記項目について学習した内容の理解度を確認する。	
	2ndQ	9週	試験の解説と解答 Lesson 8	前期中間試験の解説と解答 受動態を使うことができる。	
		10週	Lesson 9	SVOOとSVOCの文型を使うことができる。	
		11週	Lesson 10	不定詞を使うことができる	
		12週	Lesson 11	不定詞を使うことができる	
		13週	Lesson 12	不定詞を使うことができる	
		14週	Lesson 13	動名詞を使うことができる	
		15週	到達度試験(前期末)	上記項目について学習した内容の理解度を確認する。	
		16週	試験の解説と解答	前期末試験の解説と解答および授業アンケート	

後期	3rdQ	1週	Lesson 14	不定詞と動名詞を使い分けることができる
		2週	Lesson 15	分詞を使うことができる
		3週	Lesson 16-①	分詞を使うことができる
		4週	Lesson 16-②	分詞を使うことができる
		5週	Lesson 17	関係詞を使うことができる
		6週	Lesson 18	関係詞を使うことができる
		7週	Lesson 19	関係詞を使うことができる
		8週	到達度試験（後期中間）	上記項目について学習した内容の理解度を確認する。
	4thQ	9週	試験の解説と解答 Lesson 20	後期中間試験の解説と解答 比較をする表現を使うことができる。
		10週	Lesson 21	比較をする表現を使うことができる
		11週	Lesson 21	仮定法を使うことができる
		12週	Lesson 23	仮定法を使うことができる
		13週	Lesson 24	文をつなぐ表現を使うことができる
		14週	Lesson 25	文をつなぐ表現を使うことができる
		15週	到達度試験（後期末末）	上記項目について学習した内容の理解度を確認する。
		16週	試験の解説と解答	後期末末試験の解説と解答および授業アンケート

モデルコアカリキュラムの学習内容と到達目標

分類	分野	学習内容	学習内容の到達目標	到達レベル	授業週		
評価割合							
	試験	小テスト	課題	態度	ポートフォリオ	その他	合計
総合評価割合	60	20	10	10	0	0	100
基礎的能力	40	20	10	10	0	0	80
専門的能力	0	0	0	0	0	0	0
分野横断的能力	20	0	0	0	0	0	20

秋田工業高等専門学校		開講年度	平成29年度 (2017年度)	授業科目	国語 I A
科目基礎情報					
科目番号	0013		科目区分	一般 / 必修	
授業形態	授業		単位の種別と単位数	履修単位: 2	
開設学科	一般教科 (人文科学系)		対象学年	1	
開設期	通年		週時間数	2	
教科書/教材	教科書: 『改訂版はじめての評論文20選』(明治書院) 辞書: 国語辞典・古語辞典(電子辞書も可) 補助教材: 『常用漢字の級別学習 コンプリート 新装版』(京都書房) 『新版三訂カラー版新国語便覧』(第一学習社) その他: 自製プリントの配布				
担当教員	岩田 久美加				
到達目標					
1. 論理的な文章をよみ、論理の構成や展開の把握にもとづいて論旨を客観的に理解し、要約し、自分の意見を表すことができる。2. 代表的な文学作品をよみ、人物・情景・心情の描写ならびに描写意図などを理解して味わうとともに、その作品の面白さを他者に説明することができる。3. 俳句の創作をとおして、文学的創作活動を体験するとともに、作品の鑑賞をすることができる。4. 代表的な狂言をよむことを通して、日本古来の演劇における言葉や表現方法の特徴を知り、その面白さを理解し、説明することができる。					
ルーブリック					
	理想的な到達レベルの目安	標準的な到達レベルの目安	未到達レベルの目安		
評価項目1	論理的な文章をよみ論旨を客観的に理解し、要約し、自分の意見を表すことができる。	論理的な文章をよみ論旨を客観的に理解し、要約することができる。	論理的な文章をよみ論旨を客観的に理解し、要約することができない。		
評価項目2	代表的な文学作品をよみ、描写ならびに描写意図などを理解し、その作品の面白さを他者に説明することができる。	代表的な文学作品をよみ、描写ならびに描写意図などを理解することができる。	代表的な文学作品をよみ、描写ならびに描写意図などを理解することができない。		
評価項目3	俳句の創作をとおして、文学的創作活動を体験するとともに、作品の鑑賞をすることができる。	俳句の創作をすることができる。	俳句の創作をすることができない。		
評価項目4	狂言をよむことを通して、日本の伝統的な演劇の表現方法を理解することができる。	狂言をよんで、内容を理解することができる。	狂言をよんで、内容を理解することができない。		
学科の到達目標項目との関係					
教育方法等					
概要	論理的な文章や文学的な文章を正確によむことを通して、日本語の表現や思考方法を学び、自分の考えを他者に正確に伝えることが出来るようにする。				
授業の進め方・方法	講義形式で行う。適宜、小テストの実施、レポートや作品等の提出を求める。				
注意点	合格点は50点である。到達度試験(中間)と到達度試験(期末)の成績80%に、ファイル整理・授業態度など平素の成績を10%、漢字小テストの取り組みを10%として加え、評価する。総合評価=(前期末成績+後期末成績)÷2				
授業計画					
		週	授業内容	週ごとの到達目標	
前期	1stQ	1週	授業のガイダンス	授業の進め方と評価の仕方について説明する。	
		2週	評論「人は独創的でありたいか」	「差異」をキーワードに近代社会について理解した上で、それに対する自分の意見を述べるることができる。	
		3週	同上	同上	
		4週	同上	同上	
		5週	創作と鑑賞「俳句」	俳句の作り方を学び、俳句を鑑賞することができる。	
		6週	同上	同上	
		7週	同上	同上	
		8週	到達度試験(前期中間)	上記項目について学習した内容の理解度を授業の中で確認する。	
	2ndQ	9週	到達度試験の解説と解答	到達度試験の解説と解答	
		10週	評論「日本人はなぜ靴を脱ぐのか」	「風土」と「建築」の関係を理解し、都市形成について考え、自分の意見を述べるることができる。	
		11週	同上	同上	
		12週	評論「言葉のちぐはぐ」	「言葉」について理解した上で、それに対する自分の意見を述べるることができる。	
		13週	同上	同上	
		14週	同上	同上	
		15週	到達度試験(前期末)	上記項目について学習した内容の理解度を確認する。	
		16週	到達度試験の解説と解答	到達度試験(前期末)の解説と解答、および授業アンケート	
後期	3rdQ	1週	評論「技術の正体」	「技術」への思い違いを理解し、科学技術について考え、自分の意見を述べるることができる。	
		2週	同上	同上	
		3週	同上	同上	
		4週	同上	同上	
		5週	小説「蜜柑」	情景描写などから「私」の心情の変化をよみとり、小説の構造を理解することができる。	
		6週	同上	同上	
		7週	同上	同上	
		8週	到達度試験(後期中間)	上記項目について学習した内容の理解度を確認する。	

4thQ	9週	到達度試験の解説と解答	到達度試験の解説と解答
	10週	評論「貨幣」の本質、「愛」の本質	貨幣論を理解した上で、それに対する自分の考えを述べることができる。
	11週	同上	同上
	12週	狂言「附子」	狂言をよむことを通して、日本の伝統的な演劇の表現方法を理解することができる。
	13週	同上	同上
	14週	同上	同上
	15週	到達度試験(後期末)	上記項目について学習した内容の理解度を確認する。
	16週	到達度試験の解説と解答	到達度試験(後期末)の解説と解答、および授業アンケート

モデルコアカリキュラムの学習内容と到達目標

分類	分野	学習内容	学習内容の到達目標	到達レベル	授業週
----	----	------	-----------	-------	-----

評価割合

	試験	小テスト	相互評価	態度	ポートフォリオ	その他	合計
総合評価割合	80	10	0	0	0	10	100
基礎的能力	60	10	0	0	0	10	80
専門的能力	0	0	0	0	0	0	0
分野横断的能力	20	0	0	0	0	0	20

秋田工業高等専門学校		開講年度	平成29年度 (2017年度)	授業科目	国語 I B
科目基礎情報					
科目番号	0014		科目区分	一般 / 必修	
授業形態	授業		単位の種別と単位数	履修単位: 2	
開設学科	一般教科 (人文科学系)		対象学年	1	
開設期	通年		週時間数	2	
教科書/教材	自製プリントの配付、古語辞典 (電子辞書も可)、『カラー版 新国語便覧』 (第一学習社)				
担当教員	石塚 政吾				
到達目標					
1. 古文の読解に必要な知識や文法を理解し、辞書を用いて現代語訳することができる。 2. 漢文の読解に必要な知識や句法を理解し、語注を参考に現代語訳することができる。 3. 古典を読むための知識を身につけ、伝統的な言語文化への興味関心を持つことができる。					
ルーブリック					
	理想的な到達レベルの目安	標準的な到達レベルの目安	未到達レベルの目安		
評価項目1 古文の読解に必要な知識や文法を理解し、辞書を用いて現代語訳することができる。	古文の読解に必要な知識や文法を踏まえ、辞書を活用して現代語訳することができる。	現代語と古語の違いに気付き、辞書を用いて現代語訳ができる。	現代語と古語の違いを理解できず、古語辞典の使い方がわからない。		
評価項目2 漢文の読解に必要な知識や句法を理解し、語注を参考に現代語訳することができる。	漢文の読解に必要な知識や句法を踏まえ、語注を参考に現代語訳することができる。	漢文訓読の仕方を理解し、書き下し文を書くことができる。	漢文訓読のきまりを理解できず、書き下し文を書くことができない。		
評価項目3 古典を読むための知識を身につけ、伝統的な言語文化への興味関心を持つことができる。	古典の面白さと意義を理解し、伝統的な言語文化に興味・関心を持つことができる。	古典を学ぶための基本事項を理解し、古典に親しもうとする姿勢を持つことができる。	古典を学ぶための基本事項を理解できず、古典に親しもうとする姿勢を持つことができない。		
学科の到達目標項目との関係					
教育方法等					
概要	わが国の古典を学ぶことで日本文化の根幹にある基礎的な知識を身に付けるとともに、それに影響を与えた中国の古典についても学習し、言語文化に対する教養と関心を高める。				
授業の進め方・方法	講義形式で行う。定期的にノート、プリントの点検をする。適宜、小テストの実施、レポート等の提出を求めることがある。				
注意点	教科書、ノート用ファイル、副教材、古語辞書を忘れずに準備して出席すること。事前に予習をした上で授業に臨むこと。合格点は50点である。到達度試験 (中間・期末) の成績の80%に、ノート整理・授業態度等平素の成績を10%、提出物・レポートへの取り組みの成績を10%として加え、評価する。 学年総合評価 = (前期末成績 + 後期末成績) ÷ 2。				
授業計画					
	週	授業内容	週ごとの到達目標		
前期	1週	授業ガイダンス	授業の進め方と評価の仕方について説明する。		
	2週	古文入門 羅城門 (『今昔物語集』)	歴史的仮名遣いや古語の特徴について理解し、古文学習の意義について考えることができる。古語辞典を使って現代語訳することができ、作品の時代背景や登場人物の生き方などを理解し、それぞれの話の面白さについて考えることができる。		
	3週	羅城門 (『今昔物語集』)	歴史的仮名遣いや古語の特徴について理解し、古文学習の意義について考えることができる。古語辞典を使って現代語訳することができ、作品の時代背景や登場人物の生き方などを理解し、それぞれの話の面白さについて考えることができる。		
	4週	羅城門 (『今昔物語集』)	歴史的仮名遣いや古語の特徴について理解し、古文学習の意義について考えることができる。古語辞典を使って現代語訳することができ、作品の時代背景や登場人物の生き方などを理解し、それぞれの話の面白さについて考えることができる。		
	5週	奥山に猫また (『徒然草』)	歴史的仮名遣いや古語の特徴について理解し、古文学習の意義について考えることができる。古語辞典を使って現代語訳することができ、作品の時代背景や登場人物の生き方などを理解し、それぞれの話の面白さについて考えることができる。		
	6週	奥山に猫また (『徒然草』)	歴史的仮名遣いや古語の特徴について理解し、古文学習の意義について考えることができる。古語辞典を使って現代語訳することができ、作品の時代背景や登場人物の生き方などを理解し、それぞれの話の面白さについて考えることができる。		
	7週	到達度試験 (前期中間)	上記項目について学習した内容の理解度を確認する。		
	8週	試験の解説と解答	到達度試験の解説と解答。		
	9週	漢文入門 漢文訓読のきまり	日本語と漢文の構造の違いを理解し、漢文学習の意義について考えることができる。訓読のきまりを理解し、書き下し文を書くことができる。		
	10週	訓読に親しむ	日本語と漢文の構造の違いを理解し、漢文学習の意義について考えることができる。訓読のきまりを理解し、書き下し文を書くことができる。		
	11週	唐詩 絶句	唐詩の種類や修辞について理解し、それぞれの詩に描かれた情景や心情を読み取ることができる。		

後期		12週	絶句	唐詩の種類や修辞について理解し、それぞれの詩に描かれた情景や心情を読み取ることができる。
		13週	律詩	唐詩の種類や修辞について理解し、それぞれの詩に描かれた情景や心情を読み取ることができる。
		14週	律詩	唐詩の種類や修辞について理解し、それぞれの詩に描かれた情景や心情を読み取ることができる。
		15週	到達度試験（前期末）	上記項目について学習した内容の理解度を確認する。
		16週	試験の解説と解答	到達度試験の解説と解答、および授業アンケート。
	3rdQ	1週	古文読解 和歌・俳諧 三大和歌集	和歌や俳諧の成り立ちや特徴を理解し、日本語の特質や修辞、日本文化の豊かさについて考えを深め、人生を豊かにしようとする姿勢を持つことができる。
		2週	三大和歌集	和歌や俳諧の成り立ちや特徴を理解し、日本語の特質や修辞、日本文化の豊かさについて考えを深め、人生を豊かにしようとする姿勢を持つことができる。
		3週	象潟（『奥の細道』）	和歌や俳諧の成り立ちや特徴を理解し、日本語の特質や修辞、日本文化の豊かさについて考えを深め、人生を豊かにしようとする姿勢を持つことができる。
		4週	物語 義仲の最期（『平家物語』）	古語辞典を使って現代語訳することができ、人間としての生き方あり方を考えることができる。
		5週	義仲の最期（『平家物語』）	古語辞典を使って現代語訳することができ、人間としての生き方あり方を考えることができる。
		6週	義仲の最期（『平家物語』）	古語辞典を使って現代語訳することができ、人間としての生き方あり方を考えることができる。
		7週	到達度試験（後期中間）	上記項目について学習した内容の理解度を確認する。
		8週	試験の解説と解答	到達度試験の解説と解答。
	4thQ	9週	漢文読解 中国の思想（『論語』『孟子』）	諸子百家および儒家の考え方を理解し、学問や政治、人間の本質について考えを深めることができる。
		10週	中国の思想（『論語』『孟子』）	儒家の考え方を理解し、学問や政治、人間の本質について考えを深めることができる。
		11週	中国の思想（『韓非子』）	法家の考え方を理解し、学問や政治、人間の本質について考えを深めることができる。
12週		史話 鴻門の会（『史記』）	訓読に習熟し、句法を踏まえて現代語訳することができ、人間としての生き方について考えることができる。	
13週		鴻門の会（『史記』）	訓読に習熟し、句法を踏まえて現代語訳することができ、人間としての生き方について考えることができる。	
14週		鴻門の会（『史記』）	訓読に習熟し、句法を踏まえて現代語訳することができ、人間としての生き方について考えることができる。	
15週		到達度試験（後期末）	上記項目について学習した内容の理解度を確認する。	
16週		試験の解説と解答	到達度試験の解説と解答、および授業アンケート。	

モデルコアカリキュラムの学習内容と到達目標

分類	分野	学習内容	学習内容の到達目標	到達レベル	授業週		
評価割合							
	試験	発表	相互評価	態度	ポートフォリオ	その他	合計
総合評価割合	80	0	0	0	0	20	100
基礎的能力	30	0	0	0	0	8	38
専門的能力	20	0	0	0	0	5	25
分野横断的能力	30	0	0	0	0	7	37

秋田工業高等専門学校		開講年度	平成29年度 (2017年度)	授業科目	国語Ⅱ (2M)
科目基礎情報					
科目番号	0001		科目区分	一般 / 必修	
授業形態	授業		単位の種別と単位数	履修単位: 2	
開設学科	一般教科 (人文科学系)		対象学年	2	
開設期	通年		週時間数	2	
教科書/教材	教科書: 『改訂版ちくま評論入門』(筑摩書房) 辞書: 国語辞典・古語辞典(電子辞書も可) 補助教材: 『常用漢字の級別学習コンプリート 新装版』(京都書房) 『新版三訂カラー版新国語便覧』(第一学習社) その他: 自製プリントの配布				
担当教員	石塚 政吾				
到達目標					
1. 論理的な文章をよみ、論理の構成や展開の把握にもとづいて論旨を客観的に理解し、要約し、自分の意見を表すことができる。2. 代表的な文学作品をよみ、人物・情景・心情の描写ならびに描写意図などを理解して味わうとともに、その作品の面白さを他者に説明することができる。3. 俳句の創作を通して、文学的創作活動を体験するとともに、作品の鑑賞をすることができる。4. 代表的な古文をよみ、言葉や表現方法の特徴をふまえて人物・情景などを理解し、人間・社会・自然などについて考えを深めたり広げたりすることができる。5. 漢詩文についての文章をよみ、日本における漢詩文の位置づけの変遷を学ぶとともに、漢詩文の意義について意見を述べるすることができる。					
ルーブリック					
	理想的な到達レベルの目安		標準的な到達レベルの目安		未到達レベルの目安
評価項目1	論理的な文章をよみ、論旨を客観的に理解し、要約し、自分の意見を表すことができる。		論理的な文章をよみ、論旨を客観的に理解し、要約することができる。		論理的な文章をよみ、論旨を客観的に理解し、要約することができない。
評価項目2	代表的な文学作品をよみ、描写ならびに描写意図などを理解し、その作品の面白さを他者に説明することができる。		代表的な文学作品をよみ、描写ならびに描写意図などを理解することができる。		代表的な文学作品をよみ、描写ならびに描写意図などを理解することができない。
評価項目3	俳句の創作をとおして、文学的創作活動を体験するとともに、作品の鑑賞をすることができる。		俳句の創作をすることができる。		俳句の創作をすることができない。
学科の到達目標項目との関係					
教育方法等					
概要	論理的な文章や文学的な文章を読むことを通して、日本語の表現や思考方法を学び、自分の考えを他者に正確に伝えることが出来るようにする。				
授業の進め方・方法	講義形式で行う。適宜、小テストの実施、レポートや作品等の提出を求める。				
注意点	合格点は50点である。到達度試験(中間)と到達度試験(期末)の成績80%に、ファイル整理・授業態度など平素の成績を10%、漢字小テストの取り組みを10%として加え、評価する。総合評価=(前期末成績+後期末成績)÷2(講義を受ける前)教科書、副教材、国語辞典(必要に応じて古語辞典)を忘れずに準備し、該当箇所を通読(古文は予習)しておくこと。(講義を受けた後)言葉の意味やよみなどを確認をして基礎知識の定着をはかり、読んだ文章に対する自分の意見を考えてほしい。				
授業計画					
		週	授業内容	週ごとの到達目標	
前期	1stQ	1週	授業のガイダンス	授業の進め方と評価の仕方について説明する。	
		2週	評論「科学が宗教になる」	近代における科学と宗教の関係を理解し、それに対する自分の意見を述べるすることができる。	
		3週	同上	同上	
		4週	同上	同上	
		5週	創作と鑑賞「俳句」	俳句の作り方を学び、俳句を鑑賞することができる。	
		6週	同上	同上	
		7週	同上	同上	
		8週	到達度試験(前期中間)	上記項目について学習した内容の理解度を授業の中で確認する。	
	2ndQ	9週	到達度試験の解説と解答	到達度試験の解説と解答	
		10週	評論「ふたつの誤り」	「ふたつの誤り」の内容を理解した上で、科学的な研究のあり方について自分なりの考えを示すことができる。	
		11週	同上	同上	
		12週	同上	同上	
		13週	小説『蠅』	登場人物の描写から小説の構造を理解し、この作品の面白さを述べるすることができる。	
		14週	同上	同上	
		15週	到達度試験(前期末)	上記項目について学習した内容の理解度を確認する。	
		16週	到達度試験の解説と解答	到達度試験(前期末)の解説と解答、および授業アンケート	
後期	3rdQ	1週	評論「イノセンス」	近年の若者の行動と心理についての筆者の意見を理解し、それに対する自分の意見を述べるすることができる。	
		2週	同上	同上	
		3週	同上	同上	
		4週	古典「伊勢物語」	八三段・八五段をよみ、語りの構造と面白さが分かる。	
		5週	同上	同上	
		6週	同上	同上	
		7週	同上	同上	

4thQ	8週	到達度試験(後期中間)	上記項目について学習した内容の理解度を確認する。
	9週	到達度試験の解説と解答	到達度試験の解説と解答
	10週	古典「漢詩文世界の人々」	三国・晋・南北朝期の人物に関する文書を読み、漢詩文世界について理解を深めることができる。
	11週	同上	同上
	12週	評論「失明の時代」	近代技術と日本社会の構造について理解し、それに対する自分の意見を述べるができる。
	13週	同上	同上
	14週	同上	同上
	15週	到達度試験(後期末)	上記項目について学習した内容の理解度を確認する。
16週	到達度試験の解説と解答	到達度試験(後期末)の解説と解答、および授業アンケート	

モデルコアカリキュラムの学習内容と到達目標

分類	分野	学習内容	学習内容の到達目標	到達レベル	授業週		
評価割合							
	試験	小テスト	相互評価	態度	ポートフォリオ	その他	合計
総合評価割合	80	10	0	0	0	10	100
基礎的能力	80	10	0	0	0	10	100
専門的能力	0	0	0	0	0	0	0
分野横断的能力	0	0	0	0	0	0	0

秋田工業高等専門学校		開講年度	平成29年度 (2017年度)	授業科目	人類史 I (2M)
科目基礎情報					
科目番号	0003		科目区分	一般 / 必修	
授業形態	授業		単位の種別と単位数	履修単位: 2	
開設学科	一般教科 (人文科学系)		対象学年	2	
開設期	通年		週時間数	2	
教科書/教材	教科書:「新詳 世界史B」帝国書院 / 補助教科書:「グローバルワイド 最新世界史図表」				
担当教員	長井 栄二,伊藤 寛崇				
到達目標					
1. 古代地中海世界の概要がわかる。 2. 東アジア世界の歴史と日本の古代史の概要がわかる。 3. 中世のヨーロッパ世界とイスラーム世界の概要がわかる。 4. ユーラシアの歴史と日本の中世史の概要がわかる。					
ループリック					
		理想的な到達レベルの目安	標準的な到達レベルの目安	未到達レベルの目安	
評価項目1		古代地中海世界の特徴を、具体的に説明できる。	古代地中海世界の概要を説明できる。	古代地中海世界の概要を説明できない。	
評価項目2		東アジア世界の歴史と日本の古代史の関係を、具体的に説明できる。	東アジア世界の歴史と日本の古代史の概要を説明できる。	東アジア世界の歴史と日本の古代史の概要を説明できない。	
評価項目3		中世のヨーロッパ世界とイスラーム世界の関係を、具体的に説明できる。	中世のヨーロッパ世界とイスラーム世界の概要を説明できる。	中世のヨーロッパ世界とイスラーム世界の概要を説明できない。	
評価項目4		ユーラシアの歴史と日本の中世史の関係を、具体的に説明できる。	ユーラシアの歴史と日本の中世史の概要を説明できる。	ユーラシアの歴史と日本の中世史の概要を説明できない。	
学科の到達目標項目との関係					
教育方法等					
概要	世界の諸地域の成立史について、また特に東アジア世界の歴史と日本の古代・中世史とを関連づけて学ぶことによって、現代の国際社会の中で諸地域の文化を理解するために必要な基礎能力を身に付ける。				
授業の進め方・方法	授業形式。授業中には板書を書き出すだけでなく、口頭説明のメモをとること。必要に応じて適宜、小テストないしレポート課題を実施する。試験結果が合格点に達しない場合、再試験を行うことがある。				
注意点	合格点は50点である。前期・後期の成績は、それぞれの間・期末の試験結果を70%、小テストないしレポートを15%、授業態度を15%で評価する。学年総合成績=(前期成績+後期成績)/2。 授業を受ける前:日常的にテレビや新聞などのメディアで、日々のニュースに触れておくこと。 授業を受けた後:授業中に出てきた分からない漢字や語句、地名を、指示されなくとも自らすすんで、辞書や地図で調べて確認しておくこと。この実直な作業は、後に本当の実力として大いに身になるものである。				
授業計画					
		週	授業内容	週ごとの到達目標	
前期	1stQ	1週	授業のガイダンス	授業の進め方と評価の仕方について説明する。	
		2週	オリेंट文明	文明の出現について学ぶ。	
		3週	古代ギリシア	古代ギリシア政治について学ぶ。	
		4週	古代ローマ	古代ローマ社会とキリスト教について学ぶ。	
		5週	インダス文明	古代インド社会について学ぶ。	
		6週	南アジア世界	仏教の成立と広がりについて学ぶ。	
		7週	到達度試験 (前期中間)	上記項目について学習した内容の理解度を授業の中で確認する。	
		8週	試験の解説と解答	試験の解説と解答	
	2ndQ	9週	中国文明	儒教と秦帝国の成立について学ぶ。	
		10週	中央ユーラシア世界	中央ユーラシア社会の特徴について学ぶ。	
		11週	縄文・弥生文化	先史時代の日本について学ぶ。	
		12週	中華帝国	漢帝国の成立について学ぶ。	
		13週	東アジア世界	東アジアの冊封体制について学ぶ。	
		14週	邪馬台国	日本における国家形成について学ぶ。	
		15週	到達度試験 (前期末)	上記項目について学習した内容の理解度を授業の中で確認する。	
		16週	試験の解説と解答	試験の解説と解答、および授業アンケート	
後期	3rdQ	1週	東アジア世界の再編	隋唐帝国の成立について学ぶ。	
		2週	律令国家「日本」の樹立	日本の律令体制の成立について学ぶ。	
		3週	ヨーロッパ世界の成立	ヨーロッパ世界の成立について学ぶ。	
		4週	西ヨーロッパの中世社会	西ヨーロッパ中世社会の特徴について学ぶ。	
		5週	イスラーム世界の成立	イスラームの成立と広がりについて学ぶ。	
		6週	イスラームの社会	イスラーム社会の特徴について学ぶ。	
		7週	西ヨーロッパ社会の変容	身分制議会の成立について学ぶ。	
		8週	到達度試験 (後期中間)	上記項目について学習した内容の理解度を授業の中で確認する。	
	4thQ	9週	試験の解説と解答	試験の解説と解答	
		10週	中華秩序の動揺と鎌倉幕府の成立	日本の中世社会の成立について学ぶ。	

	11週	ユーラシアの一体化と危機	ユーラシア大交流圏の出現と東西の危機について学ぶ。
	12週	海洋アジア交易圏の繁栄	明帝国の成立と冊封体制の再編について学ぶ。
	13週	ユーラシアの大帝国群	ユーラシア諸帝国の成立について学ぶ。
	14週	室町時代の社会	日本の中世社会の動揺について学ぶ。
	15週	到達度試験（後期末）	上記項目について学習した内容の理解度を授業の中で確認する。
	16週	試験の解説と解答	試験の解説と解答、および授業アンケート

モデルコアカリキュラムの学習内容と到達目標

分類	分野	学習内容	学習内容の到達目標	到達レベル	授業週
----	----	------	-----------	-------	-----

評価割合

	到達度試験	小テストないしレポート	授業態度	合計
総合評価割合	70	15	15	100
知識の基本的な理解	50	15	0	65
思考・表現	20	0	0	20
態度（人間力）	0	0	15	15

秋田工業高等専門学校		開講年度	平成29年度 (2017年度)	授業科目	芸術Ⅱ (美術) (2M)
科目基礎情報					
科目番号	0004		科目区分	一般 / 必修	
授業形態	演習		単位の種別と単位数	履修単位: 1	
開設学科	一般教科 (人文科学系)		対象学年	2	
開設期	前期		週時間数	2	
教科書/教材	教科書: 『美術1』 光村図書				
担当教員	小林 真, 有馬 寛子				
到達目標					
1. 創造的な表現の構想を練りながら意図に応じた表現方法を工夫すること。 2. 創造活動を通して日本や諸外国の美術文化について理解できるようになること。					
ルーブリック					
	理想的な到達レベルの目安	標準的な到達レベルの目安	未到達レベルの目安		
評価項目1	創造的な表現の構想を練りながら意図に応じた表現方法を工夫することが十分にできる。	創造的な表現の構想を練りながら意図に応じた表現方法を工夫することがある程度できる。	創造的な表現の構想を練りながら意図に応じた表現方法を工夫することができない。		
評価項目2	創造活動を通して日本や諸外国の美術文化について十分に理解できる。	創造活動を通して日本や諸外国の美術文化についてある程度理解できる。	創造活動を通して日本や諸外国の美術文化について理解できない。		
評価項目3					
学科の到達目標項目との関係					
教育方法等					
概要	創造的表現活動および知識や鑑賞の学習を通して、美術を愛好する心情を育む。				
授業の進め方・方法	個人、全体と学習する内容に合わせた形態で行う。必要に応じて、適宜、課題、小レポートを課す。表現活動においては、授業目標達成のため、でき得る限り個別指導に重点を置く。				
注意点	合格点は50点以上とする。 作品を60%、ノート提出等を40%として、評価する。 特に作品の未提出者は単位取得が困難となるので注意すること。 用具の準備・取り扱い・片付けと保管を確実にし、授業に臨むこと。				
授業計画					
		週	授業内容	週ごとの到達目標	
前期	1stQ	1週	授業ガイダンス	授業の進め方と評価の仕方について理解する。	
		2週	1 油彩「自画像」 (1) 表現の構想とデッサン (鏡、鉛筆、スケッチブック)	各自が自身の心情を基に色や形について構想できる。構想に沿って鉛筆デッサンができる。	
		3週	(1) 表現の構想とデッサン (鏡、鉛筆、スケッチブック)	各自が自身の心情を基に色や形について構想できる。構想に沿って鉛筆デッサンができる。	
		4週	(2) 油絵具着彩 (6号キャンバス)	構想、デッサンをもとに油彩画を描ける。	
		5週	(2) 油絵具着彩 (6号キャンバス)	構想、デッサンをもとに油彩画を描ける。	
		6週	(2) 油絵具着彩 (6号キャンバス)	構想、デッサンをもとに油彩画を描ける。	
		7週	(2) 油絵具着彩 (6号キャンバス)	構想、デッサンをもとに油彩画を描ける。	
		8週	(2) 油絵具着彩 (6号キャンバス)	構想、デッサンをもとに油彩画を描ける。	
	2ndQ	9週	(3) 鑑賞・合評会	完成した自他の作品を鑑賞し合うことができる。	
		10週	2 立体表現 (1) 構想とデッサン	体験を基に、想像を展開させ、自由な表現で創作能力を養うことができる。	
		11週	(1) 構想とデッサン	体験を基に、想像を展開させ、自由な表現で創作能力を養うことができる。	
		12週	(2) 立体造形	体験を基に、想像を展開させ、自由な表現で創作能力を養うことができる。	
		13週	(2) 立体造形	体験を基に、想像を展開させ、自由な表現で創作能力を養うことができる。	
		14週	(2) 立体造形	体験を基に、想像を展開させ、自由な表現で創作能力を養うことができる。	
		15週	(2) 立体造形	体験を基に、想像を展開させ、自由な表現で創作能力を養うことができる。	
		16週	(3) 鑑賞・合評会 (4) まとめ、授業アンケート	完成した自他の作品を鑑賞し合うことができる。 本授業のまとめ	
モデルコアカリキュラムの学習内容と到達目標					
分類	分野	学習内容	学習内容の到達目標	到達レベル	授業週
評価割合					
	作品	ノート提出	相互評価	態度	合計
総合評価割合	50	30	10	10	100
基礎的能力	20	10	10	10	50
専門的能力	30	15	0	0	45
分野横断的能力	0	5	0	0	5

秋田工業高等専門学校		開講年度	平成29年度 (2017年度)		授業科目	芸術Ⅱ (音楽) (2M)	
科目基礎情報							
科目番号	0005		科目区分	一般 / 必修			
授業形態	演習		単位の種別と単位数	履修単位: 1			
開設学科	一般教科 (人文科学系)		対象学年	2			
開設期	前期		週時間数	2			
教科書/教材	教科書: 『MOUSA I』 小原光一 教育芸術社						
担当教員	小林 真, 廣田 俊介						
到達目標							
1. さまざまな表現の機会を通して自分らしさを表現することができるようになること。							
ルーブリック							
	理想的な到達レベルの目安		標準的な到達レベルの目安		未到達レベルの目安		
評価項目1	アンサンブル (歌唱・器楽) 活動をする中で、自分 (達) らしさを表現した音楽づくりが十分にできる。		アンサンブル (歌唱・器楽) 活動をする中で、自分 (達) らしさを表現した音楽づくりがある程度できる。		アンサンブル (歌唱・器楽) 活動をする中で、自分 (達) らしさを表現した音楽づくりができない。		
評価項目2							
評価項目3							
学科の到達目標項目との関係							
教育方法等							
概要	創造的表現活動および鑑賞を通して、音楽を愛好する心情を育てる。						
授業の進め方・方法	個人、小グループ、全体とさまざまな学習形態で、自分らしさを主張しながら創造的表現ができるようになることに重点を置いて進める。						
注意点	[評価方法] ミニコンサート70%、学習カードと普通の学習態度など30%、として評価する。 [認証評価関連科目] 芸術Ⅰ (音楽) [学習上の注意] アルトリコーダーと教科書、筆記用具は常備すること。						
授業計画							
		週	授業内容		週ごとの到達目標		
前期	1stQ	1週	授業ガイダンス		授業の進め方と評価の仕方について説明する。		
		2週	自己表現		幅広いジャンルの音楽がわかる。		
		3週	自己表現		幅広いジャンルの音楽がわかる。		
		4週	自己表現		創造的に自己表現ができる。		
		5週	自己表現		創造的に自己表現ができる。		
		6週	アンサンブル・ミニコンサート		自分らしさを表現した音楽づくりができる。		
		7週	アンサンブル・ミニコンサート		自分らしさを表現した音楽づくりができる。		
		8週	アンサンブル・ミニコンサート		自分らしさを表現した音楽づくりができる。		
	2ndQ	9週	鑑賞		古典から現代までの音楽を学ぶ。		
		10週	鑑賞		作曲家とその時代背景を学ぶ。		
		11週	鑑賞		音楽をより深く味わうことができる。		
		12週	課題実習・ミニコンサート		歌唱・器楽・創作から選択できる。		
		13週	課題実習・ミニコンサート		歌唱・器楽・創作から選択できる。		
		14週	課題実習・ミニコンサート		ミニコンサートで発表できる。		
		15週	課題実習・ミニコンサート		ミニコンサートで発表できる。		
		16週	まとめ		本授業のまとめ 授業アンケート		
モデルコアカリキュラムの学習内容と到達目標							
分類	分野	学習内容	学習内容の到達目標			到達レベル	授業週
評価割合							
	試験	発表	相互評価	態度	ポートフォリオ	その他	合計
総合評価割合	0	70	0	30	0	0	100
基礎的能力	0	70	0	30	0	0	100
専門的能力	0	0	0	0	0	0	0
分野横断的能力	0	0	0	0	0	0	0

秋田工業高等専門学校		開講年度	平成29年度 (2017年度)	授業科目	英語Ⅱ (2M)
科目基礎情報					
科目番号	0006		科目区分	一般 / 必修	
授業形態	授業		単位の種別と単位数	履修単位: 4	
開設学科	一般教科 (人文科学系)		対象学年	2	
開設期	通年		週時間数	4	
教科書/教材	教科書: 「Perspective English Communication Ⅱ」 第一学習社 問題集: 「Deep Listening Level 2」 日本英語検定協会 単語集: 「カラー版 TOEICテストにできる順英単語」 中経出版 その他: 「Little Charo 4 New York Again」 NHK				
担当教員	小林 貢				
到達目標					
<p>1. 英語の基本的なイントネーションやアクセントを聞き取り、理解し、音読することができる。</p> <p>2. 中学校で既習の語彙を定着させるとともに、2600語程度の語彙を低学年において新たに習得できる。</p> <p>3. 辞書や既習の英文法の知識に基づいて、英文を自分の力で理解することができる。</p> <p>4. 難しくない状況を英語で話すことができる。</p> <p>5. 難しくない状況を英語で書くことができる。</p>					
ループリック					
	理想的な到達レベルの目安	標準的な到達レベルの目安	未到達レベルの目安		
評価項目1	英語の基本的なイントネーションやアクセントを正確に聞き取り、理解し、音読することができる。	英語の基本的なイントネーションやアクセントをおおむね聞き取り、理解し、音読することができる。	英語の基本的なイントネーションやアクセントを聞き取り、理解し、音読することができない。		
評価項目2	中学校で既習の語彙を定着させるとともに、2600語程度の語彙を低学年において新たに習得できる。	中学校で既習の語彙を定着させるとともに、2600語程度の語彙を低学年において新たに習得できる。	中学校で既習の語彙を定着させるとともに、2600語程度の語彙を低学年において新たに習得できない。		
評価項目3	辞書や既習の英文法の知識に基づいて、英文を自分の力で正確に理解することができる。	辞書や既習の英文法の知識に基づいて、英文を自分の力でおおむね理解することができる。	辞書や既習の英文法の知識に基づいて、英文を自分の力で理解することができない。		
学科の到達目標項目との関係					
教育方法等					
概要	基礎的な英語力の養成及び実用英語検定試験 (準2級) 程度の基本知識を身につける。				
授業の進め方・方法	演習形式で行いグループワークも行う。必要に応じて適宜小テストを実施し、また演習課題や宿題 (予習) を課す。試験結果が合格点に達しない場合、再試験を行うことがある。				
注意点	<p>〔評価方法〕 合格点は50点である。各中間・期末の成績は、試験結果70%、小テスト・演習課題・宿題20%、授業態度を10%で評価する。尚、授業態度に英検の結果を考慮する。特に、演習課題・宿題の未提出者は単位取得が困難となるので注意すること。</p> <p>学年総合成績 = (到達度試験 (前期末成績) 評価点 + 到達度試験 (学年末成績) 評価点) / 2</p> <p>〔認証評価関連科目〕 英語Ⅰ, 英語Ⅲ, 英語LL演習, 英語会話, 総合英語Ⅰ, 総合英語Ⅱ, 上級英語</p> <p>〔学習上の注意〕 (授業を受ける前) 辞書は座右に置くこと。予習・復習を積極的に行い、授業に参加すること。 (授業を受けた後) 試験により、各自で授業内容の理解度をチェックするとともに、確実に理解すること。</p>				
授業計画					
		週	授業内容	週ごとの到達目標	
前期	1stQ	1週	授業ガイダンス	授業の進め方と評価の仕方について説明する。	
		2週	Lesson 1 A Hunger for Knowledge リスニング演習	With…などが条件を表す仮定法について学ぶ。 リスニング対策を学ぶ。	
		3週	Lesson 1 A Hunger for Knowledge リスニング演習	同格の that について学ぶ。 リスニング対策を学ぶ。	
		4週	Lesson 2 Strike a Chord for Health リスニング演習	未来完了形について学ぶ。 リスニング対策を学ぶ。	
		5週	Lesson 2 Strike a Chord for Health リスニング演習	完了動名詞について学ぶ。 リスニング対策を学ぶ。	
		6週	Lesson 2 Strike a Chord for Health リスニング演習	上記について確認できる。 リスニング対策を学ぶ。	
		7週	到達度試験 (前期中間試験)	上記項目について学習した内容の理解度を確認する。	
		8週	試験の解説と解答	到達度試験の解説と解答	
	2ndQ	9週	Lesson 3 Eating Up the Sea? リスニング演習	be to-不定詞について学ぶ。 リスニング対策を学ぶ。	
		10週	Lesson 3 Eating Up the Sea? リスニング演習	前置詞 + 関係代名詞について学ぶ。リスニング対策を学ぶ。	
		11週	Lesson 3 Eating Up the Sea? リスニング演習	上記について確認できる。 リスニング対策を学ぶ。	
		12週	Lesson 4 Taro's Suns Look Toward World Peace リスニング演習	動名詞の意味上の主語について学ぶ。 リスニング対策を学ぶ。	
		13週	Lesson 4 Taro's Suns Look Toward World Peace リスニング演習	動名詞 (受動態) について学ぶ。 リスニング対策を学ぶ。	

		14週	Lesson 4 Taro's Suns Look Toward World Peace リスニング演習	上記について確認できる。 リスニング対策を学ぶ。
		15週	到達度試験（前期末試験）	上記項目について学習した内容の理解度を確認する。
		16週	試験の解説と解答	到達度試験の解説と解答、および授業アンケート
後期	3rdQ	1週	Lesson 6 Haiti's Mother Teresa リスニング演習	独立分詞構文について学ぶ。 リスニング対策を学ぶ。
		2週	Lesson 6 Haiti's Mother Teresa リスニング演習	複合関係について学ぶ。 リスニング対策を学ぶ。
		3週	Lesson 6 Haiti's Mother Teresa リスニング演習	上記について確認できる。 リスニング対策を学ぶ。
		4週	Lesson 7 Machu Picchu - City in the Clouds	完了形の分詞構文について学ぶ。
		5週	Lesson 7 Machu Picchu - City in the Clouds	主語が条件を表す仮定法について学ぶ。
		6週	リスニング演習	リスニング対策を学ぶ。
		7週	到達度試験（後期中間試験）	上記項目について学習した内容の理解度を確認する。
		8週	試験の解説と解答	到達度試験の解説と解答
	4thQ	9週	Lesson 8 The Little Rock Nine リスニング演習	with+名詞+分詞について学ぶ。 リスニング対策を学ぶ。
		10週	Lesson 8 The Little Rock Nine リスニング演習	仮定法現在について学ぶ。 リスニング対策を学ぶ。
		11週	Lesson 8 The Little Rock Nine リスニング演習	上記について確認できる。 リスニング対策を学ぶ。
		12週	Lesson 9 A Mission beyond Our Imagination リスニング演習	進行形（受動態）について学ぶ。 リスニング対策を学ぶ。
		13週	Lesson 9 A Mission beyond Our Imagination リスニング演習	完了不定詞について学ぶ。 リスニング対策を学ぶ。
		14週	Lesson 9 A Mission beyond Our Imagination リスニング演習	上記について確認できる。 リスニング対策を学ぶ。
		15週	到達度試験（学年末試験）	上記項目について学習した内容の理解度を確認する。
		16週	試験の解説と解答	到達度試験の解説と解答、および授業アンケート

モデルコアカリキュラムの学習内容と到達目標

分類	分野	学習内容	学習内容の到達目標	到達レベル	授業週	
評価割合						
	試験	発表	相互評価	態度	ポートフォリオ その他	合計
総合評価割合	70	0	0	10	0 20	100
基礎的能力	70	0	0	10	0 20	100
専門的能力	0	0	0	0	0 0	0
分野横断的能力	0	0	0	0	0 0	0

秋田工業高等専門学校		開講年度	平成29年度 (2017年度)	授業科目	英文法Ⅱ (2M)
科目基礎情報					
科目番号	0007		科目区分	一般 / 必修	
授業形態	授業		単位の種別と単位数	履修単位: 2	
開設学科	一般教科 (人文科学系)		対象学年	2	
開設期	通年		週時間数	2	
教科書/教材	Forest Extensive English Grammar in 47 Lessons (7th edition), 桐原書店				
担当教員	菅原 隆行, 藤盛 節子				
到達目標					
<p>1. 中学校で既習の文法や構文に加え、高等学校学習指導要領に準じた文法や構文を習得して適切に運用できる。</p> <p>2. 原級、比較級、最上級それぞれの用法、関係代名詞、関係副詞、複合関係詞それぞれの用法について理解することで、表現力や長い文の理解力を高める。</p> <p>3. 仮定法過去、仮定法過去完了の基本的な用法と構文、直接話法と間接話法の違いについて理解することができる。</p> <p>4. 英語の名詞、代名詞、形容詞、副詞、前置詞、接続詞それぞれの概念や用法について理解することができる。</p>					
ループリック					
		理想的な到達レベルの目安	標準的な到達レベルの目安	未到達レベルの目安	
評価項目1		原級、比較級、最上級の基本的な用法、関係代名詞、関係副詞、複合関係詞それぞれの用法について正確に理解できる。	原級、比較級、最上級の基本的な用法、関係代名詞、関係副詞、複合関係詞それぞれの用法をおおむね理解できる。	原級、比較級、最上級の基本的な用法、関係代名詞、関係副詞、複合関係詞それぞれの用法を理解できない。	
評価項目2		仮定法過去、仮定法過去完了の基本的な用法やさまざまな仮定法の構文、直接話法と間接話法の違いや用法について正確に理解できる。	仮定法過去、仮定法過去完了の基本的な用法やさまざまな仮定法の構文、直接話法と間接話法の違いや用法についておおむね理解できる。	仮定法過去、仮定法過去完了の基本的な用法やさまざまな仮定法の構文、直接話法と間接話法の違いや用法について理解できない。	
評価項目3		英語の名詞、代名詞、形容詞、副詞、前置詞、接続詞それぞれの概念や用法を正確に理解できる。	英語の名詞、代名詞、形容詞、副詞、前置詞、接続詞それぞれの概念や用法をおおむね理解できる。	英語の名詞、代名詞、形容詞、副詞、前置詞、接続詞それぞれの概念や用法について理解できない。	
学科の到達目標項目との関係					
教育方法等					
概要	1年次履修の「英文法Ⅰ」から継続して基礎英文法を学び、3年次以降の英語理解に応用できる力を養う。				
授業の進め方・方法	演習形式で行う。必要に応じて授業の演習課題と復習のノート提出を求める。試験結果が合格点に達しない場合、再試験を行うことがある。				
注意点	合格点は50点である。定期試験の結果を70%、授業中の小テスト、ノート・課題提出の結果等を30%の比率で評価する。 学年総合成績 = (前期中間成績 + 前期末成績 + 後期中間成績 + 学年末成績) / 4 英文法の高度な運用能力を身につけることを目標とし、積極的に授業に取り組むこと。予習・復習を欠かさず、辞書を常に活用すること。				
授業計画					
		週	授業内容	週ごとの到達目標	
前期	1stQ	1週	授業ガイダンス 第21章 比較(1)	授業の進め方と評価の仕方について説明する。原級・比較級を用いた比較表現を学ぶ。	
		2週	第21章 比較(1) 第22章 比較(2)	原級・比較級を用いた比較表現を学ぶ。最上級を用いた表現、原級を用いた応用表現を学ぶ。	
		3週	第22章 比較(2) 第23章 比較(3)	最上級を用いた表現、原級を用いた応用表現を学ぶ。	
		4週	第23章 比較(3)	その他の比較の慣用表現を学ぶ。	
		5週	第24章 関係詞(1)	関係代名詞の基本的な用法や先行詞との関係について学ぶ。	
		6週	第24章 関係詞(1) 第25章 関係詞(2)	前置詞を伴う関係代名詞、限定用法、継続用法を学ぶ。	
		7週	第25章 関係詞(2)	前置詞を伴う関係代名詞、限定用法、継続用法を学ぶ。	
		8週	到達度試験 (前期中間)	上記項目について学習した内容の理解度を確認する。	
	2ndQ	9週	試験の解説と解答 第26章 関係詞(3)	前期中間試験の解説と解答 関係副詞・複合関係詞の用法を学ぶ。	
		10週	第26章 関係詞(3)	関係副詞・複合関係詞の用法を学ぶ。	
		11週	第27章 関係詞(4)	「譲歩」を表す複合関係詞、関係代名詞のさまざまな用法などを学ぶ。	
		12週	第28章 仮定法(1)	仮定法過去、仮定法過去完了の基本的な用法を学ぶ。	
		13週	第29章 仮定法(2)	未来を表す仮定法や、as if~, I wish~を用いた構文について学ぶ。	
		14週	第30章 仮定法(3)	if節を用いない仮定法や仮定法を用いた慣用表現を学ぶ。	
		15週	到達度試験 (前期期末)	上記項目について学習した内容の理解度を確認する。	
		16週	試験の解説と解答	前期末試験の解説と解答、および授業アンケート	
後期	3rdQ	1週	第31章 疑問詞と疑問文	さまざまな疑問詞や疑問文について学ぶ。	
		2週	第32章 否定(1)	否定語の基本的な用法や準否定語などについて学ぶ。	
		3週	第33章 否定(2)	部分否定と全否定の違いや否定語を用いない否定表現などを学ぶ。	
		4週	第34章 話法	直接話法と間接話法の形や話法の転換を学ぶ。	
		5週	第35章 名詞構文・無生物主語	名詞構文と無生物主語について学ぶ。	

4thQ	6週	第36章 強調・倒置 第37章 挿入・省略・同格	強調や倒置の用法について学ぶ。 語句の挿入や省略、同格について学ぶ。
	7週	第38章 名詞 第39章 冠詞	可算名詞と不可算名詞の分類について学ぶ。 不定冠詞と定冠詞の用法について学ぶ。
	8週	到達度試験（後期中間）	上記項目について学習した内容の理解度を確認する。
	9週	試験の解説と解答 第40章 代名詞(1)	後期中間試験の解説と解答 人称代名詞、指示代名詞、不定代名詞、itの用法について学ぶ。
	10週	第41章 代名詞(2) 第42章 形容詞	形容詞の基本的な用法と数量形容詞について学ぶ。
	11週	第43章 副詞 第44章 前置詞(1)	副詞の基本的な用法と注意すべき用法を学ぶ。 主要な前置詞の用法を学ぶ。
	12週	第44章 前置詞(1) 第45章 前置詞(2)	その他の前置詞と群前置詞について学ぶ。
	13週	第45章 前置詞(2) 第46章 接続詞(1)	等位接続詞と従属接続詞の用法を学ぶ。
	14週	第47章 接続詞(2)	時、原因・理由、条件、譲歩などを表す接続詞について学ぶ。
	15週	到達度試験（学年末）	上記項目について学習した内容の理解度を確認する。
16週	試験の解説と解答	学年末試験の解説と解答、および授業アンケート	

モデルコアカリキュラムの学習内容と到達目標

分類	分野	学習内容	学習内容の到達目標	到達レベル	授業週
----	----	------	-----------	-------	-----

評価割合

	試験	発表	相互評価	態度	ポートフォリオ	その他	合計
総合評価割合	70	0	0	0	0	30	100
基礎的能力	60	0	0	0	0	20	80
専門的能力	10	0	0	0	0	10	20

秋田工業高等専門学校		開講年度	平成29年度 (2017年度)	授業科目	国語Ⅱ (2E)
科目基礎情報					
科目番号	0008		科目区分	一般 / 必修	
授業形態	授業		単位の種別と単位数	履修単位: 2	
開設学科	一般教科 (人文科学系)		対象学年	2	
開設期	通年		週時間数	2	
教科書/教材	教科書: 『改訂版ちくま評論入門』(筑摩書房) 辞書: 国語辞典・古語辞典(電子辞書も可) 補助教材: 『常用漢字の級別学習コンプリート 新装版』(京都書房) 『新版三訂カラー版新国語便覧』(第一学習社) その他: 自製プリントの配布				
担当教員	岩田 久美加				
到達目標					
1. 論理的な文章をよみ、論理の構成や展開の把握にもとづいて論旨を客観的に理解し、要約し、自分の意見を表すことができる。2. 代表的な文学作品をよみ、人物・情景・心情の描写ならびに描写意図などを理解して味わうとともに、その作品の面白さを他者に説明することができる。3. 俳句の創作を通して、文学的創作活動を体験するとともに、作品の鑑賞をすることができる。4. 代表的な古文をよみ、言葉や表現方法の特徴をふまえて人物・情景などを理解し、人間・社会・自然などについて考えを深めたり広げたりすることができる。5. 漢詩文についての文章をよみ、日本における漢詩文の位置づけの変遷を学ぶとともに、漢詩文の意義について意見を述べるすることができる。					
ルーブリック					
	理想的な到達レベルの目安	標準的な到達レベルの目安	未到達レベルの目安		
評価項目1	論理的な文章をよみ、論旨を客観的に理解し、要約し、自分の意見を表すことができる。	論理的な文章をよみ、論旨を客観的に理解し、要約することができる。	論理的な文章をよみ、論旨を客観的に理解し、要約することができない。		
評価項目2	代表的な文学作品をよみ、描写ならびに描写意図などを理解し、その作品の面白さを他者に説明することができる。	代表的な文学作品をよみ、描写ならびに描写意図などを理解することができる。	代表的な文学作品をよみ、描写ならびに描写意図などを理解することができない。		
評価項目3	俳句の創作をとおして、文学的創作活動を体験するとともに、作品の鑑賞をすることができる。	俳句の創作をすることができる。	俳句の創作をすることができない。		
学科の到達目標項目との関係					
教育方法等					
概要	論理的な文章や文学的な文章をよむことを通して、日本語の表現や思考方法を学び、自分の考えを他者に正確に伝えることが出来るようにする。				
授業の進め方・方法	講義形式で行う。適宜、小テストの実施、レポートや作品等の提出を求める。				
注意点	合格点は50点である。到達度試験(中間)と到達度試験(期末)の成績80%に、ファイル整理・授業態度など平素の成績を10%、漢字小テストの取り組みを10%として加え、評価する。総合評価=(前期末成績+後期末成績)÷2(講義を受ける前)教科書、副教材、国語辞典(必要に応じて古語辞典)を忘れずに準備し、該当箇所を通読(古文は予習)しておくこと。(講義を受けた後)言葉の意味やよみなどを確認をして基礎知識の定着をはかり、読んだ文章に対する自分の意見を考えてほしい。				
授業計画					
		週	授業内容	週ごとの到達目標	
前期	1stQ	1週	授業のガイダンス	授業の進め方と評価の仕方について説明する。	
		2週	評論「科学が宗教になる」	近代における科学と宗教の関係を理解し、それに対する自分の意見を述べるすることができる。	
		3週	同上	同上	
		4週	同上	同上	
		5週	創作と鑑賞「俳句」	俳句の作り方を学び、俳句を鑑賞することができる。	
		6週	同上	同上	
		7週	同上	同上	
		8週	到達度試験(前期中間)	上記項目について学習した内容の理解度を授業の中で確認する。	
	2ndQ	9週	到達度試験の解説と解答	到達度試験の解説と解答	
		10週	評論「ふたつの誤り」	「ふたつの誤り」の内容を理解した上で、科学的な研究のあり方について自分なりの考えを示すことができる。	
		11週	同上	同上	
		12週	同上	同上	
		13週	小説『蠅』	登場人物の描写から小説の構造を理解し、この作品の面白さを述べるすることができる。	
		14週	同上	同上	
		15週	到達度試験(前期末)	上記項目について学習した内容の理解度を確認する。	
		16週	到達度試験の解説と解答	到達度試験(前期末)の解説と解答、および授業アンケート	
後期	3rdQ	1週	評論「イノセンス」	近年の若者の行動と心理についての筆者の意見を理解し、それに対する自分の意見を述べるすることができる。	
		2週	同上	同上	
		3週	同上	同上	
		4週	古典「伊勢物語」	八三段・八五段をよみ、語りの構造と面白さが分かる。	
		5週	同上	同上	
		6週	同上	同上	
		7週	同上	同上	

4thQ	8週	到達度試験(後期中間)	上記項目について学習した内容の理解度を確認する。
	9週	到達度試験の解説と解答	到達度試験の解説と解答
	10週	古典「漢詩文世界の人々」	三国・晋・南北朝期の人物に関する文書を読み、漢詩文世界について理解を深めることができる。
	11週	同上	同上
	12週	評論「失明の時代」	近代技術と日本社会の構造について理解し、それに対する自分の意見を述べるができる。
	13週	同上	同上
	14週	同上	同上
	15週	到達度試験(後期末)	上記項目について学習した内容の理解度を確認する。
16週	到達度試験の解説と解答	到達度試験(後期末)の解説と解答、および授業アンケート	

モデルコアカリキュラムの学習内容と到達目標

分類	分野	学習内容	学習内容の到達目標	到達レベル	授業週		
評価割合							
	試験	小テスト	相互評価	態度	ポートフォリオ	その他	合計
総合評価割合	80	10	0	0	0	10	100
基礎的能力	80	10	0	0	0	10	100
専門的能力	0	0	0	0	0	0	0
分野横断的能力	0	0	0	0	0	0	0

秋田工業高等専門学校		開講年度	平成29年度 (2017年度)	授業科目	人類史 I (2E)
科目基礎情報					
科目番号	0010		科目区分	一般 / 必修	
授業形態	授業		単位の種別と単位数	履修単位: 2	
開設学科	一般教科 (人文科学系)		対象学年	2	
開設期	通年		週時間数	2	
教科書/教材	教科書: 「新詳 世界史B」 帝国書院 / 補助教科書: 「グローバルワイド 最新世界史図表」				
担当教員	伊藤 寛崇				
到達目標					
1. 古代地中海世界の概要がわかる。 2. 東アジア世界の歴史と日本の古代史の概要がわかる。 3. 中世のヨーロッパ世界とイスラーム世界の概要がわかる。 4. ユーラシアの歴史と日本の中世史の概要がわかる。					
ループリック					
		理想的な到達レベルの目安	標準的な到達レベルの目安	未到達レベルの目安	
評価項目1		古代地中海世界の特徴を、具体的に説明できる。	古代地中海世界の概要を説明できる。	古代地中海世界の概要を説明できない。	
評価項目2		東アジア世界の歴史と日本の古代史の関係を、具体的に説明できる。	東アジア世界の歴史と日本の古代史の概要を説明できる。	東アジア世界の歴史と日本の古代史の概要を説明できない。	
評価項目3		中世のヨーロッパ世界とイスラーム世界の関係を、具体的に説明できる。	中世のヨーロッパ世界とイスラーム世界の概要を説明できる。	中世のヨーロッパ世界とイスラーム世界の概要を説明できない。	
評価項目4		ユーラシアの歴史と日本の中世史の関係を、具体的に説明できる。	ユーラシアの歴史と日本の中世史の概要を説明できる。	ユーラシアの歴史と日本の中世史の概要を説明できない。	
学科の到達目標項目との関係					
教育方法等					
概要	世界の諸地域の成立史について、また特に東アジア世界の歴史と日本の古代・中世史とを関連づけて学ぶことによって、現代の国際社会の中で諸地域の文化を理解するために必要な基礎能力を身に付ける。				
授業の進め方・方法	授業形式。授業中には板書を書き出すだけでなく、口頭説明のメモをとること。必要に応じて適宜、小テストないしレポート課題を実施する。試験結果が合格点に達しない場合、再試験を行うことがある。				
注意点	合格点は50点である。前期・後期の成績は、それぞれの中間・期末の試験結果を70%、小テストないしレポートを15%、授業態度を15%で評価する。学年総合成績 = (前期成績 + 後期成績) / 2。 授業を受ける前: 日常的にテレビや新聞などのメディアで、日々のニュースに触れておくこと。 授業を受けた後: 授業中に出てきた分からない漢字や語句、地名を、指示されなくとも自らすすんで、辞書や地図で調べて確認しておくこと。この実直な作業は、後に本当の実力として大いに身になるものである。				
授業計画					
		週	授業内容	週ごとの到達目標	
前期	1stQ	1週	授業のガイダンス	授業の進め方と評価の仕方について説明する。	
		2週	オリエント文明	文明の出現について学ぶ。	
		3週	古代ギリシア	古代ギリシア政治について学ぶ。	
		4週	古代ローマ	古代ローマ社会とキリスト教について学ぶ。	
		5週	インダス文明	古代インド社会について学ぶ。	
		6週	南アジア世界	仏教の成立と広がりについて学ぶ。	
		7週	到達度試験 (前期中間)	上記項目について学習した内容の理解度を授業の中で確認する。	
		8週	試験の解説と解答	試験の解説と解答	
	2ndQ	9週	中国文明	儒教と秦帝国の成立について学ぶ。	
		10週	中央ユーラシア世界	中央ユーラシア社会の特徴について学ぶ。	
		11週	縄文・弥生文化	先史時代の日本について学ぶ。	
		12週	中華帝国	漢帝国の成立について学ぶ。	
		13週	東アジア世界	東アジアの冊封体制について学ぶ。	
		14週	邪馬台国	日本における国家形成について学ぶ。	
		15週	到達度試験 (前期末)	上記項目について学習した内容の理解度を授業の中で確認する。	
		16週	試験の解説と解答	試験の解説と解答、および授業アンケート	
後期	3rdQ	1週	東アジア世界の再編	隋唐帝国の成立について学ぶ。	
		2週	律令国家「日本」の樹立	日本の律令体制の成立について学ぶ。	
		3週	ヨーロッパ世界の成立	ヨーロッパ世界の成立について学ぶ。	
		4週	西ヨーロッパの中世社会	西ヨーロッパ中世社会の特徴について学ぶ。	
		5週	イスラーム世界の成立	イスラームの成立と広がりについて学ぶ。	
		6週	イスラームの社会	イスラーム社会の特徴について学ぶ。	
		7週	西ヨーロッパ社会の変容	身分制議会の成立について学ぶ。	
		8週	到達度試験 (後期中間)	上記項目について学習した内容の理解度を授業の中で確認する。	
	4thQ	9週	試験の解説と解答	試験の解説と解答	
		10週	中華秩序の動揺と鎌倉幕府の成立	日本の中世社会の成立について学ぶ。	

	11週	ユーラシアの一体化と危機	ユーラシア大交流圏の出現と東西の危機について学ぶ。
	12週	海洋アジア交易圏の繁栄	明帝国の成立と冊封体制の再編について学ぶ。
	13週	ユーラシアの大帝国群	ユーラシア諸帝国の成立について学ぶ。
	14週	室町時代の社会	日本の中世社会の動揺について学ぶ。
	15週	到達度試験（後期末）	上記項目について学習した内容の理解度を授業の中で確認する。
	16週	試験の解説と解答	試験の解説と解答、および授業アンケート

モデルコアカリキュラムの学習内容と到達目標

分類	分野	学習内容	学習内容の到達目標	到達レベル	授業週
----	----	------	-----------	-------	-----

評価割合

	到達度試験	小テストないしレポート	授業態度	合計
総合評価割合	70	15	15	100
知識の基本的な理解	50	15	0	65
思考・表現	20	0	0	20
態度（人間力）	0	0	15	15

秋田工業高等専門学校		開講年度	平成29年度 (2017年度)	授業科目	芸術Ⅱ (美術) (2E)
科目基礎情報					
科目番号	0011		科目区分	一般 / 選択	
授業形態	演習		単位の種別と単位数	履修単位: 1	
開設学科	一般教科 (人文科学系)		対象学年	2	
開設期	前期		週時間数	2	
教科書/教材	教科書: 『美術1』 光村図書				
担当教員	小林 真, 有馬 寛子				
到達目標					
1. 創造的な表現の構想を練りながら意図に応じた表現方法を工夫すること。 2. 創造活動を通して日本や諸外国の美術文化について理解できるようになること。					
ルーブリック					
	理想的な到達レベルの目安	標準的な到達レベルの目安	未到達レベルの目安		
評価項目1	創造的な表現の構想を練りながら意図に応じた表現方法を工夫することが十分にできる。	創造的な表現の構想を練りながら意図に応じた表現方法を工夫することがある程度できる。	創造的な表現の構想を練りながら意図に応じた表現方法を工夫することができない。		
評価項目2	創造活動を通して日本や諸外国の美術文化について十分に理解できる。	創造活動を通して日本や諸外国の美術文化についてある程度理解できる。	創造活動を通して日本や諸外国の美術文化について理解できない。		
評価項目3					
学科の到達目標項目との関係					
教育方法等					
概要	創造的表現活動および知識や鑑賞の学習を通して、美術を愛好する心情を育む。				
授業の進め方・方法	個人、全体と学習する内容に合わせた形態で行う。必要に応じて、適宜、課題、小レポートを課す。表現活動においては、授業目標達成のため、でき得る限り個別指導に重点を置く。				
注意点	合格点は50点以上とする。作品を60%、ノート提出等を40%として、評価する。特に作品の未提出者は単位取得が困難となるので注意すること。 用具の準備・取り扱い・片付けと保管を確実にし、授業に臨むこと。				
授業計画					
		週	授業内容	週ごとの到達目標	
前期	1stQ	1週	授業ガイダンス	授業の進め方と評価の仕方について理解する。	
		2週	1 油彩「自画像」 (1) 表現の構想とデッサン (鏡、鉛筆、スケッチブック)	各自が自身の心情を基に色や形について構想できる。構想に沿って鉛筆デッサンができる。	
		3週	(1) 表現の構想とデッサン (鏡、鉛筆、スケッチブック)	各自が自身の心情を基に色や形について構想できる。構想に沿って鉛筆デッサンができる。	
		4週	(2) 油絵具着彩 (6号キャンバス)	構想、デッサンをもとに油彩画を描ける。	
		5週	(2) 油絵具着彩 (6号キャンバス)	構想、デッサンをもとに油彩画を描ける。	
		6週	(2) 油絵具着彩 (6号キャンバス)	構想、デッサンをもとに油彩画を描ける。	
		7週	(2) 油絵具着彩 (6号キャンバス)	構想、デッサンをもとに油彩画を描ける。	
		8週	(2) 油絵具着彩 (6号キャンバス)	構想、デッサンをもとに油彩画を描ける。	
	2ndQ	9週	(3) 鑑賞・合評会	完成した自他の作品を鑑賞し合うことができる。	
		10週	2 立体表現 (1) 構想とデッサン	体験を基に、想像を展開させ、自由な表現で創作能力を養うことができる。	
		11週	(1) 構想とデッサン	体験を基に、想像を展開させ、自由な表現で創作能力を養うことができる。	
		12週	(2) 立体造形	体験を基に、想像を展開させ、自由な表現で創作能力を養うことができる。	
		13週	(2) 立体造形	体験を基に、想像を展開させ、自由な表現で創作能力を養うことができる。	
		14週	(2) 立体造形	体験を基に、想像を展開させ、自由な表現で創作能力を養うことができる。	
		15週	(2) 立体造形	体験を基に、想像を展開させ、自由な表現で創作能力を養うことができる。	
		16週	(3) 鑑賞・合評会 (4) まとめ、授業アンケート	完成した自他の作品を鑑賞し合うことができる。 本授業のまとめ	
モデルコアカリキュラムの学習内容と到達目標					
分類	分野	学習内容	学習内容の到達目標	到達レベル	授業週
評価割合					
	作品	ノート提出	相互評価	態度	合計
総合評価割合	50	30	10	10	100
基礎的能力	20	10	10	10	50
専門的能力	30	15	0	0	45
分野横断的能力	0	5	0	0	5

秋田工業高等専門学校		開講年度	平成29年度 (2017年度)		授業科目	芸術Ⅱ (音楽) (2E)	
科目基礎情報							
科目番号	0012		科目区分	一般 / 選択			
授業形態	演習		単位の種別と単位数	履修単位: 1			
開設学科	一般教科 (人文科学系)		対象学年	2			
開設期	前期		週時間数	2			
教科書/教材	教科書: 『MOUSA I』 小原光一 教育芸術社						
担当教員	小林 真, 廣田 俊介						
到達目標							
1. さまざまな表現の機会を通して自分らしさを表現することができるようになること。							
ルーブリック							
	理想的な到達レベルの目安		標準的な到達レベルの目安		未到達レベルの目安		
評価項目1	アンサンブル (歌唱・器楽) 活動をする中で、自分 (達) らしさを表現した音楽づくりが十分にできる。		アンサンブル (歌唱・器楽) 活動をする中で、自分 (達) らしさを表現した音楽づくりがある程度できる。		アンサンブル (歌唱・器楽) 活動をする中で、自分 (達) らしさを表現した音楽づくりができない。		
評価項目2							
評価項目3							
学科の到達目標項目との関係							
教育方法等							
概要	創造的表現活動および鑑賞を通して、音楽を愛好する心情を育てる。						
授業の進め方・方法	個人、小グループ、全体とさまざまな学習形態で、自分らしさを主張しながら創造的表現ができるようになることに重点を置いて進める。						
注意点	[評価方法] ミニコンサート70%、学習カードと普通の学習態度など30%、として評価する。 [認証評価関連科目] 芸術Ⅰ (音楽) [学習上の注意] アルトリコーダーと教科書、筆記用具は常備すること。						
授業計画							
		週	授業内容		週ごとの到達目標		
前期	1stQ	1週	授業ガイダンス		授業の進め方と評価の仕方について説明する。		
		2週	自己表現		幅広いジャンルの音楽がわかる。		
		3週	自己表現		幅広いジャンルの音楽がわかる。		
		4週	自己表現		創造的に自己表現ができる。		
		5週	自己表現		創造的に自己表現ができる。		
		6週	アンサンブル・ミニコンサート		自分らしさを表現した音楽づくりができる。		
		7週	アンサンブル・ミニコンサート		自分らしさを表現した音楽づくりができる。		
		8週	アンサンブル・ミニコンサート		自分らしさを表現した音楽づくりができる。		
	2ndQ	9週	鑑賞		古典から現代までの音楽を学ぶ。		
		10週	鑑賞		作曲家とその時代背景を学ぶ。		
		11週	鑑賞		音楽をより深く味わうことができる。		
		12週	課題実習・ミニコンサート		歌唱・器楽・創作から選択できる。		
		13週	課題実習・ミニコンサート		歌唱・器楽・創作から選択できる。		
		14週	課題実習・ミニコンサート		ミニコンサートで発表できる。		
		15週	課題実習・ミニコンサート		ミニコンサートで発表できる。		
		16週	まとめ		本授業のまとめ 授業アンケート		
モデルコアカリキュラムの学習内容と到達目標							
分類	分野	学習内容	学習内容の到達目標			到達レベル	授業週
評価割合							
	試験	発表	相互評価	態度	ポートフォリオ	その他	合計
総合評価割合	0	70	0	30	0	0	100
基礎的能力	0	70	0	30	0	0	100
専門的能力	0	0	0	0	0	0	0
分野横断的能力	0	0	0	0	0	0	0

秋田工業高等専門学校		開講年度	平成29年度 (2017年度)	授業科目	英語Ⅱ (2E)
科目基礎情報					
科目番号	0013		科目区分	一般 / 必修	
授業形態	授業		単位の種別と単位数	履修単位: 4	
開設学科	一般教科 (人文科学系)		対象学年	2	
開設期	通年		週時間数	4	
教科書/教材	教科書: 「Perspective English Communication Ⅱ」 第一学習社 問題集: 「Deep Listening Level 2」 日本英語検定協会 単語集: 「カラー版 TOEICテストにできる順英単語」 中経出版				
担当教員	黒木 暁人				
到達目標					
1. 英語の基本的なイントネーションやアクセントを聞き取り、理解し、音読することができる。 2. 中学校で既習の語彙を定着させるとともに、2600語程度の語彙を低学年において新たに習得できる。 3. 辞書や既習の英文法の知識に基づいて、英文を自分の力で理解することができる。 4. 難しくない状況を英語で話すことができる。 5. 難しくない状況を英語で書くことができる。					
ループリック					
	理想的な到達レベルの目安	標準的な到達レベルの目安	未到達レベルの目安		
評価項目1	英語の基本的なイントネーションやアクセントを正確に聞き取り、理解し、音読することができる。	英語の基本的なイントネーションやアクセントをおおむね聞き取り、理解し、音読することができる。	英語の基本的なイントネーションやアクセントを聞き取り、理解し、音読することができない。		
評価項目2	中学校で既習の語彙を定着させるとともに、2600語程度の語彙を低学年において新たに習得できる。	中学校で既習の語彙を定着させるとともに、2600語程度の語彙を低学年において新たにおおむね習得できる。	中学校で既習の語彙を定着させるとともに、2600語程度の語彙を低学年において新たに習得できない。		
評価項目3	辞書や既習の英文法の知識に基づいて、英文を自分の力で正確に理解することができる。	辞書や既習の英文法の知識に基づいて、英文を自分の力でおおむね理解することができる。	辞書や既習の英文法の知識に基づいて、英文を自分の力で理解することができない。		
学科の到達目標項目との関係					
教育方法等					
概要	基礎的な英語力の養成及び実用英語検定試験 (準2級) 程度の基本知識を身につける。				
授業の進め方・方法	演習形式 (予習として各自が取り組んだ課題を授業で確認する) で行う。必要に応じ適宜小テストを実施し、毎回課題 (予習) を課す。試験結果が合格点に達しない場合、再試験を行うことがある。				
注意点	【評価方法】 合格点は50点である。各中間・期末の成績は、試験結果70%、小テスト・演習課題・宿題20%、授業態度を10%で評価する。なお、英検の結果を評価に加える。課題の未提出者は単位取得が困難となるので注意すること。 学年総合成績 = (到達度試験 (前期末成績) 評価点 + 到達度試験 (学年末成績) 評価点) / 2 【認証評価関連科目】 英語Ⅰ, 英語Ⅲ, 英語LL演習, 英語会話, 総合英語Ⅰ, 総合英語Ⅱ, 上級英語 【学習上の注意】 (授業を受ける前) 辞書は座右に置くこと。予習・復習を積極的に行い、授業に参加すること。 (授業を受けた後) 試験により、各自で授業内容の理解度をチェックするとともに、確実に理解すること。				
授業計画					
	週	授業内容	週ごとの到達目標		
前期	1stQ	1週	授業ガイダンス	授業の進め方と評価の仕方について説明する。	
		2週	Lesson 1 A Hunger for Knowledge リスニング演習1	With...などが条件を表す仮定法について学ぶ。 リスニング対策 (説明文) を学ぶ。	
		3週	Lesson 1 A Hunger for Knowledge リスニング演習2	同格の that について学ぶ。 リスニング対策 (日常会話) を学ぶ。	
		4週	Lesson 2 Strike a Chord for Health リスニング演習3	未来完了形について学ぶ。 リスニング対策 (ストーリー) を学ぶ。	
		5週	Lesson 2 Strike a Chord for Health リスニング演習4	完了動名詞について学ぶ。 リスニング対策 (日常会話) を学ぶ。	
		6週	Lesson 2 Strike a Chord for Health リスニング演習5	上記について確認できる。 リスニング対策 (お知らせ) を学ぶ。	
		7週	到達度試験 (前期中間試験)	上記項目について学習した内容の理解度を確認する。	
		8週	試験の解説と解答	到達度試験の解説と解答	
	2ndQ	9週	Lesson 3 Eating Up the Sea? リスニング演習6	be to-不定詞について学ぶ。 リスニング対策 (日常会話) を学ぶ。	
		10週	Lesson 3 Eating Up the Sea? リスニング演習7	前置詞 + 関係代名詞について学ぶ。リスニング対策 (説明文) を学ぶ。	
		11週	Lesson 3 Eating Up the Sea? リスニング演習8	上記について確認できる。 リスニング対策 (日常会話) を学ぶ。	
		12週	Lesson 4 Taro's Suns Look Toward World Peace リスニング演習9	動名詞の意味上の主語について学ぶ。 リスニング対策 (説明文) を学ぶ。	
		13週	Lesson 4 Taro's Suns Look Toward World Peace リスニング演習10	動名詞 (受動態) について学ぶ。 リスニング対策 (日常会話) を学ぶ。	
		14週	Lesson 4 Taro's Suns Look Toward World Peace リスニング11	上記について確認できる。 リスニング対策 (説明文) を学ぶ。	
		15週	到達度試験 (前期末試験)	上記項目について学習した内容の理解度を確認する。	

		16週	試験の解説と解答	到達度試験の解説と解答, および授業アンケート
後期	3rdQ	1週	Lesson 5 Amazing Tool Users リスニング演習 1 2	仮定法を含む表現について学ぶ。 リスニング対策 (電話) を学ぶ。
		2週	Lesson5 Amazing Tool Users リスニング演習13	否定語+倒置について学ぶ。 リスニング対策 (独白) を学ぶ。
		3週	Lesson5 Amazing Tool Users リスニング演習14	上記について確認できる。 リスニング対策 (日常会話) を学ぶ。
		4週	Lesson 6 Haiti's Mother Teresa リスニング演習15	独立分詞構文について学ぶ。 リスニング対策 (番組) を学ぶ。
		5週	Lesson 6 Haiti's Mother Teresa リスニング演習16	複合関係詞について学ぶ。 リスニング対策 (日常会話) を学ぶ。
		6週	Lesson 6 Haiti's Mother Teresa リスニング演習17	上記について確認できる。 リスニング対策 (説明文) を学ぶ。
		7週	到達度試験 (後期中間試験)	上記項目について学習した内容の理解度を確認する。
		8週	試験の解説と解答	到達度試験の解説と解答
	4thQ	9週	Lesson 7 Machu Picchu -City in the Clouds リスニング演習18	完了形の分詞構文について学ぶ。リスニング対策 (日常会話) を学ぶ。
		10週	Lesson 7 Machu Picchu -City in the Clouds リスニング演習19	主語が条件を表す仮定法について学ぶ。 リスニング対策 (説明文) を学ぶ。
		11週	Lesson 7 Machu Picchu -City in the Clouds リスニング演習20	未知語を推測することについて学ぶ。 リスニング対策 (日常会話) を学ぶ。
		12週	Lesson 8 The Little Rock Nine リスニング演習 模擬テスト1	with+名詞+分詞について学ぶ。 リスニング対策 (センター試験) を学ぶ。
		13週	Lesson 8 The Little Rock Nine リスニング演習 模擬テスト2	仮定法現在について学ぶ。 リスニング対策 (センター試験) を学ぶ。
		14週	Lesson 8 The Little Rock Nine リスニング演習 模擬テスト3	上記について確認できる。 リスニング対策 (センター試験) を学ぶ。
		15週	到達度試験 (学年末試験)	上記項目について学習した内容の理解度を確認する。
		16週	試験の解説と解答	到達度試験の解説と解答, および授業アンケート

モデルコアカリキュラムの学習内容と到達目標

分類	分野	学習内容	学習内容の到達目標	到達レベル	授業週		
評価割合							
	試験	発表	相互評価	態度	ポートフォリオ	その他	合計
総合評価割合	70	0	0	10	0	20	100
基礎的能力	70	0	0	10	0	20	100
専門的能力	0	0	0	0	0	0	0
分野横断的能力	0	0	0	0	0	0	0

秋田工業高等専門学校		開講年度	平成29年度 (2017年度)	授業科目	英文法Ⅱ (2E)
科目基礎情報					
科目番号	0014		科目区分	一般 / 必修	
授業形態	授業		単位の種別と単位数	履修単位: 2	
開設学科	一般教科 (人文科学系)		対象学年	2	
開設期	通年		週時間数	2	
教科書/教材	Forest Extensive English Grammar in 47 Lessons (7th edition), 桐原書店				
担当教員	菅原 隆行, 大西 絵理香				
到達目標					
<p>1. 中学校で既習の文法や構文に加え、高等学校学習指導要領に準じた文法や構文を習得して適切に運用できる。</p> <p>2. 原級、比較級、最上級それぞれの用法、関係代名詞、関係副詞、複合関係詞それぞれの用法について理解することができる。</p> <p>3. 仮定法過去、仮定法過去完了の基本的な用法と構文、直接話法と間接話法の違いについて理解することができる。</p> <p>4. 英語の名詞、代名詞、形容詞、副詞、前置詞、接続詞それぞれの概念や用法について理解することができる。</p>					
ループリック					
		理想的な到達レベルの目安	標準的な到達レベルの目安	未到達レベルの目安	
評価項目1		原級、比較級、最上級の基本的な用法、関係代名詞、関係副詞、複合関係詞それぞれの用法について正確に理解できる。	原級、比較級、最上級の基本的な用法、関係代名詞、関係副詞、複合関係詞それぞれの用法をおおむね理解できる。	原級、比較級、最上級の基本的な用法、関係代名詞、関係副詞、複合関係詞それぞれの用法を理解できない。	
評価項目2		仮定法過去、仮定法過去完了の基本的な用法やさまざまな仮定法の構文、直接話法と間接話法の違いや用法について正確に理解できる。	仮定法過去、仮定法過去完了の基本的な用法やさまざまな仮定法の構文、直接話法と間接話法の違いや用法についておおむね理解できる。	仮定法過去、仮定法過去完了の基本的な用法やさまざまな仮定法の構文、直接話法と間接話法の違いや用法について理解できない。	
評価項目3		英語の名詞、代名詞、形容詞、副詞、前置詞、接続詞それぞれの概念や用法を正確に理解できる。	英語の名詞、代名詞、形容詞、副詞、前置詞、接続詞それぞれの概念や用法をおおむね理解できる。	英語の名詞、代名詞、形容詞、副詞、前置詞、接続詞それぞれの概念や用法について理解できない。	
学科の到達目標項目との関係					
教育方法等					
概要	1年次履修の「英文法Ⅰ」から継続して基礎英文法を学び、3年次以降の英語理解に応用できる力を養う。				
授業の進め方・方法	演習形式で行う。必要に応じて授業の演習課題と復習のノート提出を求める。試験結果が合格点に達しない場合、再試験を行うことがある。				
注意点	合格点は50点である。定期試験の結果を70%、授業の演習課題を10%、復習のノート提出の結果を20%の比率で評価する。 学年総合成績 = (前期中間成績 + 前期末成績 + 後期中間成績 + 学年末成績) / 4 英文法の高度な運用能力を身につけることを目標とし、積極的に授業に取り組むこと。予習・復習を欠かさず、辞書を常に活用すること。				
授業計画					
		週	授業内容	週ごとの到達目標	
前期	1stQ	1週	授業ガイダンス 第21章 比較(1)	授業の進め方と評価の仕方について説明する。 原級・比較級を用いた比較表現を学ぶ。	
		2週	第21章 比較(1) 第22章 比較(2)	原級・比較級を用いた比較表現を学ぶ。 最上級を用いた表現、原級を用いた応用表現を学ぶ。	
		3週	第22章 比較(2) 第23章 比較(3)	最上級を用いた表現、原級を用いた応用表現を学ぶ。	
		4週	第23章 比較(3)	その他の比較の慣用表現を学ぶ。	
		5週	第24章 関係詞(1)	関係代名詞の基本的な用法や先行詞との関係について学ぶ。	
		6週	第24章 関係詞(1) 第25章 関係詞(2)	前置詞を伴う関係代名詞、限定用法、継続用法を学ぶ。	
		7週	第25章 関係詞(2)	前置詞を伴う関係代名詞、限定用法、継続用法を学ぶ。	
		8週	到達度試験 (前期中間)	上記項目について学習した内容の理解度を確認する。	
	2ndQ	9週	試験の解説と解答 第26章 関係詞(3)	前期中間試験の解説と解答 関係副詞・複合関係詞の用法を学ぶ。	
		10週	第26章 関係詞(3)	関係副詞・複合関係詞の用法を学ぶ。	
		11週	第27章 関係詞(4)	「譲歩」を表す複合関係詞、関係代名詞のさまざまな用法などを学ぶ。	
		12週	第28章 仮定法(1)	仮定法過去、仮定法過去完了の基本的な用法を学ぶ。	
		13週	第29章 仮定法(2)	未来を表す仮定法や、as if~, I wish~を用いた構文について学ぶ。	
		14週	第30章 仮定法(3)	if節を用いない仮定法や仮定法を用いた慣用表現を学ぶ。	
		15週	到達度試験 (前期期末)	上記項目について学習した内容の理解度を確認する。	
		16週	試験の解説と解答	前期末試験の解説と解答、および授業アンケート	
後期	3rdQ	1週	第31章 疑問詞と疑問文	さまざまな疑問詞や疑問文について学ぶ。	
		2週	第32章 否定(1)	否定語の基本的な用法や準否定語などについて学ぶ。	
		3週	第33章 否定(2)	部分否定と全否定の違いや否定語を用いない否定表現などを学ぶ。	
		4週	第34章 話法	直接話法と間接話法の形や話法の転換を学ぶ。	
		5週	第35章 名詞構文・無生物主語	名詞構文と無生物主語について学ぶ。	

4thQ	6週	第36章 強調・倒置 第37章 挿入・省略・同格	強調や倒置の用法について学ぶ。 語句の挿入や省略、同格について学ぶ。
	7週	第38章 名詞 第39章 冠詞	可算名詞と不可算名詞の分類について学ぶ。 不定冠詞と定冠詞の用法について学ぶ。
	8週	到達度試験（後期中間）	上記項目について学習した内容の理解度を確認する。
	9週	試験の解説と解答 第40章 代名詞(1)	後期中間試験の解説と解答 人称代名詞、指示代名詞、不定代名詞、itの用法について学ぶ。
	10週	第41章 代名詞(2) 第42章 形容詞	形容詞の基本的な用法と数量形容詞について学ぶ。
	11週	第43章 副詞 第44章 前置詞(1)	副詞の基本的な用法と注意すべき用法を学ぶ。 主要な前置詞の用法を学ぶ。
	12週	第44章 前置詞(1) 第45章 前置詞(2)	その他の前置詞と群前置詞について学ぶ。
	13週	第45章 前置詞(2) 第46章 接続詞(1)	等位接続詞と従属接続詞の用法を学ぶ。
	14週	第47章 接続詞(2)	時、原因・理由、条件、譲歩などを表す接続詞について学ぶ。
	15週	到達度試験（学年末）	上記項目について学習した内容の理解度を確認する。
16週	試験の解説と解答	学年末試験の解説と解答、および授業アンケート	

モデルコアカリキュラムの学習内容と到達目標

分類	分野	学習内容	学習内容の到達目標	到達レベル	授業週
----	----	------	-----------	-------	-----

評価割合

	試験	発表	相互評価	態度	ポートフォリオ	その他	合計
総合評価割合	70	0	0	0	0	30	100
基礎的能力	60	0	0	0	0	20	80
専門的能力	10	0	0	0	0	10	20

秋田工業高等専門学校		開講年度	平成29年度 (2017年度)	授業科目	国語Ⅱ (2C)
科目基礎情報					
科目番号	0015	科目区分	一般 / 必修		
授業形態	授業	単位の種別と単位数	履修単位: 2		
開設学科	一般教科 (人文科学系)	対象学年	2		
開設期	通年	週時間数	2		
教科書/教材	教科書: 『改訂版ちくま評論入門』(筑摩書房) 辞書: 国語辞典・古語辞典(電子辞書も可) 補助教材: 『常用漢字の級別学習コンプリート 新装版』(京都書房) 『新版三訂カラー版新国語便覧』(第一学習社) その他: 自製プリントの配布				
担当教員	石塚 政吾, 橋本 博美				
到達目標					
1. 論理的な文章をよみ、論理の構成や展開の把握にもとづいて論旨を客観的に理解し、要約し、自分の意見を表すことができる。2. 代表的な文学作品をよみ、人物・情景・心情の描写ならびに描写意図などを理解して味わうとともに、その作品の面白さを他者に説明することができる。3. 俳句の創作を通して、文学的創作活動を体験するとともに、作品の鑑賞をすることができる。4. 代表的な古文をよみ、言葉や表現方法の特徴をふまえて人物・情景などを理解し、人間・社会・自然などについて考えを深めたり広げたりすることができる。5. 漢詩文についての文章をよみ、日本における漢詩文の位置づけの変遷を学ぶとともに、漢詩文の意義について意見を述べるすることができる。					
ルーブリック					
	理想的な到達レベルの目安	標準的な到達レベルの目安	未到達レベルの目安		
評価項目1	論理的な文章をよみ、論旨を客観的に理解し、要約し、自分の意見を表すことができる。	論理的な文章をよみ、論旨を客観的に理解し、要約することができる。	論理的な文章をよみ、論旨を客観的に理解し、要約することができない。		
評価項目2	代表的な文学作品をよみ、描写ならびに描写意図などを理解し、その作品の面白さを他者に説明することができる。	代表的な文学作品をよみ、描写ならびに描写意図などを理解することができる。	代表的な文学作品をよみ、描写ならびに描写意図などを理解することができない。		
評価項目3	俳句の創作をとおして、文学的創作活動を体験するとともに、作品の鑑賞をすることができる。	俳句の創作をすることができる。	俳句の創作をすることができない。		
学科の到達目標項目との関係					
教育方法等					
概要	論理的な文章や文学的な文章を読むことを通して、日本語の表現や思考方法を学び、自分の考えを他者に正確に伝えることが出来るようにする。				
授業の進め方・方法	講義形式で行う。適宜、小テストの実施、レポートや作品等の提出を求める。				
注意点	合格点は50点である。到達度試験(中間)と到達度試験(期末)の成績80%に、ファイル整理・授業態度など平素の成績を10%、漢字小テストの取り組みを10%として加え、評価する。総合評価=(前期末成績+後期末成績)÷2(講義を受ける前)教科書、副教材、国語辞典(必要に応じて古語辞典)を忘れずに準備し、該当箇所を通読(古文は予習)しておくこと。(講義を受けた後)言葉の意味やよみなどを確認をして基礎知識の定着をはかり、読んだ文章に対する自分の意見を考えてほしい。				
授業計画					
		週	授業内容	週ごとの到達目標	
前期	1stQ	1週	授業のガイダンス	授業の進め方と評価の仕方について説明する。	
		2週	評論「科学が宗教になる」	近代における科学と宗教の関係を理解し、それに対する自分の意見を述べるすることができる。	
		3週	同上	同上	
		4週	同上	同上	
		5週	創作と鑑賞「俳句」	俳句の作り方を学び、俳句を鑑賞することができる。	
		6週	同上	同上	
		7週	同上	同上	
		8週	到達度試験(前期中間)	上記項目について学習した内容の理解度を授業の中で確認する。	
	2ndQ	9週	到達度試験の解説と解答	到達度試験の解説と解答	
		10週	評論「ふたつの誤り」	「ふたつの誤り」の内容を理解した上で、科学的な研究のあり方について自分なりの考えを示すことができる。	
		11週	同上	同上	
		12週	同上	同上	
		13週	小説『蠅』	登場人物の描写から小説の構造を理解し、この作品の面白さを述べるすることができる。	
		14週	同上	同上	
		15週	到達度試験(前期末)	上記項目について学習した内容の理解度を確認する。	
		16週	到達度試験の解説と解答	到達度試験(前期末)の解説と解答、および授業アンケート	
後期	3rdQ	1週	評論「イノセンス」	近年の若者の行動と心理についての筆者の意見を理解し、それに対する自分の意見を述べるすることができる。	
		2週	同上	同上	
		3週	同上	同上	
		4週	古典「伊勢物語」	八三段・八五段をよみ、語りの構造と面白さが分かる。	
		5週	同上	同上	
		6週	同上	同上	
		7週	同上	同上	

4thQ	8週	到達度試験(後期中間)	上記項目について学習した内容の理解度を確認する。
	9週	到達度試験の解説と解答	到達度試験の解説と解答
	10週	古典「漢詩文世界の人々」	三国・晋・南北朝期の人物に関する文書を読み、漢詩文世界について理解を深めることができる。
	11週	同上	同上
	12週	評論「失明の時代」	近代技術と日本社会の構造について理解し、それに対する自分の意見を述べるができる。
	13週	同上	同上
	14週	同上	同上
	15週	到達度試験(後期末)	上記項目について学習した内容の理解度を確認する。
16週	到達度試験の解説と解答	到達度試験(後期末)の解説と解答、および授業アンケート	

モデルコアカリキュラムの学習内容と到達目標

分類	分野	学習内容	学習内容の到達目標	到達レベル	授業週		
評価割合							
	試験	小テスト	相互評価	態度	ポートフォリオ	その他	合計
総合評価割合	80	10	0	0	0	10	100
基礎的能力	80	10	0	0	0	10	100
専門的能力	0	0	0	0	0	0	0
分野横断的能力	0	0	0	0	0	0	0

秋田工業高等専門学校		開講年度	平成29年度 (2017年度)	授業科目	人類史 I (2C)
科目基礎情報					
科目番号	0017		科目区分	一般 / 必修	
授業形態	授業		単位の種別と単位数	履修単位: 2	
開設学科	一般教科 (人文科学系)		対象学年	2	
開設期	通年		週時間数	2	
教科書/教材	教科書:「新詳 世界史B」帝国書院 / 補助教科書:「グローバルワイド 最新世界史図表」				
担当教員	長井 栄二				
到達目標					
1. 古代地中海世界の概要がわかる。 2. 東アジア世界の歴史と日本の古代史の概要がわかる。 3. 中世のヨーロッパ世界とイスラーム世界の概要がわかる。 4. ユーラシアの歴史と日本の中世史の概要がわかる。					
ループリック					
		理想的な到達レベルの目安	標準的な到達レベルの目安	未到達レベルの目安	
評価項目1		古代地中海世界の特徴を、具体的に説明できる。	古代地中海世界の概要を説明できる。	古代地中海世界の概要を説明できない。	
評価項目2		東アジア世界の歴史と日本の古代史の関係を、具体的に説明できる。	東アジア世界の歴史と日本の古代史の概要を説明できる。	東アジア世界の歴史と日本の古代史の概要を説明できない。	
評価項目3		中世のヨーロッパ世界とイスラーム世界の関係を、具体的に説明できる。	中世のヨーロッパ世界とイスラーム世界の概要を説明できる。	中世のヨーロッパ世界とイスラーム世界の概要を説明できない。	
評価項目4		ユーラシアの歴史と日本の中世史の関係を、具体的に説明できる。	ユーラシアの歴史と日本の中世史の概要を説明できる。	ユーラシアの歴史と日本の中世史の概要を説明できない。	
学科の到達目標項目との関係					
教育方法等					
概要	世界の諸地域の成立史について、また特に東アジア世界の歴史と日本の古代・中世史とを関連づけて学ぶことによって、現代の国際社会の中で諸地域の文化を理解するために必要な基礎能力を身に付ける。				
授業の進め方・方法	授業形式。授業中には板書を書き出すだけでなく、口頭説明のメモをとること。必要に応じて適宜、小テストないしレポート課題を実施する。試験結果が合格点に達しない場合、再試験を行うことがある。				
注意点	合格点は50点である。前期・後期の成績は、それぞれの中間・期末の試験結果を70%、小テストないしレポートを15%、授業態度を15%で評価する。学年総合成績=(前期成績+後期成績)/2。 授業を受ける前: 日常的にテレビや新聞などのメディアで、日々のニュースに触れておくこと。 授業を受けた後: 授業中に出てきた分からない漢字や語句、地名を、指示されなくとも自らすすんで、辞書や地図で調べて確認しておくこと。この実直な作業は、後に本当の実力として大いに身になるものである。				
授業計画					
		週	授業内容	週ごとの到達目標	
前期	1stQ	1週	授業のガイダンス	授業の進め方と評価の仕方について説明する。	
		2週	オリエンタ文明	文明の出現について学ぶ。	
		3週	古代ギリシア	古代ギリシア政治について学ぶ。	
		4週	古代ローマ	古代ローマ社会とキリスト教について学ぶ。	
		5週	インダス文明	古代インド社会について学ぶ。	
		6週	南アジア世界	仏教の成立と広がりについて学ぶ。	
		7週	到達度試験 (前期中間)	上記項目について学習した内容の理解度を授業の中で確認する。	
		8週	試験の解説と解答	試験の解説と解答	
	2ndQ	9週	中国文明	儒教と秦帝国の成立について学ぶ。	
		10週	中央ユーラシア世界	中央ユーラシア社会の特徴について学ぶ。	
		11週	縄文・弥生文化	先史時代の日本について学ぶ。	
		12週	中華帝国	漢帝国の成立について学ぶ。	
		13週	東アジア世界	東アジアの冊封体制について学ぶ。	
		14週	邪馬台国	日本における国家形成について学ぶ。	
		15週	到達度試験 (前期末)	上記項目について学習した内容の理解度を授業の中で確認する。	
		16週	試験の解説と解答	試験の解説と解答、および授業アンケート	
後期	3rdQ	1週	東アジア世界の再編	隋唐帝国の成立について学ぶ。	
		2週	律令国家「日本」の樹立	日本の律令体制の成立について学ぶ。	
		3週	ヨーロッパ世界の成立	ヨーロッパ世界の成立について学ぶ。	
		4週	西ヨーロッパの中世社会	西ヨーロッパ中世社会の特徴について学ぶ。	
		5週	イスラーム世界の成立	イスラームの成立と広がりについて学ぶ。	
		6週	イスラームの社会	イスラーム社会の特徴について学ぶ。	
		7週	西ヨーロッパ社会の変容	身分制議会の成立について学ぶ。	
		8週	到達度試験 (後期中間)	上記項目について学習した内容の理解度を授業の中で確認する。	
	4thQ	9週	試験の解説と解答	試験の解説と解答	
		10週	中華秩序の動揺と鎌倉幕府の成立	日本の中世社会の成立について学ぶ。	

	11週	ユーラシアの一体化と危機	ユーラシア大交流圏の出現と東西の危機について学ぶ。
	12週	海洋アジア交易圏の繁栄	明帝国の成立と冊封体制の再編について学ぶ。
	13週	ユーラシアの大帝国群	ユーラシア諸帝国の成立について学ぶ。
	14週	室町時代の社会	日本の中世社会の動揺について学ぶ。
	15週	到達度試験（後期末）	上記項目について学習した内容の理解度を授業の中で確認する。
	16週	試験の解説と解答	試験の解説と解答、および授業アンケート

モデルコアカリキュラムの学習内容と到達目標

分類	分野	学習内容	学習内容の到達目標	到達レベル	授業週
----	----	------	-----------	-------	-----

評価割合

	到達度試験	小テストないしレポート	授業態度	合計
総合評価割合	70	15	15	100
知識の基本的な理解	50	15	0	65
思考・表現	20	0	0	20
態度（人間力）	0	0	15	15

秋田工業高等専門学校		開講年度	平成29年度 (2017年度)	授業科目	芸術Ⅱ (美術) (2C)
科目基礎情報					
科目番号	0018		科目区分	一般 / 選択	
授業形態	演習		単位の種別と単位数	履修単位: 1	
開設学科	一般教科 (人文科学系)		対象学年	2	
開設期	前期		週時間数	2	
教科書/教材	教科書: 『美術1』 光村図書				
担当教員	小林 真, 有馬 寛子				
到達目標					
1. 創造的な表現の構想を練りながら意図に応じた表現方法を工夫すること。 2. 創造活動を通して日本や諸外国の美術文化について理解できるようになること。					
ルーブリック					
	理想的な到達レベルの目安	標準的な到達レベルの目安	未到達レベルの目安		
評価項目1	創造的な表現の構想を練りながら意図に応じた表現方法を工夫することが十分にできる。	創造的な表現の構想を練りながら意図に応じた表現方法を工夫することがある程度できる。	創造的な表現の構想を練りながら意図に応じた表現方法を工夫することができない。		
評価項目2	創造活動を通して日本や諸外国の美術文化について十分に理解できる。	創造活動を通して日本や諸外国の美術文化についてある程度理解できる。	創造活動を通して日本や諸外国の美術文化について理解できない。		
評価項目3					
学科の到達目標項目との関係					
教育方法等					
概要	創造的表現活動および知識や鑑賞の学習を通して、美術を愛好する心情を育む。				
授業の進め方・方法	個人、全体と学習する内容に合わせた形態で行う。必要に応じて、適宜、課題、小レポートを課す。表現活動においては、授業目標達成のため、でき得る限り個別指導に重点を置く。				
注意点	合格点は50点以上とする。 作品を60%、ノート提出等を40%として、評価する。 特に作品の未提出者は単位取得が困難となるので注意すること。 用具の準備・取り扱い・片付けと保管を確実にし、授業に臨むこと。				
授業計画					
		週	授業内容	週ごとの到達目標	
前期	1stQ	1週	授業ガイダンス	授業の進め方と評価の仕方について理解する。	
		2週	1 油彩「自画像」 (1) 表現の構想とデッサン (鏡、鉛筆、スケッチブック)	各自が自身の心情を基に色や形について構想できる。構想に沿って鉛筆デッサンができる。	
		3週	(1) 表現の構想とデッサン (鏡、鉛筆、スケッチブック)	各自が自身の心情を基に色や形について構想できる。構想に沿って鉛筆デッサンができる。	
		4週	(2) 油絵具着彩 (6号キャンバス)	構想、デッサンをもとに油彩画を描ける。	
		5週	(2) 油絵具着彩 (6号キャンバス)	構想、デッサンをもとに油彩画を描ける。	
		6週	(2) 油絵具着彩 (6号キャンバス)	構想、デッサンをもとに油彩画を描ける。	
		7週	(2) 油絵具着彩 (6号キャンバス)	構想、デッサンをもとに油彩画を描ける。	
		8週	(2) 油絵具着彩 (6号キャンバス)	構想、デッサンをもとに油彩画を描ける。	
	2ndQ	9週	(3) 鑑賞・合評会	完成した自他の作品を鑑賞し合うことができる。	
		10週	2 立体表現 (1) 構想とデッサン	体験を基に、想像を展開させ、自由な表現で創作能力を養うことができる。	
		11週	(1) 構想とデッサン	体験を基に、想像を展開させ、自由な表現で創作能力を養うことができる。	
		12週	(2) 立体造形	体験を基に、想像を展開させ、自由な表現で創作能力を養うことができる。	
		13週	(2) 立体造形	体験を基に、想像を展開させ、自由な表現で創作能力を養うことができる。	
		14週	(2) 立体造形	体験を基に、想像を展開させ、自由な表現で創作能力を養うことができる。	
		15週	(2) 立体造形	体験を基に、想像を展開させ、自由な表現で創作能力を養うことができる。	
		16週	(3) 鑑賞・合評会 (4) まとめ、授業アンケート	完成した自他の作品を鑑賞し合うことができる。 本授業のまとめ	
モデルコアカリキュラムの学習内容と到達目標					
分類	分野	学習内容	学習内容の到達目標	到達レベル	授業週
評価割合					
	作品	ノート提出	相互評価	態度	合計
総合評価割合	50	30	10	10	100
基礎的能力	20	10	10	10	50
専門的能力	30	15	0	0	45
分野横断的能力	0	5	0	0	5

秋田工業高等専門学校		開講年度	平成29年度 (2017年度)		授業科目	芸術Ⅱ (音楽) (2C)	
科目基礎情報							
科目番号	0019		科目区分	一般 / 選択			
授業形態	演習		単位の種別と単位数	履修単位: 1			
開設学科	一般教科 (人文科学系)		対象学年	2			
開設期	前期		週時間数	2			
教科書/教材	教科書: 『MOUSA I』 小原光一 教育芸術社						
担当教員	小林 真, 廣田 俊介						
到達目標							
1. さまざまな表現の機会を通して自分らしさを表現することができるようになること。							
ルーブリック							
	理想的な到達レベルの目安		標準的な到達レベルの目安		未到達レベルの目安		
評価項目1	アンサンブル (歌唱・器楽) 活動をする中で、自分 (達) らしさを表現した音楽づくりが十分にできる。		アンサンブル (歌唱・器楽) 活動をする中で、自分 (達) らしさを表現した音楽づくりがある程度できる。		アンサンブル (歌唱・器楽) 活動をする中で、自分 (達) らしさを表現した音楽づくりができない。		
評価項目2							
評価項目3							
学科の到達目標項目との関係							
教育方法等							
概要	創造的表現活動および鑑賞を通して、音楽を愛好する心情を育てる。						
授業の進め方・方法	個人、小グループ、全体とさまざまな学習形態で、自分らしさを主張しながら創造的表現ができるようになることに重点を置いて進める。						
注意点	[評価方法] ミニコンサート70%、学習カードと普通の学習態度など30%、として評価する。 [認証評価関連科目] 芸術Ⅰ (音楽) [学習上の注意] アルトリコーダーと教科書、筆記用具は常備すること。						
授業計画							
		週	授業内容		週ごとの到達目標		
前期	1stQ	1週	授業ガイダンス		授業の進め方と評価の仕方について説明する。		
		2週	自己表現		幅広いジャンルの音楽がわかる。		
		3週	自己表現		幅広いジャンルの音楽がわかる。		
		4週	自己表現		創造的に自己表現ができる。		
		5週	自己表現		創造的に自己表現ができる。		
		6週	アンサンブル・ミニコンサート		自分らしさを表現した音楽づくりができる。		
		7週	アンサンブル・ミニコンサート		自分らしさを表現した音楽づくりができる。		
		8週	アンサンブル・ミニコンサート		自分らしさを表現した音楽づくりができる。		
	2ndQ	9週	鑑賞		古典から現代までの音楽を学ぶ。		
		10週	鑑賞		作曲家とその時代背景を学ぶ。		
		11週	鑑賞		音楽をより深く味わうことができる。		
		12週	課題実習・ミニコンサート		歌唱・器楽・創作から選択できる。		
		13週	課題実習・ミニコンサート		歌唱・器楽・創作から選択できる。		
		14週	課題実習・ミニコンサート		ミニコンサートで発表できる。		
		15週	課題実習・ミニコンサート		ミニコンサートで発表できる。		
		16週	まとめ		本授業のまとめ 授業アンケート		
モデルコアカリキュラムの学習内容と到達目標							
分類	分野	学習内容	学習内容の到達目標			到達レベル	授業週
評価割合							
	試験	発表	相互評価	態度	ポートフォリオ	その他	合計
総合評価割合	0	70	0	30	0	0	100
基礎的能力	0	70	0	30	0	0	100
専門的能力	0	0	0	0	0	0	0
分野横断的能力	0	0	0	0	0	0	0

秋田工業高等専門学校		開講年度	平成29年度 (2017年度)	授業科目	英語Ⅱ (2C)
科目基礎情報					
科目番号	0020		科目区分	一般 / 必修	
授業形態	授業		単位の種別と単位数	履修単位: 4	
開設学科	一般教科 (人文科学系)		対象学年	2	
開設期	通年		週時間数	4	
教科書/教材	Perspective (第一学習社), Speaking in Public (成美堂). 副教材として英検の問題、大学入試過去問題、自作のプリントを使用する。参考図書: 『英語耳』松澤喜好著, 『英語舌のつくり方』野中泉著, 『世界一わかりやすい英語の発音』関正生著.				
担当教員	杉浦 克哉				
到達目標					
<p>1. 英検準2級レベルの英文を限られた時間内に正確に読み理解できる。</p> <p>2. リスニング力を向上させる。どのような訓練をすれば、聞き取りが難解な箇所でも聞き取れるようになるかを知り、自分で訓練できる。</p> <p>3. 英検準2級のリスニング問題で常に8割以上、そしてセンター試験のリスニング問題で常に7割以上の得点を取ることができる。</p> <p>4. 英検準2級のリスニング問題で常に8割以上の得点を取ることができる。</p> <p>5. 自分の考えを50語から100語程度の英語で的確かつ論理的に表現することができる。文法や語法上のミスが無く、説得力があり独創的な英文を作ることができる。</p> <p>6. 自分の考えを英語で口頭により伝え、他の学生にそれを理解させる努力ができる。</p> <p>7. 身近なことを平易な表現を用いてすぐに表現できる。</p> <p>8. 英検準2級、または2級に合格するために必要な語彙力、読解力、リスニング力、文法知識を習得する。</p>					
ループリック					
	理想的な到達レベルの目安	標準的な到達レベルの目安	未到達レベルの目安		
評価項目1	英検準2級レベルの英文を、辞書を使わずに読み内容を正確に理解できる。内容を問う問題に正確に答えることができる。	英検準2級レベルの英文を、辞書を使えば時間はかかるものの内容を正確に理解して読むことができる。内容を問う問題に正確に答えることができる。	英検準2級レベルの英文を、辞書を使えば時間はかかるものの内容の一部を理解して読むことができる。内容を問う問題に5割程度の確率で正解できる。		
評価項目2	授業で学んだ聞き取りの訓練を毎日行っている。英検準2級のリスニング問題で常に8割以上の得点を取ることができる。センター試験のリスニング問題で常に7割以上の得点を取ることができる。	授業で学んだ聞き取りの訓練を毎日行っている。英検準2級のリスニング問題で常に7割以上の得点を取ることができる。センター試験のリスニング問題で常に6割以上の得点を取ることができる。	授業で学んだ聞き取りの訓練を時々行うだけである。英検準2級のリスニング問題の正解率が常に7割未満である。センター試験のリスニング問題の正解率が6割未満である。		
評価項目3	文法や語法上のミスが無いだけでなく、説得力があり独創性のある内容の自由英作文を作ることができる。副詞や助動詞が適切に使われ豊富な語彙で英文が表される。	文法や語法上のミスが無いだけでなく、説得力があり独創性のある内容の自由英作文を作ることができる。	自由英作文を作成する際、文法や語法上のミスが多い。内容に説得力、独創性がない。		
評価項目4	自分の考えを英語で口頭により伝える際、聞き手が理解しているかどうかを確かめながら話すことができる。聞き手にとって理解が難しい箇所は、繰り返し言ったり、別の言葉で言い換えたりして、聞き手に理解させる努力ができる。	自分の考えを英語で口頭により伝える際、聞き手が理解しているかどうかを確かめながら話すことができる。	自分の考えを英語で口頭により伝える際、声が小さく、そして読めない語があるために時々詰まってしまう。聞き手に十分な配慮をすることなく、単に原稿を読むだけである。		
評価項目5	語彙力を問うクイズを解いたとき全体の9割以上を正解できる。	語彙力を問うクイズを解いたとき全体の8割以上を正解できる。	語彙力を問うクイズを解いたとき正解率が全体の8割未満である。		
学科の到達目標項目との関係					
教育方法等					
概要	この授業の目標は学生が総合的な英語力を向上させることと、全員が英検準2級に合格すること、またはそれに相当する英語力をつけることである。さらに10人以上の学生が英検2級に合格することも目指す。総合的な英語力を向上させるために、発音練習、語彙力を増やすための読解、クイズ(小テスト)、口頭発表、英作文、リスニング、読解、英会話等を行う。英検については次の3つを学生が習慣的にこなせるようにすることで目標を達成する。1. 語彙力を増やすために、知識や理解があいまいな語や句、構文を全て正確に理解し暗記する。2. リスニングで聞き取りにくい箇所は何度も繰り返し聞き、CDと同時に英語を発する訓練をする。3. 限られた時間内に所定の問題数を解く訓練をする。学生が英語に触れる機会を増やすため授業の大部分は英語で行われる。文法の説明や読解は日本語で行うことがある。また学生は原則として英語で話さなければならない。授業の大部分を英語で行うのは英検対策も兼ねている。				
授業の進め方・方法	1週間に2回ある授業のうちの片方では、発音練習、クイズ(小テスト)、口頭発表、[リスニング、読解、英作文、英会話]を行う。[]で囲まれた部分は教科書Perspectiveを用いて行う。Crossword、Q & A等のプリントにより教科書を進める。授業2回で1つのLessonを終えることを目安とするが、進み方は変わる場合がある。もう一方の授業では、発音練習、クイズ(小テスト)、口頭発表、[リスニング、読解、英作文、英会話]、語彙力を増やすための読解を行う。[]で囲まれた部分は教科書Speaking in Publicを用いて行う。授業2回で1つのUnitを終えることを目安とするが、進み方は変わる場合がある。語彙力を増やすための読解はPerspectiveのLesson 9, 10, Reading 1, 2、英検の問題や大学入試過去問題を用いる。その他の活動は自作のプリントにより行う。口頭発表については、予めテーマ・問題を与えるので、自分の考えを50語から100語程度の英語で用意しそれを発表する。文法や語法上のミスが無く、説得力があり独創的な英文を書くことに努めなければならない。また聞き手に聞こえるように、そして伝わるように話さなければならない。学生が復習しやすいように音声のみの動画を活用することがある。グループ活動を行う場合、学生による相互評価を行うことがある。授業では発展的な内容を扱うことがある。クイズや定期試験では応用問題を出す場合がある。授業の進め方は変更される場合がある。予習として発表原稿の作成、発音練習、クイズ対策、口頭発表の練習、英作文の作成、教科書の理解をしてもらうこと。不明な語句は必ず全て辞書で調べ教科書やノート等にメモすること。復習として重要事項の暗記や聞き取りの練習をすること。必要に応じて音声のみの動画を視聴し授業内容を確かめること。				
注意点	眠り続けている学生へは単位を出さない場合がある。提出物や小レポート・エッセイの作成において剽窃や盗用があった場合、単位を出さない場合がある。【評価方法】合格点は50点である。中間試験、期末試験以外にクイズ(小テスト)、レポート(提出物)、口頭発表も評価に加わる。小テストとしてリスニングの試験も行う。グループ活動を行う場合、学生による相互評価を行うことがあるがこれも評価に加わる。また、定期試験では試験に出る問題は事前に伝えられない。また、以下に示す評価割合は変更する場合がある。				
授業計画					
	週	授業内容		週ごとの到達目標	

前期	1stQ	1週	授業の進め方と評価の仕方を説明する。 発音練習、クイズ(小テスト)、口頭発表、「リスニング、読解、自由英作文、英会話」、語彙力を増やすための読解()の部分はその日の授業で進められるところまで行い、次回の授業でその続きを行う。第2回目以降の授業は定期試験、試験返却を除き、全てこれと同じなので以下では省略。)、Perspective Lesson 1、Speaking in Public Unit 1	上記の「到達目標」「評価(ルーブリック)」に従う。第2回目以降の授業は全てこれと同じなので以下では省略。
		2週	Perspective Lesson 1、Speaking in Public Unit 1	
		3週	Perspective Lesson 1、Speaking in Public Unit 1	
		4週	Perspective Lesson 2、Speaking in Public Unit 2	
		5週	Perspective Lesson 2、Speaking in Public Unit 2	
		6週	Perspective Lesson 2、Speaking in Public Unit 2	
		7週	到達度試験(前期中間)	
		8週	試験の解説、Perspective Lesson 3、Speaking in Public Unit 3	
	2ndQ	9週	Perspective Lesson 3、Speaking in Public Unit 3	
		10週	Perspective Lesson 3、Speaking in Public Unit 3	
		11週	Perspective Lesson 4、Speaking in Public Unit 4	
		12週	Perspective Lesson 4、Speaking in Public Unit 4	
		13週	Perspective Lesson 4、Speaking in Public Unit 4	
		14週	Perspective Lesson 5、Speaking in Public Unit 5	
		15週	Perspective Lesson 5、Speaking in Public Unit 5	
		16週	到達度試験(前期期末)	
後期	3rdQ	1週	Perspective Lesson 5、Speaking in Public Unit 5	
		2週	Perspective Lesson 6、Speaking in Public Unit 6	
		3週	Perspective Lesson 6、Speaking in Public Unit 6	
		4週	Perspective Lesson 6、Speaking in Public Unit 6	
		5週	Perspective Lesson 7、Speaking in Public Unit 7	
		6週	Perspective Lesson 7、Speaking in Public Unit 7	
		7週	到達度試験(後期中間)	
		8週	Perspective Lesson 7、Speaking in Public Unit 7	
	4thQ	9週	Perspective Lesson 8、Speaking in Public Unit 8	
		10週	Perspective Lesson 8、Speaking in Public Unit 8	
		11週	Perspective Lesson 8、Speaking in Public Unit 8	
		12週	Perspective Lesson 9、Speaking in Public Unit 9	
		13週	Perspective Lesson 9、Speaking in Public Unit 9	
		14週	Perspective Lesson 9、Speaking in Public Unit 9	
		15週	Perspective Lesson 10、Speaking in Public Unit 10	
		16週	到達度試験(後期末)	

モデルコアカリキュラムの学習内容と到達目標

分類	分野	学習内容	学習内容の到達目標	到達レベル	授業週
----	----	------	-----------	-------	-----

評価割合

	試験	発表	小テスト	レポート	その他	合計
総合評価割合	50	5	20	5	20	100
基礎的能力	30	5	20	5	20	80
専門的能力	0	0	0	0	0	0
分野横断的能力	20	0	0	0	0	20

秋田工業高等専門学校		開講年度	平成29年度 (2017年度)	授業科目	英文法Ⅱ (2C)
科目基礎情報					
科目番号	0021		科目区分	一般 / 必修	
授業形態	授業		単位の種別と単位数	履修単位: 2	
開設学科	一般教科 (人文科学系)		対象学年	2	
開設期	通年		週時間数	2	
教科書/教材	Forest Extensive English Grammar in 47 Lessons (7th edition), 桐原書店				
担当教員	菅原 隆行, 藤盛 節子				
到達目標					
<ol style="list-style-type: none"> 1. 中学校で既習の文法や構文に加え、高等学校学習指導要領に準じた文法や構文を習得して適切に運用できる。 2. 原級、比較級、最上級それぞれの用法、関係代名詞、関係副詞、複合関係詞それぞれの用法について理解することで、表現力や長い文の理解力を高める。 3. 仮定法過去、仮定法過去完了の基本的な用法と構文、直接話法と間接話法の違いについて理解することができる。 4. 英語の名詞、代名詞、形容詞、副詞、前置詞、接続詞それぞれの概念や用法について理解することができる。 					
ループリック					
		理想的な到達レベルの目安	標準的な到達レベルの目安	未到達レベルの目安	
評価項目1		原級、比較級、最上級の基本的な用法、関係代名詞、関係副詞、複合関係詞それぞれの用法について正確に理解できる。	原級、比較級、最上級の基本的な用法、関係代名詞、関係副詞、複合関係詞それぞれの用法をおおむね理解できる。	原級、比較級、最上級の基本的な用法、関係代名詞、関係副詞、複合関係詞それぞれの用法を理解できない。	
評価項目2		仮定法過去、仮定法過去完了の基本的な用法やさまざまな仮定法の構文、直接話法と間接話法の違いや用法について正確に理解できる。	仮定法過去、仮定法過去完了の基本的な用法やさまざまな仮定法の構文、直接話法と間接話法の違いや用法についておおむね理解できる。	仮定法過去、仮定法過去完了の基本的な用法やさまざまな仮定法の構文、直接話法と間接話法の違いや用法について理解できない。	
評価項目3		英語の名詞、代名詞、形容詞、副詞、前置詞、接続詞それぞれの概念や用法を正確に理解できる。	英語の名詞、代名詞、形容詞、副詞、前置詞、接続詞それぞれの概念や用法をおおむね理解できる。	英語の名詞、代名詞、形容詞、副詞、前置詞、接続詞それぞれの概念や用法について理解できない。	
学科の到達目標項目との関係					
教育方法等					
概要	1年次履修の「英文法Ⅰ」から継続して基礎英文法を学び、3年次以降の英語理解に応用できる力を養う。				
授業の進め方・方法	演習形式で行う。必要に応じて授業の演習課題と復習のノート提出を求める。試験結果が合格点に達しない場合、再試験を行うことがある。				
注意点	合格点は50点である。定期試験の結果を70%、授業中の小テスト、ノート・課題提出の結果等を30%の比率で評価する。 学年総合成績 = (前期中間成績 + 前期末成績 + 後期中間成績 + 学年末成績) / 4 英文法の高度な運用能力を身につけることを目標とし、積極的に授業に取り組むこと。予習・復習を欠かさず、辞書を常に活用すること。				
授業計画					
		週	授業内容	週ごとの到達目標	
前期	1stQ	1週	授業ガイダンス 第21章 比較(1)	授業の進め方と評価の仕方について説明する。原級・比較級を用いた比較表現を学ぶ。	
		2週	第21章 比較(1) 第22章 比較(2)	原級・比較級を用いた比較表現を学ぶ。最上級を用いた表現、原級を用いた応用表現を学ぶ。	
		3週	第22章 比較(2) 第23章 比較(3)	最上級を用いた表現、原級を用いた応用表現を学ぶ。	
		4週	第23章 比較(3)	その他の比較の慣用表現を学ぶ。	
		5週	第24章 関係詞(1)	関係代名詞の基本的な用法や先行詞との関係について学ぶ。	
		6週	第24章 関係詞(1) 第25章 関係詞(2)	前置詞を伴う関係代名詞、限定用法、継続用法を学ぶ。	
		7週	第25章 関係詞(2)	前置詞を伴う関係代名詞、限定用法、継続用法を学ぶ。	
		8週	到達度試験 (前期中間)	上記項目について学習した内容の理解度を確認する。	
	2ndQ	9週	試験の解説と解答 第26章 関係詞(3)	前期中間試験の解説と解答 関係副詞・複合関係詞の用法を学ぶ。	
		10週	第26章 関係詞(3)	関係副詞・複合関係詞の用法を学ぶ。	
		11週	第27章 関係詞(4)	「譲歩」を表す複合関係詞、関係代名詞のさまざまな用法などを学ぶ。	
		12週	第28章 仮定法(1)	仮定法過去、仮定法過去完了の基本的な用法を学ぶ。	
		13週	第29章 仮定法(2)	未来を表す仮定法や、as if~, I wish~を用いた構文について学ぶ。	
		14週	第30章 仮定法(3)	if節を用いない仮定法や仮定法を用いた慣用表現を学ぶ。	
		15週	到達度試験 (前期期末)	上記項目について学習した内容の理解度を確認する。	
		16週	試験の解説と解答	前期末試験の解説と解答、および授業アンケート	
後期	3rdQ	1週	第31章 疑問詞と疑問文	さまざまな疑問詞や疑問文について学ぶ。	
		2週	第32章 否定(1)	否定語の基本的な用法や準否定語などについて学ぶ。	
		3週	第33章 否定(2)	部分否定と全否定の違いや否定語を用いない否定表現などを学ぶ。	
		4週	第34章 話法	直接話法と間接話法の形や話法の転換を学ぶ。	
		5週	第35章 名詞構文・無生物主語	名詞構文と無生物主語について学ぶ。	

4thQ	6週	第36章 強調・倒置 第37章 挿入・省略・同格	強調や倒置の用法について学ぶ。 語句の挿入や省略、同格について学ぶ。
	7週	第38章 名詞 第39章 冠詞	可算名詞と不可算名詞の分類について学ぶ。 不定冠詞と定冠詞の用法について学ぶ。
	8週	到達度試験（後期中間）	上記項目について学習した内容の理解度を確認する。
	9週	試験の解説と解答 第40章 代名詞(1)	後期中間試験の解説と解答 人称代名詞、指示代名詞、不定代名詞、itの用法について学ぶ。
	10週	第41章 代名詞(2) 第42章 形容詞	形容詞の基本的な用法と数量形容詞について学ぶ。
	11週	第43章 副詞 第44章 前置詞(1)	副詞の基本的な用法と注意すべき用法を学ぶ。 主要な前置詞の用法を学ぶ。
	12週	第44章 前置詞(1) 第45章 前置詞(2)	その他の前置詞と群前置詞について学ぶ。
	13週	第45章 前置詞(2) 第46章 接続詞(1)	等位接続詞と従属接続詞の用法を学ぶ。
	14週	第47章 接続詞(2)	時、原因・理由、条件、譲歩などを表す接続詞について学ぶ。
	15週	到達度試験（学年末）	上記項目について学習した内容の理解度を確認する。
16週	試験の解説と解答	学年末試験の解説と解答、および授業アンケート	

モデルコアカリキュラムの学習内容と到達目標

分類	分野	学習内容	学習内容の到達目標	到達レベル	授業週
----	----	------	-----------	-------	-----

評価割合

	試験	発表	相互評価	態度	ポートフォリオ	その他	合計
総合評価割合	70	0	0	0	0	30	100
基礎的能力	60	0	0	0	0	20	80
専門的能力	10	0	0	0	0	10	20

秋田工業高等専門学校		開講年度	平成29年度 (2017年度)	授業科目	国語Ⅱ (2B)
科目基礎情報					
科目番号	0022	科目区分	一般 / 必修		
授業形態	授業	単位の種別と単位数	履修単位: 2		
開設学科	一般教科 (人文科学系)	対象学年	2		
開設期	通年	週時間数	2		
教科書/教材	教科書: 『改訂版ちくま評論入門』(筑摩書房) 辞書: 国語辞典・古語辞典(電子辞書も可) 補助教材: 『常用漢字の級別学習コンプリート 新装版』(京都書房) 『新版三訂カラー版新国語便覧』(第一学習社) その他: 自製プリントの配布				
担当教員	岩田 久美加				
到達目標					
1. 論理的な文章をよみ、論理の構成や展開の把握にもとづいて論旨を客観的に理解し、要約し、自分の意見を表すことができる。2. 代表的な文学作品をよみ、人物・情景・心情の描写ならびに描写意図などを理解して味わうとともに、その作品の面白さを他者に説明することができる。3. 俳句の創作を通して、文学的創作活動を体験するとともに、作品の鑑賞をすることができる。4. 代表的な古文をよみ、言葉や表現方法の特徴をふまえて人物・情景などを理解し、人間・社会・自然などについて考えを深めたり広げたりすることができる。5. 漢詩文についての文章をよみ、日本における漢詩文の位置づけの変遷を学ぶとともに、漢詩文の意義について意見を述べるすることができる。					
ルーブリック					
	理想的な到達レベルの目安	標準的な到達レベルの目安	未到達レベルの目安		
評価項目1	論理的な文章をよみ、論旨を客観的に理解し、要約し、自分の意見を表すことができる。	論理的な文章をよみ、論旨を客観的に理解し、要約することができる。	論理的な文章をよみ、論旨を客観的に理解し、要約することができない。		
評価項目2	代表的な文学作品をよみ、描写ならびに描写意図などを理解し、その作品の面白さを他者に説明することができる。	代表的な文学作品をよみ、描写ならびに描写意図などを理解することができる。	代表的な文学作品をよみ、描写ならびに描写意図などを理解することができない。		
評価項目3	俳句の創作をとおして、文学的創作活動を体験するとともに、作品の鑑賞をすることができる。	俳句の創作をすることができる。	俳句の創作をすることができない。		
学科の到達目標項目との関係					
教育方法等					
概要	論理的な文章や文学的な文章をよむことを通して、日本語の表現や思考方法を学び、自分の考えを他者に正確に伝えることが出来るようにする。				
授業の進め方・方法	講義形式で行う。適宜、小テストの実施、レポートや作品等の提出を求める。				
注意点	合格点は50点である。到達度試験(中間)と到達度試験(期末)の成績80%に、ファイル整理・授業態度など平素の成績を10%、漢字小テストの取り組みを10%として加え、評価する。総合評価=(前期末成績+後期末成績)÷2(講義を受ける前)教科書、副教材、国語辞典(必要に応じて古語辞典)を忘れずに準備し、該当箇所を通読(古文は予習)しておくこと。(講義を受けた後)言葉の意味やよみなどを確認をして基礎知識の定着をはかり、読んだ文章に対する自分の意見を考えてほしい。				
授業計画					
		週	授業内容	週ごとの到達目標	
前期	1stQ	1週	授業のガイダンス	授業の進め方と評価の仕方について説明する。	
		2週	評論「科学が宗教になる」	近代における科学と宗教の関係を理解し、それに対する自分の意見を述べるすることができる。	
		3週	同上	同上	
		4週	同上	同上	
		5週	創作と鑑賞「俳句」	俳句の作り方を学び、俳句を鑑賞することができる。	
		6週	同上	同上	
		7週	同上	同上	
		8週	到達度試験(前期中間)	上記項目について学習した内容の理解度を授業の中で確認する。	
	2ndQ	9週	到達度試験の解説と解答	到達度試験の解説と解答	
		10週	評論「ふたつの誤り」	「ふたつの誤り」の内容を理解した上で、科学的な研究のあり方について自分なりの考えを示すことができる。	
		11週	同上	同上	
		12週	同上	同上	
		13週	小説『蠅』	登場人物の描写から小説の構造を理解し、この作品の面白さを述べるすることができる。	
		14週	同上	同上	
		15週	到達度試験(前期末)	上記項目について学習した内容の理解度を確認する。	
		16週	到達度試験の解説と解答	到達度試験(前期末)の解説と解答、および授業アンケート	
後期	3rdQ	1週	評論「イノセンス」	近年の若者の行動と心理についての筆者の意見を理解し、それに対する自分の意見を述べるすることができる。	
		2週	同上	同上	
		3週	同上	同上	
		4週	古典「伊勢物語」	八三段・八五段をよみ、語りの構造と面白さが分かる。	
		5週	同上	同上	
		6週	同上	同上	
		7週	同上	同上	

4thQ	8週	到達度試験(後期中間)	上記項目について学習した内容の理解度を確認する。
	9週	到達度試験の解説と解答	到達度試験の解説と解答
	10週	古典「漢詩文世界の人々」	三国・晋・南北朝期の人物に関する文書を読み、漢詩文世界について理解を深めることができる。
	11週	同上	同上
	12週	評論「失明の時代」	近代技術と日本社会の構造について理解し、それに対する自分の意見を述べるができる。
	13週	同上	同上
	14週	同上	同上
	15週	到達度試験(後期末)	上記項目について学習した内容の理解度を確認する。
16週	到達度試験の解説と解答	到達度試験(後期末)の解説と解答、および授業アンケート	

モデルコアカリキュラムの学習内容と到達目標

分類	分野	学習内容	学習内容の到達目標	到達レベル	授業週
----	----	------	-----------	-------	-----

評価割合

	試験	小テスト	相互評価	態度	ポートフォリオ	その他	合計
総合評価割合	0	0	0	0	0	0	0
基礎的能力	80	10	0	0	0	10	0
専門的能力	0	0	0	0	0	0	0
分野横断的能力	0	0	0	0	0	0	0

秋田工業高等専門学校		開講年度	平成29年度 (2017年度)	授業科目	人類史 I (2B)
科目基礎情報					
科目番号	0024		科目区分	一般 / 必修	
授業形態	授業		単位の種別と単位数	履修単位: 2	
開設学科	一般教科 (人文科学系)		対象学年	2	
開設期	通年		週時間数	2	
教科書/教材	教科書:「新詳 世界史B」帝国書院 / 補助教科書:「グローバルワイド 最新世界史図表」				
担当教員	長井 栄二				
到達目標					
1. 古代地中海世界の概要がわかる。 2. 東アジア世界の歴史と日本の古代史の概要がわかる。 3. 中世のヨーロッパ世界とイスラーム世界の概要がわかる。 4. ユーラシアの歴史と日本の中世史の概要がわかる。					
ループリック					
		理想的な到達レベルの目安	標準的な到達レベルの目安	未到達レベルの目安	
評価項目1		古代地中海世界の特徴を、具体的に説明できる。	古代地中海世界の概要を説明できる。	古代地中海世界の概要を説明できない。	
評価項目2		東アジア世界の歴史と日本の古代史の関係を、具体的に説明できる。	東アジア世界の歴史と日本の古代史の概要を説明できる。	東アジア世界の歴史と日本の古代史の概要を説明できない。	
評価項目3		中世のヨーロッパ世界とイスラーム世界の関係を、具体的に説明できる。	中世のヨーロッパ世界とイスラーム世界の概要を説明できる。	中世のヨーロッパ世界とイスラーム世界の概要を説明できない。	
評価項目4		ユーラシアの歴史と日本の中世史の関係を、具体的に説明できる。	ユーラシアの歴史と日本の中世史の概要を説明できる。	ユーラシアの歴史と日本の中世史の概要を説明できない。	
学科の到達目標項目との関係					
教育方法等					
概要	世界の諸地域の成立史について、また特に東アジア世界の歴史と日本の古代・中世史とを関連づけて学ぶことによって、現代の国際社会の中で諸地域の文化を理解するために必要な基礎能力を身に付ける。				
授業の進め方・方法	授業形式。授業中には板書を書き出すだけでなく、口頭説明のメモをとること。必要に応じて適宜、小テストないしレポート課題を実施する。試験結果が合格点に達しない場合、再試験を行うことがある。				
注意点	合格点は50点である。前期・後期の成績は、それぞれの中間・期末の試験結果を70%、小テストないしレポートを15%、授業態度を15%で評価する。学年総合成績=(前期成績+後期成績)/2。 授業を受ける前:日常的にテレビや新聞などのメディアで、日々のニュースに触れておくこと。 授業を受けた後:授業中に出てきた分からない漢字や語句、地名を、指示されなくとも自らすすんで、辞書や地図で調べて確認しておくこと。この実直な作業は、後に本当の実力として大いに身になるものである。				
授業計画					
		週	授業内容	週ごとの到達目標	
前期	1stQ	1週	授業のガイダンス	授業の進め方と評価の仕方について説明する。	
		2週	オリエンタ文明	文明の出現について学ぶ。	
		3週	古代ギリシア	古代ギリシア政治について学ぶ。	
		4週	古代ローマ	古代ローマ社会とキリスト教について学ぶ。	
		5週	インダス文明	古代インド社会について学ぶ。	
		6週	南アジア世界	仏教の成立と広がりについて学ぶ。	
		7週	到達度試験 (前期中間)	上記項目について学習した内容の理解度を授業の中で確認する。	
		8週	試験の解説と解答	試験の解説と解答	
	2ndQ	9週	中国文明	儒教と秦帝国の成立について学ぶ。	
		10週	中央ユーラシア世界	中央ユーラシア社会の特徴について学ぶ。	
		11週	縄文・弥生文化	先史時代の日本について学ぶ。	
		12週	中華帝国	漢帝国の成立について学ぶ。	
		13週	東アジア世界	東アジアの冊封体制について学ぶ。	
		14週	邪馬台国	日本における国家形成について学ぶ。	
		15週	到達度試験 (前期末)	上記項目について学習した内容の理解度を授業の中で確認する。	
		16週	試験の解説と解答	試験の解説と解答、および授業アンケート	
後期	3rdQ	1週	東アジア世界の再編	隋唐帝国の成立について学ぶ。	
		2週	律令国家「日本」の樹立	日本の律令体制の成立について学ぶ。	
		3週	ヨーロッパ世界の成立	ヨーロッパ世界の成立について学ぶ。	
		4週	西ヨーロッパの中世社会	西ヨーロッパ中世社会の特徴について学ぶ。	
		5週	イスラーム世界の成立	イスラームの成立と広がりについて学ぶ。	
		6週	イスラームの社会	イスラーム社会の特徴について学ぶ。	
		7週	西ヨーロッパ社会の変容	身分制議会の成立について学ぶ。	
		8週	到達度試験 (後期中間)	上記項目について学習した内容の理解度を授業の中で確認する。	
	4thQ	9週	試験の解説と解答	試験の解説と解答	
		10週	中華秩序の動揺と鎌倉幕府の成立	日本の中世社会の成立について学ぶ。	

	11週	ユーラシアの一体化と危機	ユーラシア大交流圏の出現と東西の危機について学ぶ。
	12週	海洋アジア交易圏の繁栄	明帝国の成立と冊封体制の再編について学ぶ。
	13週	ユーラシアの大帝国群	ユーラシア諸帝国の成立について学ぶ。
	14週	室町時代の社会	日本の中世社会の動揺について学ぶ。
	15週	到達度試験（後期末）	上記項目について学習した内容の理解度を授業の中で確認する。
	16週	試験の解説と解答	試験の解説と解答、および授業アンケート

モデルコアカリキュラムの学習内容と到達目標

分類	分野	学習内容	学習内容の到達目標	到達レベル	授業週
----	----	------	-----------	-------	-----

評価割合

	到達度試験	小テストないしレポート	授業態度	合計
総合評価割合	70	15	15	100
知識の基本的な理解	50	15	0	65
思考・表現	20	0	0	20
態度（人間力）	0	0	15	15

秋田工業高等専門学校		開講年度	平成29年度 (2017年度)	授業科目	芸術Ⅱ (美術) (2B)
科目基礎情報					
科目番号	0025		科目区分	一般 / 選択	
授業形態	演習		単位の種別と単位数	履修単位: 1	
開設学科	一般教科 (人文科学系)		対象学年	2	
開設期	前期		週時間数	2	
教科書/教材	教科書: 『美術1』 光村図書				
担当教員	小林 真, 有馬 寛子				
到達目標					
1. 創造的な表現の構想を練りながら意図に応じた表現方法を工夫すること。 2. 創造活動を通して日本や諸外国の美術文化について理解できるようになること。					
ルーブリック					
	理想的な到達レベルの目安	標準的な到達レベルの目安	未到達レベルの目安		
評価項目1	創造的な表現の構想を練りながら意図に応じた表現方法を工夫することが十分にできる。	創造的な表現の構想を練りながら意図に応じた表現方法を工夫することがある程度できる。	創造的な表現の構想を練りながら意図に応じた表現方法を工夫することができない。		
評価項目2	創造活動を通して日本や諸外国の美術文化について十分に理解できる。	創造活動を通して日本や諸外国の美術文化についてある程度理解できる。	創造活動を通して日本や諸外国の美術文化について理解できない。		
評価項目3					
学科の到達目標項目との関係					
教育方法等					
概要	創造的表現活動および知識や鑑賞の学習を通して、美術を愛好する心情を育む。				
授業の進め方・方法	個人、全体と学習する内容に合わせた形態で行う。必要に応じて、適宜、課題、小レポートを課す。表現活動においては、授業目標達成のため、でき得る限り個別指導に重点を置く。				
注意点	合格点は50点以上とする。 作品を60%、ノート提出等を40%として、評価する。 特に作品の未提出者は単位取得が困難となるので注意すること。 用具の準備・取り扱い・片付けと保管を確実にし、授業に臨むこと。				
授業計画					
		週	授業内容	週ごとの到達目標	
前期	1stQ	1週	授業ガイダンス	授業の進め方と評価の仕方について理解する。	
		2週	1 油彩「自画像」 (1) 表現の構想とデッサン (鏡、鉛筆、スケッチブック)	各自が自身の心情を基に色や形について構想できる。構想に沿って鉛筆デッサンができる。	
		3週	(1) 表現の構想とデッサン (鏡、鉛筆、スケッチブック)	各自が自身の心情を基に色や形について構想できる。構想に沿って鉛筆デッサンができる。	
		4週	(2) 油絵具着彩 (6号キャンパス)	構想、デッサンをもとに油彩画を描ける。	
		5週	(2) 油絵具着彩 (6号キャンパス)	構想、デッサンをもとに油彩画を描ける。	
		6週	(2) 油絵具着彩 (6号キャンパス)	構想、デッサンをもとに油彩画を描ける。	
		7週	(2) 油絵具着彩 (6号キャンパス)	構想、デッサンをもとに油彩画を描ける。	
		8週	(2) 油絵具着彩 (6号キャンパス)	構想、デッサンをもとに油彩画を描ける。	
	2ndQ	9週	(3) 鑑賞・合評会	完成した自他の作品を鑑賞し合うことができる。	
		10週	2 立体表現 (1) 構想とデッサン	体験を基に、想像を展開させ、自由な表現で創作能力を養うことができる。	
		11週	(1) 構想とデッサン	体験を基に、想像を展開させ、自由な表現で創作能力を養うことができる。	
		12週	(2) 立体造形	体験を基に、想像を展開させ、自由な表現で創作能力を養うことができる。	
		13週	(2) 立体造形	体験を基に、想像を展開させ、自由な表現で創作能力を養うことができる。	
		14週	(2) 立体造形	体験を基に、想像を展開させ、自由な表現で創作能力を養うことができる。	
		15週	(2) 立体造形	体験を基に、想像を展開させ、自由な表現で創作能力を養うことができる。	
		16週	(3) 鑑賞・合評会 (4) まとめ、授業アンケート	完成した自他の作品を鑑賞し合うことができる。 本授業のまとめ	
モデルコアカリキュラムの学習内容と到達目標					
分類	分野	学習内容	学習内容の到達目標	到達レベル	授業週
評価割合					
	作品	ノート提出	相互評価	態度	合計
総合評価割合	50	30	10	10	100
基礎的能力	20	10	10	10	50
専門的能力	30	15	0	0	45
分野横断的能力	0	5	0	0	5

秋田工業高等専門学校		開講年度	平成29年度 (2017年度)		授業科目	芸術Ⅱ (音楽) (2B)	
科目基礎情報							
科目番号	0026		科目区分	一般 / 選択			
授業形態	演習		単位の種別と単位数	履修単位: 1			
開設学科	一般教科 (人文科学系)		対象学年	2			
開設期	前期		週時間数	2			
教科書/教材	教科書: 『MOUSA I』 小原光一 教育芸術社						
担当教員	小林 真, 廣田 俊介						
到達目標							
1. さまざまな表現の機会を通して自分らしさを表現することができるようになること。							
ルーブリック							
	理想的な到達レベルの目安		標準的な到達レベルの目安		未到達レベルの目安		
評価項目1	アンサンブル (歌唱・器楽) 活動をする中で、自分 (達) らしさを表現した音楽づくりが十分にできる。		アンサンブル (歌唱・器楽) 活動をする中で、自分 (達) らしさを表現した音楽づくりがある程度できる。		アンサンブル (歌唱・器楽) 活動をする中で、自分 (達) らしさを表現した音楽づくりができない。		
評価項目2							
評価項目3							
学科の到達目標項目との関係							
教育方法等							
概要	創造的表現活動および鑑賞を通して、音楽を愛好する心情を育てる。						
授業の進め方・方法	個人、小グループ、全体とさまざまな学習形態で、自分らしさを主張しながら創造的表現ができるようになることに重点を置いて進める。						
注意点	[評価方法] ミニコンサート70%、学習カードと普通の学習態度など30%、として評価する。 [認証評価関連科目] 芸術Ⅰ (音楽) [学習上の注意] アルトリコーダーと教科書、筆記用具は常備すること。						
授業計画							
		週	授業内容		週ごとの到達目標		
前期	1stQ	1週	授業ガイダンス		授業の進め方と評価の仕方について説明する。		
		2週	自己表現		幅広いジャンルの音楽がわかる。		
		3週	自己表現		幅広いジャンルの音楽がわかる。		
		4週	自己表現		創造的に自己表現ができる。		
		5週	自己表現		創造的に自己表現ができる。		
		6週	アンサンブル・ミニコンサート		自分らしさを表現した音楽づくりができる。		
		7週	アンサンブル・ミニコンサート		自分らしさを表現した音楽づくりができる。		
		8週	アンサンブル・ミニコンサート		自分らしさを表現した音楽づくりができる。		
	2ndQ	9週	鑑賞		古典から現代までの音楽を学ぶ。		
		10週	鑑賞		作曲家とその時代背景を学ぶ。		
		11週	鑑賞		音楽をより深く味わうことができる。		
		12週	課題実習・ミニコンサート		歌唱・器楽・創作から選択できる。		
		13週	課題実習・ミニコンサート		歌唱・器楽・創作から選択できる。		
		14週	課題実習・ミニコンサート		ミニコンサートで発表できる。		
		15週	課題実習・ミニコンサート		ミニコンサートで発表できる。		
		16週	まとめ		本授業のまとめ 授業アンケート		
モデルコアカリキュラムの学習内容と到達目標							
分類	分野	学習内容	学習内容の到達目標			到達レベル	授業週
評価割合							
	試験	発表	相互評価	態度	ポートフォリオ	その他	合計
総合評価割合	0	70	0	30	0	0	100
基礎的能力	0	70	0	30	0	0	100
専門的能力	0	0	0	0	0	0	0
分野横断的能力	0	0	0	0	0	0	0

秋田工業高等専門学校		開講年度	平成29年度 (2017年度)	授業科目	英語Ⅱ (2B)
科目基礎情報					
科目番号	0027		科目区分	一般 / 必修	
授業形態	授業		単位の種別と単位数	履修単位: 4	
開設学科	一般教科 (人文科学系)		対象学年	2	
開設期	通年		週時間数	4	
教科書/教材	Perspective (第一学習社), Speaking in Public (成美堂). 副教材として英検の問題、大学入試過去問題、自作のプリントを使用する。参考図書: 『英語耳』松澤喜好著, 『英語舌のつくり方』野中泉著, 『世界一わかりやすい英語の発音』関正生著.				
担当教員	杉浦 克哉				
到達目標					
<p>1. 英検準2級レベルの英文を限られた時間内に正確に読み理解できる。</p> <p>2. リスニング力を向上させる。どのような訓練をすれば、聞き取りが難解な箇所でも聞き取れるようになるかを知り、自分で訓練できる。</p> <p>3. 英検準2級のリスニング問題で常に8割以上、そしてセンター試験のリスニング問題で常に7割以上の得点を取ることができる。</p> <p>4. 英検準2級のリスニング問題で常に8割以上の得点を取ることができる。センター試験のリスニング問題で常に7割以上の得点を取ることができる。</p> <p>5. 自分の考えを50語から100語程度の英語で的確かつ論理的に表現することができる。文法や語法上のミスが無いだけでなく、説得力があり独創的な英文を作ることができる。</p> <p>6. 自分の考えを英語で口頭により伝え、他の学生にそれを理解させる努力ができる。</p> <p>7. 身近なことを平易な表現を用いてすぐに表現できる。</p> <p>8. 英検準2級、または2級に合格するために必要な語彙力、読解力、リスニング力、文法知識を習得する。</p>					
ループリック					
	理想的な到達レベルの目安		標準的な到達レベルの目安		未到達レベルの目安
評価項目1	英検準2級レベルの英文を、辞書を使わずに読み内容を正確に理解できる。内容を問う問題に正確に答えることができる。		英検準2級レベルの英文を、辞書を使えば時間はかかるものの内容を正確に理解して読むことができる。内容を問う問題に正確に答えることができる。		英検準2級レベルの英文を、辞書を使えば時間はかかるものの内容の一部を理解して読むことができる。内容を問う問題に5割程度の確率で正解できる。
評価項目2	授業で学んだ聞き取りの訓練を毎日行っている。英検準2級のリスニング問題で常に8割以上の得点を取ることができる。センター試験のリスニング問題で常に7割以上の得点を取ることができる。		授業で学んだ聞き取りの訓練を毎日行っている。英検準2級のリスニング問題で常に7割以上の得点を取ることができる。センター試験のリスニング問題で常に6割以上の得点を取ることができる。		授業で学んだ聞き取りの訓練を時々行うだけである。英検準2級のリスニング問題の正解率が常に7割未満である。センター試験のリスニング問題の正解率が6割未満である。
評価項目3	文法や語法上のミスが無いだけでなく、説得力があり独創性のある内容の自由英作文を作ることができる。副詞や助動詞が適切に使われ豊富な語彙で英文が表される。		文法や語法上のミスが無いだけでなく、説得力があり独創性のある内容の自由英作文を作ることができる。		自由英作文を作成する際、文法や語法上のミスが多い。内容に説得力、独創性がない。
評価項目4	自分の考えを英語で口頭により伝える際、聞き手が理解しているかどうかを確かめながら話すことができる。聞き手にとって理解が難しい箇所は、繰り返し言ったり、別の言葉で言い換えたりして、聞き手に理解させる努力ができる。		自分の考えを英語で口頭により伝える際、聞き手が理解しているかどうかを確かめながら話すことができる。		自分の考えを英語で口頭により伝える際、声が小さく、そして読めない語があるために時々詰まってしまう。聞き手に十分な配慮をすることなく、単に原稿を読むだけである。
評価項目5	語彙力を問うクイズを解いたとき全体の9割以上を正解できる。		語彙力を問うクイズを解いたとき全体の8割以上を正解できる。		語彙力を問うクイズを解いたとき正解率が全体の8割未満である。
学科の到達目標項目との関係					
教育方法等					
概要	この授業の目標は学生が総合的な英語力を向上させることと、全員が英検準2級に合格すること、またはそれに相当する英語力をつけることである。さらに10人以上の学生が英検2級に合格することも目指す。総合的な英語力を向上させるために、発音練習、語彙力を増やすための読解、クイズ(小テスト)、口頭発表、英作文、リスニング、読解、英会話等を行う。英検については次の3つを学生が習慣的にこなせるようにすることで目標を達成する。1. 語彙力を増やすために、知識や理解があいまいな語や句、構文を全て正確に理解し暗記する。2. リスニングで聞き取りにくい箇所は何度も繰り返し聞き、CDと同時に英語を発する訓練をする。3. 限られた時間内に所定の問題数を解く訓練をする。学生が英語に触れる機会を増やすため授業の大部分は英語で行われる。文法の説明や読解は日本語で行うことがある。また学生は原則として英語で話さなければならない。授業の大部分を英語で行うのは英検対策も兼ねている。				
授業の進め方・方法	1週間に2回ある授業のうちの片方では、発音練習、クイズ(小テスト)、口頭発表、[リスニング、読解、英作文、英会話]を行う。[]で囲まれた部分は教科書Perspectiveを用いて行う。Crossword、Q & A等のプリントにより教科書を進める。授業2回で1つのLessonを終えることを目安とするが、進み方は変わる場合がある。もう一方の授業では、発音練習、クイズ(小テスト)、口頭発表、[リスニング、読解、英作文、英会話]、語彙力を増やすための読解を行う。[]で囲まれた部分は教科書Speaking in Publicを用いて行う。授業2回で1つのUnitを終えることを目安とするが、進み方は変わる場合がある。語彙力を増やすための読解はPerspectiveのLesson 9, 10, Reading 1, 2、英検の問題や大学入試過去問題を用いる。その他の活動は自作のプリントにより行う。口頭発表については、予めテーマ・問題を与えるので、自分の考えを50語から100語程度の英語で用意しそれを発表する。文法や語法上のミスが無いだけでなく、説得力があり独創的な英文を書くことに努めなければならない。また聞き手に聞こえるように、そして伝わるように話さなければならない。学生が復習しやすいように音声のみの動画を活用することがある。グループ活動を行う場合、学生による相互評価を行うことがある。授業では発展的な内容を扱うことがある。クイズや定期試験では応用問題を出す場合がある。授業の進め方は変更される場合がある。予習として発表原稿の作成、発音練習、クイズ対策、口頭発表の練習、英作文の作成、教科書の理解をしてもらうこと。不明な語句は必ず全て辞書で調べ教科書やノート等にメモすること。復習として重要事項の暗記や聞き取りの練習をすること。必要に応じて音声のみの動画を視聴し授業内容を確かめること。				
注意点	眠り続けている学生へは単位を出さない場合がある。提出物や小レポート・エッセイの作成において剽窃や盗用があった場合、単位を出さない場合がある。【評価方法】合格点は50点である。中間試験、期末試験以外にクイズ(小テスト)、レポート(提出物)、口頭発表も評価に加わる。小テストとしてリスニングの試験も行う。グループ活動を行う場合、学生による相互評価を行うことがあるがこれも評価に加わる。また、定期試験では試験に出る問題は事前に伝えられない。また、以下に示す評価割合は変更する場合がある。				
授業計画					
	週	授業内容		週ごとの到達目標	

前期	1stQ	1週	授業の進め方と評価の仕方を説明する。 発音練習、クイズ(小テスト)、口頭発表、「リスニング、読解、自由英作文、英会話」、語彙力を増やすための読解()の部分はその日の授業で進められるところまで行い、次回の授業でその続きを行う。第2回目以降の授業は定期試験、試験返却を除き、全てこれと同じなので以下では省略。)、Perspective Lesson 1、Speaking in Public Unit 1	上記の「到達目標」「評価(ルーブリック)」に従う。第2回目以降の授業は全てこれと同じなので以下では省略。
		2週	Perspective Lesson 1、Speaking in Public Unit 1	
		3週	Perspective Lesson 1、Speaking in Public Unit 1	
		4週	Perspective Lesson 2、Speaking in Public Unit 2	
		5週	Perspective Lesson 2、Speaking in Public Unit 2	
		6週	Perspective Lesson 2、Speaking in Public Unit 2	
		7週	到達度試験(前期中間)	
		8週	試験の解説、Perspective Lesson 3、Speaking in Public Unit 3	
	2ndQ	9週	Perspective Lesson 3、Speaking in Public Unit 3	
		10週	Perspective Lesson 3、Speaking in Public Unit 3	
		11週	Perspective Lesson 4、Speaking in Public Unit 4	
		12週	Perspective Lesson 4、Speaking in Public Unit 4	
		13週	Perspective Lesson 4、Speaking in Public Unit 4	
		14週	Perspective Lesson 5、Speaking in Public Unit 5	
		15週	Perspective Lesson 5、Speaking in Public Unit 5	
		16週	到達度試験(前期期末)	
後期	3rdQ	1週	Perspective Lesson 5、Speaking in Public Unit 5	
		2週	Perspective Lesson 6、Speaking in Public Unit 6	
		3週	Perspective Lesson 6、Speaking in Public Unit 6	
		4週	Perspective Lesson 6、Speaking in Public Unit 6	
		5週	Perspective Lesson 7、Speaking in Public Unit 7	
		6週	Perspective Lesson 7、Speaking in Public Unit 7	
		7週	到達度試験(後期中間)	
		8週	Perspective Lesson 7、Speaking in Public Unit 7	
	4thQ	9週	Perspective Lesson 8、Speaking in Public Unit 8	
		10週	Perspective Lesson 8、Speaking in Public Unit 8	
		11週	Perspective Lesson 8、Speaking in Public Unit 8	
		12週	Perspective Lesson 9、Speaking in Public Unit 9	
		13週	Perspective Lesson 9、Speaking in Public Unit 9	
		14週	Perspective Lesson 9、Speaking in Public Unit 9	
		15週	Perspective Lesson 10、Speaking in Public Unit 10	
		16週	到達度試験(後期期末)	

モデルコアカリキュラムの学習内容と到達目標

分類	分野	学習内容	学習内容の到達目標	到達レベル	授業週
----	----	------	-----------	-------	-----

評価割合

	試験	発表	小テスト	レポート	その他	合計
総合評価割合	50	5	20	5	20	100
基礎的能力	30	5	20	5	20	80
専門的能力	0	0	0	0	0	0
分野横断的能力	20	0	0	0	0	20

秋田工業高等専門学校		開講年度	平成29年度 (2017年度)	授業科目	英文法Ⅱ (2B)
科目基礎情報					
科目番号	0028		科目区分	一般 / 必修	
授業形態	授業		単位の種別と単位数	履修単位: 2	
開設学科	一般教科 (人文科学系)		対象学年	2	
開設期	通年		週時間数	2	
教科書/教材	Forest Extensive English Grammar in 47 Lessons (7th edition), 桐原書店				
担当教員	菅原 隆行, 大西 絵理香				
到達目標					
<p>1. 中学校で既習の文法や構文に加え、高等学校学習指導要領に準じた文法や構文を習得して適切に運用できる。</p> <p>2. 原級、比較級、最上級それぞれの用法、関係代名詞、関係副詞、複合関係詞それぞれの用法について理解することができる。</p> <p>3. 仮定法過去、仮定法過去完了の基本的な用法と構文、直接話法と間接話法の違いについて理解することができる。</p> <p>4. 英語の名詞、代名詞、形容詞、副詞、前置詞、接続詞それぞれの概念や用法について理解することができる。</p>					
ループリック					
		理想的な到達レベルの目安	標準的な到達レベルの目安	未到達レベルの目安	
評価項目1		原級、比較級、最上級の基本的な用法、関係代名詞、関係副詞、複合関係詞それぞれの用法について正確に理解できる。	原級、比較級、最上級の基本的な用法、関係代名詞、関係副詞、複合関係詞それぞれの用法をおおむね理解できる。	原級、比較級、最上級の基本的な用法、関係代名詞、関係副詞、複合関係詞それぞれの用法を理解できない。	
評価項目2		仮定法過去、仮定法過去完了の基本的な用法やさまざまな仮定法の構文、直接話法と間接話法の違いや用法について正確に理解できる。	仮定法過去、仮定法過去完了の基本的な用法やさまざまな仮定法の構文、直接話法と間接話法の違いや用法についておおむね理解できる。	仮定法過去、仮定法過去完了の基本的な用法やさまざまな仮定法の構文、直接話法と間接話法の違いや用法について理解できない。	
評価項目3		英語の名詞、代名詞、形容詞、副詞、前置詞、接続詞それぞれの概念や用法を正確に理解できる。	英語の名詞、代名詞、形容詞、副詞、前置詞、接続詞それぞれの概念や用法をおおむね理解できる。	英語の名詞、代名詞、形容詞、副詞、前置詞、接続詞それぞれの概念や用法について理解できない。	
学科の到達目標項目との関係					
教育方法等					
概要	1年次履修の「英文法Ⅰ」から継続して基礎英文法を学び、3年次以降の英語理解に応用できる力を養う。				
授業の進め方・方法	演習形式で行う。必要に応じて授業の演習課題と復習のノート提出を求める。試験結果が合格点に達しない場合、再試験を行うことがある。				
注意点	合格点は50点である。定期試験の結果を70%、授業の演習課題を10%、復習のノート提出の結果を20%の比率で評価する。 学年総合成績 = (前期中間成績 + 前期末成績 + 後期中間成績 + 学年末成績) / 4 英文法の高度な運用能力を身につけることを目標とし、積極的に授業に取り組むこと。予習・復習を欠かさず、辞書を常に活用すること。				
授業計画					
		週	授業内容	週ごとの到達目標	
前期	1stQ	1週	授業ガイダンス 第21章 比較(1)	授業の進め方と評価の仕方について説明する。 原級・比較級を用いた比較表現を学ぶ。	
		2週	第21章 比較(1) 第22章 比較(2)	原級・比較級を用いた比較表現を学ぶ。 最上級を用いた表現、原級を用いた応用表現を学ぶ。	
		3週	第22章 比較(2) 第23章 比較(3)	最上級を用いた表現、原級を用いた応用表現を学ぶ。	
		4週	第23章 比較(3)	その他の比較の慣用表現を学ぶ。	
		5週	第24章 関係詞(1)	関係代名詞の基本的な用法や先行詞との関係について学ぶ。	
		6週	第24章 関係詞(1) 第25章 関係詞(2)	前置詞を伴う関係代名詞、限定用法、継続用法を学ぶ。	
		7週	第25章 関係詞(2)	前置詞を伴う関係代名詞、限定用法、継続用法を学ぶ。	
		8週	到達度試験 (前期中間)	上記項目について学習した内容の理解度を確認する。	
	2ndQ	9週	試験の解説と解答 第26章 関係詞(3)	前期中間試験の解説と解答 関係副詞・複合関係詞の用法を学ぶ。	
		10週	第26章 関係詞(3)	関係副詞・複合関係詞の用法を学ぶ。	
		11週	第27章 関係詞(4)	「譲歩」を表す複合関係詞、関係代名詞のさまざまな用法などを学ぶ。	
		12週	第28章 仮定法(1)	仮定法過去、仮定法過去完了の基本的な用法を学ぶ。	
		13週	第29章 仮定法(2)	未来を表す仮定法や、as if~, I wish~を用いた構文について学ぶ。	
		14週	第30章 仮定法(3)	if節を用いない仮定法や仮定法を用いた慣用表現を学ぶ。	
		15週	到達度試験 (前期期末)	上記項目について学習した内容の理解度を確認する。	
		16週	試験の解説と解答	前期末試験の解説と解答、および授業アンケート	
後期	3rdQ	1週	第31章 疑問詞と疑問文	さまざまな疑問詞や疑問文について学ぶ。	
		2週	第32章 否定(1)	否定語の基本的な用法や準否定語などについて学ぶ。	
		3週	第33章 否定(2)	部分否定と全否定の違いや否定語を用いない否定表現などを学ぶ。	
		4週	第34章 話法	直接話法と間接話法の形や話法の転換を学ぶ。	
		5週	第35章 名詞構文・無生物主語	名詞構文と無生物主語について学ぶ。	

4thQ	6週	第36章 強調・倒置 第37章 挿入・省略・同格	強調や倒置の用法について学ぶ。 語句の挿入や省略、同格について学ぶ。
	7週	第38章 名詞 第39章 冠詞	可算名詞と不可算名詞の分類について学ぶ。 不定冠詞と定冠詞の用法について学ぶ。
	8週	到達度試験（後期中間）	上記項目について学習した内容の理解度を確認する。
	9週	試験の解説と解答 第40章 代名詞(1)	後期中間試験の解説と解答 人称代名詞、指示代名詞、不定代名詞、itの用法について学ぶ。
	10週	第41章 代名詞(2) 第42章 形容詞	形容詞の基本的な用法と数量形容詞について学ぶ。
	11週	第43章 副詞 第44章 前置詞(1)	副詞の基本的な用法と注意すべき用法を学ぶ。 主要な前置詞の用法を学ぶ。
	12週	第44章 前置詞(1) 第45章 前置詞(2)	その他の前置詞と群前置詞について学ぶ。
	13週	第45章 前置詞(2) 第46章 接続詞(1)	等位接続詞と従属接続詞の用法を学ぶ。
	14週	第47章 接続詞(2)	時、原因・理由、条件、譲歩などを表す接続詞について学ぶ。
	15週	到達度試験（学年末）	上記項目について学習した内容の理解度を確認する。
16週	試験の解説と解答	学年末試験の解説と解答、および授業アンケート	

モデルコアカリキュラムの学習内容と到達目標

分類	分野	学習内容	学習内容の到達目標	到達レベル	授業週
----	----	------	-----------	-------	-----

評価割合

	試験	発表	相互評価	態度	ポートフォリオ	その他	合計
総合評価割合	70	0	0	0	0	30	100
基礎的能力	60	0	0	0	0	20	80
専門的能力	10	0	0	0	0	10	20

秋田工業高等専門学校		開講年度	平成29年度 (2017年度)	授業科目	国語Ⅲ (3M)
科目基礎情報					
科目番号	0001		科目区分	一般 / 必修	
授業形態	授業		単位の種別と単位数	履修単位: 2	
開設学科	一般教科 (人文科学系)		対象学年	3	
開設期	通年		週時間数	2	
教科書/教材	『ちくま評論入門』改訂版 (筑摩書房) 『ちくま小説入門』 (筑摩書房) 国語辞典 (電子辞書も可) 『クリアカラー 国語便覧』 (数研出版) 『ステップアップ 日本語講座 中級』 (東京書籍)				
担当教員	照井 一美				
到達目標					
1. 論理的文章の読解を通して、要旨や筆者の主張を把握し、自分なりに考えることができる。 2. 文学的文章の読解を通して、想像力や感じ取る力を磨き、心情を豊かにすることができる。 3. 俳句の創作を通して、文学的創作活動を体験するとともに、作品を鑑賞することができる。 4. 現代社会で求められるコミュニケーション能力を、正確かつ豊かに駆使することができる。					
ルーブリック					
	理想的な到達レベルの目安	標準的な到達レベルの目安	未到達レベルの目安		
評価項目1	論理的文章を読み、論旨を的確に理解し、要約し、自分の意見を説得力豊かにまとめることができる。	論理的文章を読み、論旨を理解し、要約し、自分の意見をまとめることができる。	論理的文章を読み、論旨を理解し、要約し、自分の意見をまとめることができない。		
評価項目2	文学的文章を読み、優れた表現に着目するとともに、表現の効果を踏まえて作品の魅力を説明することができる。	文学的文章を読み、場面や状況を踏まえた人物の行動や心情を理解することができる。	文学的文章を読み、場面や状況を理解できず、人物の行動や心情を表す表現を見つけない。		
評価項目3	俳句の創作を通して、文学的創作活動を体験するとともに、作品を鑑賞することができる。	俳句の創作をすることができる。	俳句の創作をすることができない。		
評価項目4	コミュニケーション能力を正確かつ豊かに発揮することができる。	コミュニケーション能力を発揮することができる。	コミュニケーション能力を発揮することができない。		
学科の到達目標項目との関係					
教育方法等					
概要	論理的文章、文学的文章を正確かつ豊かに読解することを通じて、考える力を養う。また、自分の考えを他者に正確に伝えるための表現力を磨く。				
授業の進め方・方法	講義形式で行う。適宜、小テストを実施し、レポート、作文等の提出を求めることがある。				
注意点	教科書、ノート、副教材、国語辞典を忘れずに準備して出席すること。新しい教材に入る前に、該当箇所を通読して授業に臨むこと。 合格点は50点である。到達度試験の成績の90%に、ノート整理・授業態度等平素の成績を10%として加え、評価する。 学年総合評価 = (前期末成績 + 後期末成績) ÷ 2。				
授業計画					
	週	授業内容	週ごとの到達目標		
前期	1stQ	1週	授業ガイダンス	授業の進め方と評価の仕方について説明する。	
		2週	未来の他者と連帯する	未来の他者との連帯につきまとう悲観と希望について理解し、説明することができる。	
		3週	未来の他者と連帯する	未来の他者との連帯の可能性について、自分の考えをまとめることができる。	
		4週	狐憑	シャクの人物像がどのように変化していったかを理解し、説明することができる。	
		5週	狐憑	聴衆や部落の人々のシャクに対する見方を捉え、説明することができる。	
		6週	俳句の創作	俳句の作り方を復習し、俳句を創作・鑑賞することができる。	
		7週	到達度試験 (前期中間)	上記項目について学習した内容の理解度を授業の中で確認する。	
		8週	試験の解説と解答	到達度試験の解説と解答。	
	2ndQ	9週	科学が宗教になる	ヨーロッパ近代がおこなった脱キリスト教化がもたらしたものについて理解し、説明することができる。	
		10週	科学が宗教になる	人間中心イデオロギーを超越する唯一のものとしての「科学」について理解し、説明することができる。	
		11週	科学が宗教になる	超越的存在としての「科学」の未来について、自分の考えをまとめることができる。	
		12週	どよどよ	物語る行為によって生じた樹子の気持ちの変化を捉え、説明することができる。	
		13週	どよどよ	「どよどよ」の意味について考え、説明することができる。	
		14週	どよどよ	樹子の気持ちの変化と「どよどよ」の意味を踏まえ、あらすじをまとめることができる。	
		15週	到達度試験 (前期末)	上記項目について学習した内容の理解度を授業の中で確認する。	
		16週	試験の解説と解答	到達度試験の解説と解答。	
後期	3rdQ	1週	貨幣と言語	貨幣と言語の二つの類似点を理解し、説明することができる。	
		2週	貨幣と言語	常識的な記号観による錯覚について理解し、説明することができる。	

4thQ	3週	貨幣と言語	「記号」はモノではなく関係の網の目であるという筆者の意見を踏まえ、自分の考えをまとめることができる。
	4週	四月のある晴れた朝に100パーセントの女の子に出会うことについて	「100パーセント」という表現の意味を理解し、説明することができる。
	5週	四月のある晴れた朝に100パーセントの女の子に出会うことについて	出会った朝と振り返る現在の「僕」の気持ちの流れを整理することができる。
	6週	四月のある晴れた朝に100パーセントの女の子に出会うことについて	「悲しい話」と「僕」の状況との呼応を踏まえてあらすじをまとめることができる。
	7週	到達度試験（後期中間）	上記項目について学習した内容の理解度を授業の中で確認する。
	8週	試験の解説と解答	到達度試験の解説と解答。
	9週	人間と政治	政治では動機でなく効果が重要とはどういうことか理解し、説明することができる。
	10週	人間と政治	政治の前提する「性悪説」について理解し、説明することができる。
	11週	人間と政治	政治とはどのような営みかを説明することができる。
	12週	失明の時代	日本の高度成長社会がもたらした病理について理解し、説明することができる。
	13週	失明の時代	高度成長社会の価値観とも言える全体主義思考について説明することができる。
	14週	失明の時代	高度成長社会の全体主義がもたらす人間破壊について自分の考えをまとめることができる。
	15週	到達度試験（後期末）	上記項目について学習した内容の理解度を授業の中で確認する。
	16週	試験の解説と解答	到達度試験の解説と解答、および授業アンケート。

モデルコアカリキュラムの学習内容と到達目標

分類	分野	学習内容	学習内容の到達目標	到達レベル	授業週		
評価割合							
	試験	発表	相互評価	態度	ポートフォリオ	その他	合計
総合評価割合	90	0	0	0	0	10	100
基礎的能力	30	0	0	0	0	3	33
専門的能力	30	0	0	0	0	3	33
分野横断的能力	30	0	0	0	0	4	34

秋田工業高等専門学校		開講年度	平成29年度 (2017年度)	授業科目	人類史Ⅱ (3M)
科目基礎情報					
科目番号	0002		科目区分	一般 / 必修	
授業形態	授業		単位の種別と単位数	履修単位: 2	
開設学科	一般教科 (人文科学系)		対象学年	3	
開設期	通年		週時間数	2	
教科書/教材	教科書: 「高等学校日本史B改訂版」伊藤純郎他著 清水書院、「新詳世界史B」帝国書院 (28年度2年次に使用したもの)、補助教科書: 「最新日本史図表」第一学習社、「グローバル」最新世界史図表」第一学習社 (28年度2年次に使用したもの)				
担当教員	榎 豊				
到達目標					
1. 中世以降の日本の外交, 戦国大名の登場・織豊政権・幕藩体制のあゆみがわかる。 2. 開国から明治時代の日本の外交, 明治維新・立憲体制の確立とあゆみがわかる。 3. 第一次世界大戦からワシントン体制下の日本の外交と経済, 政党政治のあゆみがわかる。 4. 軍部の台頭と政党政治の崩壊, 第二次世界大戦に至るまでの日本の外交と終戦までのあゆみがわかる。					
ルーブリック					
		理想的な到達レベルの目安	標準的な到達レベルの目安	未到達レベルの目安	
評価項目1		中世以降の日本の外交と近世のあゆみを世界史と対比させて説明できる。	中世以降の日本の外交と近世のあゆみを説明できる。	中世以降の日本の外交と近世のあゆみを説明できない。	
評価項目2		開国から明治時代に至る日本の内政と外交を世界史と対比させて説明できる。	開国から明治時代に至る日本の内政と外交を説明できる。	開国から明治時代に至る日本の内政と外交を説明できない。	
評価項目3		第一次世界大戦からワシントン体制下の日本の内政と外交を世界史と対比させて説明できる。	第一次世界大戦からワシントン体制下の日本の内政と外交を説明できる。	第一次世界大戦からワシントン体制下の日本の内政と外交を説明できない。	
評価項目4		第二次世界大戦に至るまでの日本の外交と終戦までの過程を世界史と対比させて説明できる。	第二次世界大戦に至るまでの日本の外交と終戦までの過程を説明できる。	第二次世界大戦に至るまでの日本の外交と終戦までの過程を説明できない。	
学科の到達目標項目との関係					
教育方法等					
概要	日本近世・近現代の歴史を、世界の多様な地域の歴史、世界史の一環として理解するための基礎知識を修得する。				
授業の進め方・方法	講義形式で行う。必要に応じて適宜レポートや小テストを課す。試験結果が合格点に達しない場合、再試験を行うことがある。				
注意点	講義中、各自で説明のメモを取ることが必要である。わからない語句や漢字がある場合は自分で辞書を引き、わからない地名が出てきたときは自分で地図を参照する習慣を身につけることがポイントである。				
授業計画					
		週	授業内容	週ごとの到達目標	
前期	1stQ	1週	授業ガイダンス	授業の進め方と評価の仕方について説明する。	
		2週	1 幕藩体制 (1) 中世から近世へ	中世の外交, 戦国大名の登場と織豊政権について学ぶ。	
		3週	(2) 幕藩体制の成立と展開	幕藩体制の確立と鎖国体制について学ぶ。	
		4週			
		5週			
		6週	(3) 幕藩体制の動揺	三大改革の意義について学ぶ。	
		7週	到達度試験 (前期中間)	上記項目について学習した内容の理解度を確認する。	
		8週	2 近代国家の成立 (1) 開国と明治維新	開国から明治維新に至る過程について学ぶ。	
	2ndQ	9週			
		10週			
		11週	(2) 立憲国家の成立	立憲国家の成立と展開について学ぶ。	
		12週			
		13週	(3) 日清戦争と日露戦争	日清・日露戦争前後の内政・外交について学ぶ。	
		14週			
		15週			
		16週	到達度試験 (前期末)	上記項目について学習した内容の理解度を確認する。	
後期	3rdQ	1週	3 第一次世界大戦と日本の経済 (1) 第一次世界大戦と日本	第一次世界大戦に日本がどうかかわったのかについて学ぶ。	
		2週			
		3週	(2) ワシントン体制の成立	国際的協調体制の進展と国際環境の推移について学ぶ。	
		4週			
		5週	(3) 政党内閣と昭和初期の外交	政党内閣の成立と昭和初期の外交について学ぶ。	
		6週			
		7週	到達度試験 (後期中間)	上記項目について学習した内容の理解度を確認する。	
	4thQ	8週	4 軍部の台頭と第二次世界大戦 (1) 昭和恐慌と満州事変	金融恐慌の発生から政党政治の崩壊に至る過程について学ぶ。 軍部の台頭と日中戦争に至る過程について学ぶ。	
		9週			
		10週			

	11週	(2) 日中戦争	日米交渉から開戦、そして終戦までの過程について学ぶ。
	12週		
	13週	(3) 第二次世界大戦と日本	日米交渉から開戦、そして終戦までの過程について学ぶ。
	14週		
	15週		
	16週	到達度試験（後期末）	上記項目について学習した内容の理解度を確認する。

モデルコアカリキュラムの学習内容と到達目標

分類	分野	学習内容	学習内容の到達目標	到達レベル	授業週
----	----	------	-----------	-------	-----

評価割合

	試験	発表	相互評価	態度	ポートフォリオ	その他	レポート	合計
総合評価割合	70	0	0	10	0	0	20	100
基礎的能力	50	0	0	0	0	0	5	55
専門的能力	0	0	0	0	0	0	0	0
分野横断的能力	0	0	0	0	0	0	0	0
思考・推論・創造への適用力	10	0	0	0	0	0	5	15
汎用的技能	0	0	0	5	0	0	5	10
態度・嗜好性	0	0	0	5	0	0	0	5
総合的な学習経験と創造的思考力	10	0	0	0	0	0	5	15

秋田工業高等専門学校		開講年度	平成29年度 (2017年度)		授業科目	科学技術史 (3M)			
科目基礎情報									
科目番号	0003		科目区分	一般 / 必修					
授業形態	授業		単位の種別と単位数	履修単位: 1					
開設学科	一般教科 (人文科学系)		対象学年	3					
開設期	前期		週時間数	2					
教科書/教材	教科書: 『科学史年表』 小山慶太著 中央公論新社、その他: 自製プリントの配布								
担当教員	吉葉 恭行								
到達目標									
ルーブリック									
	理想的な到達レベルの目安		標準的な到達レベルの目安			未到達レベルの目安			
評価項目1	自然科学誕生の歴史的前提を具体的に説明できる。		自然科学誕生の歴史的前提を概略説明できる。			自然科学誕生の歴史的前提を説明できない。			
評価項目2	物理学を柱にした近代科学の成立過程を具体的に説明できる。		物理学を柱にした近代科学の成立過程を概略説明できる。			物理学を柱にした近代科学の成立過程を説明できない。			
評価項目3	産業革命と科学及び技術の関係を具体的に説明できる。		産業革命と科学及び技術の関係を概略説明できる。			産業革命と科学及び技術の関係を説明できない。			
評価項目4	近代産業と科学技術の関係を具体的に説明できる。		近代産業と科学技術の関係を概略説明できる。			近代産業と科学技術の関係を説明できない。			
学科の到達目標項目との関係									
教育方法等									
概要	科学・技術の歴史について基本的な知識を身につけると共に、現代社会において大きな役割を担っている「科学技術」(Science Based Technology)の諸特徴について、歴史学的手法による学習を通して、読み解く能力を修得する。								
授業の進め方・方法	講義形式で行う。必要に応じて適宜課題レポートの提出および課題のプレゼンテーションを求める。								
注意点	授業中は板書を書き取るだけでなく、口頭による説明についても各自メモを取る習慣を身につける必要がある。授業内容を深く理解するために、参考文献やインターネット等の複数メディアを活用し、資料収集し学ぶ方法 (スキル) を身につけるよう心がけること。								
授業計画									
		週	授業内容			週ごとの到達目標			
前期	1stQ	1週	授業ガイダンス			授業の進め方と評価の仕方について説明する。			
		2週	1 自然科学の誕生 (1) 自然科学誕生前史			自然科学誕生の歴史的前提がわかる。			
		3週	(2) 17世紀の歩み			物理学を柱にした近代科学の成立過程がわかる。			
		4週							
		5週	(3) 18世紀の歩み			産業革命と科学及び技術の関係がわかる。			
		6週							
		7週	(4) 19世紀前半の歩み			近代科学の諸領域の成立・展開過程がわかる。			
		8週	到達度試験 (前期中間)			上記項目について学習した内容の理解度を確認する。			
	2ndQ	9週	2 科学技術の発展 (1) 19世紀後半の歩み			近代科学の飛躍過程がわかる。			
		10週							
		11週	(2) 20世紀前半の歩み			近代産業と科学技術の関係がわかる。			
		12週							
		13週	(3) 20世紀後半の歩み			高度科学技術社会への展開過程がわかる。			
		14週							
		15週	(4) 20世紀末の展開			科学技術の利用から生じた人類の課題がわかる。			
		16週	到達度試験 (前期末)			上記項目について学習した内容の理解度を確認する。			
モデルコアカリキュラムの学習内容と到達目標									
分類	分野	学習内容	学習内容の到達目標				到達レベル	授業週	
評価割合									
	試験	発表	相互評価	態度	ポートフォリオ	その他	レポート	合計	
総合評価割合	60	10	0	10	0	0	20	100	
基礎的能力	60	0	0	0	0	0	5	65	
専門的能力	0	0	0	0	0	0	0	0	
分野横断的能力	0	0	0	0	0	0	0	0	
思考・推論・創造への適用力	0	0	0	0	0	0	5	5	
汎用的技能	0	5	0	5	0	0	5	15	
態度・嗜好性 (人間力)	0	5	0	5	0	0	0	10	
総合的な学習経験と創造的思考力	0	0	0	0	0	0	5	5	

秋田工業高等専門学校		開講年度	平成29年度 (2017年度)	授業科目	英語Ⅲ (3M)
科目基礎情報					
科目番号	0004	科目区分	一般 / 必修		
授業形態	授業	単位の種別と単位数	履修単位: 2		
開設学科	一般教科 (人文科学系)	対象学年	3		
開設期	通年	週時間数	2		
教科書/教材	CROWN PLUS English Series Level4 三省堂「新TOEICテストに出る順英単語」 中経出版「英作文基本300選」 駿台文庫Deep Listening Level 2 日本英語検定協会自作プリント				
担当教員	小菅 智也				
到達目標					
1. 大学入試レベルの英文の内容を正確に理解できる。 2. 指定された文法事項を用い、身近な内容について単文で表現することができる。 3. 与えられたテーマについて、自分の考えを80~100語の英文で表現することができる。					
ルーブリック					
	理想的な到達レベルの目安	標準的な到達レベルの目安	未到達レベルの目安		
評価項目1	大学入試レベルの英文の内容を自力で正確に理解できる。	辞書を使えば大学入試レベルの英文の内容を正確に理解できる。	教員の補助がないと大学入試レベルの英文の内容を正確に理解できない。		
評価項目2	指定された文法事項を用い、身近な内容について、自力で単文で表現することができる。	辞書や文法書を用いれば、指定された文法事項を用い、身近な内容について単文で表現することができる。	教員の補助がないと、指定された文法事項を用い、身近な内容について単文で表現することができない。		
評価項目3	与えられたテーマについて、自分の考えを80~100語の英文で表現することができる。	辞書や文法書を用いれば、与えられたテーマについて、自分の考えを80~100語の英文で表現することができる。	教員の補助がないと、与えられたテーマについて、自分の考えを80~100語の英文で表現することができる。		
学科の到達目標項目との関係					
教育方法等					
概要	この授業では、英文読解を中心に、総合的な英語力の向上を目指す。 具体的な目標は次の二点である。 (1) 二年生までに習得した文法知識をもとに、大学入試レベルの英文の内容を性格に把握できるようになる。 (2) 英検2級合格に必要な総合的な英語力を身につける。				
授業の進め方・方法	毎回の授業はおおむね次の流れで行われる (学生の理解度により、進度・内容・時間配分は変更されることがある)。 (1) 小テスト(5~10分程度) 「新TOEICテストに出る順英単語」及び「英作文基本300選」の内容の小テストを行い、語彙力の定着及させるとともに、基礎的な英文のインプットを行い、英文読解力や英作文能力の向上を目指す。また、次の(2), (3)で扱う内容を小テストの範囲として含める場合もある。これにより、新出の表現や文法事項の定着を図る。 (2) 次のa, bの内容を隔週で行う予定。(15~30分程度) a. 速読の練習 英検準2級~2級程度の長文の問題を用い、英文をより速く読む訓練を行う。 b. リスニング・スピーキングの練習 Deep Listening 2のシャドーイングを行うことで、リスニング能力とスピーキング能力の向上を図る。 この他に、英検2級2次試験形式の応答の訓練をペアワークで行うことも予定している。 (3) 精読の練習(50~70分) 教科書の内容を精読する。予習を前提とし、本文の内容について、教員が学生に質問をする。特に重要と思われる表現や文法事項については、教員が解説を行う。 また、章末問題や自制プリントで、本文で扱った表現・文法事項を定着させ、英作文への応用も行われる。 これらに加え、Crown Plusの章末問題や80~100語程度の英作文等をレポート課題として与える場合がある。 定期試験は、基本的には上記(1)~(3)で学習した内容を問う問題であるが、これらに関連した応用力を問う問題を出題する場合もある。				
注意点	50点以上を合格点とする。前期末と後期末の成績は、それぞれの定期試験結果60%、授業態度、小テスト、課題の結果を40%で評価する。学年総合評価は前期末と後期末の成績の平均である。 必ず予習の上で授業に臨むこと。特に、Crown Plusの英文については、不明な語句の意味を調べた上で、本文を複数回読んで理解してくること。				
授業計画					
	週	授業内容	週ごとの到達目標		
前期	1stQ	1週	授業ガイダンス Lesson2	授業の進め方と評価の仕方について説明する。 Lesson 2の英文の構造を理解し、内容を正確に読み取ることができる。	
		2週	Lesson2	Lesson 2の英文の構造を理解し、内容を正確に読み取ることができる。	
		3週	Lesson2	Lesson 2の英文の構造を理解し、内容を正確に読み取ることができる。	
		4週	Lesson2	Lesson 2の英文の構造を理解し、内容を正確に読み取ることができる。	
		5週	Lesson2	Lesson 2の英文の構造を理解し、内容を正確に読み取ることができる。	
		6週	Lesson2	Lesson 2の英文の構造を理解し、内容を正確に読み取ることができる。	
		7週	Lesson2	Lesson 2の英文の構造を理解し、内容を正確に読み取ることができる。	
		8週	到達度試験 (前期中間)	上記項目について学習した内容の理解度を確認する。	

後期	2ndQ	9週	試験の解説と解答 Lesson4	前期中間試験の解説と解答 Lesson4の英文の構造を理解し、内容を正確に読み取ることができる。
		10週	Lesson4	Lesson4の英文の構造を理解し、内容を正確に読み取ることができる。
		11週	Lesson4	Lesson4の英文の構造を理解し、内容を正確に読み取ることができる。
		12週	Lesson4	Lesson4の英文の構造を理解し、内容を正確に読み取ることができる。
		13週	Lesson4	Lesson4の英文の構造を理解し、内容を正確に読み取ることができる。
		14週	Lesson4	Lesson4の英文の構造を理解し、内容を正確に読み取ることができる。
		15週	到達度試験（前期期末）	上記項目について学習した内容の理解度を確認する。
		16週	試験の解説と解答	前期期末試験の解説と解答、および授業アンケート
	3rdQ	1週	Lesson6	Lesson6の英文の構造を理解し、内容を正確に読み取ることができる。
		2週	Lesson6	Lesson6の英文の構造を理解し、内容を正確に読み取ることができる。
		3週	Lesson6	Lesson6の英文の構造を理解し、内容を正確に読み取ることができる。
		4週	Lesson6	Lesson6の英文の構造を理解し、内容を正確に読み取ることができる。
		5週	Lesson6	Lesson6の英文の構造を理解し、内容を正確に読み取ることができる。
		6週	Lesson6	Lesson6の英文の構造を理解し、内容を正確に読み取ることができる。
		7週	Lesson6	Lesson6の英文の構造を理解し、内容を正確に読み取ることができる。
		8週	到達度試験（後期中間）	上記項目について学習した内容の理解度を確認する。
4thQ	9週	試験の解説と解答 Lesson8	後期中間試験の解説と解答 Lesson8の英文の構造を理解し、内容を正確に読み取ることができる。	
	10週	Lesson8	Lesson8の英文の構造を理解し、内容を正確に読み取ることができる。	
	11週	Lesson8	Lesson8の英文の構造を理解し、内容を正確に読み取ることができる。	
	12週	Lesson8	Lesson8の英文の構造を理解し、内容を正確に読み取ることができる。	
	13週	Lesson8	Lesson8の英文の構造を理解し、内容を正確に読み取ることができる。	
	14週	Lesson8	Lesson8の英文の構造を理解し、内容を正確に読み取ることができる。	
	15週	到達度試験（後期期末）	上記項目について学習した内容の理解度を確認する。	
	16週	試験の解説と解答	後期期末試験の解説と解答、および授業アンケート	

モデルコアカリキュラムの学習内容と到達目標

分類	分野	学習内容	学習内容の到達目標	到達レベル	授業週
----	----	------	-----------	-------	-----

評価割合

	試験	発表	相互評価	態度	小テスト	ポートフォリオ	その他	合計
総合評価割合	60	0	0	10	20	0	10	100
基礎的能力	40	0	0	10	20	0	10	80
専門的能力	0	0	0	0	0	0	0	0
分野横断的能力	20	0	0	0	0	0	0	20

秋田工業高等専門学校		開講年度	平成29年度 (2017年度)	授業科目	英語 L L 演習 (3 M)	
科目基礎情報						
科目番号	0005		科目区分	一般 / 必修		
授業形態	演習		単位の種別と単位数	履修単位: 1		
開設学科	一般教科 (人文科学系)		対象学年	3		
開設期	後期		週時間数	2		
教科書/教材	For and Against Expressing Opinions and Exchanging Ideas (成美堂)、辞書: 英和辞典、和英辞典 (電子辞書可)、副教材: 自製プリントの配布					
担当教員	杉浦 克哉, 大西 絵理香					
到達目標						
<p>1. 英語の母音、子音の発音の仕方を理解し、発音記号で示される単語の発音を自らも発音できる。</p> <p>2. 英語検定準2級～2級に合格できる英語力を身につける。</p> <p>3. 英文で書かれたさまざまな意見を、「読む」「聞く」の技能で理解できる。</p> <p>4. これまで学んだ語彙や文法を活用して、与えられたテーマについて自らの考えを英作文で表現できる。</p> <p>5. 与えられたテーマについて自分の考えを英語で発表し、他者に伝えることができる。</p>						
ループリック						
	理想的な到達レベルの目安	標準的な到達レベルの目安	未到達レベルの目安			
評価項目1	英語の母音、子音の発音の仕方を完全に理解し、発音記号で示される単語の発音を自らも発音できる。	英語の母音、子音の発音の仕方を十分に理解し、発音記号で示される単語の発音を自らも発音できる。	英語の母音、子音の発音の理解が不十分で、発音記号で示される単語の発音を自らも発音できない。			
評価項目2	英検準2級～2級に合格できる英語力を十分に身につけている。	英検準2級～2級に合格できる英語力をほぼ身につけている。	英検準2級～2級に合格できる英語力を十分に身につけていない。			
評価項目3	英文で書かれたさまざまな意見を「読む」「聞く」の技能で完全に理解できる。	英文で書かれたさまざまな意見を「読む」「聞く」の技能で十分に理解できる。	英文で書かれたさまざまな意見を「読む」「聞く」の技能で十分に理解できない。			
評価項目4	これまで学んだ語彙や文法を活用して、与えられたテーマについて自らの考えを英作文で誤りなく表現できる。	これまで学んだ語彙や文法を活用して、与えられたテーマについて自らの考えを英作文で十分に表現できる。	これまで学んだ語彙や文法を活用できず、与えられたテーマについて自らの考えを英作文で表現できない。			
評価項目5	与えられたテーマについて自分の考えを英語で流暢に発表し、他者に伝えることができる。	与えられたテーマについて自分の考えを英語で発表し、他者に伝えることができる。	与えられたテーマについて、自分の考えを英語で発表し他者に伝えることができない。			
学科の到達目標項目との関係						
教育方法等						
概要	英語の音声の基本として、さまざまな母音、子音について学ぶ。音の違いを聞き分け、自らも発音できるようになることを目標とする。また、英語で意見交換できる力を目的に作られた教科書の学習を通して、英語で表現された他者の意見を理解し、自分の考えも表現するための演習を行っていく。					
授業の進め方・方法	演習形式で行う。初期の段階で、発音学習の基礎となる英語の各種母音、子音の発音の仕方を学ぶ。また、教科書を用いて現代社会で注目されている問題を把握し他者の考えを理解する力とともに、テーマに沿って自分の考えを英語で表現するスキルを身につける。英語を「聞く」「読む」技能に加えて、「書く」「話す」の技能も伸ばすための演習も行う。					
注意点	教科書、辞書、副教材を忘れずに授業に持参すること。到達目標に示された内容を意識して、積極的に授業に参加することが望ましい。 合格点は50点である。到達度試験は授業の時間内に行う。リスニングの試験は、授業の中で小テストとして行う。 期末総合評価 = (中間成績 + 期末成績) / 2					
授業計画						
	週	授業内容	週ごとの到達目標			
後期	3rdQ	1週	ガイダンス 英語の発音について (母音、子音) 授業の進め方、評価の仕方を説明する			
		2週	英語の発音について (母音、子音) 各種母音、子音の発音のしくみについて学ぶ			
		3週	Unit 1 The Internet インターネットを通じた出会いについて考える			
		4週	Unit 2 NEETS ニートの問題について考える			
		5週	Unit 4 Environment 核エネルギーの使用について考える			
		6週	中間のまとめ 中間のまとめを行う			
		7週	到達度試験 (前期中間) 授業時間内に行う			
		8週	試験の解説 中間試験の解説を行う			
	4thQ	9週	Unit 8 Depopulation 外国人労働者の受け入れについて考える			
		10週	Unit 9 Examinations 評価方法としての試験のあり方について考える			
		11週	Unit 12 Robot care ロボットによる介護や看護について考える			
		12週	Unit 13 College 大学進学について考える			
		13週	期末のまとめ 期末のまとめを行う			

	14週	到達度試験（前期期末） 授業時間内に行う	
	15週	試験の解説 期末試験の解説、授業アンケート	
	16週		

モデルコアカリキュラムの学習内容と到達目標

分類	分野	学習内容	学習内容の到達目標	到達レベル	授業週
----	----	------	-----------	-------	-----

評価割合

	試験	小テスト	レポート	口頭発表	ポートフォリオ	合計
総合評価割合	50	20	20	10	0	100
基礎的能力	30	20	0	0	0	50
専門的能力	20	0	20	10	0	50
分野横断的能力	0	0	0	0	0	0

秋田工業高等専門学校		開講年度	平成29年度 (2017年度)	授業科目	英語会話 (3M)		
科目基礎情報							
科目番号	0006		科目区分	一般 / 必修			
授業形態	演習		単位の種別と単位数	履修単位: 1			
開設学科	一般教科 (人文科学系)		対象学年	3			
開設期	前期		週時間数	2			
教科書/教材	『New Time to Communicate コミュニケーション初級英語講座[改訂新版]』 南雲堂						
担当教員	小菅 智也, ジョズエ ジャック						
到達目標							
<p>1 古い友達と久しぶりに会ったとき、自分の最近の出来事を相手に伝えることができる。</p> <p>2 相手と出かける誘いをしたり、会議を設定したときに、時間と場所、内容を相手に伝えることができる。</p> <p>3 相手に提案をしたり、相手と簡単な議論をすることができる。</p> <p>4 自分や身近なことについて簡単なやり取りや質問・応答ができる。</p> <p>5 自分の身近なことについて、前もって準備をすれば毎分100語程度の速度で約1分間の説明ができる。</p>							
ループリック							
	理想的な到達レベルの目安		標準的な到達レベルの目安		未到達レベルの目安		
評価項目1	古い友達と久しぶりに会ったとき、自分の最近の出来事を英語を使って相手に伝えることができる。		古い友達と久しぶりに会ったとき、自分の最近の出来事を英語を使って相手になんとか伝えることができる。		古い友達と久しぶりに会ったとき、自分の最近の出来事を英語を使って相手に伝えることができない。		
評価項目2	時間と場所、内容を英語で相手に伝えることができる。		時間と場所、内容を英語でなんとか相手に伝えることができる。		時間と場所、内容を英語で相手に伝えることができない。		
評価項目3	英語で相手に提案をしたり、相手と簡単な議論をすることができる。		英語で相手に提案をしたり、相手と簡単な議論をすることが時間がかかっても何とかできる。		英語で相手に提案をしたり、相手と簡単な議論をすることができない。		
学科の到達目標項目との関係							
教育方法等							
概要	英語のネイティブスピーカーの発音に慣れ、英語の特に「聞く・話す」能力について、文法の誤りが多少あるが何とかコミュニケーションが可能であるというレベルを達成する。						
授業の進め方・方法	演習形式で行ない、必要に応じて適宜小テストを実施する。なお、到達度試験は授業中に英会話実技試験を行う。						
注意点	合格点は50点である。成績は、授業での英語でのコミュニケーションを取る積極性33%、実技試験結果67%で評価する。 学年総合成績 = (授業で英語を使おうとする積極性 + 英会話実技試験)						
授業計画							
		週	授業内容	週ごとの到達目標			
前期	1stQ	1週	授業のガイダンス Unit 1 Meeting People	授業の進め方と評価の仕方について説明する。 古い友達と久しぶりに会ったとき、自分の最近の出来事を相手に伝えることができる。 ・疑問文の英文を使うことができる。 ・現在形の英文を使うことができる。 ・There is構文の英文を使うことができる。			
		2週	Unit 2 Getting to Know Your Classmates	同上			
		3週	Unit 3 Talking About Classes	同上			
		4週	Unit 4 Talking About Your Daily Life	同上			
		5週	Unit 5 Talking About People -Personality	相手と出かける誘いをしたり、会議を設定したときに、時間と場所、内容を相手に伝えることができる。 ・助動詞の英文を使うことができる。 ・過去形の英文を使うことができる。 ・Wh-疑問文の英文を使うことができる。			
		6週	Unit 6 Talking About People	同上			
		7週	Unit 7 Talking About Last Weekend	同上			
		8週	Unit 8 Talking About the Vacation	同上			
	2ndQ	9週	Unit 9 Talking About Going Out on the Town	相手に提案したり、相手と簡単な議論をすることができる。 ・未来形の英語を使うことができる。 ・To不定詞、動名詞を含んだ英文を使うことができる。 ・自分の意見を英語で伝えることができる。 ・相手に、持っているスキルや過去に経験したことを質問できる。			
		10週	Unit 10 Talking About Foods and Recipes	同上			
		11週	Unit 11 Talking About Travel	同上			
		12週	Unit 12 Talking About Hometowns	同上			
		13週	Unit 13 Talking About Your Opinions	同上			
		14週	Unit 14 Talking About Future Plans	同上			
		15週	英会話実技試験	上記項目について学習した内容の理解度を確認する			
		16週	授業のまとめ	本授業のまとめ、および授業アンケート			
モデルコアカリキュラムの学習内容及到達目標							
分類	分野	学習内容	学習内容の到達目標	到達レベル	授業週		
評価割合							
	実技試験	発表	相互評価	態度	ポートフォリオ	その他	合計
総合評価割合	67	0	0	33	0	0	100

基礎的能力	67	0	0	33	0	0	100
專門的能力	0	0	0	0	0	0	0
分野横断的能力	0	0	0	0	0	0	0

秋田工業高等専門学校		開講年度	平成29年度 (2017年度)	授業科目	国語Ⅲ (3E)	
科目基礎情報						
科目番号	0007		科目区分	一般 / 必修		
授業形態	授業		単位の種別と単位数	履修単位: 2		
開設学科	一般教科 (人文科学系)		対象学年	3		
開設期	通年		週時間数	2		
教科書/教材	『ちくま評論入門』改訂版 (筑摩書房) 『ちくま小説入門』 (筑摩書房) 国語辞典 (電子辞書も可) 『クリアカラー 国語便覧』 (数研出版) 『ステップアップ 日本語講座 中級』 (東京書籍)					
担当教員	照井 一美					
到達目標						
1. 論理的文章の読解を通して、要旨や筆者の主張を把握し、自分なりに考えることができる。 2. 文学的文章の読解を通して、想像力や感じ取る力を磨き、心情を豊かにすることができる。 3. 俳句の創作を通して、文学的創作活動を体験するとともに、作品を鑑賞することができる。 4. 現代社会で求められるコミュニケーション能力を、正確かつ豊かに駆使することができる。						
ルーブリック						
	理想的な到達レベルの目安	標準的な到達レベルの目安	未到達レベルの目安			
評価項目1	論理的文章を読み、論旨を的確に理解し、要約し、自分の意見を説得力豊かにまとめることができる。	論理的文章を読み、論旨を理解し、要約し、自分の意見をまとめることができる。	論理的文章を読み、論旨を理解し、要約し、自分の意見をまとめることができない。			
評価項目2	文学的文章を読み、優れた表現に着目するとともに、表現の効果を踏まえて作品の魅力を説明することができる。	文学的文章を読み、場面や状況を踏まえた人物の行動や心情を理解することができる。	文学的文章を読み、場面や状況を理解できず、人物の行動や心情を表す表現を見つることができない。			
評価項目3	俳句の創作を通して、文学的創作活動を体験するとともに、作品を鑑賞することができる。	俳句の創作をすることができる。	俳句の創作をすることができない。			
評価項目4	コミュニケーション能力を正確かつ豊かに発揮することができる。	コミュニケーション能力を発揮することができる。	コミュニケーション能力を発揮することができない。			
学科の到達目標項目との関係						
教育方法等						
概要	論理的文章、文学的文章を正確かつ豊かに読解することを通じて、考える力を養う。また、自分の考えを他者に正確に伝えるための表現力を磨く。					
授業の進め方・方法	講義形式で行う。適宜、小テストを実施し、レポート、作文等の提出を求めることがある。					
注意点	教科書、ノート、副教材、国語辞典を忘れずに準備して出席すること。新しい教材に入る前に、該当箇所を通読して授業に臨むこと。 合格点は50点である。到達度試験の成績の90%に、ノート整理・授業態度等平素の成績を10%として加え、評価する。 学年総合評価 = (前期末成績 + 後期末成績) ÷ 2。					
授業計画						
	週	授業内容	週ごとの到達目標			
前期	1stQ	1週	授業ガイダンス	授業の進め方と評価の仕方について説明する。		
		2週	未来の他者と連帯する	未来の他者との連帯につきまとう悲観と希望について理解し、説明することができる。		
		3週	未来の他者と連帯する	未来の他者との連帯の可能性について、自分の考えをまとめることができる。		
		4週	狐憑	シャクの人物像がどのように変化していったかを理解し、説明することができる。		
		5週	狐憑	聴衆や部落の人々のシャクに対する見方を捉え、説明することができる。		
		6週	俳句の創作	俳句の作り方を復習し、俳句を創作・鑑賞することができる。		
		7週	到達度試験 (前期中間)	上記項目について学習した内容の理解度を授業の中で確認する。		
		8週	試験の解説と解答	到達度試験の解説と解答。		
	2ndQ	9週	衣服という社会	衣服の選択の社会化と流行現象との関係性について理解し、説明することができる。		
		10週	衣服という社会	流行現象におけるアイデンティティの危機について理解し、説明することができる。		
		11週	衣服という社会	「モード現象」について理解し、自分の考えをまとめることができる。		
		12週	どよどよ	物語る行為によって生じた樹子の気持ちの変化を捉え、説明することができる。		
		13週	どよどよ	「どよどよ」の意味について考え、説明することができる。		
		14週	どよどよ	樹子の気持ちの変化と「どよどよ」の意味を踏まえ、あらすじをまとめることができる。		
		15週	到達度試験 (前期末)	上記項目について学習した内容の理解度を授業の中で確認する。		
		16週	試験の解説と解答	到達度試験の解説と解答。		
後期	3rdQ	1週	貨幣と言語	貨幣と言語の二つの類似点を理解し、説明することができる。		
		2週	貨幣と言語	常識的な記号観による錯覚について理解し、説明することができる。		

4thQ	3週	貨幣と言語	「記号」はモノではなく関係の網の目であるという筆者の意見を踏まえ、自分の考えをまとめることができる。
	4週	四月のある晴れた朝に100パーセントの女の子に出会うことについて	「100パーセント」という表現の意味を理解し、説明することができる。
	5週	四月のある晴れた朝に100パーセントの女の子に出会うことについて	出会った朝と振り返る現在の「僕」の気持ちの流れを整理することができる。
	6週	四月のある晴れた朝に100パーセントの女の子に出会うことについて	「悲しい話」と「僕」の状況との呼応を踏まえてあらすじをまとめることができる。
	7週	到達度試験（後期中間）	上記項目について学習した内容の理解度を授業の中で確認する。
	8週	試験の解説と解答	到達度試験の解説と解答。
	9週	人間と政治	政治では動機でなく効果が重要とはどういうことか理解し、説明することができる。
	10週	人間と政治	政治の前提する「性悪説」について理解し、説明することができる。
	11週	人間と政治	政治とはどのような営みかを説明することができる。
	12週	文学のふるさと	ペロウの『赤頭巾』と狂言「鬼瓦」の例が意味することについて理解し、説明することができる。
	13週	文学のふるさと	芥川の体験と『伊勢物語』の挿話が意味することについて理解し、説明することができる。
	14週	文学のふるさと	人間や文学の根源にあるものについて自分の考えをまとめることができる。
	15週	到達度試験（後期末）	上記項目について学習した内容の理解度を授業の中で確認する。
	16週	試験の解説と解答	到達度試験の解説と解答、および授業アンケート。

モデルコアカリキュラムの学習内容と到達目標

分類	分野	学習内容	学習内容の到達目標	到達レベル	授業週		
評価割合							
	試験	発表	相互評価	態度	ポートフォリオ	その他	合計
総合評価割合	90	0	0	0	0	10	100
基礎的能力	30	0	0	0	0	3	33
専門的能力	30	0	0	0	0	3	33
分野横断的能力	30	0	0	0	0	4	34

秋田工業高等専門学校		開講年度	平成29年度 (2017年度)	授業科目	人類史Ⅱ (3E)
科目基礎情報					
科目番号	0008		科目区分	一般 / 必修	
授業形態	授業		単位の種別と単位数	履修単位: 2	
開設学科	一般教科 (人文科学系)		対象学年	3	
開設期	通年		週時間数	2	
教科書/教材	教科書: 「高等学校日本史B改訂版」伊藤純郎他著 清水書院、「新詳世界史B」帝国書院 (28年度2年次に使用したもの)、補助教科書: 「最新日本史図表」第一学習社、「グローバル」最新世界史図表」第一学習社 (28年度2年次に使用したもの)				
担当教員	吉葉 恭行, 榎 豊				
到達目標					
1. 中世以降の日本の外交, 戦国大名の登場・織豊政権・幕藩体制のあゆみがわかる。 2. 開国から明治時代の日本の外交, 明治維新・立憲体制の確立とあゆみがわかる。 3. 第一次世界大戦からワシントン体制下の日本の外交と経済, 政党政治のあゆみがわかる。 4. 軍部の台頭と政党政治の崩壊, 第二次世界大戦に至るまでの日本の外交と終戦までのあゆみがわかる。					
ルーブリック					
		理想的な到達レベルの目安	標準的な到達レベルの目安	未到達レベルの目安	
評価項目1		中世以降の日本の外交と近世のあゆみを世界史と対比させて説明できる。	中世以降の日本の外交と近世のあゆみを説明できる。	中世以降の日本の外交と近世のあゆみを説明できない。	
評価項目2		開国から明治時代に至る日本の内政と外交を世界史と対比させて説明できる。	開国から明治時代に至る日本の内政と外交を説明できる。	開国から明治時代に至る日本の内政と外交を説明できない。	
評価項目3		第一次世界大戦からワシントン体制下の日本の内政と外交を世界史と対比させて説明できる。	第一次世界大戦からワシントン体制下の日本の内政と外交を説明できる。	第一次世界大戦からワシントン体制下の日本の内政と外交を説明できない。	
評価項目4		第二次世界大戦に至るまでの日本の外交と終戦までの過程を世界史と対比させて説明できる。	第二次世界大戦に至るまでの日本の外交と終戦までの過程を説明できる。	第二次世界大戦に至るまでの日本の外交と終戦までの過程を説明できない。	
学科の到達目標項目との関係					
教育方法等					
概要	日本近世・近現代の歴史を、世界の多様な地域の歴史、世界史の一環として理解するための基礎知識を修得する。				
授業の進め方・方法	講義形式で行う。必要に応じて適宜レポートや小テストを課す。試験結果が合格点に達しない場合、再試験を行うことがある。				
注意点	講義中、各自で説明のメモを取ることが必要である。わからない語句や漢字がある場合は自分で辞書を引き、わからない地名が出てきたときは自分で地図を参照する習慣を身につけることがポイントである。				
授業計画					
		週	授業内容	週ごとの到達目標	
前期	1stQ	1週	授業ガイダンス	授業の進め方と評価の仕方について説明する。	
		2週	1 幕藩体制 (1) 中世から近世へ	中世の外交, 戦国大名の登場と織豊政権について学ぶ。	
		3週	(2) 幕藩体制の成立と展開	幕藩体制の確立と鎖国体制について学ぶ。	
		4週			
		5週			
		6週	(3) 幕藩体制の動揺	三大改革の意義について学ぶ。	
		7週	到達度試験 (前期中間)	上記項目について学習した内容の理解度を確認する。	
		8週	2 近代国家の成立 (1) 開国と明治維新	開国から明治維新に至る過程について学ぶ。	
	2ndQ	9週			
		10週			
		11週	(2) 立憲国家の成立	立憲国家の成立と展開について学ぶ。	
		12週			
		13週	(3) 日清戦争と日露戦争	日清・日露戦争前後の内政・外交について学ぶ。	
		14週			
		15週			
		16週	到達度試験 (前期末)	上記項目について学習した内容の理解度を確認する。	
後期	3rdQ	1週	3 第一次世界大戦と日本の経済 (1) 第一次世界大戦と日本	第一次世界大戦に日本がどうかかわったのかについて学ぶ。	
		2週			
		3週	(2) ワシントン体制の成立	国際的協調体制の進展と国際環境の推移について学ぶ。	
		4週			
		5週	(3) 政党内閣と昭和初期の外交	政党内閣の成立と昭和初期の外交について学ぶ。	
		6週			
		7週	到達度試験 (後期中間)	上記項目について学習した内容の理解度を確認する。	
	4thQ	8週	4 軍部の台頭と第二次世界大戦 (1) 昭和恐慌と満州事変	金融恐慌の発生から政党政治の崩壊に至る過程について学ぶ。 軍部の台頭と日中戦争に至る過程について学ぶ。	
		9週			
		10週			

	11週	(2) 日中戦争	日米交渉から開戦、そして終戦までの過程について学ぶ。
	12週		
	13週	(3) 第二次世界大戦と日本	日米交渉から開戦、そして終戦までの過程について学ぶ。
	14週		
	15週		
	16週	到達度試験（後期末）	上記項目について学習した内容の理解度を確認する。

モデルコアカリキュラムの学習内容と到達目標

分類	分野	学習内容	学習内容の到達目標	到達レベル	授業週
----	----	------	-----------	-------	-----

評価割合

	試験	発表	相互評価	態度	ポートフォリオ	その他	レポート	合計
総合評価割合	70	0	0	10	0	0	20	100
基礎的能力	50	0	0	0	0	0	5	55
専門的能力	0	0	0	0	0	0	0	0
分野横断的能力	0	0	0	0	0	0	0	0
思考・推論・創造への適用力	10	0	0	0	0	0	5	15
汎用的技能	0	0	0	5	0	0	5	10
態度・嗜好性	0	0	0	5	0	0	0	5
総合的な学習経験と創造的思考力	10	0	0	0	0	0	5	15

秋田工業高等専門学校		開講年度	平成29年度 (2017年度)		授業科目	科学技術史 (3E)			
科目基礎情報									
科目番号	0009		科目区分	一般 / 必修					
授業形態	授業		単位の種別と単位数	履修単位: 1					
開設学科	一般教科 (人文科学系)		対象学年	3					
開設期	前期		週時間数	2					
教科書/教材	教科書: 『科学史年表』 小山慶太著 中央公論新社、その他: 自製プリントの配布								
担当教員	吉葉 恭行								
到達目標									
ルーブリック									
	理想的な到達レベルの目安		標準的な到達レベルの目安			未到達レベルの目安			
評価項目1	自然科学誕生の歴史的前提を具体的に説明できる。		自然科学誕生の歴史的前提を概略説明できる。			自然科学誕生の歴史的前提を説明できない。			
評価項目2	物理学を柱にした近代科学の成立過程を具体的に説明できる。		物理学を柱にした近代科学の成立過程を概略説明できる。			物理学を柱にした近代科学の成立過程を説明できない。			
評価項目3	産業革命と科学及び技術の関係を具体的に説明できる。		産業革命と科学及び技術の関係を概略説明できる。			産業革命と科学及び技術の関係を説明できない。			
評価項目4	近代産業と科学技術の関係を具体的に説明できる。		近代産業と科学技術の関係を概略説明できる。			近代産業と科学技術の関係を説明できない。			
学科の到達目標項目との関係									
教育方法等									
概要	科学・技術の歴史について基本的な知識を身につけると共に、現代社会において大きな役割を担っている「科学技術」(Science Based Technology)の諸特徴について、歴史学的手法による学習を通して、読み解く能力を修得する。								
授業の進め方・方法	講義形式で行う。必要に応じて適宜課題レポートの提出および課題のプレゼンテーションを求める。								
注意点	授業中は板書を書き取るだけでなく、口頭による説明についても各自メモを取る習慣を身につける必要がある。授業内容を深く理解するために、参考文献やインターネット等の複数メディアを活用し、資料収集し学ぶ方法 (スキル) を身につけるよう心がけること。								
授業計画									
		週	授業内容			週ごとの到達目標			
前期	1stQ	1週	授業ガイダンス			授業の進め方と評価の仕方について説明する。			
		2週	1 自然科学の誕生 (1) 自然科学誕生前史			自然科学誕生の歴史的前提がわかる。			
		3週	(2) 17世紀の歩み			物理学を柱にした近代科学の成立過程がわかる。			
		4週							
		5週	(3) 18世紀の歩み			産業革命と科学及び技術の関係がわかる。			
		6週							
		7週	(4) 19世紀前半の歩み			近代科学の諸領域の成立・展開過程がわかる。			
		8週	到達度試験 (前期中間)			上記項目について学習した内容の理解度を確認する。			
	2ndQ	9週	2 科学技術の発展 (1) 19世紀後半の歩み			近代科学の飛躍過程がわかる。			
		10週							
		11週	(2) 20世紀前半の歩み			近代産業と科学技術の関係がわかる。			
		12週							
		13週	(3) 20世紀後半の歩み			高度科学技術社会への展開過程がわかる。			
		14週							
		15週	(4) 20世紀末の展開			科学技術の利用から生じた人類の課題がわかる。			
		16週	到達度試験 (前期末)			上記項目について学習した内容の理解度を確認する。			
モデルコアカリキュラムの学習内容と到達目標									
分類	分野	学習内容	学習内容の到達目標				到達レベル	授業週	
評価割合									
	試験	発表	相互評価	態度	ポートフォリオ	その他	レポート	合計	
総合評価割合	60	10	0	10	0	0	20	100	
基礎的能力	60	0	0	0	0	0	5	65	
専門的能力	0	0	0	0	0	0	0	0	
分野横断的能力	0	0	0	0	0	0	0	0	
思考・推論・創造への適用力	0	0	0	0	0	0	5	5	
汎用的技能	0	5	0	5	0	0	5	15	
態度・嗜好性 (人間力)	0	5	0	5	0	0	0	10	
総合的な学習経験と創造的思考力	0	0	0	0	0	0	5	5	

秋田工業高等専門学校		開講年度	平成29年度 (2017年度)	授業科目	英語Ⅲ (3E)
科目基礎情報					
科目番号	0010	科目区分	一般 / 必修		
授業形態	授業	単位の種別と単位数	履修単位: 2		
開設学科	一般教科 (人文科学系)	対象学年	3		
開設期	通年	週時間数	2		
教科書/教材	CROWN PLUS English Series Level4 三省堂「新TOEICテストに出る順英単語」 中経出版「英作文基本300選」 駿台文庫Deep Listening Level 2 日本英語検定協会自作プリント				
担当教員	小菅 智也				
到達目標					
1. 大学入試レベルの英文の内容を正確に理解できる。 2. 指定された文法事項を用い、身近な内容について単文で表現することができる。 3. 与えられたテーマについて、自分の考えを80~100語の英文で表現することができる。					
ルーブリック					
	理想的な到達レベルの目安	標準的な到達レベルの目安	未到達レベルの目安		
評価項目1	大学入試レベルの英文の内容を自力で正確に理解できる。	辞書を使えば大学入試レベルの英文の内容を正確に理解できる。	教員の補助がないと大学入試レベルの英文の内容を正確に理解できない。		
評価項目2	指定された文法事項を用い、身近な内容について、自力で単文で表現することができる。	辞書や文法書を用いれば、指定された文法事項を用い、身近な内容について単文で表現することができる。	教員の補助がないと、指定された文法事項を用い、身近な内容について単文で表現することができない。		
評価項目3	与えられたテーマについて、自分の考えを80~100語の英文で表現することができる。	辞書や文法書を用いれば、与えられたテーマについて、自分の考えを80~100語の英文で表現することができる。	教員の補助がないと、与えられたテーマについて、自分の考えを80~100語の英文で表現することができる。		
学科の到達目標項目との関係					
教育方法等					
概要	この授業では、英文読解を中心に、総合的な英語力の向上を目指す。 具体的な目標は次の二点である。 (1) 二年生までに習得した文法知識をもとに、大学入試レベルの英文の内容を正確に把握できるようになる。 (2) 英検2級合格に必要な総合的な英語力を身につける。				
授業の進め方・方法	毎回の授業はおおむね次の流れで行われる (学生の理解度により、進度・内容・時間配分は変更されることがある)。 (1) 小テスト(5~10分程度) 「新TOEICテストに出る順英単語」及び「英作文基本300選」の内容の小テストを行い、語彙力の定着及させるとともに、基礎的な英文のインプットを行い、英文読解力や英作文能力の向上を目指す。また、次の(2), (3)で扱う内容を小テストの範囲として含める場合もある。これにより、新出の表現や文法事項の定着を図る。 (2) 次のa, bの内容を隔週で行う予定。(15~30分程度) a. 速読の練習 英検準2級~2級程度の長文の問題を用い、英文をより速く読む訓練を行う。 b. リスニング・スピーキングの練習 Deep Listening 2のシャドーイングを行うことで、リスニング能力とスピーキング能力の向上を図る。 この他に、英検2級2次試験形式の応答の訓練をペアワークで行うことも予定している。 (3) 精読の練習(50~70分) 教科書の内容を精読する。予習を前提とし、本文の内容について、教員が学生に質問をする。特に重要と思われる表現や文法事項については、教員が解説を行う。 また、章末問題や自制プリントで、本文で扱った表現・文法事項を定着させ、英作文への応用も行われる。 これらに加え、Crown Plusの章末問題や80~100語程度の英作文等をレポート課題として与える場合がある。 定期試験は、基本的には上記(1)~(3)で学習した内容を問う問題であるが、これらに関連した応用力を問う問題を出題する場合もある。				
注意点	50点以上を合格点とする。前期末と後期末の成績は、それぞれの定期試験結果60%、授業態度、小テスト、課題の結果を40%で評価する。学年総合評価は前期末と後期末の成績の平均である。 必ず予習の上で授業に臨むこと。特に、Crown Plusの英文については、不明な語句の意味を調べた上で、本文を複数回読んで理解してくること。				
授業計画					
		週	授業内容	週ごとの到達目標	
前期	1stQ	1週	授業ガイダンス Lesson2	授業の進め方と評価の仕方について説明する。 Lesson 2の英文の構造を理解し、内容を正確に読み取ることができる。	
		2週	Lesson2	Lesson 2の英文の構造を理解し、内容を正確に読み取ることができる。	
		3週	Lesson2	Lesson 2の英文の構造を理解し、内容を正確に読み取ることができる。	
		4週	Lesson2	Lesson 2の英文の構造を理解し、内容を正確に読み取ることができる。	
		5週	Lesson2	Lesson 2の英文の構造を理解し、内容を正確に読み取ることができる。	
		6週	Lesson2	Lesson 2の英文の構造を理解し、内容を正確に読み取ることができる。	
		7週	Lesson2	Lesson 2の英文の構造を理解し、内容を正確に読み取ることができる。	
		8週	到達度試験 (前期中間)	上記項目について学習した内容の理解度を確認する。	

後期	2ndQ	9週	試験の解説と解答 Lesson4	前期期末試験の解説と解答 Lesson4の英文の構造を理解し、内容を正確に読み取ることができる。
		10週	Lesson4	Lesson4の英文の構造を理解し、内容を正確に読み取ることができる。
		11週	Lesson4	Lesson4の英文の構造を理解し、内容を正確に読み取ることができる。
		12週	Lesson4	Lesson4の英文の構造を理解し、内容を正確に読み取ることができる。
		13週	Lesson4	Lesson4の英文の構造を理解し、内容を正確に読み取ることができる。
		14週	Lesson4	Lesson4の英文の構造を理解し、内容を正確に読み取ることができる。
		15週	到達度試験（前期期末）	上記項目について学習した内容の理解度を確認する。
		16週	試験の解説と解答	前期中間試験の解説と解答、および授業アンケート
	3rdQ	1週	Lesson6	Lesson6の英文の構造を理解し、内容を正確に読み取ることができる。
		2週	Lesson6	Lesson6の英文の構造を理解し、内容を正確に読み取ることができる。
		3週	Lesson6	Lesson6の英文の構造を理解し、内容を正確に読み取ることができる。
		4週	Lesson6	Lesson6の英文の構造を理解し、内容を正確に読み取ることができる。
		5週	Lesson6	Lesson6の英文の構造を理解し、内容を正確に読み取ることができる。
		6週	Lesson6	Lesson6の英文の構造を理解し、内容を正確に読み取ることができる。
		7週	Lesson6	Lesson6の英文の構造を理解し、内容を正確に読み取ることができる。
		8週	到達度試験（後期中間）	上記項目について学習した内容の理解度を確認する。
4thQ	9週	試験の解説と解答 Lesson8	後期中間試験の解説と解答 Lesson8の英文の構造を理解し、内容を正確に読み取ることができる。	
	10週	Lesson8	Lesson8の英文の構造を理解し、内容を正確に読み取ることができる。	
	11週	Lesson8	Lesson8の英文の構造を理解し、内容を正確に読み取ることができる。	
	12週	Lesson8	Lesson8の英文の構造を理解し、内容を正確に読み取ることができる。	
	13週	Lesson8	Lesson8の英文の構造を理解し、内容を正確に読み取ることができる。	
	14週	Lesson8	Lesson8の英文の構造を理解し、内容を正確に読み取ることができる。	
	15週	到達度試験（後期期末）	上記項目について学習した内容の理解度を確認する。	
	16週	試験の解説と解答	後期期末試験の解説と解答、および授業アンケート	

モデルコアカリキュラムの学習内容と到達目標

分類	分野	学習内容	学習内容の到達目標	到達レベル	授業週
----	----	------	-----------	-------	-----

評価割合

	試験	発表	相互評価	態度	小テスト	ポートフォリオ	その他	合計
総合評価割合	60	0	0	10	20	0	10	100
基礎的能力	40	0	0	10	20	0	10	80
専門的能力	0	0	0	0	0	0	0	0
分野横断的能力	20	0	0	0	0	0	0	20

秋田工業高等専門学校		開講年度	平成29年度 (2017年度)	授業科目	英語 L L 演習 (3 E)
科目基礎情報					
科目番号	0011		科目区分	一般 / 必修	
授業形態	演習		単位の種別と単位数	履修単位: 1	
開設学科	一般教科 (人文科学系)		対象学年	3	
開設期	後期		週時間数	2	
教科書/教材	For and Against Expressing Opinions and Exchanging Ideas (成美堂)、副教材としてCROWN PLUS (三省堂)や英検の問題、大学入試過去問題、自作のプリントを使用する。参考図書: 『英語耳』松澤喜好著、『英語舌のつくり方』野中泉著、『世界一わかりやすい英語の発音』関正生著。				
担当教員	杉浦 克哉				
到達目標					
<p>1. 英語を正しく発音できる。英語の子音、母音を発音する際の口の形・大きさ、舌の位置、息の強さ等を覚えることにより正しく発音できる。</p> <p>2. リスニング力を向上させる。どのような訓練をすれば、聞き取りが難解な箇所でも聞き取れるようになるかを知り、自分で訓練できる。英検2級やセンター試験のリスニングの過去問題で常に8割以上の得点を取ることができる。</p> <p>3. 身近なことを平易な表現を用いてすぐに表現できる。</p> <p>4. 文法や語法上のミスが無いだけでなく説得力があり独創的な英文を作ることができる。</p> <p>5. 自分の考えを英語で口頭により伝え、他の学生にそれを理解させることができる。</p> <p>6. 英検2級合格に必要な語彙力、読解力、リスニング力、文法知識を習得する。</p>					
ループリック					
	理想的な到達レベルの目安	標準的な到達レベルの目安	未到達レベルの目安		
評価項目1	英語の子音、母音を発音する際の口の形・大きさ、舌の位置、息の強さ等を覚え、正しく発音できる。英語母語話者と話したとき、相手が聞き返すことがほとんど無く、会話を続けることができる。	英語の子音、母音を発音する際の口の形・大きさ、舌の位置、息の強さ等を覚え、正しく発音できる。	英語の子音、母音を発音する際、誤った口の形・大きさ、舌の位置、息の強さで発音してしまう。		
評価項目2	授業で学んだ聞き取りの訓練を毎日行っている。英検2級やセンター試験のリスニングの過去問題で常に9割以上の得点を取ることができる。センター試験のリスニング問題で常に8割以上の得点を取ることができる。	授業で学んだ聞き取りの訓練を毎日行っている。英検2級やセンター試験のリスニングの過去問題で常に8割以上の得点を取ることができる。センター試験のリスニング問題で常に7割以上の得点を取ることができる。	授業で学んだ聞き取りの訓練を時々行っただけである。英検2級やセンター試験のリスニングの過去問題の得点が8割未満である。センター試験のリスニング問題の正解率が7割未満である。		
評価項目3	文法や語法上のミスが無いだけでなく、説得力があり独創性のある内容の自由英作文を作ることができる。副詞や助動詞が適切に使われ豊富な語彙で英文が表される。	文法や語法上のミスが無いだけでなく、説得力があり独創性のある内容の自由英作文を作ることができる。	自由英作文を作成する際、文法や語法上のミスが多い。内容に説得力、独創性がない。		
評価項目4	自分の考えを英語で口頭により伝える際、聞き手が理解しているかどうかを確かめながら話すことができる。聞き手にとって理解が難しい箇所は、繰り返し言ったり、別の言葉で言い換えたりして、聞き手に理解させる努力ができる。	自分の考えを英語で口頭により伝える際、聞き手が理解しているかどうかを確かめながら話すことができる。	自分の考えを英語で口頭により伝える際、声が小さく、そして読めない語があるために時々詰まってしまう。聞き手に十分な配慮をすることなく、単に原稿を読むだけである。		
評価項目5	条件英作文の問題、語彙力を問うクイズを解いたとき全体の9割以上を正解できる。	条件英作文の問題、語彙力を問うクイズを解いたとき全体の8割以上を正解できる。	条件英作文の問題、語彙力を問うクイズを解いたとき正解率が全体の8割未満である。		
学科の到達目標項目との関係					
教育方法等					
概要	この授業の目標は、学生が英語を正しく発音できることとリスニング力を向上させることである。前者は、英語の子音、母音を発音する際の口の形・大きさ、舌の位置、息の強さ等を覚えることで正確な発音を習得する。後者は、英語母語話者による音声のCDを用い、聞き取りにくい箇所を何度も繰り返し聞き続け、さらにCDと同時に英語を発する訓練をすることで、英語を聞き取る力を向上させる。目安として英検2級やセンター試験のリスニングの過去問題で常に8割以上の得点を取ることが目標とする。正しく発音できればその音声も正確に聞き取ることができるゆえ、両者を訓練することは相乗効果を生む。授業の大きな目標はこの2つであるが、これら以外に1行から2行程度の長さの日本語を英語に翻訳する条件英作文、与えられたテーマに対し自分の考えを50語から100語程度で述べる自由英作文、口頭発表、英会話、語彙力を増やすための読解も補助的に行う。学生が英語に触れる機会を増やすために、授業の大部分は英語で行われる。文法の説明や読解は日本語で行うことがある。また学生は原則として英語で話さなければならない。授業の大部分を英語で行うのは英検対策も兼ねている。				
授業の進め方・方法	発音練習、クイズ(小テスト)、口頭発表、条件英作文、[読解、リスニング、自由英作文、英会話]、語彙力を増やすための読解を行う。[]で囲まれた部分は教科書 For and Against Expressing Opinions and Exchanging Ideasを用いて行う。授業2回で1つのUnitを終えることを目安とするが、進み方は変わる場合がある。条件英作文は CROWN PLUSを用いる。語彙力を増やすための読解は英検の問題や大学入試過去問題を用いる。その他の活動は自作のプリントにより行う。学生が復習しやすいように音声のみの動画を活用することがある。また、授業では発展的な内容を扱うことがある。クイズや定期試験では応用問題を出す場合がある。授業の進め方は変更される場合がある。予習として発表原稿の作成、発音練習、クイズ対策、口頭発表の練習、条件英作文・自由英作文の作成、教科書の理解をしていくこと。不明な語句は必ず全て辞書で調べ教科書やノート等にメモすること。復習として重要事項の暗記や聞き取りの練習をすること。必要に応じて音声のみの動画を視聴し授業内容を確認すること。				
注意点	眠り続けている学生へは単位を出さない場合がある。提出物や小レポート・エッセイの作成において剽窃や盗用があった場合、単位を出さない場合がある。 【評価方法】合格点は50点である。中間試験、期末試験以外にクイズ(小テスト)、レポート(提出物)、口頭発表も評価に加わる。小テストとしてリスニングの試験も行う。定期試験では試験に出る問題は原則として事前に伝えられないが、数問程度ならば事前に告知される場合がある。また、以下に示す評価割合は変更する場合がある。				
授業計画					
	週	授業内容		週ごとの到達目標	

後期	3rdQ	1週	授業の進め方と評価の仕方を説明する。 発音練習、クイズ(小テスト)、口頭発表、条件英作文、 [読解、リスニング、自由英作文、英会話]、語彙力を増やすための読解 ([]の部分はその日の授業で進められるところまで行い、次回の授業でその続きを行う。第2回目以降の授業は定期試験、試験返却を除き、全てこれと同じなので以下では省略。)、Unit 2	上記の「到達目標」「評価(ルーブリック)」に従う。 第2回目以降の授業は全てこれと同じなので以下では省略。
		2週	Unit 2	
		3週	Unit 4	
		4週	Unit 4	
		5週	Unit 6	
		6週	Unit 6	
		7週	到達度試験(後期中間)	
		8週	試験の解説、Unit 8	
	4thQ	9週	Unit 8	
		10週	Unit 10	
		11週	Unit 10	
		12週	Unit 12	
		13週	Unit 12	
		14週	Unit 14	
		15週	Unit 14	
		16週	到達度試験(後期期末)	

モデルコアカリキュラムの学習内容と到達目標

分類	分野	学習内容	学習内容の到達目標	到達レベル	授業週	
評価割合						
	試験	小テスト	発表	レポート	その他	合計
総合評価割合	50	20	5	5	20	100
基礎的能力	30	20	5	5	20	80
専門的能力	0	0	0	0	0	0
分野横断的能力	20	0	0	0	0	20

秋田工業高等専門学校		開講年度	平成29年度 (2017年度)	授業科目	英語会話 (3E)		
科目基礎情報							
科目番号	0012	科目区分	一般 / 必修				
授業形態	演習	単位の種別と単位数	履修単位: 1				
開設学科	一般教科 (人文科学系)	対象学年	3				
開設期	前期	週時間数	2				
教科書/教材	『New Time to Communicate コミュニケーション初級英語講座[改訂新版]』 南雲堂						
担当教員	小菅 智也, ジョズエ ジャック						
到達目標							
1 古い友達と久しぶりに会ったとき、自分の最近の出来事を相手に伝えることができる。 2 相手と出かける誘いをしたり、会議を設定したときに、時間と場所、内容を相手に伝えることができる。 3 相手に提案をしたり、相手と簡単な議論をすることができる。 4 自分や身近なことについて簡単なやり取りや質問・応答ができる。 5 自分の身近なことについて、前もって準備をすれば毎分100語程度の速度で約1分間の説明ができる。							
ループリック							
	理想的な到達レベルの目安	標準的な到達レベルの目安	未到達レベルの目安				
評価項目1	古い友達と久しぶりに会ったとき、自分の最近の出来事を英語を使って相手に伝えることができる。	古い友達と久しぶりに会ったとき、自分の最近の出来事を英語を使って相手になんとか伝えることができる。	古い友達と久しぶりに会ったとき、自分の最近の出来事を英語を使って相手に伝えることができない。				
評価項目2	時間と場所、内容を英語で相手に伝えることができる。	時間と場所、内容を英語でなんとか相手に伝えることができる。	時間と場所、内容を英語で相手に伝えることができない。				
評価項目3	英語で相手に提案をしたり、相手と簡単な議論をすることができる。	英語で相手に提案をしたり、相手と簡単な議論をすることが時間がかかっても何とかできる。	英語で相手に提案をしたり、相手と簡単な議論をすることができない。				
学科の到達目標項目との関係							
教育方法等							
概要	英語のネイティブスピーカーの発音に慣れ、英語の特に「聞く・話す」能力について、文法の誤りが多少あるが何とかコミュニケーションが可能であるというレベルを達成する。						
授業の進め方・方法	演習形式で行ない、必要に応じて適宜小テストを実施する。なお、到達度試験は授業中に英会話実技試験を行う。						
注意点	合格点は50点である。成績は、授業での英語でのコミュニケーションを取る積極性33%、実技試験結果67%で評価する。 学年総合成績 = (授業で英語を使おうとする積極性 + 英会話実技試験)						
授業計画							
	週	授業内容	週ごとの到達目標				
前期	1stQ	1週	授業のガイダンス Unit 1 Meeting People	授業の進め方と評価の仕方について説明する。 古い友達と久しぶりに会ったとき、自分の最近の出来事を相手に伝えることができる。 ・疑問文の英文を使うことができる。 ・現在形の英文を使うことができる。 ・There is構文の英文を使うことができる。			
		2週	Unit 2 Getting to Know Your Classmates	同上			
		3週	Unit 3 Talking About Classes	同上			
		4週	Unit 4 Talking About Your Daily Life	同上			
		5週	Unit 5 Talking About People -Personality	相手と出かける誘いをしたり、会議を設定したときに、時間と場所、内容を相手に伝えることができる。 ・助動詞の英文を使うことができる。 ・過去形の英文を使うことができる。 ・Wh-疑問文の英文を使うことができる。			
		6週	Unit 6 Talking About People	同上			
		7週	Unit 7 Talking About Last Weekend	同上			
		8週	Unit 8 Talking About the Vacation	同上			
	2ndQ	9週	Unit 9 Talking About Going Out on the Town	相手に提案したり、相手と簡単な議論をすることができる。 ・未来形の英語を使うことができる。 ・To不定詞、動名詞を含んだ英文を使うことができる。 ・自分の意見を英語で伝えることができる。 ・相手に、持っているスキルや過去に経験したことを質問できる。			
		10週	Unit 10 Talking About Foods and Recipes	同上			
		11週	Unit 11 Talking About Travel	同上			
		12週	Unit 12 Talking About Hometowns	同上			
		13週	Unit 13 Talking About Your Opinions	同上			
		14週	Unit 14 Talking About Future Plans	同上			
		15週	英会話実技試験	上記項目について学習した内容の理解度を確認する			
		16週	授業のまとめ	本授業のまとめ、および授業アンケート			
モデルコアカリキュラムの学習内容及到達目標							
分類	分野	学習内容	学習内容の到達目標	到達レベル	授業週		
評価割合							
	実技試験	発表	相互評価	態度	ポートフォリオ	その他	合計
総合評価割合	67	0	0	33	0	0	100

基礎的能力	67	0	0	33	0	0	100
專門的能力	0	0	0	0	0	0	0
分野横断的能力	0	0	0	0	0	0	0

秋田工業高等専門学校		開講年度	平成29年度 (2017年度)	授業科目	国語Ⅲ (3C)
科目基礎情報					
科目番号	0013	科目区分	一般 / 必修		
授業形態	授業	単位の種別と単位数	履修単位: 2		
開設学科	一般教科 (人文科学系)	対象学年	3		
開設期	通年	週時間数	2		
教科書/教材	『ちくま評論入門』改訂版 (筑摩書房) 『ちくま小説入門』 (筑摩書房) 国語辞典 (電子辞書も可) 『クリアカラー 国語便覧』 (数研出版) 『ステップアップ 日本語講座 中級』 (東京書籍)				
担当教員	橋本 博美				
到達目標					
1. 論理的文章の読解を通して、要旨や筆者の主張を把握し、自分なりに考えることができる。 2. 文学的文章の読解を通して、想像力や感じ取る力を磨き、心情を豊かにすることができる。 3. 俳句の創作を通して、文学的創作活動を体験するとともに、作品を鑑賞することができる。 4. 現代社会で求められるコミュニケーション能力を、正確かつ豊かに駆使することができる。					
ルーブリック					
	理想的な到達レベルの目安	標準的な到達レベルの目安	未到達レベルの目安		
評価項目1	論理的文章を読み、論旨を的確に理解し、要約し、自分の意見を説得力豊かにまとめることができる。	論理的文章を読み、論旨を理解し、要約し、自分の意見をまとめることができる。	論理的文章を読み、論旨を理解し、要約し、自分の意見をまとめることができない。		
評価項目2	文学的文章を読み、優れた表現に着目するとともに、表現の効果を踏まえて作品の魅力を説明することができる。	文学的文章を読み、場面や状況を踏まえた人物の行動や心情を理解することができる。	文学的文章を読み、場面や状況を理解できず、人物の行動や心情を表す表現を見つけない。		
評価項目3	俳句の創作を通して、文学的創作活動を体験するとともに、作品を鑑賞することができる。	俳句の創作をすることができる。	俳句の創作をすることができない。		
評価項目4	コミュニケーション能力を正確かつ豊かに発揮することができる。	コミュニケーション能力を発揮することができる。	コミュニケーション能力を発揮することができない。		
学科の到達目標項目との関係					
教育方法等					
概要	論理的文章、文学的文章を正確かつ豊かに読解することを通じて、考える力を養う。また、自分の考えを他者に正確に伝えるための表現力を磨く。				
授業の進め方・方法	講義形式で行う。適宜、小テストを実施し、レポート、作文等の提出を求めることがある。				
注意点	教科書、ノート、副教材、国語辞典を忘れずに準備して出席すること。新しい教材に入る前に、該当箇所を通読して授業に臨むこと。 合格点は50点である。到達度試験の成績の90%に、ノート整理・授業態度等平素の成績を10%として加え、評価する。 学年総合評価 = (前期末成績 + 後期末成績) ÷ 2。				
授業計画					
	週	授業内容	週ごとの到達目標		
前期	1stQ	1週	授業ガイダンス	授業の進め方と評価の仕方について説明する。	
		2週	未来の他者と連帯する	未来の他者との連帯につきまとう悲観と希望について理解し、説明することができる。	
		3週	未来の他者と連帯する	未来の他者との連帯の可能性について、自分の考えをまとめることができる。	
		4週	狐憑	シャクの人物像がどのように変化していったかを理解し、説明することができる。	
		5週	狐憑	聴衆や部落の人々のシャクに対する見方を捉え、説明することができる。	
		6週	俳句の創作	俳句の作り方を復習し、俳句を創作・鑑賞することができる。	
		7週	到達度試験 (前期中間)	上記項目について学習した内容の理解度を授業の中で確認する。	
		8週	試験の解説と解答	到達度試験の解説と解答。	
	2ndQ	9週	科学が宗教になる	ヨーロッパ近代がおこなった脱キリスト教化がもたらしたものについて理解し、説明することができる。	
		10週	科学が宗教になる	人間中心イデオロギーを超越する唯一のものとしての「科学」について理解し、説明することができる。	
		11週	科学が宗教になる	超越的存在としての「科学」の未来について、自分の考えをまとめることができる。	
		12週	どよどよ	物語る行為によって生じた樹子の気持ちの変化を捉え、説明することができる。	
		13週	どよどよ	「どよどよ」の意味について考え、説明することができる。	
		14週	どよどよ	樹子の気持ちの変化と「どよどよ」の意味を踏まえ、あらすじをまとめることができる。	
		15週	到達度試験 (前期末)	上記項目について学習した内容の理解度を授業の中で確認する。	
		16週	試験の解説と解答	到達度試験の解説と解答。	
後期	3rdQ	1週	貨幣と言語	貨幣と言語の二つの類似点を理解し、説明することができる。	
		2週	貨幣と言語	常識的な記号観による錯覚について理解し、説明することができる。	

4thQ	3週	貨幣と言語	「記号」はモノではなく関係の網の目であるという筆者の意見を踏まえ、自分の考えをまとめることができる。
	4週	四月のある晴れた朝に100パーセントの女の子に出会うことについて	「100パーセント」という表現の意味を理解し、説明することができる。
	5週	四月のある晴れた朝に100パーセントの女の子に出会うことについて	出会った朝と振り返る現在の「僕」の気持ちの流れを整理することができる。
	6週	四月のある晴れた朝に100パーセントの女の子に出会うことについて	「悲しい話」と「僕」の状況との呼応を踏まえてあらすじをまとめることができる。
	7週	到達度試験（後期中間）	上記項目について学習した内容の理解度を授業の中で確認する。
	8週	試験の解説と解答	到達度試験の解説と解答。
	9週	人間と政治	政治では動機でなく効果が重要とはどういうことか理解し、説明することができる。
	10週	人間と政治	政治の前提する「性悪説」について理解し、説明することができる。
	11週	人間と政治	政治とはどのような営みかを説明することができる。
	12週	失明の時代	日本の高度成長社会がもたらした病理について理解し、説明することができる。
	13週	失明の時代	高度成長社会の価値観とも言える全体主義思考について説明することができる。
	14週	失明の時代	高度成長社会の全体主義がもたらす人間破壊について自分の考えをまとめることができる。
	15週	到達度試験（後期末）	上記項目について学習した内容の理解度を授業の中で確認する。
	16週	試験の解説と解答	到達度試験の解説と解答、および授業アンケート。

モデルコアカリキュラムの学習内容と到達目標

分類	分野	学習内容	学習内容の到達目標	到達レベル	授業週		
評価割合							
	試験	発表	相互評価	態度	ポートフォリオ	その他	合計
総合評価割合	90	0	0	0	0	10	100
基礎的能力	30	0	0	0	0	3	33
専門的能力	30	0	0	0	0	3	33
分野横断的能力	30	0	0	0	0	4	34

秋田工業高等専門学校		開講年度	平成29年度 (2017年度)	授業科目	人類史Ⅱ (3C)
科目基礎情報					
科目番号	0014		科目区分	一般 / 必修	
授業形態	授業		単位の種別と単位数	履修単位: 2	
開設学科	一般教科 (人文科学系)		対象学年	3	
開設期	通年		週時間数	2	
教科書/教材	教科書: 「高等学校日本史B改訂版」伊藤純郎他著 清水書院、「新詳世界史B」帝国書院 (28年度2年次に使用したもの)、補助教科書: 「最新日本史図表」第一学習社、「グローバル」最新世界史図表」第一学習社 (28年度2年次に使用したもの)				
担当教員	吉葉 恭行				
到達目標					
1. 中世以降の日本の外交, 戦国大名の登場・織豊政権・幕藩体制のあゆみがわかる。 2. 開国から明治時代の日本の外交, 明治維新・立憲体制の確立とあゆみがわかる。 3. 第一次世界大戦からワシントン体制下の日本の外交と経済, 政党政治のあゆみがわかる。 4. 軍部の台頭と政党政治の崩壊, 第二次世界大戦に至るまでの日本の外交と終戦までのあゆみがわかる。					
ルーブリック					
		理想的な到達レベルの目安	標準的な到達レベルの目安	未到達レベルの目安	
評価項目1		中世以降の日本の外交と近世のあゆみを世界史と対比させて説明できる。	中世以降の日本の外交と近世のあゆみを説明できる。	中世以降の日本の外交と近世のあゆみを説明できない。	
評価項目2		開国から明治時代に至る日本の内政と外交を世界史と対比させて説明できる。	開国から明治時代に至る日本の内政と外交を説明できる。	開国から明治時代に至る日本の内政と外交を説明できない。	
評価項目3		第一次世界大戦からワシントン体制下の日本の内政と外交を世界史と対比させて説明できる。	第一次世界大戦からワシントン体制下の日本の内政と外交を説明できる。	第一次世界大戦からワシントン体制下の日本の内政と外交を説明できない。	
評価項目4		第二次世界大戦に至るまでの日本の外交と終戦までの過程を世界史と対比させて説明できる。	第二次世界大戦に至るまでの日本の外交と終戦までの過程を説明できる。	第二次世界大戦に至るまでの日本の外交と終戦までの過程を説明できない。	
学科の到達目標項目との関係					
教育方法等					
概要	日本近世・近現代の歴史を、世界の多様な地域の歴史、世界史の一環として理解するための基礎知識を修得する。				
授業の進め方・方法	講義形式で行う。必要に応じて適宜レポートや小テストを課す。試験結果が合格点に達しない場合、再試験を行うことがある。				
注意点	講義中、各自で説明のメモを取ることが必要である。わからない語句や漢字がある場合は自分で辞書を引き、わからない地名が出てきたときは自分で地図を参照する習慣を身につけることがポイントである。				
授業計画					
		週	授業内容	週ごとの到達目標	
前期	1stQ	1週	授業ガイダンス	授業の進め方と評価の仕方について説明する。	
		2週	1 幕藩体制 (1) 中世から近世へ	中世の外交, 戦国大名の登場と織豊政権について学ぶ。	
		3週	(2) 幕藩体制の成立と展開	幕藩体制の確立と鎖国体制について学ぶ。	
		4週			
		5週			
		6週	(3) 幕藩体制の動揺	三大改革の意義について学ぶ。	
		7週	到達度試験 (前期中間)	上記項目について学習した内容の理解度を確認する。	
		8週	2 近代国家の成立 (1) 開国と明治維新	開国から明治維新に至る過程について学ぶ。	
	2ndQ	9週			
		10週			
		11週	(2) 立憲国家の成立	立憲国家の成立と展開について学ぶ。	
		12週			
		13週	(3) 日清戦争と日露戦争	日清・日露戦争前後の内政・外交について学ぶ。	
		14週			
		15週			
		16週	到達度試験 (前期末)	上記項目について学習した内容の理解度を確認する。	
後期	3rdQ	1週	3 第一次世界大戦と日本の経済 (1) 第一次世界大戦と日本	第一次世界大戦に日本がどうかかわったのかについて学ぶ。	
		2週			
		3週	(2) ワシントン体制の成立	国際的協調体制の進展と国際環境の推移について学ぶ。	
		4週			
		5週	(3) 政党内閣と昭和初期の外交	政党内閣の成立と昭和初期の外交について学ぶ。	
		6週			
		7週	到達度試験 (後期中間)	上記項目について学習した内容の理解度を確認する。	
	4thQ	8週	4 軍部の台頭と第二次世界大戦 (1) 昭和恐慌と満州事変	金融恐慌の発生から政党政治の崩壊に至る過程について学ぶ。 軍部の台頭と日中戦争に至る過程について学ぶ。	
		9週			
		10週			

	11週	(2) 日中戦争	日米交渉から開戦、そして終戦までの過程について学ぶ。
	12週		
	13週	(3) 第二次世界大戦と日本	日米交渉から開戦、そして終戦までの過程について学ぶ。
	14週		
	15週		
	16週	到達度試験（後期末）	上記項目について学習した内容の理解度を確認する。

モデルコアカリキュラムの学習内容と到達目標

分類	分野	学習内容	学習内容の到達目標	到達レベル	授業週
----	----	------	-----------	-------	-----

評価割合

	試験	発表	相互評価	態度	ポートフォリオ	その他	レポート	合計
総合評価割合	70	0	0	10	0	0	20	100
基礎的能力	50	0	0	0	0	0	5	55
専門的能力	0	0	0	0	0	0	0	0
分野横断的能力	0	0	0	0	0	0	0	0
思考・推論・創造への適用力	10	0	0	0	0	0	5	15
汎用的技能	0	0	0	5	0	0	5	10
態度・嗜好性	0	0	0	5	0	0	0	5
総合的な学習経験と創造的思考力	10	0	0	0	0	0	5	15

秋田工業高等専門学校		開講年度	平成29年度 (2017年度)	授業科目	科学技術史 (3C)			
科目基礎情報								
科目番号	0015		科目区分	一般 / 必修				
授業形態	授業		単位の種別と単位数	履修単位: 1				
開設学科	一般教科 (人文科学系)		対象学年	3				
開設期	前期		週時間数	2				
教科書/教材	教科書: 『科学史年表』 小山慶太著 中央公論新社、その他: 自製プリントの配布							
担当教員	吉葉 恭行							
到達目標								
ルーブリック								
	理想的な到達レベルの目安		標準的な到達レベルの目安		未到達レベルの目安			
評価項目1	自然科学誕生の歴史的前提を具体的に説明できる。		自然科学誕生の歴史的前提を概略説明できる。		自然科学誕生の歴史的前提を説明できない。			
評価項目2	物理学を柱にした近代科学の成立過程を具体的に説明できる。		物理学を柱にした近代科学の成立過程を概略説明できる。		物理学を柱にした近代科学の成立過程を説明できない。			
評価項目3	産業革命と科学及び技術の関係を具体的に説明できる。		産業革命と科学及び技術の関係を概略説明できる。		産業革命と科学及び技術の関係を説明できない。			
評価項目4	近代産業と科学技術の関係を具体的に説明できる。		近代産業と科学技術の関係を概略説明できる。		近代産業と科学技術の関係を説明できない。			
学科の到達目標項目との関係								
教育方法等								
概要	科学・技術の歴史について基本的な知識を身につけると共に、現代社会において大きな役割を担っている「科学技術」(Science Based Technology)の諸特徴について、歴史学的手法による学習を通して、読み解く能力を修得する。							
授業の進め方・方法	講義形式で行う。必要に応じて適宜課題レポートの提出および課題のプレゼンテーションを求める。							
注意点	授業中は板書を書き取るだけでなく、口頭による説明についても各自メモを取る習慣を身につける必要がある。授業内容を深く理解するために、参考文献やインターネット等の複数メディアを活用し、資料収集し学ぶ方法 (スキル) を身につけるよう心がけること。							
授業計画								
		週	授業内容			週ごとの到達目標		
前期	1stQ	1週	授業ガイダンス			授業の進め方と評価の仕方について説明する。		
		2週	1 自然科学の誕生 (1) 自然科学誕生前史			自然科学誕生の歴史的前提がわかる。		
		3週	(2) 17世紀の歩み			物理学を柱にした近代科学の成立過程がわかる。		
		4週						
		5週	(3) 18世紀の歩み			産業革命と科学及び技術の関係がわかる。		
		6週						
		7週	(4) 19世紀前半の歩み			近代科学の諸領域の成立・展開過程がわかる。		
		8週	到達度試験 (前期中間)			上記項目について学習した内容の理解度を確認する。		
	2ndQ	9週	2 科学技術の発展 (1) 19世紀後半の歩み			近代科学の飛躍過程がわかる。		
		10週						
		11週	(2) 20世紀前半の歩み			近代産業と科学技術の関係がわかる。		
		12週						
		13週	(3) 20世紀後半の歩み			高度科学技術社会への展開過程がわかる。		
		14週						
		15週	(4) 20世紀末の展開			科学技術の利用から生じた人類の課題がわかる。		
		16週	到達度試験 (前期末)			上記項目について学習した内容の理解度を確認する。		
モデルコアカリキュラムの学習内容と到達目標								
分類	分野	学習内容	学習内容の到達目標				到達レベル	授業週
評価割合								
	試験	発表	相互評価	態度	ポートフォリオ	その他	レポート	合計
総合評価割合	60	10	0	10	0	0	20	100
基礎的能力	60	0	0	0	0	0	5	65
専門的能力	0	0	0	0	0	0	0	0
分野横断的能力	0	0	0	0	0	0	0	0
思考・推論・創造への適用力	0	0	0	0	0	0	5	5
汎用的技能	0	5	0	5	0	0	5	15
態度・嗜好性 (人間力)	0	5	0	5	0	0	0	10
総合的な学習経験と創造的思考力	0	0	0	0	0	0	5	5

秋田工業高等専門学校		開講年度	平成29年度 (2017年度)	授業科目	英語Ⅲ (3C)
科目基礎情報					
科目番号	0017		科目区分	一般 / 必修	
授業形態	授業		単位の種別と単位数	履修単位: 2	
開設学科	一般教科 (人文科学系)		対象学年	3	
開設期	通年		週時間数	2	
教科書/教材	教科書 : CROWN PLUS English Series Level 4 三省堂 トに出る順英単語 中経出版, 英作文基本300選 駿台文庫			補助教材: 新TOEICテスト	
担当教員	黒木 暁人				
到達目標					
1. 医学生初めての臨床実習について書かれた英文を読み、内容を理解できる。2. 優生学にまつわる英文を読み、内容を理解できる。3. トーマス・ヤングについて書かれた英文を読み、内容を理解できる。4. 有名な短編小説の一節を読み、内容を理解できる。					
ルーブリック					
	理想的な到達レベルの目安		標準的な到達レベルの目安		未到達レベルの目安
評価項目1	医学生初めての臨床実習について書かれた英文を文法事項に則して読み、正確に内容を理解できる。		医学生初めての臨床実習について書かれた英文を文法事項に則して読み、概ね内容を理解できる。		医学生初めての臨床実習について書かれた英文を文法事項に則して読み、内容を理解することができない。
評価項目2	優生学にまつわる英文を文法事項に則して読み、正確に内容を理解できる。		優生学にまつわる英文を文法事項に則して読み、概ね内容を理解できる。		優生学にまつわる英文を文法事項に則して読み、内容を理解できない。
評価項目3	トーマス・ヤングについて書かれた英文を文法事項に則して読み、会話のやりとりのおもしろさなど、正確に内容を理解できる。		トーマス・ヤングについて書かれた英文を文法事項に則して読み、会話のやりとりのおもしろさなど、概ね内容を理解できる。		トーマス・ヤングについて書かれた英文を文法事項に則して読み、会話のやりとりのおもしろさなどの内容を理解できない。
学科の到達目標項目との関係					
教育方法等					
概要	文法・語彙運用に関する基礎的な学力を修得するとともに英文読解力を強化する。また英作文をする上での基本を学び、基礎となる英文を修得する。				
授業の進め方・方法	演習形式 (予習として各自が取り組んだ課題を授業で確認する) で行う。適宜、単語および英作文の小テストを実施し、毎回課題 (予習) を課す。試験結果が合格点に達しない場合、再試験を行うことがある。				
注意点	<p>〔評価方法〕 合格点は50点である。各中間・期末の成績は、試験結果70%、小テスト・演習課題・宿題20%、授業態度を10%で評価する。なお、英検の結果を評価に加える。課題未提出者は単位取得が困難となるので注意すること。 学年総合成績 = (到達度試験 (前期未成績) 評価点 + 到達度試験 (学年未成績) 評価点) / 2</p> <p>〔認証評価関連科目〕 英語Ⅰ, 英語Ⅲ, 英語LL演習, 英語会話, 総合英語Ⅰ, 総合英語Ⅱ, 上級英語</p> <p>〔学習上の注意〕 辞書を活用し、予習を行う。また英単語・英作文の暗記 (暗唱) に努める。</p>				
授業計画					
		週	授業内容	週ごとの到達目標	
前期	1stQ	1週	授業ガイダンス	授業の進め方と評価の仕方について説明する。	
		2週	Lesson 3 A Good Story 英単語2026-2109	getを用いた使役の用法を学ぶ。	
		3週	Lesson 3 A Good Story 英作文1-30	分詞構文を用いて動作を列挙する表現を学ぶ。	
		4週	Lesson 3 A Good Story 英単語2110-2193	条件節を強調する表現を学ぶ。	
		5週	Lesson 3 A Good Story 英作文31-60	まず結論を述べ、そのあとに具体的に説明する表現を学ぶ。	
		6週	Lesson 3 A Good Story 英単語2194-2277	表現を駆使し、自分の力で英作文を行う。	
		7週	到達度試験 (前期中間試験)	上記項目について学習した内容の理解度を確認する。	
		8週	試験の解説と解答	到達度試験の解説と解答	
	2ndQ	9週	Lesson7 Babies by Design 英作文61-90	分詞を用いて情報を付け加える表現を学ぶ。	
		10週	Lesson7 Babies by Design 英単語2278-2361	関係代名詞を用いて詳しい情報を補足する用法を学ぶ。	
		11週	Lesson7 Babies by Design 英作文91-120	前文を抽象語でまとめる表現を学ぶ。	
		12週	Lesson7 Babies by Design 英単語2362-2445	「～仮定する」に相当する様々な英語表を学ぶ。	
		13週	Lesson7 Babies by Design 英作文121-150	優生学とナチスの関係について学ぶ。	
		14週	Lesson7 Babies by Design 英単語2446-2529	表現を駆使し、自分の力で英作文を行う。	
		15週	到達度試験 (前期末試験)	上記項目について学習した内容の理解度を確認する。	
		16週	試験の解説と解答	到達度試験の解説と解答、および授業アンケート	
後期	3rdQ	1週	Lesson 11 Man of Vision: Thomas Young 英作文151-180	トーマス・ヤングの生い立ちについて学ぶ。	
		2週	Lesson 11 Man of Vision: Thomas Young 英単語2530-2613	トーマス・ヤングの光の性質への関心について学ぶ。	
		3週	Lesson 11 Man of Vision: Thomas Young 英作文181-210	「光粒子」説について学ぶ。	
		4週	Lesson 11 Man of Vision: Thomas Young 英単語2614-2697	「光波動」説について学ぶ。	
		5週	Lesson 11 Man of Vision: Thomas Young 英作文211-240	トーマス・ヤングの行った実験について学ぶ。	
		6週	Lesson 11 Man of Vision: Thomas Young 英単語2698-2781	表現を駆使し、自分の力で英作文を行う。	
		7週	到達度試験 (後期中間試験)	上記項目について学習した内容の理解度を確認する。	

4thQ	8週	試験の解説と解答	到達度試験の解説と解答
	9週	Lesson12 The Doll's House 英作文241-270	「～と思われる」に相当する様々な表現を学ぶ。
	10週	Lesson12 The Doll's House 英単語2782-2865	「いくら～しても～しすぎることはない」に相当する様々な表現を学ぶ。
	11週	Lesson12 The Doll's House 英作文270-300	allを最初に言って、それに含まれるものを具体的に並べる表現について学ぶ。
	12週	Lesson12 The Doll's House 英単語2866-2949	説明した内容を簡潔に数語でまとめる表現技法を学ぶ。
	13週	Lesson12 The Doll's House 英作文1-300	物語の概要を理解する。
	14週	Lesson12 The Doll's House 英単語2949-3000	表現を駆使し、自分の力で英作文を行う。
	15週	到達度試験（学年末試験）	上記項目について学習した内容の理解度を確認する。
16週	試験の解説と解答	到達度試験の解説と解答、および授業アンケート	

モデルコアカリキュラムの学習内容と到達目標

分類	分野	学習内容	学習内容の到達目標	到達レベル	授業週
----	----	------	-----------	-------	-----

評価割合

	試験	発表	相互評価	態度	ポートフォリオ	その他	合計
総合評価割合	70	0	0	10	0	20	100
基礎的能力	70	0	0	10	0	20	100
専門的能力	0	0	0	0	0	0	0
分野横断的能力	0	0	0	0	0	0	0

秋田工業高等専門学校		開講年度	平成29年度 (2017年度)	授業科目	英語 L L 演習 (3 C)	
科目基礎情報						
科目番号	0018		科目区分	一般 / 必修		
授業形態	演習		単位の種別と単位数	履修単位: 1		
開設学科	一般教科 (人文科学系)		対象学年	3		
開設期	前期		週時間数	2		
教科書/教材	For and Against Expressing Opinions and Exchanging Ideas (成美堂)、辞書: 英和辞典、和英辞典 (電子辞書可)、副教材: 自製プリントの配布					
担当教員	杉浦 克哉, 大西 絵理香					
到達目標						
1. 英語の母音、子音の発音の仕方を理解し、発音記号で示される単語の発音を自らも発音できる。 2. 英語検定準2級～2級に合格できる英語力を身につける。 3. 英文で書かれたさまざまな意見を、「読む」「聞く」の技能で理解できる。 4. これまで学んだ語彙や文法を活用して、与えられたテーマについて自らの考えを英作文で表現できる。 5. 与えられたテーマについて自分の考えを英語で発表し、他者に伝えることができる。						
ルーブリック						
	理想的な到達レベルの目安	標準的な到達レベルの目安	未到達レベルの目安			
評価項目1	英語の母音、子音の発音の仕方を完全に理解し、発音記号で示される単語の発音を自らも発音できる。	英語の母音、子音の発音の仕方を十分に理解し、発音記号で示される単語の発音を自らも発音できる。	英語の母音、子音の発音の理解が不十分で、発音記号で示される単語の発音を自らも発音できない。			
評価項目2	英検準2級～2級に合格できる英語力を十分に身につけている。	英検準2級～2級に合格できる英語力をほぼ身につけている。	英検準2級～2級に合格できる英語力を十分に身につけていない。			
評価項目3	英文で書かれたさまざまな意見を「読む」「聞く」の技能で完全に理解できる。	英文で書かれたさまざまな意見を「読む」「聞く」の技能で十分に理解できる。	英文で書かれたさまざまな意見を「読む」「聞く」の技能で十分に理解できない。			
評価項目4	これまで学んだ語彙や文法を活用して、与えられたテーマについて自らの考えを英作文で誤りなく表現できる。	これまで学んだ語彙や文法を活用して、与えられたテーマについて自らの考えを英作文で十分に表現できる。	これまで学んだ語彙や文法を活用できず、与えられたテーマについて自らの考えを英作文で表現できない。			
評価項目5	与えられたテーマについて自分の考えを英語で流暢に発表し、他者に伝えることができる。	与えられたテーマについて自分の考えを英語で発表し、他者に伝えることができる。	与えられたテーマについて、自分の考えを英語で発表し他者に伝えることができない。			
学科の到達目標項目との関係						
教育方法等						
概要	英語の音声の基本として、さまざまな母音、子音について学ぶ。音の違いを聞き分け、自らも発音できるようになることを目標とする。また、英語で意見交換できる力を目的に作られた教科書の学習を通して、英語で表現された他者の意見を理解し、自分の考えも表現するための演習を行っていく。					
授業の進め方・方法	演習形式で行う。初期の段階で、発音学習の基礎となる英語の各種母音、子音の発音の仕方を学ぶ。また、教科書を用いて現代社会で注目されている問題を把握し他者の考えを理解する力とともに、テーマに沿って自分の考えを英語で表現するスキルを身につける。英語を「聞く」「読む」技能に加えて、「書く」「話す」の技能も伸ばすための演習も行う。					
注意点	教科書、辞書、副教材を忘れずに授業に持参すること。到達目標に示された内容を意識して、積極的に授業に参加することが望ましい。 合格点は50点である。到達度試験は授業の時間内に行う。リスニングの試験は、授業の中で小テストとして行う。 期末総合評価 = (中間成績 + 期末成績) / 2					
授業計画						
	週	授業内容	週ごとの到達目標			
前期	1stQ	1週	ガイダンス 英語の発音について (母音、子音) 授業の進め方、評価の仕方を説明する。 各種母音、子音の発音のしくみについて学ぶ			
		2週	英語の発音について (母音、子音) 各種母音、子音の発音のしくみについて学ぶ			
		3週	Unit 3 Fashion 若者とファッションの関係について考える			
		4週	Unit 6 Junk food ジャンクフードの問題について考える			
		5週	Unit 7 Paternity leave 男性の育児休暇について考える			
		6週	中間のまとめ 中間のまとめを行う			
		7週	到達度試験 (前期中間) 授業時間内に行う			
		8週	試験の解説 中間試験の解説を行う			
	2ndQ	9週	Unit 10 Animal testing 動物実験の是非について考える			
		10週	Unit 11 Temporary workers 非正規雇用者の問題について考える			
		11週	Unit 14 Genetically modified food 遺伝子組み換え食品の問題について考える			
		12週	Unit 15 Welfare 福祉のあり方について考える			
		13週	期末のまとめ 期末のまとめを行う			

	14週	到達度試験（前期期末） 授業時間内に行う	
	15週	試験の解説 期末試験の解説、授業アンケート	
	16週		

モデルコアカリキュラムの学習内容と到達目標

分類	分野	学習内容	学習内容の到達目標	到達レベル	授業週
----	----	------	-----------	-------	-----

評価割合

	試験	小テスト	レポート	口頭発表	ポートフォリオ	合計
総合評価割合	50	20	20	10	0	100
基礎的能力	30	20	0	0	0	50
専門的能力	20	0	20	10	0	50
分野横断的能力	0	0	0	0	0	0

秋田工業高等専門学校		開講年度	平成29年度 (2017年度)	授業科目	英語会話 (3C)		
科目基礎情報							
科目番号	0019	科目区分	一般 / 必修				
授業形態	演習	単位の種別と単位数	履修単位: 1				
開設学科	一般教科 (人文科学系)	対象学年	3				
開設期	後期	週時間数	2				
教科書/教材	『New Time to Communicate コミュニケーション初級英語講座[改訂新版]』 南雲堂						
担当教員	小菅 智也, ジョズエ ジャック						
到達目標							
1 古い友達と久しぶりに会ったとき、自分の最近の出来事を相手に伝えることができる。 2 相手と出かける誘いをしたり、会議を設定したときに、時間と場所、内容を相手に伝えることができる。 3 相手に提案をしたり、相手と簡単な議論をすることができる。 4 自分や身近なことについて簡単なやり取りや質問・応答ができる。 5 自分の身近なことについて、前もって準備をすれば毎分100語程度の速度で約1分間の説明ができる。							
ループリック							
	理想的な到達レベルの目安	標準的な到達レベルの目安	未到達レベルの目安				
評価項目1	古い友達と久しぶりに会ったとき、自分の最近の出来事を英語を使って相手に伝えることができる。	古い友達と久しぶりに会ったとき、自分の最近の出来事を英語を使って相手になんとか伝えることができる。	古い友達と久しぶりに会ったとき、自分の最近の出来事を英語を使って相手に伝えることができない。				
評価項目2	時間と場所、内容を英語で相手に伝えることができる。	時間と場所、内容を英語でなんとか相手に伝えることができる。	時間と場所、内容を英語で相手に伝えることができない。				
評価項目3	英語で相手に提案をしたり、相手と簡単な議論をすることができる。	英語で相手に提案をしたり、相手と簡単な議論をすることが時間がかかっても何とかできる。	英語で相手に提案をしたり、相手と簡単な議論をすることができない。				
学科の到達目標項目との関係							
教育方法等							
概要	英語のネイティブスピーカーの発音に慣れ、英語の特に「聞く・話す」能力について、文法の誤りが多少あるが何とかコミュニケーションが可能であるというレベルを達成する。						
授業の進め方・方法	演習形式で行ない、必要に応じて適宜小テストを実施する。なお、到達度試験は授業中に英会話実技試験を行う。						
注意点	合格点は50点である。成績は、授業での英語でのコミュニケーションを取る積極性33%、実技試験結果67%で評価する。 学年総合成績 = (授業で英語を使おうとする積極性 + 英会話実技試験)						
授業計画							
	週	授業内容	週ごとの到達目標				
後期	3rdQ	1週	授業のガイダンス Unit 1 Meeting People	授業の進め方と評価の仕方について説明する。 古い友達と久しぶりに会ったとき、自分の最近の出来事を相手に伝えることができる。 ・疑問文の英文を使うことができる。 ・現在形の英文を使うことができる。 ・There is構文の英文を使うことができる。			
		2週	Unit 2 Getting to Know Your Classmates	同上			
		3週	Unit 3 Talking About Classes	同上			
		4週	Unit 4 Talking About Your Daily Life	同上			
		5週	Unit 5 Talking About People -Personality	相手と出かける誘いをしたり、会議を設定したときに、時間と場所、内容を相手に伝えることができる。 ・助動詞の英文を使うことができる。 ・過去形の英文を使うことができる。 ・Wh-疑問文の英文を使うことができる。			
		6週	Unit 6 Talking About People	同上			
		7週	Unit 7 Talking About Last Weekend	同上			
		8週	Unit 8 Talking About the Vacation	同上			
	4thQ	9週	Unit 9 Talking About Going Out on the Town	相手に提案したり、相手と簡単な議論をすることができる。 ・未来形の英語を使うことができる。 ・To不定詞、動名詞を含んだ英文を使うことができる。 ・自分の意見を英語で伝えることができる。 ・相手に、持っているスキルや過去に経験したことを質問できる。			
		10週	Unit 10 Talking About Foods and Recipes	同上			
		11週	Unit 11 Talking About Travel	同上			
		12週	Unit 12 Talking About Hometowns	同上			
		13週	Unit 13 Talking About Your Opinions	同上			
		14週	Unit 14 Talking About Future Plans	同上			
		15週	英会話実技試験	上記項目について学習した内容の理解度を確認する			
		16週	授業のまとめ	本授業のまとめ、および授業アンケート			
モデルコアカリキュラムの学習内容及到達目標							
分類	分野	学習内容	学習内容の到達目標	到達レベル	授業週		
評価割合							
	実技試験	発表	相互評価	態度	ポートフォリオ	その他	合計
総合評価割合	67	0	0	33	0	0	100

基礎的能力	67	0	0	33	0	0	100
專門的能力	0	0	0	0	0	0	0
分野横断的能力	0	0	0	0	0	0	0

秋田工業高等専門学校		開講年度	平成29年度 (2017年度)	授業科目	国語Ⅲ (3B)
科目基礎情報					
科目番号	0020	科目区分	一般 / 必修		
授業形態	授業	単位の種別と単位数	履修単位: 2		
開設学科	一般教科 (人文科学系)	対象学年	3		
開設期	通年	週時間数	2		
教科書/教材	『ちくま評論入門』改訂版 (筑摩書房) 『ちくま小説入門』 (筑摩書房) 国語辞典 (電子辞書も可) 『クリアカラー 国語便覧』 (数研出版) 『ステップアップ 日本語講座 中級』 (東京書籍)				
担当教員	照井 一美				
到達目標					
1. 論理的文章の読解を通して、要旨や筆者の主張を把握し、自分なりに考えることができる。 2. 文学的文章の読解を通して、想像力や感じ取る力を磨き、心情を豊かにすることができる。 3. 俳句の創作を通して、文学的創作活動を体験するとともに、作品を鑑賞することができる。 4. 現代社会で求められるコミュニケーション能力を、正確かつ豊かに駆使することができる。					
ルーブリック					
	理想的な到達レベルの目安	標準的な到達レベルの目安	未到達レベルの目安		
評価項目1	論理的文章を読み、論旨を的確に理解し、要約し、自分の意見を説得力豊かにまとめることができる。	論理的文章を読み、論旨を理解し、要約し、自分の意見をまとめることができる。	論理的文章を読み、論旨を理解し、要約し、自分の意見をまとめることができない。		
評価項目2	文学的文章を読み、優れた表現に着目するとともに、表現の効果を踏まえて作品の魅力を説明することができる。	文学的文章を読み、場面や状況を踏まえた人物の行動や心情を理解することができる。	文学的文章を読み、場面や状況を理解できず、人物の行動や心情を表す表現を見つることができない。		
評価項目3	俳句の創作を通して、文学的創作活動を体験するとともに、作品を鑑賞することができる。	俳句の創作をすることができる。	俳句の創作をすることができない。		
評価項目4	コミュニケーション能力を正確かつ豊かに発揮することができる。	コミュニケーション能力を発揮することができる。	コミュニケーション能力を発揮することができない。		
学科の到達目標項目との関係					
教育方法等					
概要	論理的文章、文学的文章を正確かつ豊かに読解することを通じて、考える力を養う。また、自分の考えを他者に正確に伝えるための表現力を磨く。				
授業の進め方・方法	講義形式で行う。適宜、小テストを実施し、レポート、作文等の提出を求めることがある。				
注意点	教科書、ノート、副教材、国語辞典を忘れずに準備して出席すること。新しい教材に入る前に、該当箇所を通読して授業に臨むこと。 合格点は50点である。到達度試験の成績の90%に、ノート整理・授業態度等平素の成績を10%として加え、評価する。 学年総合評価 = (前期末成績 + 後期末成績) ÷ 2。				
授業計画					
		週	授業内容	週ごとの到達目標	
前期	1stQ	1週	授業ガイダンス	授業の進め方と評価の仕方について説明する。	
		2週	未来の他者と連帯する	未来の他者との連帯につきまとう悲観と希望について理解し、説明することができる。	
		3週	未来の他者と連帯する	未来の他者との連帯の可能性について、自分の考えをまとめることができる。	
		4週	狐憑	シャクの人物像がどのように変化していったかを理解し、説明することができる。	
		5週	狐憑	聴衆や部落の人々のシャクに対する見方を捉え、説明することができる。	
		6週	俳句の創作	俳句の作り方を復習し、俳句を創作・鑑賞することができる。	
		7週	到達度試験 (前期中間)	上記項目について学習した内容の理解度を授業の中で確認する。	
		8週	試験の解説と解答	到達度試験の解説と解答。	
	2ndQ	9週	科学が宗教になる	ヨーロッパ近代がおこなった脱キリスト教化がもたらしたものについて理解し、説明することができる。	
		10週	科学が宗教になる	人間中心イデオロギーを超越する唯一のものとしての「科学」について理解し、説明することができる。	
		11週	科学が宗教になる	超越的存在としての「科学」の未来について、自分の考えをまとめることができる。	
		12週	どよどよ	物語る行為によって生じた樹子の気持ちの変化を捉え、説明することができる。	
		13週	どよどよ	「どよどよ」の意味について考え、説明することができる。	
		14週	どよどよ	樹子の気持ちの変化と「どよどよ」の意味を踏まえ、あらすじをまとめることができる。	
		15週	到達度試験 (前期末)	上記項目について学習した内容の理解度を授業の中で確認する。	
		16週	試験の解説と解答	到達度試験の解説と解答。	
後期	3rdQ	1週	貨幣と言語	貨幣と言語の二つの類似点を理解し、説明することができる。	
		2週	貨幣と言語	常識的な記号観による錯覚について理解し、説明することができる。	

4thQ	3週	貨幣と言語	「記号」はモノではなく関係の網の目であるという筆者の意見を踏まえ、自分の考えをまとめることができる。
	4週	四月のある晴れた朝に100パーセントの女の子に出会うことについて	「100パーセント」という表現の意味を理解し、説明することができる。
	5週	四月のある晴れた朝に100パーセントの女の子に出会うことについて	出会った朝と振り返る現在の「僕」の気持ちの流れを整理することができる。
	6週	四月のある晴れた朝に100パーセントの女の子に出会うことについて	「悲しい話」と「僕」の状況との呼応を踏まえてあらすじをまとめることができる。
	7週	到達度試験（後期中間）	上記項目について学習した内容の理解度を授業の中で確認する。
	8週	試験の解説と解答	到達度試験の解説と解答。
	9週	人間と政治	政治では動機でなく効果が重要とはどういうことか理解し、説明することができる。
	10週	人間と政治	政治の前提する「性悪説」について理解し、説明することができる。
	11週	人間と政治	政治とはどのような営みかを説明することができる。
	12週	失明の時代	日本の高度成長社会がもたらした病理について理解し、説明することができる。
	13週	失明の時代	高度成長社会の価値観とも言える全体主義思考について説明することができる。
	14週	失明の時代	高度成長社会の全体主義がもたらす人間破壊について自分の考えをまとめることができる。
	15週	到達度試験（後期末）	上記項目について学習した内容の理解度を授業の中で確認する。
	16週	試験の解説と解答	到達度試験の解説と解答、および授業アンケート。

モデルコアカリキュラムの学習内容と到達目標

分類	分野	学習内容	学習内容の到達目標	到達レベル	授業週		
評価割合							
	試験	発表	相互評価	態度	ポートフォリオ	その他	合計
総合評価割合	90	0	0	0	0	10	100
基礎的能力	30	0	0	0	0	3	33
専門的能力	30	0	0	0	0	3	33
分野横断的能力	30	0	0	0	0	4	34

秋田工業高等専門学校		開講年度	平成29年度 (2017年度)	授業科目	人類史Ⅱ (3B)
科目基礎情報					
科目番号	0021		科目区分	一般 / 必修	
授業形態	授業		単位の種別と単位数	履修単位: 2	
開設学科	一般教科 (人文科学系)		対象学年	3	
開設期	通年		週時間数	2	
教科書/教材	教科書: 「高等学校日本史B改訂版」伊藤純郎他著 清水書院、「新詳世界史B」帝国書院 (28年度2年次に使用したもの)、補助教科書: 「最新日本史図表」第一学習社、「グローバル」最新世界史図表」第一学習社 (28年度2年次に使用したもの)				
担当教員	吉葉 恭行				
到達目標					
1. 中世以降の日本の外交, 戦国大名の登場・織豊政権・幕藩体制のあゆみがわかる。 2. 開国から明治時代の日本の外交, 明治維新・立憲体制の確立とあゆみがわかる。 3. 第一次世界大戦からワシントン体制下の日本の外交と経済, 政党政治のあゆみがわかる。 4. 軍部の台頭と政党政治の崩壊, 第二次世界大戦に至るまでの日本の外交と終戦までのあゆみがわかる。					
ルーブリック					
		理想的な到達レベルの目安	標準的な到達レベルの目安	未到達レベルの目安	
評価項目1		中世以降の日本の外交と近世のあゆみを世界史と対比させて説明できる。	中世以降の日本の外交と近世のあゆみを説明できる。	中世以降の日本の外交と近世のあゆみを説明できない。	
評価項目2		開国から明治時代に至る日本の内政と外交を世界史と対比させて説明できる。	開国から明治時代に至る日本の内政と外交を説明できる。	開国から明治時代に至る日本の内政と外交を説明できない。	
評価項目3		第一次世界大戦からワシントン体制下の日本の内政と外交を世界史と対比させて説明できる。	第一次世界大戦からワシントン体制下の日本の内政と外交を説明できる。	第一次世界大戦からワシントン体制下の日本の内政と外交を説明できない。	
評価項目4		第二次世界大戦に至るまでの日本の外交と終戦までの過程を世界史と対比させて説明できる。	第二次世界大戦に至るまでの日本の外交と終戦までの過程を説明できる。	第二次世界大戦に至るまでの日本の外交と終戦までの過程を説明できない。	
学科の到達目標項目との関係					
教育方法等					
概要	日本近世・近現代の歴史を、世界の多様な地域の歴史、世界史の一環として理解するための基礎知識を修得する。				
授業の進め方・方法	講義形式で行う。必要に応じて適宜レポートや小テストを課す。試験結果が合格点に達しない場合、再試験を行うことがある。				
注意点	講義中、各自で説明のメモを取ることが必要である。わからない語句や漢字がある場合は自分で辞書を引き、わからない地名が出てきたときは自分で地図を参照する習慣を身につけることがポイントである。				
授業計画					
		週	授業内容	週ごとの到達目標	
前期	1stQ	1週	授業ガイダンス	授業の進め方と評価の仕方について説明する。	
		2週	1 幕藩体制 (1) 中世から近世へ	中世の外交, 戦国大名の登場と織豊政権について学ぶ。	
		3週	(2) 幕藩体制の成立と展開	幕藩体制の確立と鎖国体制について学ぶ。	
		4週			
		5週			
		6週	(3) 幕藩体制の動揺	三大改革の意義について学ぶ。	
		7週	到達度試験 (前期中間)	上記項目について学習した内容の理解度を確認する。	
		8週	2 近代国家の成立 (1) 開国と明治維新	開国から明治維新に至る過程について学ぶ。	
	2ndQ	9週			
		10週			
		11週	(2) 立憲国家の成立	立憲国家の成立と展開について学ぶ。	
		12週			
		13週	(3) 日清戦争と日露戦争	日清・日露戦争前後の内政・外交について学ぶ。	
		14週			
		15週			
		16週	到達度試験 (前期末)	上記項目について学習した内容の理解度を確認する。	
後期	3rdQ	1週	3 第一次世界大戦と日本の経済 (1) 第一次世界大戦と日本	第一次世界大戦に日本がどうかかわったのかについて学ぶ。	
		2週			
		3週	(2) ワシントン体制の成立	国際的協調体制の進展と国際環境の推移について学ぶ。	
		4週			
		5週	(3) 政党内閣と昭和初期の外交	政党内閣の成立と昭和初期の外交について学ぶ。	
		6週			
		7週	到達度試験 (後期中間)	上記項目について学習した内容の理解度を確認する。	
	4thQ	8週	4 軍部の台頭と第二次世界大戦 (1) 昭和恐慌と満州事変	金融恐慌の発生から政党政治の崩壊に至る過程について学ぶ。 軍部の台頭と日中戦争に至る過程について学ぶ。	
		9週			
		10週			

	11週	(2) 日中戦争	日米交渉から開戦、そして終戦までの過程について学ぶ。
	12週		
	13週	(3) 第二次世界大戦と日本	日米交渉から開戦、そして終戦までの過程について学ぶ。
	14週		
	15週		
	16週	到達度試験（後期末）	上記項目について学習した内容の理解度を確認する。

モデルコアカリキュラムの学習内容と到達目標

分類	分野	学習内容	学習内容の到達目標	到達レベル	授業週
----	----	------	-----------	-------	-----

評価割合

	試験	発表	相互評価	態度	ポートフォリオ	その他	レポート	合計
総合評価割合	70	0	0	10	0	0	20	100
基礎的能力	50	0	0	0	0	0	5	55
専門的能力	0	0	0	0	0	0	0	0
分野横断的能力	0	0	0	0	0	0	0	0
思考・推論・創造への適用力	10	0	0	0	0	0	5	15
汎用的技能	0	0	0	5	0	0	5	10
態度・嗜好性	0	0	0	5	0	0	0	5
総合的な学習経験と創造的思考力	10	0	0	0	0	0	5	15

秋田工業高等専門学校		開講年度	平成29年度 (2017年度)		授業科目	科学技術史 (3B)			
科目基礎情報									
科目番号	0022		科目区分	一般 / 必修					
授業形態	授業		単位の種別と単位数	履修単位: 1					
開設学科	一般教科 (人文科学系)		対象学年	3					
開設期	前期		週時間数	2					
教科書/教材	教科書: 『科学史年表』 小山慶太著 中央公論新社、その他: 自製プリントの配布								
担当教員	吉葉 恭行								
到達目標									
ルーブリック									
	理想的な到達レベルの目安		標準的な到達レベルの目安			未到達レベルの目安			
評価項目1	自然科学誕生の歴史的前提を具体的に説明できる。		自然科学誕生の歴史的前提を概略説明できる。			自然科学誕生の歴史的前提を説明できない。			
評価項目2	物理学を柱にした近代科学の成立過程を具体的に説明できる。		物理学を柱にした近代科学の成立過程を概略説明できる。			物理学を柱にした近代科学の成立過程を説明できない。			
評価項目3	産業革命と科学及び技術の関係を具体的に説明できる。		産業革命と科学及び技術の関係を概略説明できる。			産業革命と科学及び技術の関係を説明できない。			
評価項目4	近代産業と科学技術の関係を具体的に説明できる。		近代産業と科学技術の関係を概略説明できる。			近代産業と科学技術の関係を説明できない。			
学科の到達目標項目との関係									
教育方法等									
概要	科学・技術の歴史について基本的な知識を身につけると共に、現代社会において大きな役割を担っている「科学技術」(Science Based Technology)の諸特徴について、歴史学的手法による学習を通して、読み解く能力を修得する。								
授業の進め方・方法	講義形式で行う。必要に応じて適宜課題レポートの提出および課題のプレゼンテーションを求める。								
注意点	授業中は板書を書き取るだけでなく、口頭による説明についても各自メモを取る習慣を身につける必要がある。授業内容を深く理解するために、参考文献やインターネット等の複数メディアを活用し、資料収集し学ぶ方法 (スキル) を身につけるよう心がけること。								
授業計画									
		週	授業内容			週ごとの到達目標			
前期	1stQ	1週	授業ガイダンス			授業の進め方と評価の仕方について説明する。			
		2週	1 自然科学の誕生 (1) 自然科学誕生前史			自然科学誕生の歴史的前提がわかる。			
		3週	(2) 17世紀の歩み			物理学を柱にした近代科学の成立過程がわかる。			
		4週							
		5週	(3) 18世紀の歩み			産業革命と科学及び技術の関係がわかる。			
		6週							
		7週	(4) 19世紀前半の歩み			近代科学の諸領域の成立・展開過程がわかる。			
		8週	到達度試験 (前期中間)			上記項目について学習した内容の理解度を確認する。			
	2ndQ	9週	2 科学技術の発展 (1) 19世紀後半の歩み			近代科学の飛躍過程がわかる。			
		10週							
		11週	(2) 20世紀前半の歩み			近代産業と科学技術の関係がわかる。			
		12週							
		13週	(3) 20世紀後半の歩み			高度科学技術社会への展開過程がわかる。			
		14週							
		15週	(4) 20世紀末の展開			科学技術の利用から生じた人類の課題がわかる。			
		16週	到達度試験 (前期末)			上記項目について学習した内容の理解度を確認する。			
モデルコアカリキュラムの学習内容と到達目標									
分類	分野	学習内容	学習内容の到達目標				到達レベル	授業週	
評価割合									
	試験	発表	相互評価	態度	ポートフォリオ	その他	レポート	合計	
総合評価割合	60	10	0	10	0	0	20	100	
基礎的能力	60	0	0	0	0	0	5	65	
専門的能力	0	0	0	0	0	0	0	0	
分野横断的能力	0	0	0	0	0	0	0	0	
思考・推論・創造への適用力	0	0	0	0	0	0	5	5	
汎用的技能	0	5	0	5	0	0	5	15	
態度・嗜好性 (人間力)	0	5	0	5	0	0	0	10	
総合的な学習経験と創造的思考力	0	0	0	0	0	0	5	5	

秋田工業高等専門学校		開講年度	平成29年度 (2017年度)	授業科目	英語Ⅲ (3B)
科目基礎情報					
科目番号	0023		科目区分	一般 / 必修	
授業形態	授業		単位の種別と単位数	履修単位: 2	
開設学科	一般教科 (人文科学系)		対象学年	3	
開設期	通年		週時間数	2	
教科書/教材	教科書 : CROWN PLUS English Series Level 4 三省堂 トに出る順英単語 中経出版, 英作文基本300選 駿台文庫				補助教材: 新TOEICテスト
担当教員	黒木 暁人				
到達目標					
1. 医学生初めての臨床実習について書かれた英文を読み、内容を理解できる。2. 優生学にまつわる英文を読み、内容を理解できる。3. トーマス・ヤングについて書かれた英文を読み、内容を理解できる。4. 有名な短編小説の一節を読み、内容を理解できる。					
ループリック					
	理想的な到達レベルの目安	標準的な到達レベルの目安	未到達レベルの目安		
評価項目1	医学生初めての臨床実習について書かれた英文を文法事項に則して読み、正確に内容を理解できる。	医学生初めての臨床実習について書かれた英文を文法事項に則して読み、概ね内容を理解できる。	医学生初めての臨床実習について書かれた英文を文法事項に則して読み、内容を理解することができない。		
評価項目2	優生学にまつわる英文を文法事項に則して読み、正確に内容を理解できる。	優生学にまつわる英文を文法事項に則して読み、概ね内容を理解できる。	優生学にまつわる英文を文法事項に則して読み、内容を理解できない。		
評価項目3	トーマス・ヤングについて書かれた英文を文法事項に則して読み、会話のやりとりのおもしろさなど、正確に内容を理解できる。	トーマス・ヤングについて書かれた英文を文法事項に則して読み、会話のやりとりのおもしろさなど、概ね内容を理解できる。	トーマス・ヤングについて書かれた英文を文法事項に則して読み、会話のやりとりのおもしろさなどの内容を理解できない。		
学科の到達目標項目との関係					
教育方法等					
概要	文法・語彙運用に関する基礎的な学力を修得するとともに英文読解力を強化する。また英作文をする上での基本を学び、基礎となる英文を修得する。				
授業の進め方・方法	演習形式 (予習として各自が取り組んだ課題を授業で確認する) で行う。適宜、単語および英作文の小テストを実施し、毎回課題 (予習) を課す。試験結果が合格点に達しない場合、再試験を行うことがある。				
注意点	<p>〔評価方法〕 合格点は50点である。各中間・期末の成績は、試験結果70%、小テスト・演習課題・宿題20%、授業態度を10%で評価する。なお、英検の結果を評価に加える。課題未提出者は単位取得が困難となるので注意すること。 学年総合成績 = (到達度試験 (前期未成績) 評価点 + 到達度試験 (学年未成績) 評価点) / 2</p> <p>〔認証評価関連科目〕 英語Ⅰ, 英語Ⅲ, 英語LL演習, 英語会話, 総合英語Ⅰ, 総合英語Ⅱ, 上級英語</p> <p>〔学習上の注意〕 辞書を活用し、予習を行う。また英単語・英作文の暗記 (暗唱) に努める。</p>				
授業計画					
	週	授業内容	週ごとの到達目標		
前期	1stQ	1週	授業ガイダンス	授業の進め方と評価の仕方について説明する。	
		2週	Lesson 3 A Good Story 英単語2026-2109	getを用いた使役の用法を学ぶ。	
		3週	Lesson 3 A Good Story 英作文1-30	分詞構文を用いて動作を列挙する表現を学ぶ。	
		4週	Lesson 3 A Good Story 英単語2110-2193	条件節を強調する表現を学ぶ。	
		5週	Lesson 3 A Good Story 英作文31-60	まず結論を述べ、そのあとに具体的に説明する表現を学ぶ。	
		6週	Lesson 3 A Good Story 英単語2194-2277	表現を駆使し、自分の力で英作文を行う。	
		7週	到達度試験 (前期中間試験)	上記項目について学習した内容の理解度を確認する。	
		8週	試験の解説と解答	到達度試験の解説と解答	
	2ndQ	9週	Lesson7 Babies by Design 英作文61-90	分詞を用いて情報を付け加える表現を学ぶ。	
		10週	Lesson7 Babies by Design 英単語2278-2361	関係代名詞を用いて詳しい情報を補足する用法を学ぶ。	
		11週	Lesson7 Babies by Design 英作文91-120	前文を抽象語でまとめる表現を学ぶ。	
		12週	Lesson7 Babies by Design 英単語2362-2445	「～仮定する」に相当する様々な英語表を学ぶ。	
		13週	Lesson7 Babies by Design 英作文121-150	優生学とナチスの関係について学ぶ。	
		14週	Lesson7 Babies by Design 英単語2446-2529	表現を駆使し、自分の力で英作文を行う。	
		15週	到達度試験 (前期末試験)	上記項目について学習した内容の理解度を確認する。	
		16週	試験の解説と解答	到達度試験の解説と解答, および授業アンケート	
後期	3rdQ	1週	Lesson 11 Man of Vision: Thomas Young 英作文151-180	トーマス・ヤングの生い立ちについて学ぶ。	
		2週	Lesson 11 Man of Vision: Thomas Young 英単語2530-2613	トーマス・ヤングの光の性質への関心について学ぶ。	
		3週	Lesson 11 Man of Vision: Thomas Young 英作文181-210	「光粒子」説について学ぶ。	
		4週	Lesson 11 Man of Vision: Thomas Young 英単語2614-2697	「光波動」説について学ぶ。	
		5週	Lesson 11 Man of Vision: Thomas Young 英作文211-240	トーマス・ヤングの行った実験について学ぶ。	
		6週	Lesson 11 Man of Vision: Thomas Young 英単語2698-2781	表現を駆使し、自分の力で英作文を行う。	
		7週	到達度試験 (後期中間試験)	上記項目について学習した内容の理解度を確認する。	

4thQ	8週	試験の解説と解答	到達度試験の解説と解答
	9週	Lesson12 The Doll's House 英作文241-270	「～と思われる」に相当する様々な表現を学ぶ。
	10週	Lesson12 The Doll's House 英単語2782-2865	「いくら～しても～しすぎることはない」に相当する様々な表現を学ぶ。
	11週	Lesson12 The Doll's House 英作文270-300	allを最初に言って、それに含まれるものを具体的に並べる表現について学ぶ。
	12週	Lesson12 The Doll's House 英単語2866-2949	説明した内容を簡潔に数語でまとめる表現技法を学ぶ。
	13週	Lesson12 The Doll's House 英作文1-300	物語の概要を理解する。
	14週	Lesson12 The Doll's House 英単語2949-3000	表現を駆使し、自分の力で英作文を行う。
	15週	到達度試験（学年末試験）	上記項目について学習した内容の理解度を確認する。
16週	試験の解説と解答	到達度試験の解説と解答、および授業アンケート	

モデルコアカリキュラムの学習内容と到達目標

分類	分野	学習内容	学習内容の到達目標	到達レベル	授業週
----	----	------	-----------	-------	-----

評価割合

	試験	発表	相互評価	態度	ポートフォリオ	その他	合計
総合評価割合	70	0	0	10	0	20	100
基礎的能力	70	0	0	10	0	20	100
専門的能力	0	0	0	0	0	0	0
分野横断的能力	0	0	0	0	0	0	0

秋田工業高等専門学校		開講年度	平成29年度 (2017年度)	授業科目	英語 L L 演習 (3 B)
科目基礎情報					
科目番号	0024		科目区分	一般 / 必修	
授業形態	演習		単位の種別と単位数	履修単位: 1	
開設学科	一般教科 (人文科学系)		対象学年	3	
開設期	前期		週時間数	2	
教科書/教材	For and Against Expressing Opinions and Exchanging Ideas (成美堂)、副教材としてCROWN PLUS (三省堂)や英検の問題、大学入試過去問題、自作のプリントを使用する。参考図書: 『英語耳』松澤喜好著、『英語舌のつくり方』野中泉著、『世界一わかりやすい英語の発音』関正生著。				
担当教員	杉浦 克哉				
到達目標					
<p>1. 英語を正しく発音できる。英語の子音、母音を発音する際の口の形・大きさ、舌の位置、息の強さ等を覚えることにより正しく発音できる。</p> <p>2. リスニング力を向上させる。どのような訓練をすれば、聞き取りが難解な箇所でも聞き取れるようになるかを知り、自分で訓練できる。英検2級やセンター試験のリスニングの過去問題で常に8割以上の得点を取ることができる。</p> <p>3. 身近なことを平易な表現を用いてすぐに表現できる。</p> <p>4. 文法や語法上のミスが無いだけでなく説得力があり独創的な英文を作ることができる。</p> <p>5. 自分の考えを英語で口頭により伝え、他の学生にそれを理解させることができる。</p> <p>6. 英検2級合格に必要な語彙力、読解力、リスニング力、文法知識を習得する。</p>					
ループリック					
	理想的な到達レベルの目安	標準的な到達レベルの目安	未到達レベルの目安		
評価項目1	英語の子音、母音を発音する際の口の形・大きさ、舌の位置、息の強さ等を覚え、正しく発音できる。英語母語話者と話したとき、相手が聞き返すことがほとんど無く、会話を続けることができる。	英語の子音、母音を発音する際の口の形・大きさ、舌の位置、息の強さ等を覚え、正しく発音できる。	英語の子音、母音を発音する際、誤った口の形・大きさ、舌の位置、息の強さで発音してしまう。		
評価項目2	授業で学んだ聞き取りの訓練を毎日行っている。英検2級やセンター試験のリスニングの過去問題で常に9割以上の得点を取ることができる。センター試験のリスニング問題で常に8割以上の得点を取ることができる。	授業で学んだ聞き取りの訓練を毎日行っている。英検2級やセンター試験のリスニングの過去問題で常に8割以上の得点を取ることができる。センター試験のリスニング問題で常に7割以上の得点を取ることができる。	授業で学んだ聞き取りの訓練を時々行っただけである。英検2級やセンター試験のリスニングの過去問題の得点が8割未満である。センター試験のリスニング問題の正解率が7割未満である。		
評価項目3	文法や語法上のミスが無いだけでなく、説得力があり独創性のある内容の自由英作文を作ることができる。副詞や助動詞が適切に使われ豊富な語彙で英文が表される。	文法や語法上のミスが無いだけでなく、説得力があり独創性のある内容の自由英作文を作ることができる。	自由英作文を作成する際、文法や語法上のミスが多い。内容に説得力、独創性がない。		
評価項目4	自分の考えを英語で口頭により伝える際、聞き手が理解しているかどうかを確かめながら話すことができる。聞き手にとって理解が難しい箇所は、繰り返し言ったり、別の言葉で言い換えたりして、聞き手に理解させる努力ができる。	自分の考えを英語で口頭により伝える際、聞き手が理解しているかどうかを確かめながら話すことができる。	自分の考えを英語で口頭により伝える際、声が小さく、そして読めない語があるために時々詰まってしまう。聞き手に十分な配慮をすることなく、単に原稿を読むだけである。		
評価項目5	条件英作文の問題、語彙力を問うクイズを解いたとき全体の9割以上を正解できる。	条件英作文の問題、語彙力を問うクイズを解いたとき全体の8割以上を正解できる。	条件英作文の問題、語彙力を問うクイズを解いたとき正解率が全体の8割未満である。		
学科の到達目標項目との関係					
教育方法等					
概要	この授業の目標は、学生が英語を正しく発音できることとリスニング力を向上させることである。前者は、英語の子音、母音を発音する際の口の形・大きさ、舌の位置、息の強さ等を覚えることで正確な発音を習得する。後者は、英語母語話者による音声のCDを用い、聞き取りにくい箇所を何度も繰り返し聞き続け、さらにCDと同時に英語を発する訓練をすることで、英語を聞き取る力を向上させる。目安として英検2級やセンター試験のリスニングの過去問題で常に8割以上の得点を取ることが目標とする。正しく発音できればその音声も正確に聞き取ることができるゆえ、両者を訓練することは相乗効果を生む。授業の大きな目標はこの2つであるが、これら以外に1行から2行程度の長さの日本語を英語に翻訳する条件英作文、与えられたテーマに対し自分の考えを50語から100語程度で述べる自由英作文、口頭発表、英会話、語彙力を増やすための読解も補助的に行う。学生が英語に触れる機会を増やすために、授業の大部分は英語で行われる。文法の説明や読解は日本語で行うことがある。また学生は原則として英語で話さなければならない。授業の大部分を英語で行うのは英検対策も兼ねている。				
授業の進め方・方法	発音練習、クイズ(小テスト)、口頭発表、条件英作文、[読解、リスニング、自由英作文、英会話]、語彙力を増やすための読解を行う。[]で囲まれた部分は教科書 For and Against Expressing Opinions and Exchanging Ideasを用いて行う。授業2回で1つのUnitを終えることを目安とするが、進み方は変わる場合がある。条件英作文は CROWN PLUSを用いる。語彙力を増やすための読解は英検の問題や大学入試過去問題を用いる。その他の活動は自作のプリントにより行う。学生が復習しやすいように音声のみの動画を活用することがある。また、授業では発展的な内容を扱うことがある。クイズや定期試験では応用問題を出す場合がある。授業の進め方は変更される場合がある。予習として発表原稿の作成、発音練習、クイズ対策、口頭発表の練習、条件英作文・自由英作文の作成、教科書の理解をしていくこと。不明な語句は必ず全て辞書で調べ教科書やノート等にメモすること。復習として重要事項の暗記や聞き取りの練習をすること。必要に応じて音声のみの動画を視聴し授業内容を確認すること。				
注意点	眠り続けている学生へは単位を出さない場合がある。提出物や小レポート・エッセイの作成において剽窃や盗用があった場合、単位を出さない場合がある。 【評価方法】合格点は50点である。中間試験、期末試験以外にクイズ(小テスト)、レポート(提出物)、口頭発表も評価に加わる。小テストとしてリスニングの試験も行う。定期試験では試験に出る問題は原則として事前に伝えられないが、数問程度ならば事前に告知される場合がある。また、以下に示す評価割合は変更する場合がある。				
授業計画					
	週	授業内容	週ごとの到達目標		

前期	1stQ	1週	授業の進め方と評価の仕方を説明する。Unit 1 発音練習、クイズ(小テスト)、口頭発表、条件英作文、 [読解、リスニング、自由英作文、英会話]、語彙力を増やすための読解 ([]の部分はその日の授業で進められるところまで行い、次回の授業でその続きを行う。第2回目以降の授業は定期試験、試験返却を除き、全てこれと同じなので以下では省略。)	上記の「到達目標」「評価(ルーブリック)」に従う。第2回目以降の授業は全てこれと同じなので以下では省略。
		2週	Unit 1	
		3週	Unit 3	
		4週	Unit 3	
		5週	Unit 5	
		6週	Unit 5	
		7週	到達度試験(前期中間)	
		8週	試験の解説、Unit 7	
	2ndQ	9週	Unit 7	
		10週	Unit 9	
		11週	Unit 9	
		12週	Unit 11	
		13週	Unit 11	
		14週	Unit 13	
		15週	Unit 13	
		16週	到達度試験(前期期末)	

モデルコアカリキュラムの学習内容と到達目標

分類	分野	学習内容	学習内容の到達目標	到達レベル	授業週	
評価割合						
	試験	小テスト	発表	レポート	その他	合計
総合評価割合	50	20	5	5	20	100
基礎的能力	30	20	5	5	20	80
専門的能力	0	0	0	0	0	0
分野横断的能力	20	0	0	0	0	20

秋田工業高等専門学校		開講年度	平成29年度 (2017年度)	授業科目	英語会話 (3B)		
科目基礎情報							
科目番号	0025	科目区分	一般 / 必修				
授業形態	演習	単位の種別と単位数	履修単位: 1				
開設学科	一般教科 (人文科学系)	対象学年	3				
開設期	後期	週時間数	2				
教科書/教材	『New Time to Communicate コミュニケーション初級英語講座[改訂新版]』 南雲堂						
担当教員	小菅 智也, ジョズエ ジャック						
到達目標							
1 古い友達と久しぶりに会ったとき、自分の最近の出来事を相手に伝えることができる。 2 相手と出かける誘いをしたり、会議を設定したときに、時間と場所、内容を相手に伝えることができる。 3 相手に提案をしたり、相手と簡単な議論をすることができる。 4 自分や身近なことについて簡単なやり取りや質問・応答ができる。 5 自分の身近なことについて、前もって準備をすれば毎分100語程度の速度で約1分間の説明ができる。							
ループリック							
	理想的な到達レベルの目安	標準的な到達レベルの目安	未到達レベルの目安				
評価項目1	古い友達と久しぶりに会ったとき、自分の最近の出来事を英語を使って相手に伝えることができる。	古い友達と久しぶりに会ったとき、自分の最近の出来事を英語を使って相手になんとか伝えることができる。	古い友達と久しぶりに会ったとき、自分の最近の出来事を英語を使って相手に伝えることができない。				
評価項目2	時間と場所、内容を英語で相手に伝えることができる。	時間と場所、内容を英語でなんとか相手に伝えることができる。	時間と場所、内容を英語で相手に伝えることができない。				
評価項目3	英語で相手に提案をしたり、相手と簡単な議論をすることができる。	英語で相手に提案をしたり、相手と簡単な議論をすることが時間がかかっても何とかできる。	英語で相手に提案をしたり、相手と簡単な議論をすることができない。				
学科の到達目標項目との関係							
教育方法等							
概要	英語のネイティブスピーカーの発音に慣れ、英語の特に「聞く・話す」能力について、文法の誤りが多少あるが何とかコミュニケーションが可能であるというレベルを達成する。						
授業の進め方・方法	演習形式で行ない、必要に応じて適宜小テストを実施する。なお、到達度試験は授業中に英会話実技試験を行う。						
注意点	合格点は50点である。成績は、授業での英語でのコミュニケーションを取る積極性33%、実技試験結果67%で評価する。 学年総合成績 = (授業で英語を使おうとする積極性 + 英会話実技試験)						
授業計画							
	週	授業内容	週ごとの到達目標				
後期	3rdQ	1週	授業のガイダンス Unit 1 Meeting People	授業の進め方と評価の仕方について説明する。 古い友達と久しぶりに会ったとき、自分の最近の出来事を相手に伝えることができる。 ・疑問文の英文を使うことができる。 ・現在形の英文を使うことができる。 ・There is構文の英文を使うことができる。			
		2週	Unit 2 Getting to Know Your Classmates	同上			
		3週	Unit 3 Talking About Classes	同上			
		4週	Unit 4 Talking About Your Daily Life	同上			
		5週	Unit 5 Talking About People -Personality	相手と出かける誘いをしたり、会議を設定したときに、時間と場所、内容を相手に伝えることができる。 ・助動詞の英文を使うことができる。 ・過去形の英文を使うことができる。 ・Wh-疑問文の英文を使うことができる。			
		6週	Unit 6 Talking About People	同上			
		7週	Unit 7 Talking About Last Weekend	同上			
		8週	Unit 8 Talking About the Vacation	同上			
	4thQ	9週	Unit 9 Talking About Going Out on the Town	相手に提案したり、相手と簡単な議論をすることができる。 ・未来形の英語を使うことができる。 ・To不定詞、動名詞を含んだ英文を使うことができる。 ・自分の意見を英語で伝えることができる。 ・相手に、持っているスキルや過去に経験したことを質問できる。			
		10週	Unit 10 Talking About Foods and Recipes	同上			
		11週	Unit 11 Talking About Travel	同上			
		12週	Unit 12 Talking About Hometowns	同上			
		13週	Unit 13 Talking About Your Opinions	同上			
		14週	Unit 14 Talking About Future Plans	同上			
		15週	英会話実技試験	上記項目について学習した内容の理解度を確認する			
		16週	授業のまとめ	本授業のまとめ、および授業アンケート			
モデルコアカリキュラムの学習内容及到達目標							
分類	分野	学習内容	学習内容の到達目標	到達レベル	授業週		
評価割合							
	実技試験	発表	相互評価	態度	ポートフォリオ	その他	合計
総合評価割合	67	0	0	33	0	0	100

基礎的能力	67	0	0	33	0	0	100
專門的能力	0	0	0	0	0	0	0
分野横断的能力	0	0	0	0	0	0	0

秋田工業高等専門学校		開講年度	平成29年度 (2017年度)	授業科目	日本語教育 (3留)
科目基礎情報					
科目番号	0078		科目区分	一般 / 必修	
授業形態	授業		単位の種別と単位数	履修単位: 6	
開設学科	一般教科 (人文科学系)		対象学年	3	
開設期	通年		週時間数	6	
教科書/教材	I. 『中級から学ぶ日本語』 研究社 II. 『留学生の日本語②作文編』 アルク III. 『日本語能力試験 1級対策問題』 創拓社 * 補助教材として随時オリジナルプリント・小説・新聞の切り抜き等を配布				
担当教員	伊藤 晴美				
到達目標					
日常生活の日本語・教科の日本語を理解し、異文化に親しみ留学生生活が充実できることを目標とする。					
ルーブリック					
	理想的な到達レベルの目安	標準的な到達レベルの目安	未到達レベルの目安		
評価項目1	日常生活の日本語を理解し自分の意見をまとめ伝えることができる	日常生活の日本語を理解することができる	日常生活の日本語の理解できず、意思疎通が難しい		
評価項目2	各教科の日本語・語彙を理解し、授業で幅広い知識を得ることができる	各教科の日本語が理解できる	各教科の日本語が理解できず、学習に困難をきたす		
評価項目3	異文化に親しみ、留学生生活を充実させ、より深めることができる	異文化に親しみ、留学生生活を充実させることができる	異文化に親しみ、留学生生活を充実させることができない		
学科の到達目標項目との関係					
教育方法等					
概要	日本語の4機能「読む・聞く・書く・話す」の能力向上をはかる。特に、専門教科の理解力を深めるため日本語能力検定試験1級程度のレベルの習得を目標とする。また、日本の文化・生活・習慣を理解し、コミュニケーション能力を高め、有意義な留学生生活を送れる環境を整える。				
授業の進め方・方法	講義と演習 (できるだけ発話・発表の機会を多くする)				
注意点	年4回の試験結果に小テスト・宿題などを総合して評価する。教科書・授業の理解のほか授業時間以外でも積極的に多くの人とかかわり、幅広い知識や問題意識を持つことが重要である。合格点は50点である。到達度試験 (中間・期末) の成績を80%に、作文・漢字テスト20%を加え、評価する。総合評価 = (前期末成績 + 後期末成績) ÷ 2				
授業計画					
		週	授業内容	週ごとの到達目標	
前期	1stQ	1週	授業ガイダンス	授業の進め方と評価の仕方について説明する。	
		2週	日本事情 (1)	日本の社会、異文化を理解する。	
		3週	日本事情 (2)	日本の社会、異文化を理解する。	
		4週	1. I. 1課~2課	語句の意味、内容を理解する。	
		5週	1. I. 3課~4課	基本文法項目、文型を理解する。	
		6週	* 語彙練習	表現力をつける。(作文200~400字・スピーチ)	
		7週	1. II. 1課~4課	語句の意味、内容を理解する。	
		8週	到達度試験 (前期中間)	上記項目について学習した内容の理解度を確認する。	
	2ndQ	9週	試験の解説と解答	中間試験の解説と解答	
		10週	2. I. 5課~6課	日本の社会、異文化を理解する。	
		11週	2. I. 7課~9課	語句の意味、内容を理解する。	
		12週	2. II. 5課~8課	基本文法項目、文型を理解する。	
		13週	2. II. 9課~12課	基本文法項目、文型を理解する。	
		14週	* 小説	短編小説を読む。	
		15週	到達度試験 (前期末)	上記項目について学習した内容の理解度を確認する。	
		16週	試験の解説と解答	前期末試験の解説と解答、授業アンケート	
後期	3rdQ	1週	3. I. 10課~12課	日本の社会、異文化を理解する。	
		2週	3. I. 13課~15課	語句の意味、内容を理解する。	
		3週	3. III. 文法・語彙練習	基本文法項目、文型を理解する。	
		4週	* 作文・スピーチ	表現力をつける。(作文600字・スピーチ)	
		5週	* 小説	小説を読む。	
		6週	3. I. 16課~18課	日本の社会、異文化を理解する。	
		7週	3. I. 19課~21課	日本の社会、異文化を理解する。	
		8週	到達度試験 (後期中間)	上記項目について学習した内容の理解度を確認する。	
	4thQ	9週	試験の解説と解答	中間試験の解説と解答	
		10週	4. I. 22課~23課	日本の社会、異文化を理解する。	
		11週	4. I. 24課~25課	語句の意味、内容を理解する。	
		12週	4. III. 文法・語彙練習	基本文法項目、文型を理解する。	
		13週	* 作文・スピーチ	表現力をつける。(報告文800字・スピーチ)	
		14週	* 小説	小説を読む。	
		15週	到達度試験 (後期末)	上記項目について学習した内容の理解度を確認する。	

		16週	試験の解説と解答		後期末試験の解説と解答、本授業のまとめ、授業アンケート		
モデルコアカリキュラムの学習内容と到達目標							
分類	分野	学習内容	学習内容の到達目標			到達レベル	授業週
評価割合							
	試験	発表	相互評価	態度	ポートフォリオ	その他	合計
総合評価割合	80	0	0	0	0	20	100
基礎的能力	60	0	0	0	0	0	60
専門的能力	0	0	0	0	0	0	0
分野横断的能力	20	0	0	0	0	20	40

秋田工業高等専門学校		開講年度	平成29年度 (2017年度)	授業科目	日本語表現 (4M)
科目基礎情報					
科目番号	0001	科目区分	一般 / 必修		
授業形態	演習	単位の種別と単位数	履修単位: 2		
開設学科	一般教科 (人文科学系)	対象学年	4		
開設期	通年	週時間数	2		
教科書/教材	自製プリントの配付 国語辞典 (電子辞書も可) 『スキルアップ! 日本語力』 (東京書籍)				
担当教員	岩田 久美加				
到達目標					
<p>1. 日本語の文章を支える語彙や文法、文の組み立て、構成の仕方を理解し、自分の意見を確立して書くことができる。</p> <p>2. 日本語の会話を支える語彙や文法、文の組み立て、構成の仕方を理解し、場面や問題に応じ適切に運用・発表することができる。</p> <p>3. 現代社会で求められるコミュニケーション能力を、正確かつ豊かに駆使することができる。</p>					
ルーブリック					
	理想的な到達レベルの目安	標準的な到達レベルの目安	未到達レベルの目安		
評価項目1	語彙や文法を理解し、後世を工夫して自分の意見を書くことができる。	語彙や文法を理解し、自分の意見を確立して書くことができる。	語彙や文法を理解できず、自分の意見を書くことができない。		
評価項目2	語彙や文法を理解し、後世を工夫し、場面に応じた発表をすることができる。	語彙や文法を理解し、場面や問題に応じて発表をすることができる。	語彙や文法を理解できず、場面に応じて適切に発表することができない。		
評価項目3	コミュニケーション能力を正確かつ豊かに発揮することができる。	コミュニケーション能力を発揮することができる。	コミュニケーション能力を発揮することができない。		
学科の到達目標項目との関係					
教育方法等					
概要	将来の社会人として不可欠な日本語の知識と表現力を身に付け、意見や小論文、実用的な文章が書けるようになる。また、プレゼンテーションやディベートを通して口頭表現の仕方について習熟する。				
授業の進め方・方法	演習形式で行う。単元ごとに文章やレポートの書き方、発表やプレゼンテーションの仕方を学習する。また、日本語の語彙や文法・敬語について、その正しい理解と運用を学習する。				
注意点	普段から新聞やTVのニュースをよく見聞し、日本語や社会の抱える問題について、知識を広く持ちそれらの様々な面について自分の考えを深めておくようにすること。合格点は60点である。要約文や意見文・小論文などの提出物や口頭発表、またプリントやノートの点検ごとに点数をつけ、その総点を回数で割って評価する。				
授業計画					
		週	授業内容	週ごとの到達目標	
前期	1stQ	1週	授業ガイダンス	授業の進め方と評価の仕方について説明する。	
		2週	(1) 自己紹介〈話〉	自分のよさを知り、音声言語で印象深く伝えることができる。	
		3週	同上	同上	
		4週	(2) 学科紹介〈書〉	学科の特徴を知り、文字言語で印象深く伝えることができる。	
		5週	同上	同上	
		6週	同上	同上	
		7週	同上	同上	
		8週	(3) 俳句〈書〉	俳句表現の特徴を理解し、創作することができる。	
	2ndQ	9週	同上	同上	
		10週	(4) 要約〈書〉	キーワードを理解し、簡潔に要約文をまとめることができる。	
		11週	同上	同上	
		12週	(5) 読み聞かせ〈話〉	状況や心情を踏まえて豊かに読み聞かせることができる。	
		13週	同上	同上	
		14週	(6) はがき・手紙・メール〈書〉	暑中見舞い、インターンシップの礼状等を適切に書くことができる。	
		15週	同上	同上	
		16週	同上	同上 前期授業のまとめ、および授業アンケート。	
後期	3rdQ	1週	(7) 発表〈話〉	インターンシップの様子をわかりやすく報告することができる。	
		2週	同上	同上	
		3週	同上	同上	
		4週	(8) レポート〈書〉	自分の立場や根拠を明確にし、文字言語で述べることができる。	
		5週	同上	同上	
		6週	(9) ディベート〈話〉	自分の立場や根拠を明確にし、音声言語で述べるすることができる。	
		7週	同上	同上	
		8週	(10) プレゼンテーション〈話〉	図や表などを取り入れながら、研究テーマをわかりやすくかつ論理的に印象深く伝えることができる。	
	4thQ	9週	同上	同上	
		10週	同上	同上	

	11週	(11) 小論文〈書〉	自分の立場や根拠を明確にし、文字言語で述べることができる。
	12週	同上	同上
	13週	同上	同上
	14週	(12) エントリーシート〈書〉	効果的なエントリーシートをまとめることができる。
	15週	同上	同上
	16週	同上	同上 後期授業のまとめ、および授業アンケート。

モデルコアカリキュラムの学習内容と到達目標

分類	分野	学習内容	学習内容の到達目標	到達レベル	授業週
----	----	------	-----------	-------	-----

評価割合

	試験	発表	相互評価	態度	ポートフォリオ	その他	合計
総合評価割合	0	30	0	0	0	70	100
基礎的能力	0	10	0	0	0	50	60
専門的能力	0	0	0	0	0	10	10
分野横断的能力	0	20	0	0	0	10	30

秋田工業高等専門学校		開講年度	平成29年度 (2017年度)	授業科目	総合英語 I (4M)
科目基礎情報					
科目番号	0002		科目区分	一般 / 必修	
授業形態	授業		単位の種別と単位数	履修単位: 2	
開設学科	一般教科 (人文科学系)		対象学年	4	
開設期	通年		週時間数	2	
教科書/教材	「東京大学教養英語読本 II」 東京大学出版会, 「(新形式問題対応) TOEIC® テスト非公式問題集至高の400問」 ヒロ前田他 著 アルク, 「Deep Listening Level 3」 日本英語検定協会				
担当教員	菅原 隆行				
到達目標					
1. TOEICスコア400点以上のコミュニケーション力を身につける。 2. リスニング力、シャドーイング力があり、英語速読のスピードが1分間に120語程度である。 3. 4500語程度の単語力と英文法の理解力がある。 4. 英語の長文を正確に読み取ることができる。					
ルーブリック					
	理想的な到達レベルの目安	標準的な到達レベルの目安	未到達レベルの目安		
評価項目1	TOEICスコアが450点以上である。	TOEICスコアが380点程度である。	TOEICスコアが320点未満である。		
評価項目2	リスニング力、シャドーイング力があり、英語速読のスピードが1分間に150語程度以上である。	リスニング力、シャドーイング力がある程度あり、英語速読のスピードが1分間に120語程度である。	リスニング力、シャドーイング力がなく、英語速読のスピードが1分間に80語未満である。		
評価項目3	英語の長文を80%以上読み取ることができる。	英語の長文を60%程度読み取ることができる。	英語の長文を読み取ることができない。		
学科の到達目標項目との関係					
教育方法等					
概要	TOEICスコア400点以上のコミュニケーション力を身につけ、英語速読のスピードが1分間に120語程度の能力を持ち、英語の長文を正確に読み取ることができる能力を修得する。				
授業の進め方・方法	演習形式で行い、小テスト (TOEICテスト) も随時実施する。アルク・ネットアカデミーは主に自学自習課題として使用する。試験結果が合格点に達しない場合、再試験を行うことがある。				
注意点	合格点は60点である。各中間・期末成績は、試験結果60%、TOEICテスト成績等を40%で評価する。 学年総合成績 = (到達度試験 (前期中間) + 到達度試験 (前期期末) + 到達度試験 (後期中間) + 到達度試験 (学年末) 成績) / 4 なお、TOEICスコアが320点未満の学生は、単位取得が困難になるので注意すること。宿題が多いので計画的に課題を進めること。宿題をしてこない学生は科目履修を放棄したとみなすので注意すること。				
授業計画					
	週	授業内容	週ごとの到達目標		
前期	1stQ	1週	授業ガイダンス TOEICリスニングPart I 演習	授業の進め方と評価の仕方について説明する。 TOEICリスニング問題の内容と傾向がわかる。	
		2週	TOEICリスニングPart II 演習	TOEICリスニング問題の内容と傾向がわかる。	
		3週	Session1 The Fires of Vesuvius (Part 1) ①	古代ギリシャ・ローマ史に関する英文を読み、内容を理解できる。	
		4週	Session1 The Fires of Vesuvius (Part 1) ②	古代ギリシャ・ローマ史に関する英文を読み、内容を理解できる。	
		5週	TOEICリスニングPart III 演習	TOEICリスニング問題の内容と傾向がわかる。	
		6週	Session1 The Fires of Vesuvius (Part 1) ③	古代ギリシャ・ローマ史に関する英文を読み、内容を理解できる。	
		7週	Session1 The Fires of Vesuvius (Part 1) ④ TOEICリスニングPart IV 演習	古代ギリシャ・ローマ史に関する英文を読み、内容を理解できる。 TOEICリスニング問題の内容と傾向がわかる。	
		8週	到達度試験 (前期中間)	上記項目について学習した内容の理解度を確認する。	
	2ndQ	9週	試験の解説と解答 TOEICリーディングPart V 演習	前期中間試験の解説と解答 TOEICリーディング問題の内容と傾向がわかる。	
		10週	Session2 The Fires of Vesuvius (Part 2) ①	古代ギリシャ・ローマ史に関する英文を読み、内容を理解できる。	
		11週	TOEICリーディングPart VI・VII 演習	TOEICリーディング問題の内容と傾向がわかる。	
		12週	Session2 The Fires of Vesuvius (Part 2) ②	古代ギリシャ・ローマ史に関する英文を読み、内容を理解できる。	
		13週	TOEICリーディングPart VII 演習	TOEICリーディング問題の内容と傾向がわかる。	
		14週	Session2 The Fires of Vesuvius (Part 2) ③	古代ギリシャ・ローマ史に関する英文を読み、内容を理解できる。	
		15週	到達度試験 (前期期末)	上記項目について学習した内容の理解度を確認する。	
		16週	試験の解説と解答	前期末試験の解説と解答、および授業アンケート	
後期	3rdQ	1週	TOEICリスニングPart I・II 演習	TOEICリスニング問題のスピードに対応できる。	
		2週	Session3 The Great Plains (Part 1) ①	アメリカ地質学に関する英文を読み、内容を理解できる。	
		3週	TOEICリスニングPart III 演習	TOEICリスニング問題のスピードに対応できる。	
		4週	Session3 The Great Plains (Part 1) ②	アメリカ地質学に関する英文を読み、内容を理解できる。	
		5週	TOEICリスニングPart IV 演習	TOEICリスニング問題のスピードに対応できる。	

4thQ	6週	Session3 The Great Plains (Part 1) ③	アメリカ地質学に関する英文を読み、内容を理解できる。
	7週	到達度試験（後期中間）	上記項目について学習した内容の理解度を確認する。
	8週	試験の解説と解答 TOEICリーディングPart V 演習	後期中間試験の解説と解答 速読により必要な情報を早く見つけることができる。
	9週	Session4 The Great Plains (Part 2) ①	アメリカ地質学に関する英文を読み、内容を理解できる。
	10週	TOEICリーディングPart VI・VII 演習	速読により必要な情報を早く見つけることができる。
	11週	TOEIC問題総合演習	TOEICスコア400点程度以上のスコアが出せる。
	12週	TOEIC問題総合演習	TOEICスコア400点程度以上のスコアが出せる。
	13週	Session4 The Great Plains (Part 2) ②	アメリカ地質学に関する英文を読み、内容を理解できる。
	14週	Session4 The Great Plains (Part 2) ③	アメリカ地質学に関する英文を読み、内容を理解できる。
	15週	到達度試験（学年末）	上記項目について学習した内容の理解度を確認する。
16週	試験の解説と解答	学年末試験の解説と解答、本授業のまとめ、および授業アンケート	

モデルコアカリキュラムの学習内容と到達目標

分類	分野	学習内容	学習内容の到達目標	到達レベル	授業週
----	----	------	-----------	-------	-----

評価割合

	試験	発表	相互評価	態度	ポートフォリオ	その他	合計
総合評価割合	60	0	0	0	0	40	100
基礎的能力	30	0	0	0	0	0	30
専門的能力	30	0	0	0	0	0	30
分野横断的能力	0	0	0	0	0	40	40

秋田工業高等専門学校		開講年度	平成29年度 (2017年度)	授業科目	英語Ⅳ (4M)
科目基礎情報					
科目番号	0003		科目区分	一般 / 必修	
授業形態	授業		単位の種別と単位数	履修単位: 1	
開設学科	一般教科 (人文科学系)		対象学年	4	
開設期	前期		週時間数	2	
教科書/教材	Pros and Cons(Cengage Learning). 副教材としてCROWN PLUS (三省堂)、英検の過去問題、大学入試過去問題、自作のプリントを使用する。				
担当教員	杉浦 克哉				
到達目標					
1. 自分の考えを50語から100語程度の英語で的確かつ論理的に表現することができる。 2. 文法や語法上のミスが無いだけでなく説得力があり独創的な英文を作ることができる。 3. 身近なことを平易な表現を用いてすぐに表現できる。 4. 自分の考えを英語で口頭により伝え、他の学生にそれを理解させる努力ができる。 5. TOEIC400点以上のスコアを取るために必要な語彙力、読解力、リスニング力、文法知識を習得する。					
ルーブリック					
	理想的な到達レベルの目安	標準的な到達レベルの目安	未到達レベルの目安		
評価項目1	自分の考えを50語から100語程度の英語で的確かつ論理的に、流暢な英語で表現することができる。1回発表しただけで聞き手が内容を理解できる。	自分の考えを50語から100語程度の英語で的確かつ論理的に表現することができる。それを発表した時、2回から3回同じ内容を話せば聞き手が理解できる。	自分の考えを50語未満であれば英語で表すことができる。		
評価項目2	自分の考えを英語で口頭により伝える際、聞き手が理解しているかどうかを確かめながら話すことができる。聞き手にとって理解が難しい箇所は、繰り返したり、別の言葉で言い換えたりして、聞き手に理解させる努力ができる。	自分の考えを英語で口頭により伝える際、聞き手が理解しているかどうかを確かめながら話すことができる。	自分の考えを英語で口頭により伝える際、声が小さく、そして読めない語があるために時々詰まってしまう。聞き手に十分な配慮をすることなく、単に原稿を読むだけである。		
評価項目3	文法や語法上のミスが無いだけでなく、説得力があり独創性のある内容の自由英作文を作ることができる。副詞や助動詞が適切に使われ豊富な語彙で英文が表される。	文法や語法上のミスが無いだけでなく、説得力があり独創性のある内容の自由英作文を作ることができる。	自由英作文を作成する際、文法や語法上のミスが多い。内容に説得力、独創性がない。		
評価項目4	条件英作文の問題、語彙力を問うクイズを解いたとき全体の9割以上を正解できる。	条件英作文の問題、語彙力を問うクイズを解いたとき全体の8割以上を正解できる。	条件英作文の問題、語彙力を問うクイズを解いたとき正解率が全体の8割未満である。		
学科の到達目標項目との関係					
教育方法等					
概要	この授業の目標は学生が自分の考えを英語で的確かつ論理的に表現する技術を習得することである。具体的には1行から2行程度の長さの条件英作文、及び与えられたテーマに対し自分の考えを50語から100語程度で述べる自由英作文を重点的に行う。条件英作文では身近なことを平易な表現を用いてすぐに表現できるようにする。自由英作文では文法や語法上のミスが無い英文を書けるだけでなく、説得力があり独創的な内容の英文を書けるようにする。この2つが主な目標であるが、読解、リスニング、英会話等も補助的に行う。学生が英語に触れる機会を増やすために、授業の大部分は英語で行われる。文法の説明や読解は日本語で行うことがある。また、学生は原則として英語で話さなければならない。				
授業の進め方・方法	発音練習、クイズ(小テスト)、口頭発表、条件英作文、[リスニング、読解、自由英作文、英会話]、語彙力を増やすための読解を行う。[]で囲まれた部分は教科書Pros and Consを用いて行う。授業2回で1つのUnitを終えることを目安とするが、進み方は変わる場合がある。条件英作文はCROWN PLUSを用いる。語彙力を増やすための読解は英検の過去問題と大学入試過去問題、及びTOEICの問題を用いる。その他の活動は自作のプリントにより行う。口頭発表については、予めテーマ・問題を与えるので、自分の考えを50語から100語程度の英語で用意しそれを発表する。文法や語法上のミスが無いだけでなく、説得力があり独創的な英文を書くことに努めなければならない。また聞き手に聞こえるように、そして伝わるように話さなければならない。学生が復習しやすいように音声のみの動画を活用することがある。グループ活動を行う場合、学生による相互評価を行うことがある。授業では発展的な内容を扱うことがある。クイズや定期試験では応用問題を出す場合がある。授業の進め方は変更される場合がある。予習として発表原稿の作成、発音練習、クイズ対策、口頭発表の練習、条件英作文・自由英作文の作成、教科書の理解をしてもらうこと。不明な語句は必ず全て辞書で調べ教科書やノート等にメモすること。復習として重要事項の暗記や聞き取りの練習をすること。必要に応じて音声のみの動画を視聴し授業内容を確認すること。				
注意点	眠り続けている学生へは単位を出さない場合がある。提出物や小レポート・エッセイの作成において剽窃や盗用があった場合、単位を出さない場合がある。 【評価方法】合格点は60点である。中間試験、期末試験以外にクイズ(小テスト)、レポート(提出物)、口頭発表も評価に加わる。小テストとしてリスニングの試験も行う。また、グループ活動を行う場合、学生による相互評価を行うことがあるがこれも評価に加わる。定期試験では試験に出る問題は原則として事前に伝えられないが、数問程度ならば事前に告知される場合がある。また、以下に示す評価割合は変更する場合がある。				
授業計画					
		週	授業内容	週ごとの到達目標	
前期	1stQ	1週	授業の進め方と評価の仕方を説明する。 発音練習、クイズ(小テスト)、口頭発表、条件英作文、[リスニング、読解、自由英作文、英会話]、語彙力を増やすための読解 ([]の部分はその日の授業で進められるところまで行い、次回の授業でその続きを行う。第2回目以降の授業は定期試験、試験返却を除き、全てこれと同じなので以下では省略。)、unit 1	上記の「到達目標」「評価(ルーブリック)」に従う。第2回目以降の授業は全てこれと同じなので以下では省略。	
		2週	unit 1		
		3週	unit 2		
		4週	unit 2		
		5週	unit 3		
		6週	unit 3		
		7週	到達度試験(前期中間)		
		8週	試験の解説、unit 4		

2ndQ	9週	unit 4	
	10週	unit 5	
	11週	unit 5	
	12週	unit 6	
	13週	unit 6	
	14週	unit 7	
	15週	unit 7	
	16週	到達度試験（前期期末）	

モデルコアカリキュラムの学習内容と到達目標

分類	分野	学習内容	学習内容の到達目標	到達レベル	授業週
----	----	------	-----------	-------	-----

評価割合

	試験	小テスト	発表	レポート	その他	合計
総合評価割合	50	20	5	5	20	100
基礎的能力	30	20	5	5	20	80
専門的能力	0	0	0	0	0	0
分野横断的能力	20	0	0	0	0	20

秋田工業高等専門学校		開講年度	平成29年度 (2017年度)	授業科目	英語 V (4 M)	
科目基礎情報						
科目番号	0004		科目区分	一般 / 必修		
授業形態	授業		単位の種別と単位数	履修単位: 1		
開設学科	一般教科 (人文科学系)		対象学年	4		
開設期	後期		週時間数	2		
教科書/教材	Pros and Cons(Cengage Learning). 副教材としてCROWN PLUS (三省堂)、英検の過去問題、大学入試過去問題、自作のプリントを使用する。					
担当教員	杉浦 克哉					
到達目標						
1. 自分の考えを50語から100語程度の英語で的確かつ論理的に表現することができる。 2. 自分の考えを英語で口頭により伝え、他の学生にそれを理解させる努力ができる。 3. 文法や語法上のミスが無いだけでなく、説得力があり独創的な英文を作ることができる。 4. 身近なことを平易な表現を用いてすぐに表現できる。 5. TOEIC400点以上のスコアを取るために必要な語彙力、読解力、リスニング力、文法知識を習得する。						
ルーブリック						
	理想的な到達レベルの目安	標準的な到達レベルの目安	未到達レベルの目安			
評価項目1	自分の考えを50語から100語程度の英語で的確かつ論理的に、流暢な英語で表現することができる。1回発表しただけで聞き手が内容を理解できる。	自分の考えを50語から100語程度の英語で的確かつ論理的に表現することができる。それを発表した時、2回から3回同じ内容を話せば聞き手が理解できる。	自分の考えを50語未満であれば英語で表すことができる。			
評価項目2	自分の考えを英語で口頭により伝える際、聞き手が理解しているかどうかを確かめながら話すことができる。聞き手にとって理解が難しい箇所は、繰り返し言ったり、別の言葉で言い換えたりして、聞き手に理解させる努力ができる。	自分の考えを英語で口頭により伝える際、聞き手が理解しているかどうかを確かめながら話すことができる。	自分の考えを英語で口頭により伝える際、声が小さく、そして読めない語があるために時々詰まってしまう。聞き手に十分な配慮をすることなく、単に原稿を読むだけである。			
評価項目3	文法や語法上のミスが無いだけでなく、説得力があり独創性のある内容の自由英作文を作ることができる。副詞や助動詞が適切に使われ豊富な語彙で英文が表される。	文法や語法上のミスが無いだけでなく、説得力があり独創性のある内容の自由英作文を作ることができる。	自由英作文を作成する際、文法や語法上のミスが多い。内容に説得力、独創性がない。			
評価項目4	条件英作文の問題、語彙力を問うクイズを解いたとき全体の9割以上を正解できる。	条件英作文の問題、語彙力を問うクイズを解いたとき全体の8割以上を正解できる。	条件英作文の問題、語彙力を問うクイズを解いたとき正解率が全体の8割未満である。			
学科の到達目標項目との関係						
教育方法等						
概要	この授業の目標は学生が自分の考えを英語で的確にそして論理的に表現し、それを他の学生に的確に伝える技術を習得することである。自分の考えを英語で口頭により伝える際、聞き手が理解しているかどうかを確かめながら話すことができ、そして聞き手にとって理解が難しい箇所は、繰り返し言ったり、別の言葉で言い換えたりして、聞き手に理解させられるようにする。授業では、与えられたテーマに対し自分の考えを50語から100語程度で述べる自由英作文を作成し、それを学生の前で発表する活動を多く行う。前期に引き続き自由英作文では、文法や語法上のミスが無いだけでなく、説得力があり独創的な英文を書くようにする。後期からは、発表内容に対して学生が質問をしたり意見・感想を述べたりする活動を増やす。1度の発表で他の学生から質問、意見、感想が出たら、それは聴者が発表内容を理解していることを意味する。前期と同様、読解、リスニング、会話を行う。また条件英作文も行う。学生が英語に触れる機会を増やすために、授業の大部分は英語で行われる。文法の説明や読解は日本語で行うことがある。また、学生は原則として英語で話さなければならない。					
授業の進め方・方法	発音練習、クイズ(小テスト)、口頭発表、条件英作文、[リスニング、読解、自由英作文、英会話]、語彙力を増やすための読解を行う。授業の流れは前期科目の英語IVと同じであるが、後期の英語Vでは条件英作文を減らし、英会話を増やす。[]で囲まれた部分は教科書Pros and Consを用いて行う。授業2回で1つのUnitを終えることを目安とするが、進み方は変わる場合がある。条件英作文はCROWN PLUSを用いる。語彙力を増やすための読解は英検の過去問題と大学入試過去問題、及びTOEICの問題を用いる。その他の活動は自作のプリントにより行う。口頭発表については、予めテーマ・問題を与えるので、自分の考えを50語から100語程度の英語で用意しそれを発表する。文法や語法上のミスが無いだけでなく、説得力があり独創的な英文を書くことに努めなければならない。また聞き手に聞こえるように、そして伝わるように話さなければならない。学生が復習しやすいように音声のみの動画を活用することがある。グループ活動を行う場合、学生による相互評価を行うことがある。授業では発展的な内容を扱うことがある。クイズや定期試験では応用問題を出す場合がある。授業の進め方は変更される場合がある。予習として発表原稿の作成、発音練習、クイズ対策、口頭発表の練習、条件英作文・自由英作文の作成、教科書の理解をしていくこと。不明な語句は必ず全て辞書で調べ教科書やノート等にメモすること。復習として重要事項の暗記や聞き取りの練習をすること。必要に応じて音声のみの動画を視聴し授業内容を確認すること。					
注意点	眠り続けている学生へは単位を出さない場合がある。提出物や小レポート・エッセイの作成において剽窃や盗用があった場合、単位を出さない場合がある。 [評価方法] 合格点は60点である。中間試験、期末試験以外にクイズ(小テスト)、レポート(提出物)、口頭発表も評価に加わる。小テストとしてリスニングの試験も行う。グループ活動を行う場合、学生による相互評価を行うことがあるがこれも評価に加わる。定期試験では試験に出る問題は原則として事前に伝えられないが、教問程度ならば事前に告知される場合がある。また、以下に示す評価割合は変更する場合がある。					
授業計画						
	週	授業内容	週ごとの到達目標			
後期	3rdQ	1週	授業の進め方と評価の仕方を説明する。発音練習、クイズ(小テスト)、口頭発表、条件英作文、[リスニング、読解、自由英作文、英会話]、語彙力を増やすための読解([]の部分はその日の授業で進められるところまで行い、次回の授業でその続きを行う。第2回目以降の授業は定期試験、試験返却を除き、全てこれと同じなので以下では省略。)、unit 8	上記の「到達目標」「評価(ルーブリック)」に従う。第2回目以降の授業は全てこれと同じなので以下では省略。		
		2週	unit 8			
		3週	unit 9			
		4週	unit 9			

		5週	unit 10	
		6週	unit 10	
		7週	到達度試験（前期中間）	
		8週	試験の解説、unit 11	
	4thQ	9週	unit 11	
		10週	unit 12	
		11週	unit 12	
		12週	unit 13	
		13週	unit 13	
		14週	unit 14	
		15週	unit 14	
		16週	到達度試験（前期期末）	

モデルコアカリキュラムの学習内容と到達目標

分類	分野	学習内容	学習内容の到達目標	到達レベル	授業週
----	----	------	-----------	-------	-----

評価割合

	試験	小テスト	発表	レポート	その他	合計
総合評価割合	50	20	5	5	20	100
基礎的能力	30	20	5	5	20	80
専門的能力	0	0	0	0	0	0
分野横断的能力	20	0	0	0	0	20

秋田工業高等専門学校		開講年度	平成29年度 (2017年度)	授業科目	社会と文化 (4M)
科目基礎情報					
科目番号	0005		科目区分	一般 / 選択	
授業形態	授業		単位の種別と単位数	履修単位: 1	
開設学科	一般教科 (人文科学系)		対象学年	4	
開設期	前期		週時間数	2	
教科書/教材	参考書: 金森久雄編『日本経済読本』東洋経済新報社、平島健司『EUは国家を超えられるか』岩波書店 / その他: 自製プリントの配布				
担当教員	長井 栄二				
到達目標					
1. 戦後日本の地域格差問題の概要がわかる。 2. 戦後の欧州統合過程の概要がわかる。					
ルーブリック					
	理想的な到達レベルの目安		標準的な到達レベルの目安		未到達レベルの目安
評価項目1	戦後日本の地域格差問題を、資料に即して論述できる。		戦後日本の地域格差問題の概要を説明できる。		戦後日本の地域格差問題の概要を説明できない。
評価項目2	戦後の欧州統合過程の特質について、具体的に論述できる。		戦後の欧州統合過程の概要を説明できる。		戦後の欧州統合過程の概要を説明できない。
学科の到達目標項目との関係					
教育方法等					
概要	戦後の日本および現代ヨーロッパにおける地域をめぐる諸問題を、多様な観点から学ぶことにより、現代世界における身近な社会の問題を相対的かつ客観的に捉え、自ら思考し主体的に行動していくために必要な基礎視角を身に付ける。				
授業の進め方・方法	講義形式。試験結果が合格点に達しない場合、再試験を行うことがある。				
注意点	合格点は60点である。前期中間・期末成績は、いずれも試験結果で評価する。学年総合成績 = (前期中間成績 + 前期末成績) / 2。 授業を受ける前: 現在の日本や世界の諸地域の情勢について、複数のメディアを通じて、日常的に情報に触れておくこと。 授業を受けた後: 授業で示した板書および口頭説明の論理構成を押さえ、その主旨を明確につかまえておくこと。				
授業計画					
		週	授業内容	週ごとの到達目標	
前期	1stQ	1週	授業のガイダンス	授業の進め方と評価の仕方について説明する。	
		2週	戦後日本の経済成長	一国経済規模の成長について学ぶ。	
		3週	戦後日本の地域格差問題	経済成長と地域格差の関係について学ぶ。	
		4週	現代日本の空間構造	現代日本の空間構造の特質について学ぶ。	
		5週	地域格差をめぐる諸問題	社会問題としての地域問題の性格がわかる。	
		6週	戦後日本の地域政策	政策手法の特質について学ぶ。	
		7週	到達度試験 (前期中間)	上記の項目について学習した内容の理解度を授業の中で確認する。	
		8週	試験の解説と解答	到達度試験の解説と解答	
	2ndQ	9週	大戦直後の欧州	大戦直後の欧州統合の試みについて学ぶ。	
		10週	欧州石炭鉄鋼共同体 (ECSC) の成立	欧州統合の画期性がわかる。	
		11週	欧州経済共同体と欧州原子力共同体	統合分野の拡大と統合組織の変化について学ぶ。	
		12週	「均衡の時代」	統合の漸進性がわかる。	
		13週	欧州連合 (EU) の成立	欧州連合の性格について学ぶ。	
		14週	欧州統合の現状	欧州統合の到達点について学ぶ。	
		15週	到達度試験 (前期末)	上記の項目について学習した内容の理解度を授業の中で確認する。	
		16週	試験の解説と解答	到達度試験の解説と解答、および授業アンケート	
モデルコアカリキュラムの学習内容と到達目標					
分類	分野	学習内容	学習内容の到達目標	到達レベル	授業週
評価割合		到達度試験		合計	
総合評価割合		100		100	
知識の基本的な理解		60		60	
論理的思考・表現		40		40	

秋田工業高等専門学校		開講年度	平成29年度 (2017年度)	授業科目	科学技術社会史 (4M)			
科目基礎情報								
科目番号	0007		科目区分	一般 / 選択				
授業形態	授業		単位の種別と単位数	履修単位: 1				
開設学科	一般教科 (人文科学系)		対象学年	4				
開設期	前期		週時間数	2				
教科書/教材	その他: 自製プリントの配布							
担当教員	吉葉 恭行							
到達目標								
科学技術と産業や社会の関係を歴史的に考察し理解する上で必要な学術的素養を身につけることにより、現代社会が抱える科学技術にかかわる諸問題を主体的に発見し考察が出来るようになること。								
ルーブリック								
	理想的な到達レベルの目安		標準的な到達レベルの目安		未到達レベルの目安			
評価項目1	産業革命期における科学技術と産業の発展の関係を具体的に説明できる。		産業革命期における科学技術と産業の発展の関係を概略説明できる。		産業革命期における科学技術と産業の発展の関係を説明できない。			
評価項目2	産業革命期における社会変容について具体的に説明できる。		産業革命期における社会変容について概略説明できる。		産業革命期における社会変容について説明できない。			
評価項目3	大量生産方式の発達と科学技術および社会の変容について具体的に説明できる。		大量生産方式の発達と科学技術および社会の変容について概略説明できる。		大量生産方式の発達と科学技術および社会の変容について説明できない。			
評価項目4	大戦期の科学技術の発達と社会の変容について具体的に説明できる。		大戦期の科学技術の発達と社会の変容について概略説明できる。		大戦期の科学技術の発達と社会の変容について説明できない。			
評価項目5	戦後の科学技術の発達と社会の変容について具体的に説明できる。		戦後の科学技術の発達と社会の変容について概略説明できる。		戦後の科学技術の発達と社会の変容について説明できない。			
学科の到達目標項目との関係								
教育方法等								
概要	科学技術の発展は産業や社会のありかたをどのように変え、また産業・社会は科学技術に何を求めたのか。19世紀後半～20世紀の科学技術の発展と産業・社会の変容とのかかわりについて、歴史的に考察し考える。							
授業の進め方・方法	講義形式を基本とするが、必要に応じてグループ・ディスカッション等も実施する。必要に応じて適宜課題レポートの提出および課題のプレゼンテーションを求める。試験結果が合格点に達しない場合、再試験を行うことがある。							
注意点	授業中は板書を書き取るだけでなく、口頭による説明についても各自メモを取る習慣を身につける必要がある。授業内容を深く理解するために、参考文献やインターネット等の複数メディアを活用し、資料収集し学ぶ方法 (スキル) を身につけるよう心がけること。様々な見方を相対的に捉え、自分なりに整理する習慣を身につけることが重要である。							
授業計画								
		週	授業内容		週ごとの到達目標			
前期	1stQ	1週	授業ガイダンス		授業の進め方と評価の仕方について説明する。科学技術社会史の学術的位置づけを理解する。			
		2週	1 19世紀の科学技術と社会 (1) 産業革命と産業発展		産業革命期における科学技術と産業の発展の関係を学ぶ。			
		3週						
		4週						
		5週	(2) 産業革命期の社会変容		産業革命期における社会変容について学ぶ。			
		6週						
		7週	到達度試験 (前期中間)		上記項目について学習した内容の理解度を確認する。			
		8週	2 20世紀の科学技術と社会 (1) 大量生産方式と科学技術		大量生産方式の発達と科学技術および社会の変容について学ぶ。			
	2ndQ	9週						
		10週						
		11週						
		12週	(2) 大戦期の科学技術と産業		大戦期の科学技術の発達と社会の変容について学ぶ。			
		13週						
		14週	(3) 戦後の科学技術と産業		戦後の科学技術の発達と社会の変容について学ぶ。			
		15週						
		16週	到達度試験 (前期末)		上記項目について学習した内容の理解度を確認する。			
モデルコアカリキュラムの学習内容及到達目標								
分類	分野	学習内容	学習内容の到達目標				到達レベル	授業週
評価割合								
	試験	発表	相互評価	態度	ポートフォリオ	その他	レポート	合計
総合評価割合	60	10	0	0	0	10	20	100
基礎的能力	60	0	0	0	0	0	5	65
思考・推論・創造への適用力	0	0	0	0	0	0	5	5
汎用的技能	0	5	0	0	0	5	5	15

態度・嗜好性 (人間力)	0	5	0	0	0	5	0	10
総合的な学習 経験と創造的 思考力	0	0	0	0	0	0	5	5

秋田工業高等専門学校		開講年度	平成29年度 (2017年度)	授業科目	日本語表現 (4E)
科目基礎情報					
科目番号	0009		科目区分	一般 / 必修	
授業形態	授業		単位の種別と単位数	履修単位: 2	
開設学科	一般教科 (人文科学系)		対象学年	4	
開設期	通年		週時間数	2	
教科書/教材	自製プリントの配付 国語辞典 (電子辞書も可) 『スキルアップ! 日本語力』 (東京書籍)				
担当教員	石塚 政吾				
到達目標					
<p>1. 日本語の文章を支える語彙や文法、文の組み立て、構成の仕方を理解し、自分の意見を確立して書くことができる。</p> <p>2. 日本語の会話を支える語彙や文法、文の組み立て、構成の仕方を理解し、場面や問題に応じ適切に運用・発表することができる。</p> <p>3. 現代社会で求められるコミュニケーション能力を、正確かつ豊かに駆使することができる。</p>					
ルーブリック					
	理想的な到達レベルの目安		標準的な到達レベルの目安		未到達レベルの目安
評価項目1	語彙や文法を理解し、後世を工夫して自分の意見を書くことができる。		語彙や文法を理解し、自分の意見を確立して書くことができる。		語彙や文法を理解できず、自分の意見を書くことができない。
評価項目2	語彙や文法を理解し、後世を工夫し、場面に応じた発表をすることができる。		語彙や文法を理解し、場面や問題に応じて発表をすることができる。		語彙や文法を理解できず、場面に応じて適切に発表することができない。
評価項目3	コミュニケーション能力を正確かつ豊かに発揮することができる。		コミュニケーション能力を発揮することができる。		コミュニケーション能力を発揮することができない。
学科の到達目標項目との関係					
教育方法等					
概要	将来の社会人として不可欠な日本語の知識と表現力を身に付け、意見や小論文、実用的な文章が書けるようになる。また、プレゼンテーションやディベートを通して口頭表現の仕方について習熟する。				
授業の進め方・方法	演習形式で行う。単元ごとに文章やレポートの書き方、発表やプレゼンテーションの仕方を学習する。また、日本語の語彙や文法・敬語について、その正しい理解と運用を学習する。				
注意点	普段から新聞やTVのニュースをよく見聞し、日本語や社会の抱える問題について、知識を広く持ちそれらの様々な面について自分の考えを深めておくようにすること。合格点は60点である。要約文や意見文・小論文などの提出物や口頭発表、またプリントやノートの点検ごとに点数をつけ、その総点を回数で割って評価する。				
授業計画					
		週	授業内容	週ごとの到達目標	
前期	1stQ	1週	授業ガイダンス	授業の進め方と評価の仕方について説明する。	
		2週	(1) 自己紹介〈話〉	自分のよさを知り、音声言語で印象深く伝えることができる。	
		3週	同上	同上	
		4週	(2) 学科紹介〈書〉	学科の特徴を知り、文字言語で印象深く伝えることができる。	
		5週	同上	同上	
		6週	同上	同上	
		7週	同上	同上	
		8週	(3) 俳句〈書〉	俳句表現の特徴を理解し、創作することができる。	
	2ndQ	9週	同上	同上	
		10週	(4) 要約〈書〉	キーワードを理解し、簡潔に要約文をまとめることができる。	
		11週	同上	同上	
		12週	(5) 読み聞かせ〈話〉	状況や心情を踏まえて豊かに読み聞かせることができる。	
		13週	同上	同上	
		14週	(6) はがき・手紙・メール〈書〉	暑中見舞い、インターンシップの礼状等を適切に書くことができる。	
		15週	同上	同上	
		16週	同上	同上 前期授業のまとめ、および授業アンケート。	
後期	3rdQ	1週	(7) 発表〈話〉	インターンシップの様子をわかりやすく報告することができる。	
		2週	同上	同上	
		3週	同上	同上	
		4週	(8) レポート〈書〉	自分の立場や根拠を明確にし、文字言語で述べることができる。	
		5週	同上	同上	
		6週	(9) ディベート〈話〉	自分の立場や根拠を明確にし、音声言語で述べるすることができる。	
		7週	同上	同上	
		8週	(10) プレゼンテーション〈話〉	図や表などを取り入れながら、研究テーマをわかりやすくかつ論理的に印象深く伝えることができる。	
	4thQ	9週	同上	同上	
		10週	同上	同上	

	11週	(11) 小論文〈書〉	自分の立場や根拠を明確にし、文字言語で述べることができる。
	12週	同上	同上
	13週	同上	同上
	14週	(12) エントリーシート〈書〉	効果的なエントリーシートをまとめることができる。
	15週	同上	同上
	16週	同上	同上 後期授業のまとめ、および授業アンケート。

モデルコアカリキュラムの学習内容と到達目標

分類	分野	学習内容	学習内容の到達目標	到達レベル	授業週
----	----	------	-----------	-------	-----

評価割合

	試験	発表	相互評価	態度	ポートフォリオ	その他	合計
総合評価割合	0	30	0	0	0	70	100
基礎的能力	0	10	0	0	0	50	60
専門的能力	0	0	0	0	0	10	10
分野横断的能力	0	20	0	0	0	10	30

秋田工業高等専門学校		開講年度	平成29年度 (2017年度)	授業科目	総合英語 I (4E)
科目基礎情報					
科目番号	0010	科目区分	一般 / 必修		
授業形態	授業	単位の種別と単位数	履修単位: 2		
開設学科	一般教科 (人文科学系)	対象学年	4		
開設期	通年	週時間数	2		
教科書/教材	「The Universe of English」 東京大学出版会, 「(新形式問題対応) TOEIC® テスト非公式問題集至高の400問」 ヒロ前田他 著 アルク, 「Deep Listening Level 3」 日本英語検定協会				
担当教員	菅原 隆行				
到達目標					
1. TOEICスコア400点以上のコミュニケーション力を身につける。 2. リスニング力、シャドーイング力があり、英語速読のスピードが1分間に120語程度である。 3. 4500語程度の単語力と英文法の理解力がある。 4. 英語の長文を正確に読み取ることができる。					
ルーブリック					
	理想的な到達レベルの目安	標準的な到達レベルの目安	未到達レベルの目安		
評価項目1	TOEICスコアが450点以上である。	TOEICスコアが380点程度である。	TOEICスコアが320点未満である。		
評価項目2	リスニング力、シャドーイング力があり、英語速読のスピードが1分間に150語程度以上である。	リスニング力、シャドーイング力がある程度あり、英語速読のスピードが1分間に120語程度である。	リスニング力、シャドーイング力がなく、英語速読のスピードが1分間に80語未満である。		
評価項目3	英語の長文を80%以上読み取ることができる。	英語の長文を60%程度読み取ることができる。	英語の長文を読み取ることができない。		
学科の到達目標項目との関係					
教育方法等					
概要	TOEICスコア400点以上のコミュニケーション力を身につけ、英語速読のスピードが1分間に120語程度の能力を持ち、英語の長文を正確に読み取ることができる能力を修得する。				
授業の進め方・方法	演習形式で行い、小テスト (TOEICテスト) も随時実施する。アルク・ネットアカデミーは主に自学自習課題として使用する。試験結果が合格点に達しない場合、再試験を行うことがある。				
注意点	合格点は60点である。各中間・期末成績は、試験結果60%、TOEICテスト成績等を40%で評価する。 学年総合成績 = (到達度試験 (前期中間) + 到達度試験 (前期期末) + 到達度試験 (後期中間) + 到達度試験 (学年末) 成績) / 4 なお、TOEICスコアが320点未満の学生は、単位取得が困難になるので注意すること。 宿題が多いので計画的に課題を進めること。宿題をしない学生は科目履修を放棄したとみなすので注意すること。				
授業計画					
	週	授業内容	週ごとの到達目標		
前期	1stQ	1週	授業ガイダンス TOEICリスニングPart I 演習	授業の進め方と評価の仕方について説明する。 TOEICリスニング問題の内容と傾向がわかる。	
		2週	TOEICリスニングPart II 演習	TOEICリスニング問題の内容と傾向がわかる。	
		3週	Session10 How Our Ancestors Survived the Ice Age ①	人類の誕生の歴史に関する英文を読み、内容を理解できる。	
		4週	Session10 How Our Ancestors Survived the Ice Age ②	人類の誕生の歴史に関する英文を読み、内容を理解できる。	
		5週	TOEICリスニングPart III 演習	TOEICリスニング問題の内容と傾向がわかる。	
		6週	Session10 How Our Ancestors Survived the Ice Age ③	人類の誕生の歴史に関する英文を読み、内容を理解できる。	
		7週	Session10 How Our Ancestors Survived the Ice Age ④ TOEICリスニングPart IV 演習	人類の誕生の歴史に関する英文を読み、内容を理解できる。 TOEICリスニング問題の内容と傾向がわかる。	
		8週	到達度試験 (前期中間)	上記項目について学習した内容の理解度を確認する。	
	2ndQ	9週	試験の解説と解答 TOEICリーディングPart V 演習	前期中間試験の解説と解答 TOEICリーディング問題の内容と傾向がわかる。	
		10週	Session11 Disneyland: America's Sacred Land ①	アメリカ大衆文化論に関する英文を読み、内容を理解できる。	
		11週	TOEICリーディングPart VI・VII 演習	TOEICリーディング問題の内容と傾向がわかる。	
		12週	Session11 Disneyland: America's Sacred Land ②	アメリカ大衆文化論に関する英文を読み、内容を理解できる。	
		13週	TOEICリーディングPart VII 演習	TOEICリーディング問題の内容と傾向がわかる。	
		14週	Session11 Disneyland: America's Sacred Land ③	アメリカ大衆文化論に関する英文を読み、内容を理解できる。	
		15週	到達度試験 (前期期末)	上記項目について学習した内容の理解度を確認する。	
		16週	試験の解説と解答	前期期末試験の解説と解答、および授業アンケート	
後期	3rdQ	1週	TOEICリスニングPart I・II 演習	TOEICリスニング問題のスピードに対応できる。	
		2週	Session13 The Myth of Uniqueness ①	比較文化論に関する英文を読み、内容を理解できる。	
		3週	TOEICリスニングPart III 演習	TOEICリスニング問題のスピードに対応できる。	
		4週	Session13 The Myth of Uniqueness ②	比較文化論に関する英文を読み、内容を理解できる。	
		5週	TOEICリスニングPart IV 演習	TOEICリスニング問題のスピードに対応できる。	
		6週	Session13 The Myth of Uniqueness ③	比較文化論に関する英文を読み、内容を理解できる。	
		7週	到達度試験 (後期中間)	上記項目について学習した内容の理解度を確認する。	

4thQ	8週	試験の解説と解答 TOEICリーディングPart V 演習	後期中間試験の解説と解答 速読により必要な情報を早く見つけることができる。
	9週	Session14 Teenage Nation ①	10代という年齢層の歴史の変遷に関する英文を読み、内容を理解できる。
	10週	TOEICリーディングPart VI・VII 演習	速読により必要な情報を早く見つけることができる。
	11週	TOEIC問題総合演習	TOEICスコア400点程度以上のスコアが出せる。
	12週	TOEIC問題総合演習	TOEICスコア400点程度以上のスコアが出せる。
	13週	Session14 Teenage Nation ②	10代という年齢層の歴史の変遷に関する英文を読み、内容を理解できる。
	14週	Session14 Teenage Nation ③	10代という年齢層の歴史の変遷に関する英文を読み、内容を理解できる。
	15週	到達度試験（学年末）	上記項目について学習した内容の理解度を確認する。
16週	試験の解説と解答	学年末試験の解説と解答、本授業のまとめ、および授業アンケート	

モデルコアカリキュラムの学習内容と到達目標

分類	分野	学習内容	学習内容の到達目標	到達レベル	授業週
----	----	------	-----------	-------	-----

評価割合

	試験	発表	相互評価	態度	ポートフォリオ	その他	合計
総合評価割合	60	0	0	0	0	40	100
基礎的能力	30	0	0	0	0	0	30
専門的能力	30	0	0	0	0	0	30
分野横断的能力	0	0	0	0	0	40	40

秋田工業高等専門学校		開講年度	平成29年度 (2017年度)	授業科目	英語Ⅳ (4E)
科目基礎情報					
科目番号	0011		科目区分	一般 / 必修	
授業形態	授業		単位の種別と単位数	履修単位: 1	
開設学科	一般教科 (人文科学系)		対象学年	4	
開設期	前期		週時間数	2	
教科書/教材	Schaepe, Richard H.・河合忠仁・三浦良邦 (1998) 『時事英語で楽しく学ぶ英文法-The Pleasure of Reading, Thinking & Writing-』, 松柏社, 東京, 自作プリント				
担当教員	小菅 智也				
到達目標					
1. 英語IIIまでに学習した文法事項を用い、基礎的な英文を作ることができる。 2. 英検準1級程度の英文の内容を正確に理解し、英語で要約することができる。 3. 与えられたテーマについて200語程度の英文を作ることができる。 4. 作成した英文を口頭で発表することができる。					
ループリック					
	理想的な到達レベルの目安	標準的な到達レベルの目安	未到達レベルの目安		
評価項目1	自力で既習の文法事項を用い、基礎的な英文を作ることができる。	辞書や文法書を用い、既習の文法事項を用い、基礎的な英文を作ることができる。	教員の補助がなければ、既習の文法事項を用いて基礎的な英文を作ることができない。		
評価項目2	英検準1級程度の英文の内容を正確に理解し、自分の言葉で英語の要約文を作ることができる。	英検準1級程度の英文の内容を正確に理解し、本文を抜粋すれば英語の要約文を作ることができる。	英検準1級程度の英文の内容を正確に理解し、本文を抜粋しても正確な英語の要約文を作ることができない。		
評価項目3	与えられたテーマについての自論を、自力で200語程度の英文で表現することができる。	辞書や文法書を用い、与えられたテーマについての自論を200語程度の英文で表現できる。	教員の補助がなければ、与えられたテーマについての自論を200語程度の英文で表現することができない。		
評価項目4	事前に練習を行えば、200語程度の英文を、正しい発音、イントネーション、区切り方で音読することができる。	事前の練習に加え、英文に補助となる書き込みを加えておけば、正しい発音、イントネーション、区切り方で音読することができる。	事前の準備をしても、正しい発音、イントネーション、区切り方で音読することができない。		
学科の到達目標項目との関係					
教育方法等					
概要	英文読解、英作文、口頭発表の作業を通じ、総合的な英語力の向上を目指す。本講義では特にライティング能力に焦点を当てている。具体的には、与えられたテーマについて、200語程度の英文で自分の考えを述べることを目標とする。				
授業の進め方・方法	<ul style="list-style-type: none"> 毎回の授業は基本的に演習形式をとり、下記の流れで行う。 (1) 教科書の英文を読み、テーマに関する基礎知識を身につける。 (2) 教科書の練習問題を通じ、既習の文法事項や、本文に出てきた表現を用いた基礎的な英作文能力を身につける。 (3) 教科書のテーマに関するパラグラフライティングの作業を通じ、論理的な文章を書くための構成や、談話標識の使い方等を身につける。 (4) 作成した英文の口頭発表を通じ、英文の正しいイントネーションや区切り方を身につける。 作成した英文は、学生同士で添削してもらおう場合もある。 適宜小テストを行い、授業で扱った内容の定着を図る。 				
注意点	60点以上を合格点とする。学期末の成績は、定期試験結果50%、作文課題20%、口頭発表・小テスト・授業態度を各10%で評価する。定期試験は、基本的には上記(1)~(4)で学習した内容を問う問題であるが、これらに関連した応用力を問う問題を出題する場合もある。				
授業計画					
		週	授業内容	週ごとの到達目標	
前期	1stQ	1週	授業ガイダンス	授業の進め方と評価の仕方について説明する。助動詞を使った表現を用いて英作文ができる。	
		2週	Unit1	助動詞を使った表現を用いて英作文ができる。	
		3週	Unit2	仮定法を使った表現を用いて英作文ができる。	
		4週	Unit3	強調構文を使った表現を用いて英作文ができる。	
		5週	Unit4	接続詞を使った表現を用いて英作文ができる。	
		6週	Unit5	不定詞を使った表現を用いて英作文ができる。	
		7週	Unit6	現在完了形を使った表現を用いて英作文ができる。	
		8週	到達度試験 (前期中間)	上記項目について学習した内容の理解度を確認する	
	2ndQ	9週	試験の解説と解答	前期中間試験の解説と解答	
			Unit7	現在分詞を使った表現を用いて英作文ができる。	
		10週	Unit7	現在完了形を使った表現を用いて英作文ができる。	
		11週	Unit8	比較級を使った表現を用いて英作文ができる。	
		12週	Unit9	受動態を使った表現を用いて英作文ができる。	
		13週	Unit10	関係代名詞を使った表現を用いて英作文ができる。	
		14週	Unit11	省略を使った表現を用いて英作文ができる。	
		15週	到達度試験 (前期期末)	上記項目について学習した内容の理解度を確認する。	
	16週	試験の解説と解答	前期末試験の解説と解答、および授業アンケート		
モデルコアカリキュラムの学習内容及到達目標					
分類	分野	学習内容	学習内容の到達目標	到達レベル	授業週
評価割合					

	試験	発表	小テスト	態度	英作文課題	その他	合計
総合評価割合	50	10	0	10	20	0	90
基礎的能力	20	10	10	10	10	0	50
専門的能力	0	0	0	0	0	0	0
分野横断的能力	30	0	0	0	10	0	40

秋田工業高等専門学校		開講年度	平成29年度 (2017年度)	授業科目	英語 V (4 E)
科目基礎情報					
科目番号	0012		科目区分	一般 / 必修	
授業形態	授業		単位の種別と単位数	履修単位: 1	
開設学科	一般教科 (人文科学系)		対象学年	4	
開設期	後期		週時間数	2	
教科書/教材	Schaepe, Richard H.・河合忠仁・三浦良邦 (1998) 『時事英語で楽しく学ぶ英文法-The Pleasure of Reading, Thinking & Writing-』, 松柏社, 東京, 自作プリント				
担当教員	小菅 智也				
到達目標					
1. 原稿を見ずに、毎分120語程度の速さで2分程の口頭発表ができる。 2. 毎分120語程度の速さで2分程の口頭発表を聞いて、内容を理解することができる。 3. プレゼンテーションの基本的な構成と基礎的な語彙・表現を身に付けて、身振り手振りやスライド資料などを用いて発表ができる。					
ルーブリック					
	理想的な到達レベルの目安	標準的な到達レベルの目安	未到達レベルの目安		
評価項目1	原稿を全く見ずに、毎分120語程度の速さで2分程の口頭発表ができる。	ところどころ原稿を見れば、毎分120語程度の速さで2分程の口頭発表ができる。	最初から最後まで原稿を見なければ、毎分120語程度の速さで2分程の口頭発表ができない。		
評価項目2	メモを取りながら、毎分120語程度の速さで2分程の口頭発表を理解し、内容に関する質問ができる。	メモを取りながら、毎分120語程度の速さで2分程の口頭発表を理解することができる。	メモを取りながらも、毎分120語程度の速さで2分程の口頭発表を理解することができない。		
評価項目3	プレゼンテーションの基本的な構成と基礎的な語彙・表現を身に付けて、身振り手振りやスライド資料などを用いて発表ができる。	プレゼンテーションの基本的な構成と基礎的な語彙・表現は身に付けているが、身振り手振りやスライド資料は効果的に使うことができない。	プレゼンテーションの基本的な構成と基礎的な語彙・表現を身に付けておらず、身振り手振りやスライド資料などを用いた発表も行つことができない。		
学科の到達目標項目との関係					
教育方法等					
概要	英文読解、英作文、口頭発表の作業を通じ、総合的な英語力の向上を目指す。本講義では特に、英語プレゼンテーションの技能に焦点を当てている。具体的には、与えられたテーマや自分のことについて、スライド資料等を用いながら、毎分120語程度の速度で、2分程度の口頭発表ができることを目標とする。また、英語IVに引き続き、教科書を用いた英作文演習も行っていく。				
授業の進め方・方法	演習形式で行い、英語プレゼンテーションに必要な技能を身に付ける。基本的な流れは下記の通りである。 (1) 目標とする技能に関する教員によるデモンストレーション。 (2) 教科書の英文を読み、テーマに関する基礎知識を身につけるとともに、本文で使用されている文法事項を身につける。 (3) 本文の内容について、発表の準備を行う。 (4) 学生による口頭発表 (5) 発表の評価と議論 英語IVで行った英作文や発音の訓練も引き続き行っていく。 なお、授業の進捗や内容は、学生の理解度等を見て変更する場合もある。				
注意点	60点を合格点とする。学期末の成績は、英語での口頭発表60%、英作文課題20%、授業態度10%、小テスト10%で評価する。各自4~5回の個人発表と、2回のグループ発表を予定している。				
授業計画					
	週	授業内容	週ごとの到達目標		
後期	3rdQ	1週	授業ガイダンス Unit12	授業の進め方と評価の仕方について説明する。関係詞を使った表現を用いて英作文ができる。	
		2週	Unit12 アイコンタクト	関係詞を使った表現を用いて英作文ができる。アイコンタクトの使い方を理解し、発表を通じて身につける。	
		3週	Unit13 アイコンタクト	関係副詞を使った表現を用いて英作文ができる。アイコンタクトの使い方を理解し、発表を通じて身につける。	
		4週	Unit13 アイコンタクト	関係副詞を使った表現を用いて英作文ができる。アイコンタクトの使い方を理解し、発表を通じて身につける。	
		5週	Unit14 ジェスチャー	過去分詞を使った表現を用いて英作文ができる。ジェスチャーの使い方を理解し、発表を通じて身につける。	
		6週	Unit14 ジェスチャー	過去分詞を使った表現を用いて英作文ができる。ジェスチャーの使い方を理解し、発表を通じて身につける。	
		7週	Unit15 ジェスチャー	動名詞を使った表現を用いて英作文ができる。ジェスチャーの使い方を理解し、発表を通じて身につける。	
		8週	Unit15 視覚的補助	動名詞を使った表現を用いて英作文ができる。スライド等の視覚的補助の効果的な使い方を理解し、発表を通じて身につける。	
	4thQ	9週	Unit16 視覚的補助	同格のthatを使った表現を用いて英作文ができる。スライド等の視覚的補助の効果的な使い方を理解し、発表を通じて身につける。	
		10週	Unit16 視覚的補助	同格のthatを使った表現を用いて英作文ができる。スライド等の視覚的補助の効果的な使い方を理解し、発表を通じて身につける。	

	11週	Unit17 構成	関係代名詞を使った表現を用いて英作文ができる。 発表の基本的な構成の作り方を理解し、発表を通じて身につける。
	12週	Unit17 構成	関係代名詞を使った表現を用いて英作文ができる。 発表の基本的な構成の作り方を理解し、発表を通じて身につける。
	13週	Unit18 質疑応答	仮定法過去完了を使った表現を用いて英作文ができる。 英語での質疑応答に必要な語彙や表現を使えるようになる。
	14週	Unit18 質疑応答	仮定法過去完了を使った表現を用いて英作文ができる。 英語での質疑応答に必要な語彙や表現を使えるようになる。
	15週	Unit19 質疑応答	比較級を使った表現を用いて英作文ができる。 英語での質疑応答に必要な語彙や表現を使えるようになる。
	16週	最終プロジェクト 授業アンケート	最終プロジェクトの発表と授業アンケート

モデルコアカリキュラムの学習内容と到達目標

分類	分野	学習内容	学習内容の到達目標	到達レベル	授業週
----	----	------	-----------	-------	-----

評価割合

	試験	発表	小テスト	態度	英作文課題	その他	合計
総合評価割合	0	60	10	10	20	0	100
基礎的能力	0	60	10	10	20	0	100
専門的能力	0	0	0	0	0	0	0
分野横断的能力	0	0	0	0	0	0	0

秋田工業高等専門学校		開講年度	平成29年度 (2017年度)	授業科目	社会と文化 (4E)
科目基礎情報					
科目番号	0013		科目区分	一般 / 選択	
授業形態	授業		単位の種別と単位数	履修単位: 1	
開設学科	一般教科 (人文科学系)		対象学年	4	
開設期	前期		週時間数	2	
教科書/教材	参考書: 金森久雄編『日本経済読本』東洋経済新報社、平島健司『EUは国家を超えられるか』岩波書店 / その他: 自製プリントの配布				
担当教員	長井 栄二				
到達目標					
1. 戦後日本の地域格差問題の概要がわかる。 2. 戦後の欧州統合過程の概要がわかる。					
ルーブリック					
	理想的な到達レベルの目安		標準的な到達レベルの目安		未到達レベルの目安
評価項目1	戦後日本の地域格差問題を、資料に即して論述できる。		戦後日本の地域格差問題の概要を説明できる。		戦後日本の地域格差問題の概要を説明できない。
評価項目2	戦後の欧州統合過程の特質について、具体的に論述できる。		戦後の欧州統合過程の概要を説明できる。		戦後の欧州統合過程の概要を説明できない。
学科の到達目標項目との関係					
教育方法等					
概要	戦後の日本および現代ヨーロッパにおける地域をめぐる諸問題を、多様な観点から学ぶことにより、現代世界における身近な社会の問題を相対的かつ客観的に捉え、自ら思考し主体的に行動していくために必要な基礎視角を身に付ける。				
授業の進め方・方法	講義形式。試験結果が合格点に達しない場合、再試験を行うことがある。				
注意点	合格点は60点である。前期中間・期末成績は、いずれも試験結果で評価する。学年総合成績 = (前期中間成績 + 前期末成績) / 2。 授業を受ける前: 現在の日本や世界の諸地域の情勢について、複数のメディアを通じて、日常的に情報に触れておくこと。 授業を受けた後: 授業で示した板書および口頭説明の論理構成を押さえ、その主旨を明確につかまえておくこと。				
授業計画					
		週	授業内容	週ごとの到達目標	
前期	1stQ	1週	授業のガイダンス	授業の進め方と評価の仕方について説明する。	
		2週	戦後日本の経済成長	一国経済規模の成長について学ぶ。	
		3週	戦後日本の地域格差問題	経済成長と地域格差の関係について学ぶ。	
		4週	現代日本の空間構造	現代日本の空間構造の特質について学ぶ。	
		5週	地域格差をめぐる諸問題	社会問題としての地域問題の性格がわかる。	
		6週	戦後日本の地域政策	政策手法の特質について学ぶ。	
		7週	到達度試験 (前期中間)	上記の項目について学習した内容の理解度を授業の中で確認する。	
		8週	試験の解説と解答	到達度試験の解説と解答	
	2ndQ	9週	大戦直後の欧州	大戦直後の欧州統合の試みについて学ぶ。	
		10週	欧州石炭鉄鋼共同体 (ECSC) の成立	欧州統合の画期性がわかる。	
		11週	欧州経済共同体と欧州原子力共同体	統合分野の拡大と統合組織の変化について学ぶ。	
		12週	「均衡の時代」	統合の漸進性がわかる。	
		13週	欧州連合 (EU) の成立	欧州連合の性格について学ぶ。	
		14週	欧州統合の現状	欧州統合の到達点について学ぶ。	
		15週	到達度試験 (前期末)	上記の項目について学習した内容の理解度を授業の中で確認する。	
		16週	試験の解説と解答	到達度試験の解説と解答、および授業アンケート	
モデルコアカリキュラムの学習内容と到達目標					
分類	分野	学習内容	学習内容の到達目標	到達レベル	授業週
評価割合		到達度試験	合計		
総合評価割合		100	100		
知識の基本的な理解		60	60		
論理的思考・表現		40	40		

秋田工業高等専門学校		開講年度	平成29年度 (2017年度)	授業科目	科学技術社会史 (4 E)			
科目基礎情報								
科目番号	0015		科目区分	一般 / 選択				
授業形態	授業		単位の種別と単位数	履修単位: 1				
開設学科	一般教科 (人文科学系)		対象学年	4				
開設期	前期		週時間数	2				
教科書/教材	その他: 自製プリントの配布							
担当教員	吉葉 恭行							
到達目標								
科学技術と産業や社会の関係を歴史的に考察し理解する上で必要な学術的素養を身につけることにより、現代社会が抱える科学技術にかかわる諸問題を主体的に発見し考察が出来るようになること。								
ルーブリック								
	理想的な到達レベルの目安		標準的な到達レベルの目安		未到達レベルの目安			
評価項目1	産業革命期における科学技術と産業の発展の関係を具体的に説明できる。		産業革命期における科学技術と産業の発展の関係を概略説明できる。		産業革命期における科学技術と産業の発展の関係を説明できない。			
評価項目2	産業革命期における社会変容について具体的に説明できる。		産業革命期における社会変容について概略説明できる。		産業革命期における社会変容について説明できない。			
評価項目3	大量生産方式の発達と科学技術および社会の変容について具体的に説明できる。		大量生産方式の発達と科学技術および社会の変容について概略説明できる。		大量生産方式の発達と科学技術および社会の変容について説明できない。			
評価項目4	大戦期の科学技術の発達と社会の変容について具体的に説明できる。		大戦期の科学技術の発達と社会の変容について概略説明できる。		大戦期の科学技術の発達と社会の変容について説明できない。			
評価項目5	戦後の科学技術の発達と社会の変容について具体的に説明できる。		戦後の科学技術の発達と社会の変容について概略説明できる。		戦後の科学技術の発達と社会の変容について説明できない。			
学科の到達目標項目との関係								
教育方法等								
概要	科学技術の発展は産業や社会のありかたをどのように変え、また産業・社会は科学技術に何を求めたのか。19世紀後半～20世紀の科学技術の発展と産業・社会の変容とのかかわりについて、歴史的に考察し考える。							
授業の進め方・方法	講義形式を基本とするが、必要に応じてグループ・ディスカッション等も実施する。必要に応じて適宜課題レポートの提出および課題のプレゼンテーションを求める。試験結果が合格点に達しない場合、再試験を行うことがある。							
注意点	授業中は板書を書き取るだけでなく、口頭による説明についても各自メモを取る習慣を身につける必要がある。授業内容を深く理解するために、参考文献やインターネット等の複数メディアを活用し、資料収集し学ぶ方法 (スキル) を身につけるよう心がけること。様々な見方を相対的に捉え、自分なりに整理する習慣を身につけることが重要である。							
授業計画								
		週	授業内容		週ごとの到達目標			
前期	1stQ	1週	授業ガイダンス		授業の進め方と評価の仕方について説明する。科学技術社会史の学術的位置づけを理解する。			
		2週	1 19世紀の科学技術と社会 (1) 産業革命と産業発展		産業革命期における科学技術と産業の発展の関係を学ぶ。			
		3週						
		4週						
		5週	(2) 産業革命期の社会変容		産業革命期における社会変容について学ぶ。			
		6週						
		7週	到達度試験 (前期中間)		上記項目について学習した内容の理解度を確認する。			
	2ndQ	8週	2 20世紀の科学技術と社会 (1) 大量生産方式と科学技術		大量生産方式の発達と科学技術および社会の変容について学ぶ。			
		9週						
		10週						
		11週						
		12週	(2) 大戦期の科学技術と産業		大戦期の科学技術の発達と社会の変容について学ぶ。			
		13週						
		14週	(3) 戦後の科学技術と産業		戦後の科学技術の発達と社会の変容について学ぶ。			
		15週						
		16週	到達度試験 (前期末)		上記項目について学習した内容の理解度を確認する。			
モデルコアカリキュラムの学習内容及到達目標								
分類	分野	学習内容	学習内容の到達目標				到達レベル	授業週
評価割合								
	試験	発表	相互評価	態度	ポートフォリオ	その他	レポート	合計
総合評価割合	60	10	0	0	0	10	20	100
基礎的能力	60	0	0	0	0	0	5	65
思考・推論・創造への適用力	0	0	0	0	0	0	5	5
汎用的技能	0	5	0	0	0	5	5	15

態度・嗜好性 (人間力)	0	5	0	0	0	5	0	10
総合的な学習 経験と創造的 思考力	0	0	0	0	0	0	5	5

秋田工業高等専門学校		開講年度	平成29年度 (2017年度)	授業科目	日本語表現 (4C)
科目基礎情報					
科目番号	0017		科目区分	一般 / 必修	
授業形態	授業		単位の種別と単位数	履修単位: 2	
開設学科	一般教科 (人文科学系)		対象学年	4	
開設期	通年		週時間数	2	
教科書/教材	自製プリントの配付 国語辞典 (電子辞書も可) 『スキルアップ! 日本語力』 (東京書籍)				
担当教員	岩田 久美加				
到達目標					
<p>1. 日本語の文章を支える語彙や文法、文の組み立て、構成の仕方を理解し、自分の意見を確立して書くことができる。</p> <p>2. 日本語の会話を支える語彙や文法、文の組み立て、構成の仕方を理解し、場面や問題に応じ適切に運用・発表することができる。</p> <p>3. 現代社会で求められるコミュニケーション能力を、正確かつ豊かに駆使することができる。</p>					
ルーブリック					
	理想的な到達レベルの目安		標準的な到達レベルの目安		未到達レベルの目安
評価項目1	語彙や文法を理解し、後世を工夫して自分の意見を書くことができる。		語彙や文法を理解し、自分の意見を確立して書くことができる。		語彙や文法を理解できず、自分の意見を書くことができない。
評価項目2	語彙や文法を理解し、後世を工夫し、場面に応じた発表をすることができる。		語彙や文法を理解し、場面や問題に応じて発表をすることができる。		語彙や文法を理解できず、場面に応じて適切に発表することができない。
評価項目3	コミュニケーション能力を正確かつ豊かに発揮することができる。		コミュニケーション能力を発揮することができる。		コミュニケーション能力を発揮することができない。
学科の到達目標項目との関係					
教育方法等					
概要	将来の社会人として不可欠な日本語の知識と表現力を身に付け、意見や小論文、実用的な文章が書けるようになる。また、プレゼンテーションやディベートを通して口頭表現の仕方について習熟する。				
授業の進め方・方法	演習形式で行う。単元ごとに文章やレポートの書き方、発表やプレゼンテーションの仕方を学習する。また、日本語の語彙や文法・敬語について、その正しい理解と運用を学習する。				
注意点	普段から新聞やTVのニュースをよく見聞し、日本語や社会の抱える問題について、知識を広く持ちそれらの様々な面について自分の考えを深めておくようにすること。合格点は60点である。要約文や意見文・小論文などの提出物や口頭発表、またプリントやノートの点検ごとに点数をつけ、その総点を回数で割って評価する。				
授業計画					
		週	授業内容	週ごとの到達目標	
前期	1stQ	1週	授業ガイダンス	授業の進め方と評価の仕方について説明する。	
		2週	(1) 自己紹介〈話〉	自分のよさを知り、音声言語で印象深く伝えることができる。	
		3週	同上	同上	
		4週	(2) 学科紹介〈書〉	学科の特徴を知り、文字言語で印象深く伝えることができる。	
		5週	同上	同上	
		6週	同上	同上	
		7週	同上	同上	
		8週	(3) 俳句〈書〉	俳句表現の特徴を理解し、創作することができる。	
	2ndQ	9週	同上	同上	
		10週	(4) 要約〈書〉	キーワードを理解し、簡潔に要約文をまとめることができる。	
		11週	同上	同上	
		12週	(5) 読み聞かせ〈話〉	状況や心情を踏まえて豊かに読み聞かせることができる。	
		13週	同上	同上	
		14週	(6) はがき・手紙・メール〈書〉	暑中見舞い、インターンシップの礼状等を適切に書くことができる。	
		15週	同上	同上	
		16週	同上	同上 前期授業のまとめ、および授業アンケート。	
後期	3rdQ	1週	(7) 発表〈話〉	インターンシップの様子をわかりやすく報告することができる。	
		2週	同上	同上	
		3週	同上	同上	
		4週	(8) レポート〈書〉	自分の立場や根拠を明確にし、文字言語で述べることができる。	
		5週	同上	同上	
		6週	(9) ディベート〈話〉	自分の立場や根拠を明確にし、音声言語で述べることができる。	
		7週	同上	同上	
		8週	(10) プレゼンテーション〈話〉	図や表などを取り入れながら、研究テーマをわかりやすくかつ論理的に印象深く伝えることができる。	
	4thQ	9週	同上	同上	
		10週	同上	同上	

	11週	(11) 小論文〈書〉	自分の立場や根拠を明確にし、文字言語で述べることができる。
	12週	同上	同上
	13週	同上	同上
	14週	(12) エントリーシート〈書〉	効果的なエントリーシートをまとめることができる。
	15週	同上	同上
	16週	同上	同上 後期授業のまとめ、および授業アンケート。

モデルコアカリキュラムの学習内容と到達目標

分類	分野	学習内容	学習内容の到達目標	到達レベル	授業週
----	----	------	-----------	-------	-----

評価割合

	試験	発表	相互評価	態度	ポートフォリオ	その他	合計
総合評価割合	0	30	0	0	0	70	100
基礎的能力	0	10	0	0	0	50	60
専門的能力	0	0	0	0	0	10	10
分野横断的能力	0	20	0	0	0	10	30

秋田工業高等専門学校		開講年度	平成29年度 (2017年度)	授業科目	総合英語 I (4C)
科目基礎情報					
科目番号	0018	科目区分	一般 / 必修		
授業形態	授業	単位の種別と単位数	履修単位: 2		
開設学科	一般教科 (人文科学系)	対象学年	4		
開設期	通年	週時間数	2		
教科書/教材	「東京大学教養英語読本 II」 東京大学出版会, 「(新形式問題対応) TOEIC® テスト非公式問題集至高の400問」 ヒロ前田他 著 アルク, 「Deep Listening Level 3」 日本英語検定協会				
担当教員	菅原 隆行				
到達目標					
1. TOEICスコア400点以上のコミュニケーション力を身につける。 2. リスニング力、シャドーイング力があり、英語速読のスピードが1分間に120語程度である。 3. 4500語程度の単語力と英文法の理解力がある。 4. 英語の長文を正確に読み取ることができる。					
ルーブリック					
	理想的な到達レベルの目安	標準的な到達レベルの目安	未到達レベルの目安		
評価項目1	TOEICスコアが450点以上である。	TOEICスコアが380点程度である。	TOEICスコアが320点未満である。		
評価項目2	リスニング力、シャドーイング力があり、英語速読のスピードが1分間に150語程度以上である。	リスニング力、シャドーイング力がある程度あり、英語速読のスピードが1分間に120語程度である。	リスニング力、シャドーイング力がなく、英語速読のスピードが1分間に80語未満である。		
評価項目3	英語の長文を80%以上読み取ることができる。	英語の長文を60%程度読み取ることができる。	英語の長文を読み取ることができない。		
学科の到達目標項目との関係					
教育方法等					
概要	TOEICスコア400点以上のコミュニケーション力を身につけ、英語速読のスピードが1分間に120語程度の能力を持ち、英語の長文を正確に読み取ることができる能力を修得する。				
授業の進め方・方法	演習形式で行い、小テスト (TOEICテスト) も随時実施する。アルク・ネットアカデミーは主に自学自習課題として使用する。試験結果が合格点に達しない場合、再試験を行うことがある。				
注意点	合格点は60点である。各中間・期末成績は、試験結果60%、TOEICテスト成績等を40%で評価する。 学年総合成績 = (到達度試験 (前期中間) + 到達度試験 (前期期末) + 到達度試験 (後期中間) + 到達度試験 (学年末) 成績) / 4 なお、TOEICスコアが320点未満の学生は、単位取得が困難になるので注意すること。 宿題が多いので計画的に課題を進めること。宿題をしてこない学生は科目履修を放棄したとみなすので注意すること。				
授業計画					
	週	授業内容	週ごとの到達目標		
前期	1stQ	1週	授業ガイダンス TOEICリスニングPart I 演習	授業の進め方と評価の仕方について説明する。 TOEICリスニング問題の内容と傾向がわかる。	
		2週	TOEICリスニングPart II 演習	TOEICリスニング問題の内容と傾向がわかる。	
		3週	Session1 The Fires of Vesuvius (Part 1) ①	古代ギリシャ・ローマ史に関する英文を読み、内容を理解できる。	
		4週	Session1 The Fires of Vesuvius (Part 1) ②	古代ギリシャ・ローマ史に関する英文を読み、内容を理解できる。	
		5週	TOEICリスニングPart III 演習	TOEICリスニング問題の内容と傾向がわかる。	
		6週	Session1 The Fires of Vesuvius (Part 1) ③	古代ギリシャ・ローマ史に関する英文を読み、内容を理解できる。	
		7週	Session1 The Fires of Vesuvius (Part 1) ④ TOEICリスニングPart IV 演習	古代ギリシャ・ローマ史に関する英文を読み、内容を理解できる。 TOEICリスニング問題の内容と傾向がわかる。	
		8週	到達度試験 (前期中間)	上記項目について学習した内容の理解度を確認する。	
	2ndQ	9週	試験の解説と解答 TOEICリーディングPart V 演習	前期中間試験の解説と解答 TOEICリーディング問題の内容と傾向がわかる。	
		10週	Session2 The Fires of Vesuvius (Part 2) ①	古代ギリシャ・ローマ史に関する英文を読み、内容を理解できる。	
		11週	TOEICリーディングPart VI・VII 演習	TOEICリーディング問題の内容と傾向がわかる。	
		12週	Session2 The Fires of Vesuvius (Part 2) ②	古代ギリシャ・ローマ史に関する英文を読み、内容を理解できる。	
		13週	TOEICリーディングPart VII 演習	TOEICリーディング問題の内容と傾向がわかる。	
		14週	Session2 The Fires of Vesuvius (Part 2) ③	古代ギリシャ・ローマ史に関する英文を読み、内容を理解できる。	
		15週	到達度試験 (前期期末)	上記項目について学習した内容の理解度を確認する。	
		16週	試験の解説と解答	前期末試験の解説と解答、および授業アンケート	
後期	3rdQ	1週	TOEICリスニングPart I・II 演習	TOEICリスニング問題のスピードに対応できる。	
		2週	Session3 The Great Plains (Part 1) ①	アメリカ地質学に関する英文を読み、内容を理解できる。	
		3週	TOEICリスニングPart III 演習	TOEICリスニング問題のスピードに対応できる。	
		4週	Session3 The Great Plains (Part 1) ②	アメリカ地質学に関する英文を読み、内容を理解できる。	
		5週	TOEICリスニングPart IV 演習	TOEICリスニング問題のスピードに対応できる。	

4thQ	6週	Session3 The Great Plains (Part 1) ③	アメリカ地質学に関する英文を読み、内容を理解できる。
	7週	到達度試験（後期中間）	上記項目について学習した内容の理解度を確認する。
	8週	試験の解説と解答 TOEICリーディングPart V 演習	後期中間試験の解説と解答 速読により必要な情報を早く見つけることができる。
	9週	Session4 The Great Plains (Part 2) ①	アメリカ地質学に関する英文を読み、内容を理解できる。
	10週	TOEICリーディングPart VI・VII 演習	速読により必要な情報を早く見つけることができる。
	11週	TOEIC問題総合演習	TOEICスコア400点程度以上のスコアが出せる。
	12週	TOEIC問題総合演習	TOEICスコア400点程度以上のスコアが出せる。
	13週	Session4 The Great Plains (Part 2) ②	アメリカ地質学に関する英文を読み、内容を理解できる。
	14週	Session4 The Great Plains (Part 2) ③	アメリカ地質学に関する英文を読み、内容を理解できる。
	15週	到達度試験（学年末）	上記項目について学習した内容の理解度を確認する。
16週	試験の解説と解答	学年末試験の解説と解答、本授業のまとめ、および授業アンケート	

モデルコアカリキュラムの学習内容と到達目標

分類	分野	学習内容	学習内容の到達目標	到達レベル	授業週
----	----	------	-----------	-------	-----

評価割合

	試験	発表	相互評価	態度	ポートフォリオ	その他	合計
総合評価割合	60	0	0	0	0	40	100
基礎的能力	30	0	0	0	0	0	30
専門的能力	30	0	0	0	0	0	30
分野横断的能力	0	0	0	0	0	40	40

秋田工業高等専門学校		開講年度	平成29年度 (2017年度)	授業科目	英語Ⅳ (4C)
科目基礎情報					
科目番号	0019		科目区分	一般 / 必修	
授業形態	授業		単位の種別と単位数	履修単位: 1	
開設学科	一般教科 (人文科学系)		対象学年	4	
開設期	前期		週時間数	2	
教科書/教材	Pros and Cons(Cengage Learning). 副教材としてCROWN PLUS (三省堂)、英検の過去問題、大学入試過去問題、自作のプリントを使用する。				
担当教員	杉浦 克哉				
到達目標					
1. 自分の考えを50語から100語程度の英語で的確かつ論理的に表現することができる。 2. 文法や語法上のミスが無いだけでなく説得力があり独創的な英文を作ることができる。 3. 身近なことを平易な表現を用いてすぐに表現できる。 4. 自分の考えを英語で口頭により伝え、他の学生にそれを理解させる努力ができる。 5. TOEIC400点以上のスコアを取るために必要な語彙力、読解力、リスニング力、文法知識を習得する。					
ルーブリック					
	理想的な到達レベルの目安	標準的な到達レベルの目安	未到達レベルの目安		
評価項目1	自分の考えを50語から100語程度の英語で的確かつ論理的に、流暢な英語で表現することができる。1回発表しただけで聞き手が内容を理解できる。	自分の考えを50語から100語程度の英語で的確かつ論理的に表現することができる。それを発表した時、2回から3回同じ内容を話せば聞き手が理解できる。	自分の考えを50語未満であれば英語で表すことができる。		
評価項目2	自分の考えを英語で口頭により伝える際、聞き手が理解しているかどうかを確かめながら話すことができる。聞き手にとって理解が難しい箇所は、繰り返したり、別の言葉で言い換えたりして、聞き手に理解させる努力ができる。	自分の考えを英語で口頭により伝える際、聞き手が理解しているかどうかを確かめながら話すことができる。	自分の考えを英語で口頭により伝える際、声が小さく、そして読めない語があるために時々詰まってしまう。聞き手に十分な配慮をすることなく、単に原稿を読むだけである。		
評価項目3	文法や語法上のミスが無いだけでなく、説得力があり独創性のある内容の自由英作文を作ることができる。副詞や助動詞が適切に使われ豊富な語彙で英文が表される。	文法や語法上のミスが無いだけでなく、説得力があり独創性のある内容の自由英作文を作ることができる。	自由英作文を作成する際、文法や語法上のミスが多い。内容に説得力、独創性がない。		
評価項目4	条件英作文の問題、語彙力を問うクイズを解いたとき全体の9割以上を正解できる。	条件英作文の問題、語彙力を問うクイズを解いたとき全体の8割以上を正解できる。	条件英作文の問題、語彙力を問うクイズを解いたとき正解率が全体の8割未満である。		
学科の到達目標項目との関係					
教育方法等					
概要	この授業の目標は学生が自分の考えを英語で的確かつ論理的に表現する技術を習得することである。具体的には1行から2行程度の長さの条件英作文、及び与えられたテーマに対し自分の考えを50語から100語程度で述べる自由英作文を重点的に行う。条件英作文では身近なことを平易な表現を用いてすぐに表現できるようにする。自由英作文では文法や語法上のミスが無い英文を書けるだけでなく、説得力があり独創的な内容の英文を書けるようにする。この2つが主な目標であるが、読解、リスニング、英会話等も補助的に行う。学生が英語に触れる機会を増やすために、授業の大部分は英語で行われる。文法の説明や読解は日本語で行うことがある。また、学生は原則として英語で話さなければならない。				
授業の進め方・方法	発音練習、クイズ(小テスト)、口頭発表、条件英作文、[リスニング、読解、自由英作文、英会話]、語彙力を増やすための読解を行う。[]で囲まれた部分は教科書Pros and Consを用いて行う。授業2回で1つのUnitを終えることを目安とするが、進み方は変わる場合がある。条件英作文はCROWN PLUSを用いる。語彙力を増やすための読解は英検の過去問題と大学入試過去問題、及びTOEICの問題を用いる。その他の活動は自作のプリントにより行う。口頭発表については、予めテーマ・問題を与えるので、自分の考えを50語から100語程度の英語で用意しそれを発表する。文法や語法上のミスが無いだけでなく、説得力があり独創的な英文を書くことに努めなければならない。また聞き手に聞こえるように、そして伝わるように話さなければならない。学生が復習しやすいように音声のみの動画を活用することがある。グループ活動を行う場合、学生による相互評価を行うことがある。授業では発展的な内容を扱うことがある。クイズや定期試験では応用問題を出す場合がある。授業の進め方は変更される場合がある。予習として発表原稿の作成、発音練習、クイズ対策、口頭発表の練習、条件英作文・自由英作文の作成、教科書の理解をしてもらうこと。不明な語句は必ず全て辞書で調べ教科書やノート等にメモすること。復習として重要事項の暗記や聞き取りの練習をすること。必要に応じて音声のみの動画を視聴し授業内容を確認すること。				
注意点	眠り続けている学生へは単位を出さない場合がある。提出物や小レポート・エッセイの作成において剽窃や盗用があった場合、単位を出さない場合がある。 【評価方法】合格点は60点である。中間試験、期末試験以外にクイズ(小テスト)、レポート(提出物)、口頭発表も評価に加わる。小テストとしてリスニングの試験も行う。また、グループ活動を行う場合、学生による相互評価を行うことがあるがこれも評価に加わる。定期試験では試験に出る問題は原則として事前に伝えられないが、数問程度ならば事前に告知される場合がある。また、以下に示す評価割合は変更する場合がある。				
授業計画					
		週	授業内容	週ごとの到達目標	
前期	1stQ	1週	授業の進め方と評価の仕方を説明する。 発音練習、クイズ(小テスト)、口頭発表、条件英作文、[リスニング、読解、自由英作文、英会話]、語彙力を増やすための読解 ([]の部分はその日の授業で進められるところまで行い、次回の授業でその続きを行う。第2回目以降の授業は定期試験、試験返却を除き、全てこれと同じなので以下では省略。)、unit 1	上記の「到達目標」「評価(ルーブリック)」に従う。第2回目以降の授業は全てこれと同じなので以下では省略。	
		2週	unit 1		
		3週	unit 2		
		4週	unit 2		
		5週	unit 3		
		6週	unit 3		
		7週	到達度試験(前期中間)		
		8週	試験の解説、unit 4		

2ndQ	9週	unit 4	
	10週	unit 5	
	11週	unit 5	
	12週	unit 6	
	13週	unit 6	
	14週	unit 7	
	15週	unit 7	
	16週	到達度試験（前期期末）	

モデルコアカリキュラムの学習内容と到達目標

分類	分野	学習内容	学習内容の到達目標	到達レベル	授業週	
評価割合						
	試験	小テスト	発表	レポート	その他	合計
総合評価割合	50	20	5	5	20	100
基礎的能力	30	20	5	5	20	80
専門的能力	0	0	0	0	0	0
分野横断的能力	20	0	0	0	0	20

秋田工業高等専門学校		開講年度	平成29年度 (2017年度)	授業科目	英語 V (4 C)	
科目基礎情報						
科目番号	0020		科目区分	一般 / 必修		
授業形態	授業		単位の種別と単位数	履修単位: 1		
開設学科	一般教科 (人文科学系)		対象学年	4		
開設期	後期		週時間数	2		
教科書/教材	Pros and Cons(Cengage Learning). 副教材としてCROWN PLUS (三省堂)、英検の過去問題、大学入試過去問題、自作のプリントを使用する。					
担当教員	杉浦 克哉					
到達目標						
1. 自分の考えを50語から100語程度の英語で的確かつ論理的に表現することができる。 2. 自分の考えを英語で口頭により伝え、他の学生にそれを理解させる努力ができる。 3. 文法や語法上のミスが無いだけでなく、説得力があり独創的な英文を作ることができる。 4. 身近なことを平易な表現を用いてすぐに表現できる。 5. TOEIC400点以上のスコアを取るために必要な語彙力、読解力、リスニング力、文法知識を習得する。						
ルーブリック						
	理想的な到達レベルの目安	標準的な到達レベルの目安	未到達レベルの目安			
評価項目1	自分の考えを50語から100語程度の英語で的確かつ論理的に、流暢な英語で表現することができる。1回発表しただけで聞き手が内容を理解できる。	自分の考えを50語から100語程度の英語で的確かつ論理的に表現することができる。それを発表した時、2回から3回同じ内容を話せば聞き手が理解できる。	自分の考えを50語未満であれば英語で表すことができる。			
評価項目2	自分の考えを英語で口頭により伝える際、聞き手が理解しているかどうかを確かめながら話すことができる。聞き手にとって理解が難しい箇所は、繰り返し言ったり、別の言葉で言い換えたりして、聞き手に理解させる努力ができる。	自分の考えを英語で口頭により伝える際、聞き手が理解しているかどうかを確かめながら話すことができる。	自分の考えを英語で口頭により伝える際、声が小さく、そして読めない語があるために時々詰まってしまう。聞き手に十分な配慮をすることなく、単に原稿を読むだけである。			
評価項目3	文法や語法上のミスが無いだけでなく、説得力があり独創性のある内容の自由英作文を作ることができる。副詞や助動詞が適切に使われ豊富な語彙で英文が表される。	文法や語法上のミスが無いだけでなく、説得力があり独創性のある内容の自由英作文を作ることができる。	自由英作文を作成する際、文法や語法上のミスが多い。内容に説得力、独創性がない。			
評価項目4	条件英作文の問題、語彙力を問うクイズを解いたとき全体の9割以上を正解できる。	条件英作文の問題、語彙力を問うクイズを解いたとき全体の8割以上を正解できる。	条件英作文の問題、語彙力を問うクイズを解いたとき正解率が全体の8割未満である。			
学科の到達目標項目との関係						
教育方法等						
概要	この授業の目標は学生が自分の考えを英語で的確にそして論理的に表現し、それを他の学生に的確に伝える技術を習得することである。自分の考えを英語で口頭により伝える際、聞き手が理解しているかどうかを確かめながら話すことができ、そして聞き手にとって理解が難しい箇所は、繰り返し言ったり、別の言葉で言い換えたりして、聞き手に理解させられるようにする。授業では、与えられたテーマに対し自分の考えを50語から100語程度で述べる自由英作文を作成し、それを学生の前で発表する活動を多く行う。前期に引き続き自由英作文では、文法や語法上のミスが無いだけでなく、説得力があり独創的な英文を書くようにする。後期からは、発表内容に対して学生が質問をしたり意見・感想を述べたりする活動を増やす。1度の発表で他の学生から質問、意見、感想が出たら、それは聴者が発表内容を理解していることを意味する。前期と同様、読解、リスニング、会話を行う。また条件英作文も行う。学生が英語に触れる機会を増やすために、授業の大部分は英語で行われる。文法の説明や読解は日本語で行うことがある。また、学生は原則として英語で話さなければならない。					
授業の進め方・方法	発音練習、クイズ(小テスト)、口頭発表、条件英作文、[リスニング、読解、自由英作文、英会話]、語彙力を増やすための読解を行う。授業の流れは前期科目の英語IVと同じであるが、後期の英語Vでは条件英作文を減らし、英会話を増やす。[]で囲まれた部分は教科書Pros and Consを用いて行う。授業2回で1つのUnitを終えることを目安とするが、進み方は変わる場合がある。条件英作文はCROWN PLUSを用いる。語彙力を増やすための読解は英検の過去問題と大学入試過去問題、及びTOEICの問題を用いる。その他の活動は自作のプリントにより行う。口頭発表については、予めテーマ・問題を与えるので、自分の考えを50語から100語程度の英語で用意しそれを発表する。文法や語法上のミスが無いだけでなく、説得力があり独創的な英文を書くことに努めなければならない。また聞き手に聞こえるように、そして伝わるように話さなければならない。学生が復習しやすいように音声のみの動画を活用することがある。グループ活動を行う場合、学生による相互評価を行うことがある。授業では発展的な内容を扱うことがある。クイズや定期試験では応用問題を出す場合がある。授業の進め方は変更される場合がある。予習として発表原稿の作成、発音練習、クイズ対策、口頭発表の練習、条件英作文・自由英作文の作成、教科書の理解をしていくこと。不明な語句は必ず全て辞書で調べ教科書やノート等にメモすること。復習として重要事項の暗記や聞き取りの練習をすること。必要に応じて音声のみの動画を視聴し授業内容を確認すること。					
注意点	眠り続けている学生へは単位を出さない場合がある。提出物や小レポート・エッセイの作成において剽窃や盗用があった場合、単位を出さない場合がある。 [評価方法] 合格点は60点である。中間試験、期末試験以外にクイズ(小テスト)、レポート(提出物)、口頭発表も評価に加わる。小テストとしてリスニングの試験も行う。グループ活動を行う場合、学生による相互評価を行うことがあるがこれも評価に加わる。定期試験では試験に出る問題は原則として事前に伝えられないが、教問程度ならば事前に告知される場合がある。また、以下に示す評価割合は変更する場合がある。					
授業計画						
	週	授業内容	週ごとの到達目標			
後期	3rdQ	1週	授業の進め方と評価の仕方を説明する。発音練習、クイズ(小テスト)、口頭発表、条件英作文、[リスニング、読解、自由英作文、英会話]、語彙力を増やすための読解([]の部分はその日の授業で進められるところまで行い、次回の授業でその続きを行う。第2回目以降の授業は定期試験、試験返却を除き、全てこれと同じなので以下では省略。)、unit 8	上記の「到達目標」「評価(ルーブリック)」に従う。第2回目以降の授業は全てこれと同じなので以下では省略。		
		2週	unit 8			
		3週	unit 9			
		4週	unit 9			

		5週	unit 10	
		6週	unit 10	
		7週	到達度試験（前期中間）	
		8週	試験の解説、unit 11	
	4thQ	9週	unit 11	
		10週	unit 12	
		11週	unit 12	
		12週	unit 13	
		13週	unit 13	
		14週	unit 14	
		15週	unit 14	
		16週	到達度試験（前期期末）	

モデルコアカリキュラムの学習内容と到達目標

分類	分野	学習内容	学習内容の到達目標	到達レベル	授業週
----	----	------	-----------	-------	-----

評価割合

	試験	小テスト	発表	レポート	その他	合計
総合評価割合	50	20	5	5	20	100
基礎的能力	30	20	5	5	20	80
専門的能力	0	0	0	0	0	0
分野横断的能力	20	0	0	0	0	20

秋田工業高等専門学校		開講年度	平成29年度 (2017年度)	授業科目	社会と文化 (4C)
科目基礎情報					
科目番号	0021		科目区分	一般 / 選択	
授業形態	授業		単位の種別と単位数	履修単位: 1	
開設学科	一般教科 (人文科学系)		対象学年	4	
開設期	前期		週時間数	2	
教科書/教材	参考書: 金森久雄編『日本経済読本』東洋経済新報社、平島健司『EUは国家を超えられるか』岩波書店 / その他: 自製プリントの配布				
担当教員	長井 栄二				
到達目標					
1. 戦後日本の地域格差問題の概要がわかる。 2. 戦後の欧州統合過程の概要がわかる。					
ルーブリック					
	理想的な到達レベルの目安		標準的な到達レベルの目安		未到達レベルの目安
評価項目1	戦後日本の地域格差問題を、資料に即して論述できる。		戦後日本の地域格差問題の概要を説明できる。		戦後日本の地域格差問題の概要を説明できない。
評価項目2	戦後の欧州統合過程の特質について、具体的に論述できる。		戦後の欧州統合過程の概要を説明できる。		戦後の欧州統合過程の概要を説明できない。
学科の到達目標項目との関係					
教育方法等					
概要	戦後の日本および現代ヨーロッパにおける地域をめぐる諸問題を、多様な観点から学ぶことにより、現代世界における身近な社会の問題を相対的かつ客観的に捉え、自ら思考し主体的に行動していくために必要な基礎視角を身に付ける。				
授業の進め方・方法	講義形式。試験結果が合格点に達しない場合、再試験を行うことがある。				
注意点	合格点は60点である。前期中間・期末成績は、いずれも試験結果で評価する。学年総合成績 = (前期中間成績 + 前期末成績) / 2。 授業を受ける前: 現在の日本や世界の諸地域の情勢について、複数のメディアを通じて、日常的に情報に触れておくこと。 授業を受けた後: 授業で示した板書および口頭説明の論理構成を押さえ、その主旨を明確につかまえておくこと。				
授業計画					
		週	授業内容	週ごとの到達目標	
前期	1stQ	1週	授業のガイダンス	授業の進め方と評価の仕方について説明する。	
		2週	戦後日本の経済成長	一国経済規模の成長について学ぶ。	
		3週	戦後日本の地域格差問題	経済成長と地域格差の関係について学ぶ。	
		4週	現代日本の空間構造	現代日本の空間構造の特質について学ぶ。	
		5週	地域格差をめぐる諸問題	社会問題としての地域問題の性格がわかる。	
		6週	戦後日本の地域政策	政策手法の特質について学ぶ。	
		7週	到達度試験 (前期中間)	上記の項目について学習した内容の理解度を授業の中で確認する。	
		8週	試験の解説と解答	到達度試験の解説と解答	
	2ndQ	9週	大戦直後の欧州	大戦直後の欧州統合の試みについて学ぶ。	
		10週	欧州石炭鉄鋼共同体 (ECSC) の成立	欧州統合の画期性がわかる。	
		11週	欧州経済共同体と欧州原子力共同体	統合分野の拡大と統合組織の変化について学ぶ。	
		12週	「均衡の時代」	統合の漸進性がわかる。	
		13週	欧州連合 (EU) の成立	欧州連合の性格について学ぶ。	
		14週	欧州統合の現状	欧州統合の到達点について学ぶ。	
		15週	到達度試験 (前期末)	上記の項目について学習した内容の理解度を授業の中で確認する。	
		16週	試験の解説と解答	到達度試験の解説と解答、および授業アンケート	
モデルコアカリキュラムの学習内容と到達目標					
分類	分野	学習内容	学習内容の到達目標	到達レベル	授業週
評価割合		到達度試験		合計	
総合評価割合		100		100	
知識の基本的な理解		60		60	
論理的思考・表現		40		40	

秋田工業高等専門学校		開講年度	平成29年度 (2017年度)	授業科目	科学技術社会史 (4C)			
科目基礎情報								
科目番号	0023		科目区分	一般 / 選択				
授業形態	授業		単位の種別と単位数	履修単位: 1				
開設学科	一般教科 (人文科学系)		対象学年	4				
開設期	前期		週時間数	2				
教科書/教材	その他: 自製プリントの配布							
担当教員	吉葉 恭行							
到達目標								
科学技術と産業や社会の関係を歴史的に考察し理解する上で必要な学術的素養を身につけることにより、現代社会が抱える科学技術にかかわる諸問題を主体的に発見し考察が出来るようになること。								
ルーブリック								
	理想的な到達レベルの目安		標準的な到達レベルの目安		未到達レベルの目安			
評価項目1	産業革命期における科学技術と産業の発展の関係を具体的に説明できる。		産業革命期における科学技術と産業の発展の関係を概略説明できる。		産業革命期における科学技術と産業の発展の関係を説明できない。			
評価項目2	産業革命期における社会変容について具体的に説明できる。		産業革命期における社会変容について概略説明できる。		産業革命期における社会変容について説明できない。			
評価項目3	大量生産方式の発達と科学技術および社会の変容について具体的に説明できる。		大量生産方式の発達と科学技術および社会の変容について概略説明できる。		大量生産方式の発達と科学技術および社会の変容について説明できない。			
評価項目4	大戦期の科学技術の発達と社会の変容について具体的に説明できる。		大戦期の科学技術の発達と社会の変容について概略説明できる。		大戦期の科学技術の発達と社会の変容について説明できない。			
評価項目5	戦後の科学技術の発達と社会の変容について具体的に説明できる。		戦後の科学技術の発達と社会の変容について概略説明できる。		戦後の科学技術の発達と社会の変容について説明できない。			
学科の到達目標項目との関係								
教育方法等								
概要	科学技術の発展は産業や社会のありかたをどのように変え、また産業・社会は科学技術に何を求めたのか。19世紀後半～20世紀の科学技術の発展と産業・社会の変容とのかかわりについて、歴史的に考察し考える。							
授業の進め方・方法	講義形式を基本とするが、必要に応じてグループ・ディスカッション等も実施する。必要に応じて適宜課題レポートの提出および課題のプレゼンテーションを求める。試験結果が合格点に達しない場合、再試験を行うことがある。							
注意点	授業中は板書を書き取るだけでなく、口頭による説明についても各自メモを取る習慣を身につける必要がある。授業内容を深く理解するために、参考文献やインターネット等の複数メディアを活用し、資料収集し学ぶ方法(スキル)を身につけるよう心がけること。様々な見方を相対的に捉え、自分なりに整理する習慣を身につけることが重要である。							
授業計画								
		週	授業内容		週ごとの到達目標			
前期	1stQ	1週	授業ガイダンス		授業の進め方と評価の仕方について説明する。科学技術社会史の学術的位置づけを理解する。			
		2週	1 19世紀の科学技術と社会 (1) 産業革命と産業発展		産業革命期における科学技術と産業の発展の関係を学ぶ。			
		3週						
		4週						
		5週	(2) 産業革命期の社会変容		産業革命期における社会変容について学ぶ。			
		6週						
		7週	到達度試験 (前期中間)		上記項目について学習した内容の理解度を確認する。			
		8週	2 20世紀の科学技術と社会 (1) 大量生産方式と科学技術		大量生産方式の発達と科学技術および社会の変容について学ぶ。			
	2ndQ	9週						
		10週						
		11週						
		12週	(2) 大戦期の科学技術と産業		大戦期の科学技術の発達と社会の変容について学ぶ。			
		13週						
		14週	(3) 戦後の科学技術と産業		戦後の科学技術の発達と社会の変容について学ぶ。			
		15週						
		16週	到達度試験 (前期末)		上記項目について学習した内容の理解度を確認する。			
モデルコアカリキュラムの学習内容及到達目標								
分類	分野	学習内容	学習内容の到達目標				到達レベル	授業週
評価割合								
	試験	発表	相互評価	態度	ポートフォリオ	その他	レポート	合計
総合評価割合	60	10	0	0	0	10	20	100
基礎的能力	60	0	0	0	0	0	5	65
思考・推論・創造への適用力	0	0	0	0	0	0	5	5
汎用的技能	0	5	0	0	0	5	5	15

態度・嗜好性 (人間力)	0	5	0	0	0	5	0	10
総合的な学習 経験と創造的 思考力	0	0	0	0	0	0	5	5

秋田工業高等専門学校		開講年度	平成29年度 (2017年度)	授業科目	日本語表現 (4B)
科目基礎情報					
科目番号	0025		科目区分	一般 / 必修	
授業形態	授業		単位の種別と単位数	履修単位: 2	
開設学科	一般教科 (人文科学系)		対象学年	4	
開設期	通年		週時間数	2	
教科書/教材	自製プリントの配付 国語辞典 (電子辞書も可) 『スキルアップ! 日本語力』 (東京書籍)				
担当教員	石塚 政吾				
到達目標					
<p>1. 日本語の文章を支える語彙や文法、文の組み立て、構成の仕方を理解し、自分の意見を確立して書くことができる。</p> <p>2. 日本語の会話を支える語彙や文法、文の組み立て、構成の仕方を理解し、場面や問題に応じ適切に運用・発表することができる。</p> <p>3. 現代社会で求められるコミュニケーション能力を、正確かつ豊かに駆使することができる。</p>					
ルーブリック					
	理想的な到達レベルの目安		標準的な到達レベルの目安		未到達レベルの目安
評価項目1	語彙や文法を理解し、後世を工夫して自分の意見を書くことができる。		語彙や文法を理解し、自分の意見を確立して書くことができる。		語彙や文法を理解できず、自分の意見を書くことができない。
評価項目2	語彙や文法を理解し、後世を工夫し、場面に応じた発表をすることができる。		語彙や文法を理解し、場面や問題に応じて発表をすることができる。		語彙や文法を理解できず、場面に応じて適切に発表をすることができない。
評価項目3	コミュニケーション能力を正確かつ豊かに発揮することができる。		コミュニケーション能力を発揮することができる。		コミュニケーション能力を発揮することができない。
学科の到達目標項目との関係					
教育方法等					
概要	将来の社会人として不可欠な日本語の知識と表現力を身に付け、意見や小論文、実用的な文章が書けるようになる。また、プレゼンテーションやディベートを通して口頭表現の仕方について習熟する。				
授業の進め方・方法	演習形式で行う。単元ごとに文章やレポートの書き方、発表やプレゼンテーションの仕方を学習する。また、日本語の語彙や文法・敬語について、その正しい理解と運用を学習する。				
注意点	普段から新聞やTVのニュースをよく見聞し、日本語や社会の抱える問題について、知識を広く持ちそれらの様々な面について自分の考えを深めておくようにすること。合格点は60点である。要約文や意見文・小論文などの提出物や口頭発表、またプリントやノートの点検ごとに点数をつけ、その総点を回数で割って評価する。				
授業計画					
		週	授業内容	週ごとの到達目標	
前期	1stQ	1週	授業ガイダンス	授業の進め方と評価の仕方について説明する。	
		2週	(1) 自己紹介〈話〉	自分のよさを知り、音声言語で印象深く伝えることができる。	
		3週	同上	同上	
		4週	(2) 学科紹介〈書〉	学科の特徴を知り、文字言語で印象深く伝えることができる。	
		5週	同上	同上	
		6週	同上	同上	
		7週	同上	同上	
		8週	(3) 俳句〈書〉	俳句表現の特徴を理解し、創作することができる。	
	2ndQ	9週	同上	同上	
		10週	(4) 要約〈書〉	キーワードを理解し、簡潔に要約文をまとめることができる。	
		11週	同上	同上	
		12週	(5) 読み聞かせ〈話〉	状況や心情を踏まえて豊かに読み聞かせることができる。	
		13週	同上	同上	
		14週	(6) はがき・手紙・メール〈書〉	暑中見舞い、インターンシップの礼状等を適切に書くことができる。	
		15週	同上	同上	
		16週	同上	同上 前期授業のまとめ、および授業アンケート。	
後期	3rdQ	1週	(7) 発表〈話〉	インターンシップの様子をわかりやすく報告することができる。	
		2週	同上	同上	
		3週	同上	同上	
		4週	(8) レポート〈書〉	自分の立場や根拠を明確にし、文字言語で述べることができる。	
		5週	同上	同上	
		6週	(9) ディベート〈話〉	自分の立場や根拠を明確にし、音声言語で述べるすることができる。	
		7週	同上	同上	
		8週	(10) プレゼンテーション〈話〉	図や表などを取り入れながら、研究テーマをわかりやすくかつ論理的に印象深く伝えることができる。	
	4thQ	9週	同上	同上	
		10週	同上	同上	

	11週	(11) 小論文〈書〉	自分の立場や根拠を明確にし、文字言語で述べることができる。
	12週	同上	同上
	13週	同上	同上
	14週	(12) エントリーシート〈書〉	効果的なエントリーシートをまとめることができる。
	15週	同上	同上
	16週	同上	同上 後期授業のまとめ、および授業アンケート。

モデルコアカリキュラムの学習内容と到達目標

分類	分野	学習内容	学習内容の到達目標	到達レベル	授業週
----	----	------	-----------	-------	-----

評価割合

	試験	発表	相互評価	態度	ポートフォリオ	その他	合計
総合評価割合	0	30	0	0	0	70	100
基礎的能力	0	10	0	0	0	50	60
専門的能力	0	0	0	0	0	10	10
分野横断的能力	0	20	0	0	0	10	30

秋田工業高等専門学校		開講年度	平成29年度 (2017年度)	授業科目	総合英語 I (4B)
科目基礎情報					
科目番号	0026	科目区分	一般 / 必修		
授業形態	授業	単位の種別と単位数	履修単位: 2		
開設学科	一般教科 (人文科学系)	対象学年	4		
開設期	通年	週時間数	2		
教科書/教材	「The Universe of English」 東京大学出版会, 「(新形式問題対応) TOEIC® テスト非公式問題集至高の400問」 ヒロ前田他 著 アルク, 「Deep Listening Level 3」 日本英語検定協会				
担当教員	菅原 隆行				
到達目標					
1. TOEICスコア400点以上のコミュニケーション力を身につける。 2. リスニング力、シャドーイング力があり、英語速読のスピードが1分間に120語程度である。 3. 4500語程度の単語力と英文法の理解力がある。 4. 英語の長文を正確に読み取ることができる。					
ルーブリック					
	理想的な到達レベルの目安	標準的な到達レベルの目安	未到達レベルの目安		
評価項目1	TOEICスコアが450点以上である。	TOEICスコアが380点程度である。	TOEICスコアが320点未満である。		
評価項目2	リスニング力、シャドーイング力があり、英語速読のスピードが1分間に150語程度以上である。	リスニング力、シャドーイング力がある程度あり、英語速読のスピードが1分間に120語程度である。	リスニング力、シャドーイング力がなく、英語速読のスピードが1分間に80語未満である。		
評価項目3	英語の長文を80%以上読み取ることができる。	英語の長文を60%程度読み取ることができる。	英語の長文を読み取ることができない。		
学科の到達目標項目との関係					
教育方法等					
概要	TOEICスコア400点以上のコミュニケーション力を身につけ、英語速読のスピードが1分間に120語程度の能力を持ち、英語の長文を正確に読み取ることができる能力を修得する。				
授業の進め方・方法	演習形式で行い、小テスト (TOEICテスト) も随時実施する。アルク・ネットアカデミーは主に自学自習課題として使用する。試験結果が合格点に達しない場合、再試験を行うことがある。				
注意点	合格点は60点である。各中間・期末成績は、試験結果60%、TOEICテスト成績等を40%で評価する。 学年総合成績 = (到達度試験 (前期中間) + 到達度試験 (前期期末) + 到達度試験 (後期中間) + 到達度試験 (学年末) 成績) / 4 なお、TOEICスコアが320点未満の学生は、単位取得が困難になるので注意すること。 宿題が多いので計画的に課題を進めること。宿題をしない学生は科目履修を放棄したとみなすので注意すること。				
授業計画					
	週	授業内容	週ごとの到達目標		
前期	1stQ	1週	授業ガイダンス TOEICリスニングPart I 演習	授業の進め方と評価の仕方について説明する。 TOEICリスニング問題の内容と傾向がわかる。	
		2週	TOEICリスニングPart II 演習	TOEICリスニング問題の内容と傾向がわかる。	
		3週	Session10 How Our Ancestors Survived the Ice Age ①	人類の誕生の歴史に関する英文を読み、内容を理解できる。	
		4週	Session10 How Our Ancestors Survived the Ice Age ②	人類の誕生の歴史に関する英文を読み、内容を理解できる。	
		5週	TOEICリスニングPart III 演習	TOEICリスニング問題の内容と傾向がわかる。	
		6週	Session10 How Our Ancestors Survived the Ice Age ③	人類の誕生の歴史に関する英文を読み、内容を理解できる。	
		7週	Session10 How Our Ancestors Survived the Ice Age ④ TOEICリスニングPart IV 演習	人類の誕生の歴史に関する英文を読み、内容を理解できる。 TOEICリスニング問題の内容と傾向がわかる。	
		8週	到達度試験 (前期中間)	上記項目について学習した内容の理解度を確認する。	
	2ndQ	9週	試験の解説と解答 TOEICリーディングPart V 演習	前期中間試験の解説と解答 TOEICリーディング問題の内容と傾向がわかる。	
		10週	Session11 Disneyland: America's Sacred Land ①	アメリカ大衆文化論に関する英文を読み、内容を理解できる。	
		11週	TOEICリーディングPart VI・VII 演習	TOEICリーディング問題の内容と傾向がわかる。	
		12週	Session11 Disneyland: America's Sacred Land ②	アメリカ大衆文化論に関する英文を読み、内容を理解できる。	
		13週	TOEICリーディングPart VII 演習	TOEICリーディング問題の内容と傾向がわかる。	
		14週	Session11 Disneyland: America's Sacred Land ③	アメリカ大衆文化論に関する英文を読み、内容を理解できる。	
		15週	到達度試験 (前期期末)	上記項目について学習した内容の理解度を確認する。	
		16週	試験の解説と解答	前期期末試験の解説と解答、および授業アンケート	
後期	3rdQ	1週	TOEICリスニングPart I・II 演習	TOEICリスニング問題のスピードに対応できる。	
		2週	Session13 The Myth of Uniqueness ①	比較文化論に関する英文を読み、内容を理解できる。	
		3週	TOEICリスニングPart III 演習	TOEICリスニング問題のスピードに対応できる。	
		4週	Session13 The Myth of Uniqueness ②	比較文化論に関する英文を読み、内容を理解できる。	
		5週	TOEICリスニングPart IV 演習	TOEICリスニング問題のスピードに対応できる。	
		6週	Session13 The Myth of Uniqueness ③	比較文化論に関する英文を読み、内容を理解できる。	
		7週	到達度試験 (後期中間)	上記項目について学習した内容の理解度を確認する。	

4thQ	8週	試験の解説と解答 TOEICリーディングPart V 演習	後期中間試験の解説と解答 速読により必要な情報を早く見つけることができる。
	9週	Session14 Teenage Nation ①	10代という年齢層の歴史の変遷に関する英文を読み、内容を理解できる。
	10週	TOEICリーディングPart VI・VII 演習	速読により必要な情報を早く見つけることができる。
	11週	TOEIC問題総合演習	TOEICスコア400点程度以上のスコアが出せる。
	12週	TOEIC問題総合演習	TOEICスコア400点程度以上のスコアが出せる。
	13週	Session14 Teenage Nation ②	10代という年齢層の歴史の変遷に関する英文を読み、内容を理解できる。
	14週	Session14 Teenage Nation ③	10代という年齢層の歴史の変遷に関する英文を読み、内容を理解できる。
	15週	到達度試験（学年末）	上記項目について学習した内容の理解度を確認する。
16週	試験の解説と解答	学年末試験の解説と解答、本授業のまとめ、および授業アンケート	

モデルコアカリキュラムの学習内容と到達目標

分類	分野	学習内容	学習内容の到達目標	到達レベル	授業週
----	----	------	-----------	-------	-----

評価割合

	試験	発表	相互評価	態度	ポートフォリオ	その他	合計
総合評価割合	60	0	0	0	0	40	100
基礎的能力	30	0	0	0	0	0	30
専門的能力	30	0	0	0	0	0	30
分野横断的能力	0	0	0	0	0	40	40

秋田工業高等専門学校		開講年度	平成29年度 (2017年度)	授業科目	英語Ⅳ (4B)
科目基礎情報					
科目番号	0027	科目区分	一般 / 必修		
授業形態	授業	単位の種別と単位数	履修単位: 1		
開設学科	一般教科 (人文科学系)	対象学年	4		
開設期	前期	週時間数	2		
教科書/教材	Schaepe, Richard H.・河合忠仁・三浦良邦 (1998) 『時事英語で楽しく学ぶ英文法-The Pleasure of Reading, Thinking & Writing-』, 松柏社, 東京, 自作プリント				
担当教員	小菅 智也				
到達目標					
1. 英語IIIまでに学習した文法事項を用い、基礎的な英文を作ることができる。 2. 英検準1級程度の英文の内容を正確に理解し、英語で要約することができる。 3. 与えられたテーマについて200語程度の英文を作ることができる。 4. 作成した英文を口頭で発表することができる。					
ループリック					
	理想的な到達レベルの目安	標準的な到達レベルの目安	未到達レベルの目安		
評価項目1	自力で既習の文法事項を用い、基礎的な英文を作ることができる。	辞書や文法書を用い、既習の文法事項を用い、基礎的な英文を作ることができる。	教員の補助がなければ、既習の文法事項を用いて基礎的な英文を作ることができない。		
評価項目2	英検準1級程度の英文の内容を正確に理解し、自分の言葉で英語の要約文を作ることができる。	英検準1級程度の英文の内容を正確に理解し、本文を抜粋すれば英語の要約文を作ることができる。	英検準1級程度の英文の内容を正確に理解し、本文を抜粋しても正確な英語の要約文を作ることができない。		
評価項目3	与えられたテーマについての自論を、自力で200語程度の英文で表現することができる。	辞書や文法書を用い、与えられたテーマについての自論を200語程度の英文で表現できる。	教員の補助がなければ、与えられたテーマについての自論を200語程度の英文で表現することができない。		
評価項目4	事前に練習を行えば、200語程度の英文を、正しい発音、イントネーション、区切り方で音読することができる。	事前の練習に加え、英文に補助となる書き込みを加えておけば、正しい発音、イントネーション、区切り方で音読することができる。	事前の準備をしても、正しい発音、イントネーション、区切り方で音読することができない。		
学科の到達目標項目との関係					
教育方法等					
概要	英文読解、英作文、口頭発表の作業を通じ、総合的な英語力の向上を目指す。本講義では特にライティング能力に焦点を当てている。具体的には、与えられたテーマについて、200語程度の英文で自分の考えを述べることを目標とする。				
授業の進め方・方法	・毎回の授業は基本的に演習形式をとり、下記の流れで行う。 (1) 教科書の英文を読み、テーマに関する基礎知識を身につける。 (2) 教科書の練習問題を通じ、既習の文法事項や、本文に出てきた表現を用いた基礎的な英作文能力を身につける。 (3) 教科書のテーマに関するパラグラフライティングの作業を通じ、論理的な文章を書くための構成や、談話標識の使い方等を身につける。 (4) 作成した英文の口頭発表を通じ、英文の正しいイントネーションや区切り方を身につける。 ・作成した英文は、学生同士で添削してもらおう場合もある。 ・適宜小テストを行い、授業で扱った内容の定着を図る。				
注意点	60点以上を合格点とする。学期末の成績は、定期試験結果50%、作文課題20%、口頭発表・小テスト・授業態度を各10%で評価する。定期試験は、基本的には上記(1)~(4)で学習した内容を問う問題であるが、これらに関連した応用力を問う問題を出題する場合もある。				
授業計画					
	週	授業内容	週ごとの到達目標		
前期	1stQ	1週	授業ガイダンス	授業の進め方と評価の仕方について説明する。助動詞を使った表現を用いて英作文ができる。	
		2週	Unit1	助動詞を使った表現を用いて英作文ができる。	
		3週	Unit2	仮定法を使った表現を用いて英作文ができる。	
		4週	Unit3	強調構文を使った表現を用いて英作文ができる。	
		5週	Unit4	接続詞を使った表現を用いて英作文ができる。	
		6週	Unit5	不定詞を使った表現を用いて英作文ができる。	
		7週	Unit6	現在完了形を使った表現を用いて英作文ができる。	
		8週	到達度試験 (前期中間)	上記項目について学習した内容の理解度を確認する	
	2ndQ	9週	試験の解説と解答	前期中間試験の解説と解答	
			Unit7	現在分詞を使った表現を用いて英作文ができる。	
		10週	Unit7	現在完了形を使った表現を用いて英作文ができる。	
		11週	Unit8	比較級を使った表現を用いて英作文ができる。	
		12週	Unit9	受動態を使った表現を用いて英作文ができる。	
		13週	Unit10	関係代名詞を使った表現を用いて英作文ができる。	
		14週	Unit11	省略を使った表現を用いて英作文ができる。	
		15週	到達度試験 (前期期末)	上記項目について学習した内容の理解度を確認する。	
16週	試験の解説と解答	前期末試験の解説と解答、および授業アンケート			
モデルコアカリキュラムの学習内容及到達目標					
分類	分野	学習内容	学習内容の到達目標	到達レベル	授業週
評価割合					

	試験	発表	小テスト	態度	英作文課題	その他	合計
総合評価割合	50	10	10	10	20	0	100
基礎的能力	20	10	10	10	10	0	60
専門的能力	0	0	0	0	0	0	0
分野横断的能力	30	0	0	0	10	0	40

秋田工業高等専門学校		開講年度	平成29年度 (2017年度)	授業科目	英語 V (4 B)
科目基礎情報					
科目番号	0028		科目区分	一般 / 必修	
授業形態	授業		単位の種別と単位数	履修単位: 1	
開設学科	一般教科 (人文科学系)		対象学年	4	
開設期	後期		週時間数	2	
教科書/教材	Schaepe, Richard H.・河合忠仁・三浦良邦 (1998) 『時事英語で楽しく学ぶ英文法-The Pleasure of Reading, Thinking & Writing-』, 松柏社, 東京, 自作プリント				
担当教員	小菅 智也				
到達目標					
1. 原稿を見ずに、毎分120語程度の速さで2分程の口頭発表ができる。 2. 毎分120語程度の速さで2分程の口頭発表を聞いて、内容を理解することができる。 3. プレゼンテーションの基本的な構成と基礎的な語彙・表現を身に着けて、身振り手振りやスライド資料などを用いて発表ができる。					
ルーブリック					
	理想的な到達レベルの目安	標準的な到達レベルの目安	未到達レベルの目安		
評価項目1	原稿を全く見ずに、毎分120語程度の速さで2分程の口頭発表ができる。	ところどころ原稿を見れば、毎分120語程度の速さで2分程の口頭発表ができる。	最初から最後まで原稿を見なければ、毎分120語程度の速さで2分程の口頭発表ができない。		
評価項目2	メモを取りながら、毎分120語程度の速さで2分程の口頭発表を理解し、内容に関する質問ができる。	メモを取りながら、毎分120語程度の速さで2分程の口頭発表を理解することができる。	メモを取りながらでも、毎分120語程度の速さで2分程の口頭発表を理解することができない。		
評価項目3	プレゼンテーションの基本的な構成と基礎的な語彙・表現を身に着けて、身振り手振りやスライド資料などを用いて発表ができる。	プレゼンテーションの基本的な構成と基礎的な語彙・表現は身に着けているが、身振り手振りやスライド資料は効果的に使うことができない。	プレゼンテーションの基本的な構成と基礎的な語彙・表現を身に着けておらず、身振り手振りやスライド資料などを用いた発表も行つことができない。		
学科の到達目標項目との関係					
教育方法等					
概要	英文読解、英作文、口頭発表の作業を通じ、総合的な英語力の向上を目指す。本講義では特に、英語プレゼンテーションの技能に焦点を当てている。具体的には、与えられたテーマや自分のことについて、スライド資料等を用いながら、毎分120語程度の速度で、2分程度の口頭発表ができることを目標とする。また、英語IVに引き続き、教科書を用いた英作文演習も行っていく。				
授業の進め方・方法	演習形式で行い、英語プレゼンテーションに必要な技能を身に着ける。基本的な流れは下記の通りである。 (1) 目標とする技能に関する教員によるデモンストレーション。 (2) 教科書の英文を読み、テーマに関する基礎知識を身につけるとともに、本文で使用されている文法事項を身につける。 (3) 本文の内容について、発表の準備を行う。 (4) 学生による口頭発表 (5) 発表の評価と議論 英語IVで行った英作文や発音の訓練も引き続き行っていく。 なお、授業の進度や内容は、学生の理解度等を見て変更する場合もある。				
注意点	60点を合格点とする。学期末の成績は、英語での口頭発表60%、英作文課題20%、授業態度10%、小テスト10%で評価する。各自4~5回の個人発表と、2回のグループ発表を予定している。				
授業計画					
後期	3rdQ	週	授業内容	週ごとの到達目標	
		1週	授業ガイダンス Unit12	授業の進め方と評価の仕方について説明する。関係詞を使った表現を用いて英作文ができる。	
		2週	Unit12 アイコンタクト	関係詞を使った表現を用いて英作文ができる。アイコンタクトの使い方を理解し、発表を通じて身につける。	
		3週	Unit13 アイコンタクト	関係副詞を使った表現を用いて英作文ができる。アイコンタクトの使い方を理解し、発表を通じて身につける。	
		4週	Unit13 アイコンタクト	関係副詞を使った表現を用いて英作文ができる。アイコンタクトの使い方を理解し、発表を通じて身につける。	
		5週	Unit14 ジェスチャー	過去分詞を使った表現を用いて英作文ができる。ジェスチャーの使い方を理解し、発表を通じて身につける。	
		6週	Unit14 ジェスチャー	過去分詞を使った表現を用いて英作文ができる。ジェスチャーの使い方を理解し、発表を通じて身につける。	
		7週	Unit15 ジェスチャー	動名詞を使った表現を用いて英作文ができる。ジェスチャーの使い方を理解し、発表を通じて身につける。	
	8週	Unit15 視覚的補助	動名詞を使った表現を用いて英作文ができる。スライド等の視覚的補助の効果的な使い方を理解し、発表を通じて身につける。		
	4thQ	9週	Unit16 視覚的補助	同格のthatを使った表現を用いて英作文ができる。スライド等の視覚的補助の効果的な使い方を理解し、発表を通じて身につける。	
10週	Unit16 視覚的補助	同格のthatを使った表現を用いて英作文ができる。スライド等の視覚的補助の効果的な使い方を理解し、発表を通じて身につける。			

	11週	Unit17 構成	関係代名詞を使った表現を用いて英作文ができる。 発表の基本的な構成の作り方を理解し、発表を通じて身につける。
	12週	Unit17 構成	関係代名詞を使った表現を用いて英作文ができる。 発表の基本的な構成の作り方を理解し、発表を通じて身につける。
	13週	Unit18 質疑応答	仮定法過去完了を使った表現を用いて英作文ができる。 英語での質疑応答に必要な語彙や表現を使えるようになる。
	14週	Unit18 質疑応答	仮定法過去完了を使った表現を用いて英作文ができる。 英語での質疑応答に必要な語彙や表現を使えるようになる。
	15週	Unit19 質疑応答	比較級を使った表現を用いて英作文ができる。 英語での質疑応答に必要な語彙や表現を使えるようになる。
	16週	最終プロジェクト 授業アンケート	最終プロジェクトの発表と授業アンケート

モデルコアカリキュラムの学習内容と到達目標

分類	分野	学習内容	学習内容の到達目標	到達レベル	授業週
----	----	------	-----------	-------	-----

評価割合

	試験	発表	小テスト	態度	英作文課題	その他	合計
総合評価割合	0	60	10	10	20	0	100
基礎的能力	0	60	10	10	20	0	100
専門的能力	0	0	0	0	0	0	0
分野横断的能力	0	0	0	0	0	0	0

秋田工業高等専門学校		開講年度	平成29年度 (2017年度)	授業科目	社会と文化 (4 B)
科目基礎情報					
科目番号	0029		科目区分	一般 / 選択	
授業形態	授業		単位の種別と単位数	履修単位: 1	
開設学科	一般教科 (人文科学系)		対象学年	4	
開設期	前期		週時間数	2	
教科書/教材	参考書: 金森久雄編『日本経済読本』東洋経済新報社、平島健司『EUは国家を超えられるか』岩波書店 / その他: 自製プリントの配布				
担当教員	長井 栄二				
到達目標					
1. 戦後日本の地域格差問題の概要がわかる。 2. 戦後の欧州統合過程の概要がわかる。					
ルーブリック					
	理想的な到達レベルの目安		標準的な到達レベルの目安		未到達レベルの目安
評価項目1	戦後日本の地域格差問題を、資料に即して論述できる。		戦後日本の地域格差問題の概要を説明できる。		戦後日本の地域格差問題の概要を説明できない。
評価項目2	戦後の欧州統合過程の特質について、具体的に論述できる。		戦後の欧州統合過程の概要を説明できる。		戦後の欧州統合過程の概要を説明できない。
学科の到達目標項目との関係					
教育方法等					
概要	戦後の日本および現代ヨーロッパにおける地域をめぐる諸問題を、多様な観点から学ぶことにより、現代世界における身近な社会の問題を相対的かつ客観的に捉え、自ら思考し主体的に行動していくために必要な基礎視角を身に付ける。				
授業の進め方・方法	講義形式。試験結果が合格点に達しない場合、再試験を行うことがある。				
注意点	合格点は60点である。前期中間・期末成績は、いずれも試験結果で評価する。学年総合成績 = (前期中間成績 + 前期末成績) / 2。 授業を受ける前: 現在の日本や世界の諸地域の情勢について、複数のメディアを通じて、日常的に情報に触れておくこと。 授業を受けた後: 授業で示した板書および口頭説明の論理構成を押さえ、その主旨を明確につかまえておくこと。				
授業計画					
		週	授業内容	週ごとの到達目標	
前期	1stQ	1週	授業のガイダンス	授業の進め方と評価の仕方について説明する。	
		2週	戦後日本の経済成長	一国経済規模の成長について学ぶ。	
		3週	戦後日本の地域格差問題	経済成長と地域格差の関係について学ぶ。	
		4週	現代日本の空間構造	現代日本の空間構造の特質について学ぶ。	
		5週	地域格差をめぐる諸問題	社会問題としての地域問題の性格がわかる。	
		6週	戦後日本の地域政策	政策手法の特質について学ぶ。	
		7週	到達度試験 (前期中間)	上記の項目について学習した内容の理解度を授業の中で確認する。	
		8週	試験の解説と解答	到達度試験の解説と解答	
	2ndQ	9週	大戦直後の欧州	大戦直後の欧州統合の試みについて学ぶ。	
		10週	欧州石炭鉄鋼共同体 (ECSC) の成立	欧州統合の画期性がわかる。	
		11週	欧州経済共同体と欧州原子力共同体	統合分野の拡大と統合組織の変化について学ぶ。	
		12週	「均衡の時代」	統合の漸進性がわかる。	
		13週	欧州連合 (EU) の成立	欧州連合の性格について学ぶ。	
		14週	欧州統合の現状	欧州統合の到達点について学ぶ。	
		15週	到達度試験 (前期末)	上記の項目について学習した内容の理解度を授業の中で確認する。	
		16週	試験の解説と解答	到達度試験の解説と解答、および授業アンケート	
モデルコアカリキュラムの学習内容と到達目標					
分類	分野	学習内容	学習内容の到達目標	到達レベル	授業週
評価割合					
			到達度試験	合計	
総合評価割合			100	100	
知識の基本的な理解			60	60	
論理的思考・表現			40	40	

秋田工業高等専門学校		開講年度	平成29年度 (2017年度)	授業科目	科学技術社会史 (4B)			
科目基礎情報								
科目番号	0031		科目区分	一般 / 選択				
授業形態	授業		単位の種別と単位数	履修単位: 1				
開設学科	一般教科 (人文科学系)		対象学年	4				
開設期	前期		週時間数	2				
教科書/教材	その他: 自製プリントの配布							
担当教員	吉葉 恭行							
到達目標								
科学技術と産業や社会の関係を歴史的に考察し理解する上で必要な学術的素養を身につけることにより、現代社会が抱える科学技術にかかわる諸問題を主体的に発見し考察が出来るようになること。								
ルーブリック								
	理想的な到達レベルの目安		標準的な到達レベルの目安		未到達レベルの目安			
評価項目1	産業革命期における科学技術と産業の発展の関係を具体的に説明できる。		産業革命期における科学技術と産業の発展の関係を概略説明できる。		産業革命期における科学技術と産業の発展の関係を説明できない。			
評価項目2	産業革命期における社会変容について具体的に説明できる。		産業革命期における社会変容について概略説明できる。		産業革命期における社会変容について説明できない。			
評価項目3	大量生産方式の発達と科学技術および社会の変容について具体的に説明できる。		大量生産方式の発達と科学技術および社会の変容について概略説明できる。		大量生産方式の発達と科学技術および社会の変容について説明できない。			
評価項目4	大戦期の科学技術の発達と社会の変容について具体的に説明できる。		大戦期の科学技術の発達と社会の変容について概略説明できる。		大戦期の科学技術の発達と社会の変容について説明できない。			
評価項目5	戦後の科学技術の発達と社会の変容について具体的に説明できる。		戦後の科学技術の発達と社会の変容について概略説明できる。		戦後の科学技術の発達と社会の変容について説明できない。			
学科の到達目標項目との関係								
教育方法等								
概要	科学技術の発展は産業や社会のありかたをどのように変え、また産業・社会は科学技術に何を求めたのか。19世紀後半～20世紀の科学技術の発展と産業・社会の変容とのかかわりについて、歴史的に考察し考える。							
授業の進め方・方法	講義形式を基本とするが、必要に応じてグループ・ディスカッション等も実施する。必要に応じて適宜課題レポートの提出および課題のプレゼンテーションを求める。試験結果が合格点に達しない場合、再試験を行うことがある。							
注意点	授業中は板書を書き取るだけでなく、口頭による説明についても各自メモを取る習慣を身につける必要がある。授業内容を深く理解するために、参考文献やインターネット等の複数メディアを活用し、資料収集し学ぶ方法 (スキル) を身につけるよう心がけること。様々な見方を相対的に捉え、自分なりに整理する習慣を身につけることが重要である。							
授業計画								
		週	授業内容		週ごとの到達目標			
前期	1stQ	1週	授業ガイダンス		授業の進め方と評価の仕方について説明する。科学技術社会史の学術的位置づけを理解する。			
		2週	1 19世紀の科学技術と社会 (1) 産業革命と産業発展		産業革命期における科学技術と産業の発展の関係を学ぶ。			
		3週						
		4週						
		5週	(2) 産業革命期の社会変容		産業革命期における社会変容について学ぶ。			
		6週						
		7週	到達度試験 (前期中間)		上記項目について学習した内容の理解度を確認する。			
	2ndQ	8週	2 20世紀の科学技術と社会 (1) 大量生産方式と科学技術		大量生産方式の発達と科学技術および社会の変容について学ぶ。			
		9週						
		10週						
		11週						
		12週	(2) 大戦期の科学技術と産業		大戦期の科学技術の発達と社会の変容について学ぶ。			
		13週						
		14週	(3) 戦後の科学技術と産業		戦後の科学技術の発達と社会の変容について学ぶ。			
		15週						
		16週	到達度試験 (前期末)		上記項目について学習した内容の理解度を確認する。			
モデルコアカリキュラムの学習内容と到達目標								
分類	分野	学習内容	学習内容の到達目標				到達レベル	授業週
評価割合								
	試験	発表	相互評価	態度	ポートフォリオ	その他	レポート	合計
総合評価割合	60	10	0	0	0	10	20	100
基礎的能力	60	0	0	0	0	0	5	65
思考・推論・創造への適用力	0	0	0	0	0	0	5	5
汎用的技能	0	5	0	0	0	5	5	15

態度・嗜好性 (人間力)	0	5	0	0	0	5	0	10
総合的な学習 経験と創造的 思考力	0	0	0	0	0	0	5	5

秋田工業高等専門学校		開講年度	平成29年度 (2017年度)	授業科目	技術者倫理 (5M)				
科目基礎情報									
科目番号	0001		科目区分	一般 / 必修					
授業形態	授業		単位の種別と単位数	履修単位: 1					
開設学科	一般教科 (人文科学系)		対象学年	5					
開設期	後期		週時間数	2					
教科書/教材	教科書: 「はじめての工学倫理」 斉藤了文他編 昭和堂、その他: 自製プリントの配布								
担当教員	吉葉 恭行								
到達目標									
<p>科学技術が社会や人々の生活、そして自然に及ぼす影響について理解することを通じて、技術者の社会的責任を理解すること。技術者が社会の一構成員であることを再認識すること。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 技術者倫理の原則を学ぶ。 2. 組織とエンジニアの関係を理解する。 3. 企業と技術者の社会的責任を理解する。 4. 安全に関する設計思想を理解する。 5. 知的財産権の基本がわかる。 									
ループリック									
	理想的な到達レベルの目安		標準的な到達レベルの目安		未到達レベルの目安				
評価項目1	技術者倫理の原則について具体的事例を示し説明できる。		技術者倫理の原則について概略説明できる。		技術者倫理の原則について説明できない。				
評価項目2	組織とエンジニアの関係について具体的な事例を示し説明できる。		組織とエンジニアの関係について概略説明できる。		組織とエンジニアの関係について説明できない。				
評価項目3	企業と技術者の社会的責任について具体的事例を示し説明できる。		企業と技術者の社会的責任について概略説明できる。		企業と技術者の社会的責任について説明できない。				
評価項目4	安全に関する設計思想について具体事例を示し説明できる。		安全に関する設計思想について概略説明できる。		安全に関する設計思想について説明できない。				
評価項目5	知的財産権の基本について具体的事例を示し説明できる。		知的財産権の基本について概略説明できる。		知的財産権の基本について説明できない。				
学科の到達目標項目との関係									
教育方法等									
概要	現代科学技術の性格と技術者に社会的責任が求められる背景を理解し、さらに事例研究を通じて社会的責任を果たすために必要な技術者倫理に関する基礎知識を修得する。								
授業の進め方・方法	講義形式を基本とするが、必要に応じてグループ・ディスカッション等を実施し、適宜課題レポートの提出および課題のプレゼンテーションを求める。 試験結果が合格点に達しない場合、再試験等を行うことがある。								
注意点	講義中は板書を書き留めるだけでなく、口頭による説明についても各自メモを取る習慣を身に付ける必要がある。講義内容を深く理解するために、参考文献やインターネット等の複数メディアを活用し、技術者倫理にかかわる事象を調べ分析すること。様々な見方を相対的に捉え整理することがポイントである。								
授業計画									
後期	3rdQ	週	授業内容			週ごとの到達目標			
		1週	授業ガイダンス			授業の進め方と評価の仕方について説明する。			
		2週	1 技術者倫理の基礎知識 (1) 倫理学の基本			倫理学の基本原則を学ぶ。			
		3週	(2) 倫理規定			技術者倫理の原則を学ぶ。			
		4週	2 事例分析 (1) 組織とエンジニア			組織とエンジニアの関係を理解する。			
		5週							
		6週	(2) 企業の社会的責任			企業と技術者の社会的責任を理解する。			
		7週							
	8週	到達度試験 (後期中間)			上記項目について学習した内容の理解度を確認する。				
	4thQ	9週	(3) 知的財産権と企業秘密			知的財産権と企業秘密の関係を理解できる。			
		10週	(4) 安全性と設計			安全に関する設計思想を理解する。			
		11週							
		12週							
		13週							
		14週	(5) 平和と技術者			世界平和構築に技術者がいかに貢献すべきか考えることができる。			
		15週							
16週		到達度試験 (後期末)			上記項目について学習した内容の理解度を確認する。				
モデルコアカリキュラムの学習内容と到達目標									
分類	分野	学習内容	学習内容の到達目標				到達レベル	授業週	
評価割合									
	試験	発表	相互評価	態度	ポートフォリオ	その他	レポート	合計	
総合評価割合	60	10	0	0	0	10	20	100	
基礎的能力	40	0	0	0	0	0	5	45	
専門的能力	0	0	0	0	0	0	0	0	
分野横断的能力	0	0	0	0	0	0	0	0	

思考・推論・ 創造への適用 力	20	0	0	0	0	0	5	25
汎用的技能	0	5	0	0	0	5	5	15
態度・嗜好性	0	5	0	0	0	5	0	10
総合的な学習 経験と創造的 思考力	0	0	0	0	0	0	5	5

秋田工業高等専門学校		開講年度	平成29年度 (2017年度)	授業科目	総合英語Ⅱ (5M)
科目基礎情報					
科目番号	0002		科目区分	一般 / 必修	
授業形態	授業		単位の種別と単位数	履修単位: 2	
開設学科	一般教科 (人文科学系)		対象学年	5	
開設期	通年		週時間数	2	
教科書/教材	Science in Focus (成美堂), 『TOEICテスト公式問題集 新形式問題対応編』 (国際ビジネスコミュニケーション協会), 副教材として英検の過去問題、TOEICの問題、自作のプリントを使用する。				
担当教員	杉浦 克哉				
到達目標					
<p>1. TOEICに相当するレベルの難易度で750語程度の長さの英文を限られた時間内に正確に読み理解できる。</p> <p>2. リスニング力を向上させる。どのような訓練をすれば、聞き取りが難解な箇所でも聞き取れるようになるかを知り、自分で訓練できる。TOEICのリスニング問題で常に6割以上の得点を取ることができる。</p> <p>3. 自分の考えを50語から100語程度の英語で的確かつ論理的に表現することができる。文法や語法上のミスが無く、説得力があり独創的な英文を作ることができる。</p> <p>4. 自分の考えを英語で口頭により伝え、他の学生にそれを理解させる努力ができる。</p> <p>5. 身近なことを平易な表現を用いてすぐに表現できる。</p> <p>6. TOEIC400点以上、あるいは600点以上のスコアを取るために必要な語彙力、読解力、リスニング力、文法知識を習得する。</p>					
ルーブリック					
	理想的な到達レベルの目安	標準的な到達レベルの目安	未到達レベルの目安		
評価項目1	TOEICに相当するレベルの難易度で750語程度の長さの英文を、辞書を使わずに内容を正確に理解して読むことができる。内容を問う問題に正確に答えることができる。	TOEICに相当するレベルの難易度で750語程度の長さの英文を、辞書を使えば時間はかかるものの内容を正確に理解して読むことができる。内容を問う問題に正確に答えることができる。	TOEICに相当するレベルの難易度で750語程度の長さの英文を、辞書を使えば時間はかかるものの内容の一部を理解して読むことができる。内容を問う問題に5割程度の確率で正解できる。		
評価項目2	授業で学んだ聞き取りの訓練を毎日行っている。TOEICのリスニングの問題で常に7割以上の得点を取ることができる。	授業で学んだ聞き取りの訓練を毎日行っている。TOEICのリスニングの問題で常に6割以上の得点を取ることができる。	授業で学んだ聞き取りの訓練を時々行うだけである。TOEICのリスニングの問題の得点が6割未満である。		
評価項目3	文法や語法上のミスが無く、説得力があり独創性のある内容の自由英作文を作ることができる。副詞や助動詞が適切に使われ豊富な語彙で英文が表される。	文法や語法上のミスが無く、説得力があり独創性のある内容の自由英作文を作ることができる。	自由英作文を作成する際、文法や語法上のミスが多い。内容に説得力、独創性がない。		
評価項目4	自分の考えを英語で口頭により伝える際、聞き手が理解しているかどうかを確かめながら話すことができる。聞き手にとって理解が難しい箇所は、繰り返し言ったり、別の言葉で言い換えたりして、聞き手に理解させる努力ができる。	自分の考えを英語で口頭により伝える際、聞き手が理解しているかどうかを確かめながら話すことができる。	自分の考えを英語で口頭により伝える際、声が小さく、そして読めない語があるために時々詰まってしまう。聞き手に十分な配慮をすることなく、単に原稿を読むだけである。		
評価項目5	語彙力を問うクイズを解いたとき全体の9割以上を正解できる。	語彙力を問うクイズを解いたとき全体の8割以上を正解できる。	語彙力を問うクイズを解いたとき正解率が全体の8割未満である。		
学科の到達目標項目との関係					
教育方法等					
概要	この授業の目標は学生が総合的な英語力を向上させることと、TOEICで全員が400点以上を獲得し、さらに10人以上の学生が600点以上を獲得することである。総合的な英語力を向上させるために、発音練習、語彙力を増やすための読解、クイズ(小テスト)、口頭発表、英作文、リスニング、読解、英会話等を行う。TOEICについては次の3つを学生が習慣的に行えるようにすることで目標を達成する。1. 語彙力を増やすために、知識や理解があいまいな語や句、構文を全て正確に理解し暗記する。2. リスニングで聞き取りにくい箇所は何度も繰り返し聞き、CDと同時に英語を発する訓練をする。3. 限られた時間内に所定の問題数を解く訓練をする。学生が英語に触れる機会を増やすために、授業の大部分は英語で行われる。文法の説明や読解は日本語で行うことがある。また、学生は原則として英語で話さなければならない。				
授業の進め方・方法	発音練習、クイズ(小テスト)、口頭発表、[リスニング、読解、英作文、英会話]、語彙力を増やすための読解を行う。[]で囲まれた部分は教科書Science in Focusを用いて行う。Crossword、Q & A等のプリントにより教科書を進める。授業2回で1つのUnitを終えることを目安とするが、進み方は変わる場合がある。語彙力を増やすための読解は『TOEICテスト公式問題集 新形式問題対応編』や英検の過去問題を用いる。その他の活動は自作のプリントにより行う。口頭発表については、予めテーマ・問題を与えるので、自分の考えを50語から100語程度の英語で用意しそれを発表する。文法や語法上のミスが無く、説得力があり独創的な英文を書くことに努めなければならない。また聞き手に聞こえるように、そして伝わるように話さなければならない。学生が復習しやすいように音声のみの動画を活用することがある。グループ活動を行う場合、学生による相互評価を行うことがある。授業では発展的な内容を扱うことがある。クイズや定期試験では応用問題を出す場合がある。授業の進め方は変更される場合がある。予習として発表原稿の作成、発音練習、クイズ対策、口頭発表の練習、英作文の作成、教科書の理解をしてもらうこと。不明な語句は必ず全て辞書で調べ教科書やノート等にメモすること。復習として重要事項の暗記や聞き取りの練習をすること。必要に応じて音声のみの動画を視聴し授業内容を確かめること。				
注意点	眠り続けている学生へは単位を出さない場合がある。提出物や小レポート・エッセイの作成において剽窃や盗用があった場合、単位を出さない場合がある。 【評価方法】合格点は60点である。中間試験、期末試験以外にクイズ(小テスト)、レポート(提出物)、口頭発表も評価に加わる。小テストとしてリスニングの試験も行う。グループ活動を行う場合、学生による相互評価を行うことがあるがこれも評価に加わる。定期試験では試験に出る問題は原則として事前に伝えられないが、数問程度ならば事前に告知される場合がある。また、以下に示す評価割合は変更する場合がある。				
授業計画					
		週	授業内容	週ごとの到達目標	
前期	1stQ	1週	授業の進め方と評価の仕方を説明する。発音練習、クイズ(小テスト)、口頭発表、[リスニング、読解、自由英作文、英会話]、語彙力を増やすための読解([])の部分はその日の授業で進められるところまで行い、次の授業でその続きを行う。第2回目以降の授業は定期試験、試験返却を除き、全てこれと同じなので以下では省略。)、Unit 1	上記の「到達目標」「評価(ルーブリック)」に従う。第2回目以降の授業は全てこれと同じなので以下では省略。	
		2週	Unit 1		

		3週	Unit 2		
		4週	Unit 2		
		5週	Unit 3		
		6週	Unit 3		
		7週	到達度試験（前期中間）		
		8週	試験の解説、Unit 4		
		2ndQ	9週	Unit 4	
			10週	Unit 5	
	11週		Unit 5		
	12週		Unit 6		
	13週		Unit 6		
	14週		Unit 7		
	15週		Unit 7		
	16週		到達度試験（前期期末）		
	後期	3rdQ	1週	Unit 8	
			2週	Unit 8	
3週			Unit 9		
4週			Unit 9		
5週			Unit 10		
6週			Unit 10		
7週			到達度試験（後期中間）		
8週			試験の解説、Unit 11		
4thQ		9週	Unit 11		
		10週	Unit 12		
		11週	Unit 12		
		12週	Unit 13		
		13週	Unit 13		
		14週	Unit 14		
		15週	Unit 14		
		16週	到達度試験（後期期末）		

モデルコアカリキュラムの学習内容と到達目標

分類	分野	学習内容	学習内容の到達目標	到達レベル	授業週	
評価割合						
	試験	小テスト	発表	レポート	その他	合計
総合評価割合	50	20	5	5	20	100
基礎的能力	30	20	5	5	20	80
専門的能力	0	0	0	0	0	0
分野横断的能力	20	0	0	0	0	20

秋田工業高等専門学校		開講年度	平成29年度 (2017年度)	授業科目	上級英語 (5M)			
科目基礎情報								
科目番号	0003		科目区分	一般 / 選択				
授業形態	授業		単位の種別と単位数	履修単位: 1				
開設学科	一般教科 (人文科学系)		対象学年	5				
開設期	後期		週時間数	2				
教科書/教材	「(新形式問題対応) TOEIC® テスト非公式問題集最高の400問」 ヒ口前田他 著 アルク							
担当教員	菅原 隆行							
到達目標								
1 TOEICテストスコア400点程度以上のコミュニケーション能力がある。 2 リスニングPart 1の正解率が70%以上、Part 2の正解率が60%以上のリスニング力がある。 3 リスニングPart 3、Part 4の正解率がそれぞれおおよそ40%以上のリスニング力がある。 4 リーディングPart 5、Part 6の正解率がそれぞれおおよそ45%以上の語彙力がある。 5 リーディングPart 7の正解率がおおよそ45%以上の長文読解力がある。								
ループリック								
	理想的な到達レベルの目安	標準的な到達レベルの目安	未到達レベルの目安					
評価項目1	TOEICテストスコア470点程度以上のコミュニケーション能力がある。	TOEICテストスコア400点程度以上のコミュニケーション能力がある。	TOEICテストスコア350点程度以下のコミュニケーション能力しかない。					
評価項目2	リスニングPart 1の正解率が80%以上、Part 2の正解率が65%以上のリスニング力がある。	リスニングPart 1の正解率が70%以上、Part 2の正解率が55%以上のリスニング力がある。	リスニングPart 1の正解率が70%以上、Part 2の正解率が55%以上のリスニング力がない。					
評価項目3	リーディングPart 5、Part 6の正解率がそれぞれおおよそ50%以上の語彙力がある。	リーディングPart 5、Part 6の正解率がそれぞれおおよそ45%以上の語彙力がある。	リーディングPart 5、Part 6の正解率がそれぞれおおよそ45%以上の語彙力がない。					
学科の到達目標項目との関係								
教育方法等								
概要	TOEICスコア400点以上取得に必要な英語力を養成する。							
授業の進め方・方法	演習形式で行い、教科書に沿って授業を進める。試験結果が合格点に達しない場合、再試験を行うことがある。							
注意点	合格点は60点である。後期中間・学年末成績は、試験結果70%、小テスト等を30%で評価する。 学年総合成績 = (到達度試験 (後期中間) + 到達度試験 (学年末) 成績) / 2 校内実施のTOEIC IPテスト、公開テスト、到達度試験で行われるTOEIC模擬試験のうち、1つもTOEICスコア300点を超えることができない場合は単位取得が困難になるので注意すること。							
授業計画								
	週	授業内容	週ごとの到達目標					
後期	3rdQ	1週	授業ガイダンス Part 1 写真描写問題	授業の進め方と評価の仕方について説明する。基本動詞を確実におさえ、風景写真の注意点を把握できる。				
		2週	Part 2 応答問題	直接答えない意外な応答に対応できる。				
		3週	Part 3 会話文問題	会話のトピックを把握できる。				
		4週	Part 4 説明文 (ナレーション) 問題	詳細情報を聞き取ることができる。				
		5週	Part 5 語彙問題	品詞問題に対応でき、基本的な文法問題ができる。				
		6週	Part 6 英文空所補充問題 Part 7 長文読解問題	つなぎことばで英文の内容を把握できる。英文の書かれている目的を把握できる。				
		7週	Part 7 長文読解問題	英文の書かれている目的を把握できる。				
		8週	到達度試験 (後期中間)	上記項目について学習した内容の理解度を確認する。				
	4thQ	9週	試験の解説と解答 Part 1 写真描写問題	到達度試験の解説と解答				
		10週	Part 2 応答問題	直接答えない意外な応答に対応できる。				
		11週	Part 3 会話文問題	会話のトピックを把握できる。				
		12週	Part 4 説明文 (ナレーション) 問題	詳細情報を聞き取ることができる。				
		13週	Part 5 語彙問題 Part 6 英文空所補充問題	品詞問題に対応でき、基本的な文法問題ができる。つなぎことばで英文の内容を把握できる。				
		14週	Part 7 長文読解問題	英文の書かれている目的を把握できる。				
		15週	到達度試験 (学年末)	上記項目について学習した内容の理解度を確認する。				
		16週	試験の解説と解答	到達度試験の解説と解答、本授業のまとめ、および授業アンケート				
モデルコアカリキュラムの学習内容と到達目標								
分類	分野	学習内容	学習内容の到達目標				到達レベル	授業週
評価割合								
	試験	発表	相互評価	態度	ポートフォリオ	その他	合計	
総合評価割合	70	0	0	0	0	30	100	
基礎的能力	70	0	0	0	0	30	100	
専門的能力	0	0	0	0	0	0	0	
分野横断的能力	0	0	0	0	0	0	0	

秋田工業高等専門学校		開講年度	平成29年度 (2017年度)		授業科目	技術者倫理 (5 E)			
科目基礎情報									
科目番号	0005		科目区分	一般 / 必修					
授業形態	授業		単位の種別と単位数	履修単位: 1					
開設学科	一般教科 (人文科学系)		対象学年	5					
開設期	後期		週時間数	2					
教科書/教材	教科書: 「はじめての工学倫理」 斉藤了文他編 昭和堂、その他: 自製プリントの配布								
担当教員	吉葉 恭行								
到達目標									
<p>科学技術が社会や人々の生活、そして自然に及ぼす影響について理解することを通じて、技術者の社会的責任を理解すること。技術者が社会の一構成員であることを再認識すること。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 技術者倫理の原則を学ぶ。 2. 組織とエンジニアの関係を理解する。 3. 企業と技術者の社会的責任を理解する。 4. 安全に関する設計思想を理解する。 5. 知的財産権の基本がわかる。 									
ルーブリック									
	理想的な到達レベルの目安		標準的な到達レベルの目安		未到達レベルの目安				
評価項目1	技術者倫理の原則について具体的事例を示し説明できる。		技術者倫理の原則について概略説明できる。		技術者倫理の原則について説明できない。				
評価項目2	組織とエンジニアの関係について具体的な事例を示し説明できる。		組織とエンジニアの関係について概略説明できる。		組織とエンジニアの関係について説明できない。				
評価項目3	企業と技術者の社会的責任について具体的事例を示し説明できる。		企業と技術者の社会的責任について概略説明できる。		企業と技術者の社会的責任について説明できない。				
評価項目4	安全に関する設計思想について具体事例を示し説明できる。		安全に関する設計思想について概略説明できる。		安全に関する設計思想について説明できない。				
評価項目5	知的財産権の基本について具体的事例を示し説明できる。		知的財産権の基本について概略説明できる。		知的財産権の基本について説明できない。				
学科の到達目標項目との関係									
教育方法等									
概要	現代科学技術の性格と技術者に社会的責任が求められる背景を理解し、さらに事例研究を通じて社会的責任を果たすために必要な技術者倫理に関する基礎知識を修得する。								
授業の進め方・方法	講義形式を基本とするが、必要に応じてグループ・ディスカッション等を実施し、適宜課題レポートの提出および課題のプレゼンテーションを求める。 試験結果が合格点に達しない場合、再試験等を行うことがある。								
注意点	講義中は板書を書き留めるだけでなく、口頭による説明についても各自メモを取る習慣を身に付ける必要がある。講義内容を深く理解するために、参考文献やインターネット等の複数メディアを活用し、技術者倫理にかかわる事象を調べ分析すること。様々な見方を相対的に捉え整理することがポイントである。								
授業計画									
後期	3rdQ	週	授業内容			週ごとの到達目標			
		1週	授業ガイダンス			授業の進め方と評価の仕方について説明する。			
		2週	1 技術者倫理の基礎知識 (1) 倫理学の基本			倫理学の基本原則を学ぶ。			
		3週	(2) 倫理規定			技術者倫理の原則を学ぶ。			
		4週	2 事例分析 (1) 組織とエンジニア			組織とエンジニアの関係を理解する。			
		5週							
		6週	(2) 企業の社会的責任			企業と技術者の社会的責任を理解する。			
		7週							
	8週	到達度試験 (後期中間)			上記項目について学習した内容の理解度を確認する。				
	4thQ	9週	(3) 知的財産権と企業秘密			知的財産権と企業秘密の関係を理解できる。			
		10週	(4) 安全性と設計			安全に関する設計思想を理解する。			
		11週							
		12週							
		13週							
		14週	(5) 平和と技術者			世界平和構築に技術者がいかに貢献すべきか考えることができる。			
		15週							
16週		到達度試験 (後期末)			上記項目について学習した内容の理解度を確認する。				
モデルコアカリキュラムの学習内容と到達目標									
分類	分野	学習内容	学習内容の到達目標				到達レベル	授業週	
評価割合									
	試験	発表	相互評価	態度	ポートフォリオ	その他	レポート	合計	
総合評価割合	60	10	0	0	0	10	20	100	
基礎的能力	40	0	0	0	0	0	5	45	
専門的能力	0	0	0	0	0	0	0	0	
分野横断的能力	0	0	0	0	0	0	0	0	

思考・推論・ 創造への適用 力	20	0	0	0	0	0	5	25
汎用的技能	0	5	0	0	0	5	5	15
態度・嗜好性	0	5	0	0	0	5	0	10
総合的な学習 経験と創造的 思考力	0	0	0	0	0	0	5	5

秋田工業高等専門学校		開講年度	平成29年度 (2017年度)	授業科目	総合英語Ⅱ (5E)
科目基礎情報					
科目番号	0006		科目区分	一般 / 必修	
授業形態	授業		単位の種別と単位数	履修単位: 2	
開設学科	一般教科 (人文科学系)		対象学年	5	
開設期	通年		週時間数	2	
教科書/教材	「The Universe of English」 東京大学出版会, 「TOEICテスト公式問題集 新形式問題対応編」 国際ビジネスコミュニケーション協会, 「Deep Listening Level 3」 日本英語検定協会				
担当教員	菅原 隆行				
到達目標					
1. TOEICスコア450点以上のコミュニケーション力を身につける。 2. リスニング力、シャドーイング力があり、英語速読のスピードが1分間に150語程度である。 3. 4500語程度の単語力と英文法の理解力がある。 4. 英文に関する総合的な理解力があり、100語程度の文章をパラグラフレベルで書くことができる。 5. 母国以外の言語や文化を理解しようとする姿勢をもち、教室内外で円滑なコミュニケーションをはかることができる。					
ループリック					
	理想的な到達レベルの目安		標準的な到達レベルの目安		未到達レベルの目安
評価項目1	TOEICスコアが450点以上である。		TOEICスコアが400点程度である。		TOEICスコアが350点未満である。
評価項目2	リスニング力、シャドーイング力があり、英語速読のスピードが1分間に180語程度以上である。		リスニング力、シャドーイング力がある程度あり、英語速読のスピードが1分間に150語程度である。		リスニング力、シャドーイング力がなく、英語速読のスピードが1分間に120語未満である。
評価項目3	英文に関する総合的な理解力が十分にあり、英作文ができる。		英文に関する総合的な理解力が50%程度あり、英作文がある程度できる。		英文に関する総合的な理解力がなく、英作文ができない。
学科の到達目標項目との関係					
教育方法等					
概要	TOEICスコア450点以上のコミュニケーション力を身につけ、英語速読のスピードが1分間に150語程度の能力を持ち、英語の長文を正確に読み取ることができる能力を修得する。				
授業の進め方・方法	演習形式で行い、小テスト (TOEICテストを含む) も随時実施する。アルク・ネットアカデミーは主に自学自習課題として使用する。試験結果が合格点に達しない場合、再試験を行うことがある。				
注意点	合格点は60点である。各中間・期末成績は、試験結果70%、小テスト、TOEIC成績等を30%で評価する。学年総合成績 = (到達度試験 (前期中間) + 到達度試験 (前期期末) + 到達度試験 (後期中間) + 到達度試験 (学年末) 成績) / 4 なお、TOEICスコアが350点未満の学生は、単位取得が困難になるので注意すること。宿題が多いので計画的に課題を進めること。宿題をしてこない学生は科目履修を放棄したとみなすので注意すること。				
授業計画					
		週	授業内容	週ごとの到達目標	
前期	1stQ	1週	授業ガイダンス TOEIC リスニングPart I・II 演習	授業の進め方と評価の仕方について説明する。TOEICリスニング問題の新傾向がわかる。	
		2週	Session6 The Expanding Universe ①	ビッグバン理論に関する英文を読み、内容を理解できる。	
		3週	Session6 The Expanding Universe ②	ビッグバン理論に関する英文を読み、内容を理解できる。	
		4週	Session6 The Expanding Universe ③	ビッグバン理論に関する英文を読み、内容を理解できる。	
		5週	Session6 The Expanding Universe ④ TOEIC リスニングPart III 演習	ビッグバン理論に関する英文を読み、内容を理解できる。	
		6週	TOEIC リスニングPart IV演習	TOEICリスニング問題の新傾向がわかる。	
		7週	到達度試験 (前期中間)	上記項目について学習した内容の理解度を授業の中で確認する。	
		8週	試験の解説と解答 TOEICリーディングPartV・VI演習	到達度試験の解説と解答 TOEICリーディングの新傾向がわかる。	
	2ndQ	9週	TOEICリーディングPartVII 演習	TOEICリーディングの新傾向がわかる。	
		10週	Session7 The Blind Watchmaker ①	進化論に関する英文を読み、内容を理解できる。	
		11週	Session7 The Blind Watchmaker ②	進化論に関する英文を読み、内容を理解できる。	
		12週	Session7 The Blind Watchmaker ③	進化論に関する英文を読み、内容を理解できる。	
		13週	Session7 The Blind Watchmaker ④	進化論に関する英文を読み、内容を理解できる。	
		14週	TOEICリーディングPartVII 演習	TOEICリーディングの新傾向がわかる。	
		15週	到達度試験 (前期期末)	上記項目について学習した内容の理解度を授業の中で確認する。	
		16週	試験の解説と解答	到達度試験の解説と解答、および授業アンケート	
後期	3rdQ	1週	TOEIC リスニングPart I・II 演習	TOEICリスニング問題のスピードに対応できる。	
		2週	Session8 The Rise of the Labor Market ①	貨幣経済と労働市場に関する英文を読み、内容を理解できる。	
		3週	Session8 The Rise of the Labor Market ②	貨幣経済と労働市場に関する英文を読み、内容を理解できる。	
		4週	Session8 The Rise of the Labor Market ③	貨幣経済と労働市場に関する英文を読み、内容を理解できる。	

4thQ	5週	Session8 The Rise of the Labor Market ④ TOEIC リスニングPart III 演習	貨幣経済と労働市場に関する英文を読み、内容を理解できる。
	6週	TOEIC リスニングPart IV演習	TOEICリスニング問題のスピードに対応できる。
	7週	到達度試験（後期中間）	上記項目について学習した内容の理解度を授業の中で確認する。
	8週	試験の解説と解答 TOEICリーディングPartV・VI演習	到達度試験の解説と解答 1分間に150語程度のスピードの英文速読ができる。
	9週	TOEICリーディングPartVII 演習	1分間に150語程度のスピードの英文速読ができる。
	10週	Session9 On Speaking of Speaking ①	言語論に関する英文を読み、内容を理解できる。
	11週	Session9 On Speaking of Speaking ②	言語論に関する英文を読み、内容を理解できる。
	12週	Session9 On Speaking of Speaking ③	言語論に関する英文を読み、内容を理解できる。
	13週	TOEICリーディングPartVII 演習	1分間に150語程度のスピードの英文速読ができる。
	14週	英語ライティング演習	100語程度の文章をパラグラフレベルで書くことができる。
	15週	到達度試験（学年末）	上記項目について学習した内容の理解度を授業の中で確認する。
	16週	試験の解説と解答	到達度試験の解説と解答、および授業アンケート

モデルコアカリキュラムの学習内容と到達目標

分類	分野	学習内容	学習内容の到達目標	到達レベル	授業週		
評価割合							
	試験	発表	相互評価	態度	ポートフォリオ	その他	合計
総合評価割合	70	0	0	0	0	30	100
基礎的能力	35	0	0	0	0	30	65
専門的能力	35	0	0	0	0	0	35
分野横断的能力	0	0	0	0	0	0	0

秋田工業高等専門学校		開講年度	平成29年度 (2017年度)	授業科目	上級英語 (5 E)			
科目基礎情報								
科目番号	0007		科目区分	一般 / 選択				
授業形態	授業		単位の種別と単位数	履修単位: 1				
開設学科	一般教科 (人文科学系)		対象学年	5				
開設期	後期		週時間数	2				
教科書/教材	「(新形式問題対応) TOEIC® テスト非公式問題集最高の400問」 ヒ口前田他 著 アルク							
担当教員	菅原 隆行							
到達目標								
1 TOEICテストスコア400点程度以上のコミュニケーション能力がある。 2 リスニングPart 1の正解率が70%以上、Part 2の正解率が60%以上のリスニング力がある。 3 リスニングPart 3、Part 4の正解率がそれぞれおおよそ40%以上のリスニング力がある。 4 リーディングPart 5、Part 6の正解率がそれぞれおおよそ45%以上の語彙力がある。 5 リーディングPart 7の正解率がおおよそ45%以上の長文読解力がある。								
ループリック								
	理想的な到達レベルの目安	標準的な到達レベルの目安	未到達レベルの目安					
評価項目1	TOEICテストスコア470点程度以上のコミュニケーション能力がある。	TOEICテストスコア400点程度以上のコミュニケーション能力がある。	TOEICテストスコア350点程度以下のコミュニケーション能力しかない。					
評価項目2	リスニングPart 1の正解率が80%以上、Part 2の正解率が65%以上のリスニング力がある。	リスニングPart 1の正解率が70%以上、Part 2の正解率が55%以上のリスニング力がある。	リスニングPart 1の正解率が70%以上、Part 2の正解率が55%以上のリスニング力がない。					
評価項目3	リーディングPart 5、Part 6の正解率がそれぞれおおよそ50%以上の語彙力がある。	リーディングPart 5、Part 6の正解率がそれぞれおおよそ45%以上の語彙力がある。	リーディングPart 5、Part 6の正解率がそれぞれおおよそ45%以上の語彙力がない。					
学科の到達目標項目との関係								
教育方法等								
概要	TOEICスコア400点以上取得に必要な英語力を養成する。							
授業の進め方・方法	演習形式で行い、教科書に沿って授業を進める。試験結果が合格点に達しない場合、再試験を行うことがある。							
注意点	合格点は60点である。後期中間・学年末成績は、試験結果70%、小テスト等を30%で評価する。 学年総合成績 = (到達度試験 (後期中間) + 到達度試験 (学年末) 成績) / 2 校内実施のTOEIC IPテスト、公開テスト、到達度試験で行われるTOEIC模擬試験のうち、1つもTOEICスコア300点を超えることができない場合は単位取得が困難になるので注意すること。							
授業計画								
	週	授業内容	週ごとの到達目標					
後期	3rdQ	1週	授業ガイダンス Part 1 写真描写問題	授業の進め方と評価の仕方について説明する。基本動詞を確実におさえ、風景写真の注意点を把握できる。				
		2週	Part 2 応答問題	直接答えない意外な応答に対応できる。				
		3週	Part 3 会話文問題	会話のトピックを把握できる。				
		4週	Part 4 説明文 (ナレーション) 問題	詳細情報を聞き取ることができる。				
		5週	Part 5 語彙問題	品詞問題に対応でき、基本的な文法問題ができる。				
		6週	Part 6 英文空所補充問題 Part 7 長文読解問題	つなぎことばで英文の内容を把握できる。英文の書かれている目的を把握できる。				
		7週	Part 7 長文読解問題	英文の書かれている目的を把握できる。				
		8週	到達度試験 (後期中間)	上記項目について学習した内容の理解度を確認する。				
	4thQ	9週	試験の解説と解答 Part 1 写真描写問題	到達度試験の解説と解答				
		10週	Part 2 応答問題	直接答えない意外な応答に対応できる。				
		11週	Part 3 会話文問題	会話のトピックを把握できる。				
		12週	Part 4 説明文 (ナレーション) 問題	詳細情報を聞き取ることができる。				
		13週	Part 5 語彙問題 Part 6 英文空所補充問題	品詞問題に対応でき、基本的な文法問題ができる。つなぎことばで英文の内容を把握できる。				
		14週	Part 7 長文読解問題	英文の書かれている目的を把握できる。				
		15週	到達度試験 (学年末)	上記項目について学習した内容の理解度を確認する。				
		16週	試験の解説と解答	到達度試験の解説と解答、本授業のまとめ、および授業アンケート				
モデルコアカリキュラムの学習内容と到達目標								
分類	分野	学習内容	学習内容の到達目標				到達レベル	授業週
評価割合								
	試験	発表	相互評価	態度	ポートフォリオ	その他	合計	
総合評価割合	70	0	0	0	0	30	100	
基礎的能力	70	0	0	0	0	30	100	
専門的能力	0	0	0	0	0	0	0	
分野横断的能力	0	0	0	0	0	0	0	

秋田工業高等専門学校		開講年度	平成29年度 (2017年度)		授業科目	技術者倫理 (5 C)			
科目基礎情報									
科目番号	0009		科目区分	一般 / 必修					
授業形態	授業		単位の種別と単位数	履修単位: 1					
開設学科	一般教科 (人文科学系)		対象学年	5					
開設期	後期		週時間数	2					
教科書/教材	教科書: 「はじめての工学倫理」 斉藤了文他編 昭和堂、その他: 自製プリントの配布								
担当教員	吉葉 恭行								
到達目標									
<p>科学技術が社会や人々の生活、そして自然に及ぼす影響について理解することを通じて、技術者の社会的責任を理解すること。技術者が社会の一構成員であることを再認識すること。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 技術者倫理の原則を学ぶ。 2. 組織とエンジニアの関係を理解する。 3. 企業と技術者の社会的責任を理解する。 4. 安全に関する設計思想を理解する。 5. 知的財産権の基本がわかる。 									
ループリック									
	理想的な到達レベルの目安		標準的な到達レベルの目安		未到達レベルの目安				
評価項目1	技術者倫理の原則について具体的事例を示し説明できる。		技術者倫理の原則について概略説明できる。		技術者倫理の原則について説明できない。				
評価項目2	組織とエンジニアの関係について具体的な事例を示し説明できる。		組織とエンジニアの関係について概略説明できる。		組織とエンジニアの関係について説明できない。				
評価項目3	企業と技術者の社会的責任について具体的事例を示し説明できる。		企業と技術者の社会的責任について概略説明できる。		企業と技術者の社会的責任について説明できない。				
評価項目4	安全に関する設計思想について具体事例を示し説明できる。		安全に関する設計思想について概略説明できる。		安全に関する設計思想について説明できない。				
評価項目5	知的財産権の基本について具体的事例を示し説明できる。		知的財産権の基本について概略説明できる。		知的財産権の基本について説明できない。				
学科の到達目標項目との関係									
教育方法等									
概要	現代科学技術の性格と技術者に社会的責任が求められる背景を理解し、さらに事例研究を通じて社会的責任を果たすために必要な技術者倫理に関する基礎知識を修得する。								
授業の進め方・方法	講義形式を基本とするが、必要に応じてグループ・ディスカッション等を実施し、適宜課題レポートの提出および課題のプレゼンテーションを求める。 試験結果が合格点に達しない場合、再試験等を行うことがある。								
注意点	講義中は板書を書き留めるだけでなく、口頭による説明についても各自メモを取る習慣を身に付ける必要がある。講義内容を深く理解するために、参考文献やインターネット等の複数メディアを活用し、技術者倫理にかかわる事象を調べ分析すること。様々な見方を相対的に捉え整理することがポイントである。								
授業計画									
後期	3rdQ	週	授業内容			週ごとの到達目標			
		1週	授業ガイダンス			授業の進め方と評価の仕方について説明する。			
		2週	1 技術者倫理の基礎知識 (1) 倫理学の基本			倫理学の基本原則を学ぶ。			
		3週	(2) 倫理規定			技術者倫理の原則を学ぶ。			
		4週	2 事例分析 (1) 組織とエンジニア			組織とエンジニアの関係を理解する。			
		5週							
		6週	(2) 企業の社会的責任			企業と技術者の社会的責任を理解する。			
		7週							
	8週	到達度試験 (後期中間)			上記項目について学習した内容の理解度を確認する。				
	4thQ	9週	(3) 知的財産権と企業秘密			知的財産権と企業秘密の関係を理解できる。			
		10週	(4) 安全性と設計			安全に関する設計思想を理解する。			
		11週							
		12週							
		13週							
		14週	(5) 平和と技術者			世界平和構築に技術者がいかに貢献すべきか考えることができる。			
		15週							
16週		到達度試験 (後期末)			上記項目について学習した内容の理解度を確認する。				
モデルコアカリキュラムの学習内容と到達目標									
分類	分野	学習内容	学習内容の到達目標				到達レベル	授業週	
評価割合									
	試験	発表	相互評価	態度	ポートフォリオ	その他	レポート	合計	
総合評価割合	60	10	0	0	0	10	20	100	
基礎的能力	40	0	0	0	0	0	5	45	
専門的能力	0	0	0	0	0	0	0	0	
分野横断的能力	0	0	0	0	0	0	0	0	

思考・推論・ 創造への適用 力	20	0	0	0	0	0	5	25
汎用的技能	0	5	0	0	0	5	5	15
態度・嗜好性	0	5	0	0	0	5	0	10
総合的な学習 経験と創造的 思考力	0	0	0	0	0	0	5	5

秋田工業高等専門学校		開講年度	平成29年度 (2017年度)	授業科目	総合英語Ⅱ (5C)
科目基礎情報					
科目番号	0010		科目区分	一般 / 必修	
授業形態	授業		単位の種別と単位数	履修単位: 2	
開設学科	一般教科 (人文科学系)		対象学年	5	
開設期	通年		週時間数	2	
教科書/教材	「The Universe of English」 東京大学出版会, 「TOEICテスト公式問題集 新形式問題対応編」 国際ビジネスコミュニケーション協会, 「Deep Listening Level 3」 日本英語検定協会				
担当教員	菅原 隆行				
到達目標					
1. TOEICスコア450点以上のコミュニケーション力を身につける。 2. リスニング力、シャドーイング力があり、英語速読のスピードが1分間に150語程度である。 3. 4500語程度の単語力と英文法の理解力がある。 4. 英文に関する総合的な理解力があり、100語程度の文章をパラグラフレベルで書くことができる。 5. 母国以外の言語や文化を理解しようとする姿勢をもち、教室内外で円滑なコミュニケーションをはかることができる。					
ループリック					
	理想的な到達レベルの目安		標準的な到達レベルの目安		未到達レベルの目安
評価項目1	TOEICスコアが450点以上である。		TOEICスコアが400点程度である。		TOEICスコアが350点未満である。
評価項目2	リスニング力、シャドーイング力があり、英語速読のスピードが1分間に180語程度以上である。		リスニング力、シャドーイング力がある程度あり、英語速読のスピードが1分間に150語程度である。		リスニング力、シャドーイング力がなく、英語速読のスピードが1分間に120語未満である。
評価項目3	英文に関する総合的な理解力が十分にあり、英作文ができる。		英文に関する総合的な理解力が50%程度あり、英作文がある程度できる。		英文に関する総合的な理解力がなく、英作文ができない。
学科の到達目標項目との関係					
教育方法等					
概要	TOEICスコア450点以上のコミュニケーション力を身につけ、英語速読のスピードが1分間に150語程度の能力を持ち、英語の長文を正確に読み取ることができる能力を修得する。				
授業の進め方・方法	演習形式で行い、小テスト (TOEICテストを含む) も随時実施する。アルク・ネットアカデミーは主に自学自習課題として使用する。試験結果が合格点に達しない場合、再試験を行うことがある。				
注意点	合格点は60点である。各中間・期末成績は、試験結果70%、小テスト、TOEIC成績等を30%で評価する。 学年総合成績 = (到達度試験 (前期中間) + 到達度試験 (前期期末) + 到達度試験 (後期中間) + 到達度試験 (学年末成績)) / 4 なお、TOEICスコアが350点未満の学生は、単位取得が困難になるので注意すること。宿題が多いので計画的に課題を進めること。宿題をしてこない学生は科目履修を放棄したとみなすので注意すること。				
授業計画					
		週	授業内容	週ごとの到達目標	
前期	1stQ	1週	授業ガイダンス TOEIC リスニングPart I・II 演習	授業の進め方と評価の仕方について説明する。TOEICリスニング問題の新傾向がわかる。	
		2週	Session6 The Expanding Universe ①	ビッグバン理論に関する英文を読み、内容を理解できる。	
		3週	Session6 The Expanding Universe ②	ビッグバン理論に関する英文を読み、内容を理解できる。	
		4週	Session6 The Expanding Universe ③	ビッグバン理論に関する英文を読み、内容を理解できる。	
		5週	Session6 The Expanding Universe ④ TOEIC リスニングPart III 演習	ビッグバン理論に関する英文を読み、内容を理解できる。	
		6週	TOEIC リスニングPart IV演習	TOEICリスニング問題の新傾向がわかる。	
		7週	到達度試験 (前期中間)	上記項目について学習した内容の理解度を授業の中で確認する。	
		8週	試験の解説と解答 TOEICリーディングPartV・VI演習	到達度試験の解説と解答 TOEICリーディングの新傾向がわかる。	
	2ndQ	9週	TOEICリーディングPartVII 演習	TOEICリーディングの新傾向がわかる。	
		10週	Session7 The Blind Watchmaker ①	進化論に関する英文を読み、内容を理解できる。	
		11週	Session7 The Blind Watchmaker ②	進化論に関する英文を読み、内容を理解できる。	
		12週	Session7 The Blind Watchmaker ③	進化論に関する英文を読み、内容を理解できる。	
		13週	Session7 The Blind Watchmaker ④	進化論に関する英文を読み、内容を理解できる。	
		14週	TOEICリーディングPartVII 演習	TOEICリーディングの新傾向がわかる。	
		15週	到達度試験 (前期期末)	上記項目について学習した内容の理解度を授業の中で確認する。	
		16週	試験の解説と解答	到達度試験の解説と解答、および授業アンケート	
後期	3rdQ	1週	TOEIC リスニングPart I・II 演習	TOEICリスニング問題のスピードに対応できる。	
		2週	Session8 The Rise of the Labor Market ①	貨幣経済と労働市場に関する英文を読み、内容を理解できる。	
		3週	Session8 The Rise of the Labor Market ②	貨幣経済と労働市場に関する英文を読み、内容を理解できる。	
		4週	Session8 The Rise of the Labor Market ③	貨幣経済と労働市場に関する英文を読み、内容を理解できる。	

4thQ	5週	Session8 The Rise of the Labor Market ④ TOEIC リスニングPart III 演習	貨幣経済と労働市場に関する英文を読み、内容を理解できる。
	6週	TOEIC リスニングPart IV演習	TOEICリスニング問題のスピードに対応できる。
	7週	到達度試験（後期中間）	上記項目について学習した内容の理解度を授業の中で確認する。
	8週	試験の解説と解答 TOEICリーディングPartV・VI演習	到達度試験の解説と解答 1分間に150語程度のスピードの英文速読ができる。
	9週	TOEICリーディングPartVII 演習	1分間に150語程度のスピードの英文速読ができる。
	10週	Session9 On Speaking of Speaking ①	言語論に関する英文を読み、内容を理解できる。
	11週	Session9 On Speaking of Speaking ②	言語論に関する英文を読み、内容を理解できる。
	12週	Session9 On Speaking of Speaking ③	言語論に関する英文を読み、内容を理解できる。
	13週	TOEICリーディングPartVII 演習	1分間に150語程度のスピードの英文速読ができる。
	14週	英語ライティング演習	100語程度の文章をパラグラフレベルで書くことができる。
	15週	到達度試験（学年末）	上記項目について学習した内容の理解度を授業の中で確認する。
	16週	試験の解説と解答	到達度試験の解説と解答、および授業アンケート

モデルコアカリキュラムの学習内容と到達目標

分類	分野	学習内容	学習内容の到達目標	到達レベル	授業週		
評価割合							
	試験	発表	相互評価	態度	ポートフォリオ	その他	合計
総合評価割合	70	0	0	0	0	30	100
基礎的能力	35	0	0	0	0	30	65
専門的能力	35	0	0	0	0	0	35
分野横断的能力	0	0	0	0	0	0	0

秋田工業高等専門学校		開講年度	平成29年度 (2017年度)	授業科目	上級英語 (5C)		
科目基礎情報							
科目番号	0011		科目区分	一般 / 選択			
授業形態	授業		単位の種別と単位数	履修単位: 1			
開設学科	一般教科 (人文科学系)		対象学年	5			
開設期	後期		週時間数	2			
教科書/教材	「(新形式問題対応) TOEIC® テスト非公式問題集至高の400問」 ヒ口前田他 著 アルク						
担当教員	菅原 隆行						
到達目標							
1 TOEICテストスコア400点程度以上のコミュニケーション能力がある。 2 リスニングPart 1の正解率が70%以上、Part 2の正解率が60%以上のリスニング力がある。 3 リスニングPart 3、Part 4の正解率がそれぞれおおよそ40%以上のリスニング力がある。 4 リーディングPart 5、Part 6の正解率がそれぞれおおよそ45%以上の語彙力がある。 5 リーディングPart 7の正解率がおおよそ45%以上の長文読解力がある。							
ループリック							
	理想的な到達レベルの目安	標準的な到達レベルの目安	未到達レベルの目安				
評価項目1	TOEICテストスコア470点程度以上のコミュニケーション能力がある。	TOEICテストスコア400点程度以上のコミュニケーション能力がある。	TOEICテストスコア350点程度以下のコミュニケーション能力しかない。				
評価項目2	リスニングPart 1の正解率が80%以上、Part 2の正解率が65%以上のリスニング力がある。	リスニングPart 1の正解率が70%以上、Part 2の正解率が55%以上のリスニング力がある。	リスニングPart 1の正解率が70%以上、Part 2の正解率が55%以上のリスニング力がない。				
評価項目3	リーディングPart 5、Part 6の正解率がそれぞれおおよそ50%以上の語彙力がある。	リーディングPart 5、Part 6の正解率がそれぞれおおよそ45%以上の語彙力がある。	リーディングPart 5、Part 6の正解率がそれぞれおおよそ45%以上の語彙力がない。				
学科の到達目標項目との関係							
教育方法等							
概要	TOEICスコア400点以上取得に必要な英語力を養成する。						
授業の進め方・方法	演習形式で行い、教科書に沿って授業を進める。試験結果が合格点に達しない場合、再試験を行うことがある。						
注意点	合格点は60点である。後期中間・学年末成績は、試験結果70%、小テスト等を30%で評価する。 学年総合成績 = (到達度試験 (後期中間) + 到達度試験 (学年末) 成績) / 2 校内実施のTOEIC IPテスト、公開テスト、到達度試験で行われるTOEIC模擬試験のうち、1つもTOEICスコア300点を超えることができない場合は単位取得が困難になるので注意すること。						
授業計画							
	週	授業内容	週ごとの到達目標				
後期	3rdQ	1週	授業ガイダンス Part 1 写真描写問題	授業の進め方と評価の仕方について説明する。基本動詞を確実におさえ、風景写真の注意点を把握できる。			
		2週	Part 2 応答問題	直接答えない意外な応答に対応できる。			
		3週	Part 3 会話文問題	会話のトピックを把握できる。			
		4週	Part 4 説明文 (ナレーション) 問題	詳細情報を聞き取ることができる。			
		5週	Part 5 語彙問題	品詞問題に対応でき、基本的な文法問題ができる。			
		6週	Part 6 英文空所補充問題 Part 7 長文読解問題	つなぎことばで英文の内容を把握できる。英文の書かれている目的を把握できる。			
		7週	Part 7 長文読解問題	英文の書かれている目的を把握できる。			
		8週	到達度試験 (後期中間)	上記項目について学習した内容の理解度を確認する。			
	4thQ	9週	試験の解説と解答 Part 1 写真描写問題	到達度試験の解説と解答			
		10週	Part 2 応答問題	直接答えない意外な応答に対応できる。			
		11週	Part 3 会話文問題	会話のトピックを把握できる。			
		12週	Part 4 説明文 (ナレーション) 問題	詳細情報を聞き取ることができる。			
		13週	Part 5 語彙問題 Part 6 英文空所補充問題	品詞問題に対応でき、基本的な文法問題ができる。つなぎことばで英文の内容を把握できる。			
		14週	Part 7 長文読解問題	英文の書かれている目的を把握できる。			
		15週	到達度試験 (学年末)	上記項目について学習した内容の理解度を確認する。			
		16週	試験の解説と解答	到達度試験の解説と解答、本授業のまとめ、および授業アンケート			
モデルコアカリキュラムの学習内容と到達目標							
分類	分野	学習内容	学習内容の到達目標			到達レベル	授業週
評価割合							
	試験	発表	相互評価	態度	ポートフォリオ	その他	合計
総合評価割合	70	0	0	0	0	30	100
基礎的能力	70	0	0	0	0	30	100
専門的能力	0	0	0	0	0	0	0
分野横断的能力	0	0	0	0	0	0	0

秋田工業高等専門学校		開講年度	平成29年度 (2017年度)		授業科目	技術者倫理 (5 B)			
科目基礎情報									
科目番号	0013		科目区分	一般 / 必修					
授業形態	授業		単位の種別と単位数	履修単位: 1					
開設学科	一般教科 (人文科学系)		対象学年	5					
開設期	後期		週時間数	2					
教科書/教材	教科書: 「はじめての工学倫理」 斉藤了文他編 昭和堂、その他: 自製プリントの配布								
担当教員	吉葉 恭行								
到達目標									
<p>科学技術が社会や人々の生活、そして自然に及ぼす影響について理解することを通じて、技術者の社会的責任を理解すること。技術者が社会の一構成員であることを再認識すること。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 技術者倫理の原則を学ぶ。 2. 組織とエンジニアの関係を理解する。 3. 企業と技術者の社会的責任を理解する。 4. 安全に関する設計思想を理解する。 5. 知的財産権の基本がわかる。 									
ルーブリック									
	理想的な到達レベルの目安		標準的な到達レベルの目安		未到達レベルの目安				
評価項目1	技術者倫理の原則について具体的事例を示し説明できる。		技術者倫理の原則について概略説明できる。		技術者倫理の原則について説明できない。				
評価項目2	組織とエンジニアの関係について具体的な事例を示し説明できる。		組織とエンジニアの関係について概略説明できる。		組織とエンジニアの関係について説明できない。				
評価項目3	企業と技術者の社会的責任について具体的事例を示し説明できる。		企業と技術者の社会的責任について概略説明できる。		企業と技術者の社会的責任について説明できない。				
評価項目4	安全に関する設計思想について具体事例を示し説明できる。		安全に関する設計思想について概略説明できる。		安全に関する設計思想について説明できない。				
評価項目5	知的財産権の基本について具体的事例を示し説明できる。		知的財産権の基本について概略説明できる。		知的財産権の基本について説明できない。				
学科の到達目標項目との関係									
教育方法等									
概要	現代科学技術の性格と技術者に社会的責任が求められる背景を理解し、さらに事例研究を通じて社会的責任を果たすために必要な技術者倫理に関する基礎知識を修得する。								
授業の進め方・方法	講義形式を基本とするが、必要に応じてグループ・ディスカッション等を実施し、適宜課題レポートの提出および課題のプレゼンテーションを求める。 試験結果が合格点に達しない場合、再試験等を行うことがある。								
注意点	講義中は板書を書き留めるだけでなく、口頭による説明についても各自メモを取る習慣を身に付ける必要がある。講義内容を深く理解するために、参考文献やインターネット等の複数メディアを活用し、技術者倫理にかかわる事象を調べ分析すること。様々な見方を相対的に捉え整理することがポイントである。								
授業計画									
後期	3rdQ	週	授業内容			週ごとの到達目標			
		1週	授業ガイダンス			授業の進め方と評価の仕方について説明する。			
		2週	1 技術者倫理の基礎知識 (1) 倫理学の基本			倫理学の基本原則を学ぶ。			
		3週	(2) 倫理規定			技術者倫理の原則を学ぶ。			
		4週	2 事例分析 (1) 組織とエンジニア			組織とエンジニアの関係を理解する。			
		5週							
		6週	(2) 企業の社会的責任			企業と技術者の社会的責任を理解する。			
		7週							
	8週	到達度試験 (後期中間)			上記項目について学習した内容の理解度を確認する。				
	4thQ	9週	(3) 知的財産権と企業秘密			知的財産権と企業秘密の関係を理解できる。			
		10週	(4) 安全性と設計			安全に関する設計思想を理解する。			
		11週							
		12週							
		13週							
		14週	(5) 平和と技術者			世界平和構築に技術者がいかに貢献すべきか考えることができる。			
		15週							
16週		到達度試験 (後期末)			上記項目について学習した内容の理解度を確認する。				
モデルコアカリキュラムの学習内容と到達目標									
分類	分野	学習内容	学習内容の到達目標				到達レベル	授業週	
評価割合									
	試験	発表	相互評価	態度	ポートフォリオ	その他	レポート	合計	
総合評価割合	60	10	0	0	0	10	20	100	
基礎的能力	40	0	0	0	0	0	5	45	
専門的能力	0	0	0	0	0	0	0	0	
分野横断的能力	0	0	0	0	0	0	0	0	

思考・推論・ 創造への適用 力	20	0	0	0	0	0	5	25
汎用的技能	0	5	0	0	0	5	5	15
態度・嗜好性	0	5	0	0	0	5	0	10
総合的な学習 経験と創造的 思考力	0	0	0	0	0	0	5	5

秋田工業高等専門学校		開講年度	平成29年度 (2017年度)	授業科目	総合英語Ⅱ (5B)
科目基礎情報					
科目番号	0014		科目区分	一般 / 必修	
授業形態	授業		単位の種別と単位数	履修単位: 2	
開設学科	一般教科 (人文科学系)		対象学年	5	
開設期	通年		週時間数	2	
教科書/教材	「The Universe of English」 東京大学出版会, 「TOEICテスト公式問題集 新形式問題対応編」 国際ビジネスコミュニケーション協会, 「Deep Listening Level 3」 日本英語検定協会				
担当教員	菅原 隆行				
到達目標					
1. TOEICスコア450点以上のコミュニケーション力を身につける。 2. リスニング力、シャドーイング力があり、英語速読のスピードが1分間に150語程度である。 3. 4500語程度の単語力と英文法の理解力がある。 4. 英文に関する総合的な理解力があり、100語程度の文章をパラグラフレベルで書くことができる。 5. 母国以外の言語や文化を理解しようとする姿勢をもち、教室内外で円滑なコミュニケーションをはかることができる。					
ループリック					
	理想的な到達レベルの目安		標準的な到達レベルの目安		未到達レベルの目安
評価項目1	TOEICスコアが450点以上である。		TOEICスコアが400点程度である。		TOEICスコアが350点未満である。
評価項目2	リスニング力、シャドーイング力があり、英語速読のスピードが1分間に180語程度以上である。		リスニング力、シャドーイング力がある程度あり、英語速読のスピードが1分間に150語程度である。		リスニング力、シャドーイング力がなく、英語速読のスピードが1分間に120語未満である。
評価項目3	英文に関する総合的な理解力が十分にあり、英作文ができる。		英文に関する総合的な理解力が50%程度あり、英作文がある程度できる。		英文に関する総合的な理解力がなく、英作文ができない。
学科の到達目標項目との関係					
教育方法等					
概要	TOEICスコア450点以上のコミュニケーション力を身につけ、英語速読のスピードが1分間に150語程度の能力を持ち、英語の長文を正確に読み取ることができる能力を修得する。				
授業の進め方・方法	演習形式で行い、小テスト (TOEICテストを含む) も随時実施する。アルク・ネットアカデミーは主に自学自習課題として使用する。 試験結果が合格点に達しない場合、再試験を行うことがある。				
注意点	合格点は60点である。各中間・期末成績は、試験結果70%、小テスト、TOEIC成績等を30%で評価する。 学年総合成績 = (到達度試験 (前期中間) + 到達度試験 (前期期末) + 到達度試験 (後期中間) + 到達度試験 (学年末成績)) / 4 なお、TOEICスコアが350点未満の学生は、単位取得が困難になるので注意すること。 宿題が多いので計画的に課題を進めること。宿題をしてこない学生は科目履修を放棄したとみなすので注意すること。				
授業計画					
		週	授業内容	週ごとの到達目標	
前期	1stQ	1週	授業ガイダンス TOEIC リスニングPart I・II 演習	授業の進め方と評価の仕方について説明する。 TOEICリスニング問題の新傾向がわかる。	
		2週	Session6 The Expanding Universe ①	ビッグバン理論に関する英文を読み、内容を理解できる。	
		3週	Session6 The Expanding Universe ②	ビッグバン理論に関する英文を読み、内容を理解できる。	
		4週	Session6 The Expanding Universe ③	ビッグバン理論に関する英文を読み、内容を理解できる。	
		5週	Session6 The Expanding Universe ④ TOEIC リスニングPart III 演習	ビッグバン理論に関する英文を読み、内容を理解できる。	
		6週	TOEIC リスニングPart IV演習	TOEICリスニング問題の新傾向がわかる。	
		7週	到達度試験 (前期中間)	上記項目について学習した内容の理解度を授業の中で確認する。	
		8週	試験の解説と解答 TOEICリーディングPartV・VI演習	到達度試験の解説と解答 TOEICリーディングの新傾向がわかる。	
	2ndQ	9週	TOEICリーディングPartVII 演習	TOEICリーディングの新傾向がわかる。	
		10週	Session7 The Blind Watchmaker ①	進化論に関する英文を読み、内容を理解できる。	
		11週	Session7 The Blind Watchmaker ②	進化論に関する英文を読み、内容を理解できる。	
		12週	Session7 The Blind Watchmaker ③	進化論に関する英文を読み、内容を理解できる。	
		13週	Session7 The Blind Watchmaker ④	進化論に関する英文を読み、内容を理解できる。	
		14週	TOEICリーディングPartVII 演習	TOEICリーディングの新傾向がわかる。	
		15週	到達度試験 (前期期末)	上記項目について学習した内容の理解度を授業の中で確認する。	
		16週	試験の解説と解答	到達度試験の解説と解答、および授業アンケート	
後期	3rdQ	1週	TOEIC リスニングPart I・II 演習	TOEICリスニング問題のスピードに対応できる。	
		2週	Session8 The Rise of the Labor Market ①	貨幣経済と労働市場に関する英文を読み、内容を理解できる。	
		3週	Session8 The Rise of the Labor Market ②	貨幣経済と労働市場に関する英文を読み、内容を理解できる。	
		4週	Session8 The Rise of the Labor Market ③	貨幣経済と労働市場に関する英文を読み、内容を理解できる。	

4thQ	5週	Session8 The Rise of the Labor Market ④ TOEIC リスニングPart III 演習	貨幣経済と労働市場に関する英文を読み、内容を理解できる。
	6週	TOEIC リスニングPart IV演習	TOEICリスニング問題のスピードに対応できる。
	7週	到達度試験（後期中間）	上記項目について学習した内容の理解度を授業の中で確認する。
	8週	試験の解説と解答 TOEICリーディングPartV・VI演習	到達度試験の解説と解答 1分間に150語程度のスピードの英文速読ができる。
	9週	TOEICリーディングPartVII 演習	1分間に150語程度のスピードの英文速読ができる。
	10週	Session9 On Speaking of Speaking ①	言語論に関する英文を読み、内容を理解できる。
	11週	Session9 On Speaking of Speaking ②	言語論に関する英文を読み、内容を理解できる。
	12週	Session9 On Speaking of Speaking ③	言語論に関する英文を読み、内容を理解できる。
	13週	TOEICリーディングPartVII 演習	1分間に150語程度のスピードの英文速読ができる。
	14週	英語ライティング演習	100語程度の文章をパラグラフレベルで書くことができる。
	15週	到達度試験（学年末）	上記項目について学習した内容の理解度を授業の中で確認する。
	16週	試験の解説と解答	到達度試験の解説と解答、および授業アンケート

モデルコアカリキュラムの学習内容と到達目標

分類	分野	学習内容	学習内容の到達目標	到達レベル	授業週		
評価割合							
	試験	発表	相互評価	態度	ポートフォリオ	その他	合計
総合評価割合	70	0	0	0	0	30	100
基礎的能力	35	0	0	0	0	30	65
専門的能力	35	0	0	0	0	0	35
分野横断的能力	0	0	0	0	0	0	0

秋田工業高等専門学校		開講年度	平成29年度 (2017年度)	授業科目	上級英語 (5 B)		
科目基礎情報							
科目番号	0015		科目区分	一般 / 選択			
授業形態	授業		単位の種別と単位数	履修単位: 1			
開設学科	一般教科 (人文科学系)		対象学年	5			
開設期	後期		週時間数	2			
教科書/教材	「(新形式問題対応) TOEIC® テスト非公式問題集最高の400問」 ヒ口前田他 著 アルク						
担当教員	菅原 隆行						
到達目標							
1 TOEICテストスコア400点程度以上のコミュニケーション能力がある。 2 リスニングPart 1の正解率が70%以上、Part 2の正解率が60%以上のリスニング力がある。 3 リスニングPart 3、Part 4の正解率がそれぞれおおよそ40%以上のリスニング力がある。 4 リーディングPart 5、Part 6の正解率がそれぞれおおよそ45%以上の語彙力がある。 5 リーディングPart 7の正解率がおおよそ45%以上の長文読解力がある。							
ループリック							
	理想的な到達レベルの目安		標準的な到達レベルの目安		未到達レベルの目安		
評価項目1	TOEICテストスコア470点程度以上のコミュニケーション能力がある。		TOEICテストスコア400点程度以上のコミュニケーション能力がある。		TOEICテストスコア350点程度以下のコミュニケーション能力しかない。		
評価項目2	リスニングPart 1の正解率が80%以上、Part 2の正解率が65%以上のリスニング力がある。		リスニングPart 1の正解率が70%以上、Part 2の正解率が55%以上のリスニング力がある。		リスニングPart 1の正解率が70%以上、Part 2の正解率が55%以上のリスニング力がない。		
評価項目3	リーディングPart 5、Part 6の正解率がそれぞれおおよそ50%以上の語彙力がある。		リーディングPart 5、Part 6の正解率がそれぞれおおよそ45%以上の語彙力がある。		リーディングPart 5、Part 6の正解率がそれぞれおおよそ45%以上の語彙力がない。		
学科の到達目標項目との関係							
教育方法等							
概要	TOEICスコア400点以上取得に必要な英語力を養成する。						
授業の進め方・方法	演習形式で行い、教科書に沿って授業を進める。試験結果が合格点に達しない場合、再試験を行うことがある。						
注意点	合格点は60点である。後期中間・学年末成績は、試験結果70%、小テスト等を30%で評価する。 学年総合成績 = (到達度試験 (後期中間) + 到達度試験 (学年末) 成績) / 2 校内実施のTOEIC IPテスト、公開テスト、到達度試験で行われるTOEIC模擬試験のうち、1つもTOEICスコア300点を超えることができない場合は単位取得が困難になるので注意すること。						
授業計画							
		週	授業内容			週ごとの到達目標	
後期	3rdQ	1週	授業ガイダンス Part 1 写真描写問題			授業の進め方と評価の仕方について説明する。 基本動詞を確実におさえ、風景写真の注意点を把握できる。	
		2週	Part 2 応答問題			直接答えない意外な応答に対応できる。	
		3週	Part 3 会話文問題			会話のトピックを把握できる。	
		4週	Part 4 説明文 (ナレーション) 問題			詳細情報を聞き取ることができる。	
		5週	Part 5 語彙問題			品詞問題に対応でき、基本的な文法問題ができる。	
		6週	Part 6 英文空所補充問題 Part 7 長文読解問題			つなぎことばで英文の内容を把握できる。 英文の書かれている目的を把握できる。	
		7週	Part 7 長文読解問題			英文の書かれている目的を把握できる。	
		8週	到達度試験 (後期中間)			上記項目について学習した内容の理解度を確認する。	
	4thQ	9週	試験の解説と解答 Part 1 写真描写問題			到達度試験の解説と解答	
		10週	Part 2 応答問題			直接答えない意外な応答に対応できる。	
		11週	Part 3 会話文問題			会話のトピックを把握できる。	
		12週	Part 4 説明文 (ナレーション) 問題			詳細情報を聞き取ることができる。	
		13週	Part 5 語彙問題 Part 6 英文空所補充問題			品詞問題に対応でき、基本的な文法問題ができる。 つなぎことばで英文の内容を把握できる。	
		14週	Part 7 長文読解問題			英文の書かれている目的を把握できる。	
		15週	到達度試験 (学年末)			上記項目について学習した内容の理解度を確認する。	
		16週	試験の解説と解答			到達度試験の解説と解答、本授業のまとめ、および授業アンケート	
モデルコアカリキュラムの学習内容と到達目標							
分類	分野	学習内容	学習内容の到達目標			到達レベル	授業週
評価割合							
	試験	発表	相互評価	態度	ポートフォリオ	その他	合計
総合評価割合	70	0	0	0	0	30	100
基礎的能力	70	0	0	0	0	30	100
専門的能力	0	0	0	0	0	0	0
分野横断的能力	0	0	0	0	0	0	0